

## 参考資料 4

科学技術・学術審議会 測地学分会  
地震火山観測研究計画部会（第42回）  
R3. 9. 24

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」

に関する論文リスト

## 目次

- 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」に関する論文及び報告書
  - 1. 地震・火山現象の解明のための研究
    - (1) 地震・火山現象に関する史料・考古データ，地質データ等の収集と解析・・・3
    - (2) 低頻度大規模地震・火山噴火現象の解明・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
    - (3) 地震発生過程の解明とモデル化・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
    - (4) 火山現象の解明とモデル化・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
    - (5) 地震発生及び火山活動を支配する場の解明とモデル化・・・・・・・・39
  - 2. 地震・火山噴火の予測のための研究
    - (1) 地震発生の新たな長期予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
    - (2) 地殻活動モニタリングに基づく地震発生予測・・・・・・・・・・67
    - (3) 先行現象に基づく地震発生の確率予測・・・・・・・・・・78
    - (4) 中長期的な火山活動の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
    - (5) 火山活動推移モデルの構築による火山噴火予測・・・・・・・・90
  - 3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究
    - (1) 地震・火山噴火の災害誘因の事前評価手法の高度化・・・・・・・・92
    - (2) 地震・火山噴火の災害誘因の即時予測手法の高度化・・・・・・・・98
    - (3) 地震・火山噴火の災害誘因予測を災害情報につなげる研究・・・・104
  - 4. 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究
    - (1) 地震・火山噴火の災害事例による災害発生機構の解明・・・・106
    - (2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究・・・・109
  - 5. 研究を推進するための体制の整備
    - (1) 推進体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
    - (2) 分野横断で取り組む総合的研究を推進する体制・・・・・・・・113
    - (3) 研究基盤の開発・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
    - (4) 関連研究分野との連携強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
    - (5) 国際共同研究・国際協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
    - (6) 社会との共通理解の醸成と災害教育・・・・・・・・・・・・・・・・129
    - (7) 次世代を担う研究者，技術者，防災業務・防災対応に携わる人材の育成・・・129

## 24. 地震火山観測研究計画に関する主要論文リスト

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
1. 地震・火山現象の解明のための研究										
(1) 地震・火山現象に関する史料、考古データ、地質データ等の収集と整理										
ア. 史料の収集とデータベース化										
原直史	2016	文政11年越後三条地震からみる広域災害情報の集積	災害・復興と資料	8	1-8	○		1(1)ア		
大邑潤三	2016	1927年北丹後地震における建物倒壊被害と地形の関係	自然災害科学	35(2)	121-140	○		1(1)ア		
山中佳子	2016	「古文書にみる地震災害」図録解説	名古屋大学付属図書館春季特別展「古文書にみる地震災害」図録		28-41			1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎	2017	1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料—駿河湾北岸域における宝永地震翌朝に感じた大きな余震及び白鳥山の崩壊を記した行方不明史料の発見と既刊史料集に掲載された翻刻文の検討—	地震2	70	41-55	○	10.4294/zisin.2016-14	1(1)ア		
加納靖之	2017	1831年(天保2年)佐賀の地震記録が会津の地震のものである可能性	地震2	70	171-182	○	10.4294/zisin.2016-16	1(1)ア		
加納靖之	2017	地震年表や史料集における年月日の取り違い	歴史地震	32	87-93	○		1(1)ア		
杉森玲子	2017	島津家文書「江戸大地震之図」および近衛家旧蔵の同図様絵巻の史料性格について	東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	78	2-22			1(1)ア		
都司嘉直・矢田俊文・佐藤孝之・中西一郎	2017	過去の地震・津波災害における死者発生分布の法則性の解明	深田地質研究所年報	18	131-154			1(1)ア		
Yamada, M., J. Ohmura and H. Goto	2017	Wooden building damage analysis in the Mashiki town for the 2016 Kumamoto earthquakes on April 14 and 16	Earthquake Spectra	4	1555-1572	○	10.1193/090816EQS144M	1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎	2018	1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料(2)—『浅間文書集』に掲載された「大地震富士山焼出之事」の底本—	地震2	70	215-220	○	10.4294/zisin.2017-05	1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎	2018	1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料(3)—元禄地震・宝永地震・宝永富士山噴火を記した「当山本宮記」—	地震2	71	131-137	○	10.4294/zisin.2017-17	1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎	2018	訂正:1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料(3)—元禄地震・宝永地震・宝永富士山噴火を記した「当山本宮記」—	地震2	71	151-152	○	10.4294/zisin.2018-4	1(1)ア		
加納靖之・水島和哉	2018	『伏見酒造組合資料』にみえる明治期の地震	歴史地震	33	213-219	○		1(1)ア		
加納靖之	2018	1854年伊賀上野地震の際に伏見で発生した局所的な液化化被害地点の検討	自然災害科学	37	205-217	○		1(1)ア		
片桐昭彦・西山昭仁・水野嶺	2018	日記史料にみる時間表現の情報化	人間文化研究情報資源共有化研究会報告集	8	33-44			1(1)ア		
大邑潤三	2018	日本の萬王遺跡の分類と立地分析	地理	63(11)	44-51			1(1)ア		
大邑潤三	2018	災害文化遺産の展示手法と防災教育への活用: 萬王遺跡展の事例から	歴史都市防災論文集	12	267-274			1(1)ア		
佐竹健治・村岸純・榎原雅治・矢田俊文・石辺岳男・西山昭仁	2018	江戸時代に関東地方で発生した歴史地震の史料データベース	歴史地震	33	61-77	○		1(1)ア		
佐藤孝之	2018	安政大地震の「地震ゆり状」をめぐって(続)	近世史叢	9	44-52			1(1)ア		
佐藤孝之	2018	加賀・能登の歴史地震と地震史料	石川自治と教育	709	11-21			1(1)ア		
佐藤孝之・杉森玲子・荒木裕行・林晃弘	2018	嘉永七年「恒例関東献上使日記」と安政東海地震	東京大学史料編纂所研究紀要	28	186-204			1(1)ア		
山村紀香	2018	1586年天正地震の震源断層推定: 液化化履歴地点における検討から	京都大学修士論文					1(1)ア		
榎原雅治	2019	地震研究と歴史学——異分野連携のもつ可能性	科学	88	429			1(1)ア		
榎原雅治	2019	中世の東海道をゆく 京から鎌倉へ、旅路の風景	読みなおす日本史, 吉川弘文館		235pp.			1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎	2019	1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する史料—富士山宝永噴火に先行した地震活動に関する記述の検証	地震2	71	219-229	○	10.4294/zisin.2018-5	1(1)ア		
堀健彦	2019	1854年南海地震による大阪市中の津波被害を描いた瓦版絵図について	災害・復興と資料	11	1-8	○		1(1)ア		
加納靖之・大邑潤三・山村紀香・濱野未来	2019	「法蓮寺堂再建記木札」と応永一四年の地震	地震2	72	53-56	○	10.4294/zisin.2018-18	1(1)ア		
大邑潤三・加納靖之(著), 橋本学(監修)	2019	京都の災害をめぐる	小さ子社		128pp.			1(1)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
榎原雅治	2020	文禄五年豊後地震に関する文献学からの検討	日本歴史	865		○		1(1)ア		
服部健太郎・中西一郎・大邑潤三	2020	日記の筆者が地震動を感じた地点の時間変化：近江八幡「市田家日記」の場合	地震2	73		○	10.4294/zisin.2019-10	1(1)ア		
岩橋清美・大邑潤三・加納靖之	2020	文理融合によって切り拓く歴史地震研究の現在——一八三〇年文政京都地震を事例にして	地方史研究	70	75-79	○		1(1)ア		
中村元	2020	1961年長岡地震に関する歴史資料と災害状況特集デジタル・ヒストリーの諸実践：歴史災害研究におけるGIS活用の試み	災害・復興と資料	12	7-27	○		1(1)ア		
大邑潤三	2020	1925年北但馬地震における震央付近の人的被害と救援活動—海軍史料の分析を中心に—	クリオ	34	139-140			1(1)ア		
大邑潤三	2020	「災害碑」という概念と分類方法の検討	歴史地震	35	177-186	○		1(1)ア		
大邑潤三	2020	「災害碑」という概念と分類方法の検討	歴史都市防災論文集	14	115-122	○	10.34382/00013613.	1(1)ア		
Satake, K. and T. Ishibe	2020	Toward Homogeneous Estimation of Long-Term Seismicity from Historical Materials: Number of Felt Earthquakes in Tokyo since 1668	Seismol. Res. Lett.	91	2601-2610	○	10.1785/0220200060	1(1)ア		
山村紀香・加納靖之	2020	1586年天正地震の震源断層推定の試み—液状化履歴地点における液状化可能性の検討から	地震2	73	97-110	○	10.4294/zisin.2019-7	1(1)ア		
原直史	2021	文政十一年災害史料の流布をめぐって—シーボルト台風と三条地震を中心に—	災害・復興と資料	13	8-13	○		1(1)ア		
原直史	2021	文政十一年大地震にて破損村々取調帳控	津波・越後文化交流史研究	21	25-29			1(1)ア		
堀健彦	2021	「津波之由来」所載絵図にみる1854年南海地震津波被害の空間的表現	災害・復興と資料	13	30-40	○		1(1)ア		
片桐昭彦	2021	中世の災害記録としての『三国一覽合運図』写本—東山文庫本・龍谷大学本、および『大唐日本王代年代記』の史料学的検討—	災害・復興と資料	13	1-7	○		1(1)ア		
Ebara, M., A. Nishiyama, T. Murata and R. Sugimori	2020	Research on Pre-Modern Earthquakes Based on Fusion of Humanities and Sciences	J. Disaster Res.	15		○	10.20965/jdr.2020.p0076	1(1)ア	1(1)イ	
堀健彦・小野映介	2017	佐渡兩津の微地形からみた1964年新潟地震津波被害—日本海における歴史地震津波を考えるために	災害・復興と資料	9	24-28	○		1(1)ア	1(2)	
矢田俊文・原直史	2017	江戸青山善光寺奥御用所日記から見た一八四七年善光寺地震	災害・復興と資料	9	19-29	○		1(1)ア	1(2)	
矢田俊文	2018	史料から見た一七〇七年伯耆・美作地震と一七一一年伯耆・美作地震	災害・復興と資料	10	13-18	○		1(1)ア	1(2)	
矢田俊文	2019	1718年享保伊那・三河地震と『月堂見聞集』	災害・復興と資料	11	9-13	○		1(1)ア	1(2)	享保3年7月26日（1718年8月22日）に発生した伊那・三河地震における被害の全体像を明らかにするため、京都の町人が記した良質な史料『月堂見聞集』などの諸史料を検討した。吉田藩領（愛知県豊橋市他）や淀城（京都市伏見区）では地震による被害があり、現在の松本市・諏訪市・伊那市高遠町・飯田市でも被害があり、そのうち飯田市が最大であった。
原田和彦	2020	一八四七年善光寺地震における善光寺町の被害	災害・復興と資料	12	64-72	○		1(1)ア	1(2)	
堀健彦	2020	『震潮記』所載「突喰浦荒図面」の基礎的考察—1854年南海地震津波被害を考えるために—	災害・復興と資料	12	38-48	○		1(1)ア	1(2)	
片桐昭彦	2020	災害記録としての『善光寺王代記并年代記』	災害・復興と資料	12	8-19	○		1(1)ア	1(2)	
矢田俊文	2020	佛人岡西惟中と一七〇七年宝永地震における大坂の被害数	災害・復興と資料	12	1-7	○		1(1)ア	1(2)	
矢田俊文	2020	徒然草 附地震大變録	前近代歴史地震史料研究会（編）『歴史学による前近代歴史地震史料集2—近世以前地震家屋倒壊率・死亡者数基礎史料—』		26-28			1(1)ア	1(2)	弘化4年3月24日（1847年5月8日）夜発生の善光寺地震や3月29日（5月13日）昼頃発生の高田地震とは異なる3月29日朝に発生した地震について、植科郡森村（長野県千曲市）で記された『徒然日記 附 地震大變録』を検討し、森村では3月24日夜の地震よりも被害が大きかったことを明らかにした。
原田和彦	2021	『大地震一件』からみた一八四七年善光寺地震の被害分布	災害・復興と資料	13	14-26	○		1(1)ア	1(2)	
加納靖之	2016	1882年（明治15年）2月の泥雨記事	京都大学防災研究所年報	59B	72-75	○		1(1)ア	1(2)ア	
加納靖之	2016	弘化四年（1847年）越後高田の地震における年月日の取り違え	地震2	69	41-47	○	10.4294/zisin.69.41	1(1)ア	1(2)ア	
原田智也・西山昭仁・佐竹健治・古村孝志	2017	応七年六月十一日（1498年6月30日）の日向灘大地震は存在しなかった—『九州軍記』の被害記述の検討—	地震2	70	89-107	○		1(1)ア	2(1)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
加納靖之・竹之内健介・矢守克也	2018	ハザードマップへの歴史災害地点の重ね合わせー災害史と地域防災の新たな連携ー	京都大学防災研究所2017年九州北部豪雨災害調査報告書		109-114			1(1)ア	4(1)	
加納靖之	2016	古地震学とくずし字解読	アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリKuLA(クーラ)の使い方. 飯倉洋一(編). 笠間書院					1(1)ア	4(4)	
加納靖之	2020	地球惑星科学教材に地震はどのように登場しているか	地理	65(12)	16-21			1(1)ア	5(6)	
加納靖之・杉森玲子・榎原雅治・佐竹健治	2021	歴史のなかの地震・噴火ー過去がしめす未来	東京大学出版会		260pp.			1(1)ア	5(7)	
中村元	2020	1923年関東大震災時の新潟県刈羽郡における災害情報について	歴史地震史料研究会(編)「2020年歴史地震史料研究会講演要旨集」		42-44			1(1)ア		
片桐昭彦	2019	15世紀の越中における地震と津波	前近代歴史地震史料研究会(編)「2019年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集」		14-16			1(1)ア	1(2)	
片桐昭彦	2020	『三國一覽合運図』にみる中世の地震と災害	歴史地震史料研究会(編)「2020年歴史地震史料研究会講演要旨集」		14-16			1(1)ア	1(2)	京都・奈良の史料で知られる明応2年(1493)10月30日午前3~5時頃に発生した地震について、東海地方の年代記『大唐日本王代年代記』『常光寺王代記并年代記』の地震記事との検討を行った。①同年月29日午後7~9時頃に静岡県浜松市を含む地域で大地震、翌30日午前3~5時頃に愛知県知多郡から京都・奈良を含む地域で大地震が発生したこと、②余震は京都・奈良に比べ、静岡県浜松市を含む地域で高頻度で長期間続いたことを確認した。
矢田俊文	2020	1855年安政江戸地震被害の境界と1856年安政台風による多摩地域の被害	歴史地震史料研究会(編)「2020年歴史地震史料研究会講演要旨集」		33-35			1(1)ア	1(2)	
イ. 考古データの収集・集成と分析										
村田泰輔	2019	「2基本層序」「3自然科学分析の結果」「4まとめ」『平城宮第一次大極殿院南門および下層遺構の積土構造ー第585次』	奈良文化財研究所紀要2019		159-164			1(1)イ		
村田泰輔	2019	「5自然科学分析」『左京二条二坊十五坪の調査ー第601次』	奈良文化財研究所紀要2019		201-202			1(1)イ		
村田泰輔	2019	「6地質学的調査」『藤原宮大極殿院の調査ー第195・198次』	奈良文化財研究所紀要2019		76-84			1(1)イ		
村田泰輔	2020	災害痕跡データベースの構築ー災害の軽減に向けた考古学の新たな挑戦ー	學士會会報	942	57-70			1(1)イ		
村田泰輔	2020	災害痕跡データベースの構築・公開に向けてー考古学の新たな挑戦	月刊文化財	686	16-18			1(1)イ		
村田泰輔	2020	「3地質学的検討」「4運河SD1901Aの景観画期と変遷」『藤原宮下層運河SD1901Aの検討ー第198次』	奈良文化財研究所紀要2020		94-101			1(1)イ		
村田泰輔	2020	「5地震痕跡」『平城宮第一次大極殿院東方の調査ー第612次』	奈良文化財研究所紀要2020		143			1(1)イ		
村田泰輔	2020	「堆積構造の検討」『平城宮東方官街地区の調査ー第615次』	奈良文化財研究所紀要2020		153-154			1(1)イ		
村田泰輔	2020	「付論 地震痕跡とその発生履歴の検討」『木津川河床遺跡第32次発掘調査報告』	京都府遺跡調査報告集	179	41-50			1(1)イ		
村田泰輔	2021	災害痕跡データベースの構築・公開に向けてー考古学の新たな挑戦	地域防災	36	4-9			1(1)イ		
村田泰輔	2021	藤原宮下層運河SD1901Aの層序	奈文研論叢	2	151-159	○		1(1)イ		
齋藤瑞穂	2020	縄文三陸地震津波への接近	考古学ジャーナル	738	50-53	○		1(1)イ	1(2)	これまでの縄文三陸地震津波研究の到達点を総括し今後の課題を展望した。歴史学・考古学の対象は「自然現象」としての地震・津波でなく、それが引き起こした災害という「社会現象」であることをあらためて強調する。今後の展望として、考古学からみた運動型超巨大地震の検討、気候変動との関連性、災害対応行動の復原の3項目の解明を挙げた。
齋藤瑞穂	2020	特論1714年信濃小谷地震と姫川の天然ダム	前近代歴史地震史料研究会(編)「歴史学による前近代歴史地震史料集2ー近世以前地震家屋倒壊率・死亡者数基礎史料ー」		109-118			1(1)イ	1(2)	
齋藤瑞穂	2018	警固断層の考古学的研究事始	前近代歴史地震史料研究会(編)「2018年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集」		37-39			1(1)イ	1(2)	
齋藤瑞穂・鈴木正博	2019	縄文三陸地震津波再論ー山田湾の復興を考える手掛かりとしてー	前近代歴史地震史料研究会(編)「2019年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集」		1-5			1(1)イ	1(2)	
齋藤瑞穂・鈴木正博	2020	縄文三陸地震津波再々論ー縄文時代後期の山田湾津波と復興	歴史地震史料研究会(編)「2020年歴史地震史料研究会講演要旨集」		1-7			1(1)イ	1(2)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
齋藤瑞穂・齋藤友里恵・矢田俊文・坂上和弘・米田恭子・バレオ・ラボAMS年代測定グループ	2016	新潟県見附市田井町福順寺試掘調査報告—文政11年(1828)三糸地震実態復原のための考古学・歴史学的研究—	災害・復興と資料	8	横48-72, 縦37-48	○		1(1)イ	1(1)ア	1828年三糸地震の実態(特に震源域)について、考古学と歴史学の両立場から検討を行った。特に見附市田井町福順寺の調査を実施し、考古学分野では試掘の結果、同寺の本堂が19世紀前半には現在のような位置・規模ではなかったことを明らかにした。歴史学の分野では、これまでに知られていなかった『福順寺記録』を翻刻し、震源域とみられる地域の被災状況とその後の復興プロセスを明らかにした。
<b>ウ. 地質データ等の収集・集成と分析</b>										
佐藤善輝・藤原治・小野映介	2016	浜松平野西部における完新世後期の浜堤列の地形発達過程	第四紀研究	55	17-35	○		1(1)ウ		
高橋良・伊藤久敏	2020	岩石学的特徴とU-Pb年代に基づく函館市街地下の軽石堆積物の給源の検討	火山	65	69-82	○		1(1)ウ		
小野映介・日塔梨奈・片桐昭彦・矢田俊文	2016	絵図に描かれた1858年飛越地震による山崩れと天然ダム	災害・復興と資料	7	25-31	○		1(1)ウ	1(1)ア	
堀健彦・小野映介	2018	1833年庄内沖地震による輪島の津波被害の地域的差異と微地形	災害・復興と資料	10	15-23	○		1(1)ウ	1(2)	1833年出羽庄内沖地震による石川県輪島での津波被害について、微地形の調査から津波被害の地域的差異を検討した。1833年の地震津波は浜堤の最も高い地点(輪島市河井町地区本町通)までは到達せず、海岸沿いの相対的に低い地区で被害が大きかったと考えられ、河原田川左岸に南北に展開する海士町や輪島崎村の地区は、西側の鳳至山から続く丘陵に向かい急激に標高が上がるため一軒あたり死者数が少ない要因となった可能性があるとした。
石崎泰男・濁川暁・亀谷伸子・吉本充宏・寺田暁彦	2020	本白根火砕丘群の地質と形成史	地質学雑誌	126	473-491	○	10.5575/g eosoc.202 0.0022	1(1)ウ	1(2)	
Hamada, Y., T. Hirose, A. Ijiri, Y. Yamada, Y. Sanada, S. Saito, N. Sakurai, T. Sugihara, T. Yokoyama, T. Saruhashi, T. Hoshino, N. Kamiya, S. Bowden, M. Cramm, S. Henkel, K. Homola, H. Imachi, M. Kaneko, L. Lagostina, H. Manners, H. L. McClelland, K. Metcalfe, N. Okutsu, D. Pan, M. J. Raudsepp, J. Sauvage, F. Schubotz, A. Spivaek, S. Tonai, T. Treude, M.-Y. Tsang, B. Viehweger, D. T. Wang, E. Whitaker, Y. Yamamoto, K. Yang, M. Kinoshita, L. Maeda, Y. Kubo, Y. Morono, F. Inagaki and V. B. Heuer	2018	In-situ mechanical weakness of subducting sediments beneath a plate boundary décollement in the Nankai Trough	Prog. Earth Planet. Sci.	5		○	10.1186/s 40645- 018-0228- z	1(1)ウ	1(3)イ, 1(5)ア	
外西奈津美・安田敦・中田節也	2016	ガラスビード法による蛍光X線分析装置(XRF)を用いた珪酸塩岩石の主・微量成分分析	地震研究所彙報	90	1-14			1(1)ウ	1(4)ア	
川口允孝・長谷中利昭・安田敦・外西奈津美・森康	2017	メルト包有物からみた阿蘇火山における玄武岩質マグマの揮発性成分含有量	号外地球 国際火山噴火情報研究-II —噴火史とその関連研究—	68	86-91			1(1)ウ	1(4)ア	
椎原航介・長谷中利昭・安田敦・外西奈津美・森康	2017	阿蘇4火砕噴火直前に噴火した大峰火山	号外地球 国際火山噴火情報研究-II —噴火史とその関連研究—	68	80-85			1(1)ウ	1(4)ア	
Ishibashi, H., Y. Suwa, M. Miyoshi, A. Yasud, and N. Hokanishi	2018	Amphibole-melt disequilibrium in silicic melt of the Aso-4 caldera-forming eruption at Aso Volcano, SW Japan	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s 40623- 018-0907- 4	1(1)ウ	1(4)ア	
安田敦・馬場章・藤井敏嗣・外西奈津美	2019	富士火山焼野溶岩に捕獲された斑れい岩について: その起源とマグマ供給系についての考察	火山	64	83-101	○	10.18940/ kazan.64. 2_83	1(1)ウ	1(4)ア	
Hatada, R., H. Ishibashi, Y. Suwa, Y. Suzuki, N. Hokanishi and A. Yasuda	2020	Plagioclase-hosted melt inclusions as indicators of inhibited rhyolitic melt beneath a mafic volcano: a case study of the Izu-Omuroyama monogenetic volcano, Japan	J. Mineral. Petrol. Sci.	115	322-331	○	10.2465/j mps.19072 4	1(1)ウ	1(4)ア	
Iwahashi, K., H. Ishibashi, A. Yasuda and N. Hokanishi	2020	Evidence for a 'third' endmember of the Unzen 1991-1995 eruption from amphibole thermometry and crystal clots	J. Volcanol. Geotherm. Res.	396		○	10.1016/j .jvolgeor es.2020.1 06833	1(1)ウ	1(4)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kawaguchi, M., T. Hasenaka, K.T. Koga, E.F. Rose-Koga, A. Yasuda, N. Hokanishi, Y. Mori, K. Shimizu and T. Ushikubo	2021	Persistent gas emission originating from a deep basaltic magma reservoir of an active volcano: the case of Aso volcano, Japan	Contrib. Mineral. Petrol.	176		○	10.1007/s00410-020-01761-6	1(1)ウ	1(4)ア	
Nagasaki, S., H. Ishibashi, Y. Suwa, A. Yasuda, N. Hokanishi, T. Ohkura and K. Takemura	2017	Magma reservoir conditions beneath Tsurumi volcano, SW Japan: Evidence from amphibole thermobarometry and seismicity	Lithos	278-281	153-165	○	10.1016/j.lithos.2017.01.011	1(1)ウ	1(4)ア, 1(4)イ, 1(5)ウ	
原田智代・飯塚毅・浜田盛久・安田敦・吉本充宏	2018	微量元素・同位体地球化学から読み解く富士火山マグマの化学進化	月刊地球	40	234-241			1(1)ウ	1(4)ア, 2(4)ア	
Oikawa, T., M. Yoshimoto, S. Nakada, F. Maeno, J. Komori, T. Shimano, Y. Takeshita, Y. Ishizuka and Y. Ishimine	2016	Reconstruction of the 2014 eruption sequence of Ontake Volcano from recorded images and interviews	Earth Planet. Space	68	79	○	10.1186/s40623-016-0458-5	1(1)ウ	1(4)ア, 2(4)ア, 2(5)	戦後最大の死者行方不明者を出した御嶽火山の2014年噴火は、VEIスケール2の水蒸気噴火であった。この噴火は、新しく形成された火口群から噴煙柱前縁型の乾燥した火砕サージの発生と多量の弾道火山岩塊の放出が30分程度あった後、噴煙が上昇して最高高度に到達し泥雨まじりの凝集火山灰が降下、その後火口から火口噴出型ラハールが流下といった推移をたどったことを地質学的調査及び被災者からの聞き取りで復元した。
Hamada, Y., M. Kitamura, Y. Yamada, Y. Sanada, T. Sugihara, S. Saito, K. Moe and T. Hirose	2018	Continuous depth profile of the rock strength in the Nankai accretionary prism based on drilling performance parameters	Sci. Rep.			○	10.1038/s41598-018-20870-8	1(1)ウ	1(5)ア	
Ono, S., T. Kikegawa, Y. Higo and Y. Tange	2016	Precise determination of the phase boundary between coesite and stishovite in SiO <sub>2</sub>	Phys. Earth Planet. Int.	264		○	10.1016/j.pepi.2017.01.003	1(1)ウ	1(5)ウ	
Yamamoto, Y., Y. Hamada, N. Kamiya, T. Ojima, S. Chiyonobu and S. Saito	2016	Geothermal structure of the Miura-Boso plate subduction zone, central Japan	Tectonophysics			○	10.1016/j.tecto.2016.11.004	1(1)ウ	1(5)ウ	
山田泰広・Jim Mori・氏家恒太郎・林為人・小平秀一	2018	東北地方太平洋沖地震後の緊急調査掘削(10DP第343次航海-J-FAST)の成果	地質学雑誌	124(1)	67-76	○	10.5575/geosoc.2017.0080	1(1)ウ	1(5)ウ	
Kuwatani, T.	2019	Earth materials science in a data-driven paradigm	Elements	15		○	10.2138/elements.15.4.280	1(1)ウ	1(5)ウ	
Shimizu, K., M. Ito, Q. Chang, T. Miyazaki, K. Ueki, C. Toyama, R. Senda, B. S. Vaglarov, T. Ishikawa and J.-I. Kimura	2019	Identifying volatile mantle array with the water-fluorine-cerium systematics of basaltic glass	Chem. Geol.	522	283-294	○	10.1016/j.chemgeo.2019.06.014	1(1)ウ	1(5)ウ	
Fujisaki, W., Y. Fukami, Y. Matsui, T. Sato, Y. Sawaki and K. Suzuki	2020	Redox conditions and nitrogen cycling during the Triassic-Jurassic transition: A new perspective from the mid-Panthalassa	Earth-Sci. Rev.	204		○	10.1016/j.earscirev.2020.10.3173	1(1)ウ	1(5)ウ	
Hamada, M., H. Iwamori, P.A. Brandl, T. Ushikubo, K. Shimizu, M. Ito, L. He and I. P. Savov	2020	Temporal evolution of proto-Izu-Bonin-Mariana arc volcanism over 10 Ma: Constraints from statistical analysis of melt inclusion compositions	J. Petrol.			○	10.1093/ptetrology/egaa022	1(1)ウ	1(5)ウ	奄美三角海盆の海底から掘削・採取された火砕性堆積物中のメルト包有物約300個の化学組成を分析し、さらに統計解析することにより、伊豆・小笠原・マリアナ弧（IBM弧）の火成活動の変遷を解明した。5200万年前の太平洋プレートの沈み込み開始に伴う海洋底の形成によって化学的に枯渇したIBM弧直下のマントルが、マントル対流によって4000万年前から3000万年前までにかけて再肥沃化していく過程が明らかになった。
Hanyu, T., J. Yamamoto, K. Kimoto, K. Shimizu and T. Ushikubo	2020	Determination of total CO <sub>2</sub> in melt inclusions with shrinkage bubbles	Chem. Geol.	557		○	10.1016/j.chemgeo.2020.119855	1(1)ウ	1(5)ウ	
Kuwatani, T. and M. Toriumi	2020	Simple kinetic model for replacement reactions involving solid solutions: the significant role of geofluids Earth	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-1135-2	1(1)ウ	1(5)ウ	
Miyazaki, T., J.B. Gill, C. Hamelin, S.M. DeBari, T. Sato, Y. Tamura, J.-I. Kimura, B.S. Vaglarov, Q. Chang, R. Senda and S. Haraguchi	2020	The First 10 Million Years of Rear-Arc Magmas Following Backarc Basin Formation Behind the Izu Arc	Geochemistry, Geophys. Geosystems	21		○	10.1029/2020GC009114	1(1)ウ	1(5)ウ	
Ono, S.	2020	Phase transition in ZnSe at high pressures and high temperatures	J. Phys. Chem. Solids			○	10.1016/j.jpcs.2020.109409	1(1)ウ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ono, S.	2020	Fate of subducted argon in the deep mantle	Sci. Rep.	10		○	10.1038/s41598-020-58252-8	1(1)ウ	1(5)ウ	
Ueki, K., M. Inui, K. Matsunaga, N. Okamoto and K. Oshio	2020	Oxidation during magma mixing recorded by symplectites at Kusatsu-Shirane Volcano, Central Japan	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01192-4	1(1)ウ	1(5)ウ	草津白根山（本白根山）の直近の大規模噴火（5000年前）の一つである殺生溶岩の微細構造を解析し、マグマ進化を論じた。噴出した溶岩は、安山岩マグマと深部から約500年間隔で繰り返し注入される玄武岩マグマが中部地殻に存在するマグマだまりで混合することで生成されたと推定された。草津白根山の活発な脱ガスによって酸化された安山岩マグマと、深部から供給されたマグマの反応によって特徴的な微細構造が形成されたと考えられる。
Ueki, K., T. Kuwatani, A. Okamoto, H. Iwamori and S. Akaho	2020	Thermodynamic modeling of hydrous-melt-olivine equilibrium using exhaustive variable selection	Phys. Earth Planet. Int.	300		○	10.1016/j.pepi.2020.106430	1(1)ウ	1(5)ウ	
Hanyu, T. and L.H. Chen	2021	Geochemical diversity in the mantle	Mantle Convection and Surface Expressions, AUG book			○		1(1)ウ	1(5)ウ	
富士原敏也・金松敏也・笠谷貴史	2018	佐田岬半島沖瀬戸内海における海底地形、浅層構造、重力調査	JAMSTEC Rep. Research and Development	27		○	10.5918/jamstecr.27.13	1(1)ウ	1(5)オ	
Fujita, R., K. Goto, Y. Iryu and T. Abe	2020	Millennial paleotsunami history at Minna Island, southern Ryukyu Islands, Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	7	53	○	10.1186/s40645-020-00365-9	1(1)ウ	2(1)ア	
堤浩之・遠田晋次・後藤秀昭・熊原康博・石村大輔・高橋直也・谷口薫・小俣雅志・郡谷順英・五味雅宏・浅野公之・岩田知孝	2018	熊本県益城町寺中における2016年熊本地震断層のトレンチ調査	地質調査	49	31-39	○		1(1)ウ	2(1)イ	
Ishimura, D., S. Toda, S. Mukoyama, S. Homma, K. Yamaguchi and N. Takahashi	2019	3D surface displacement and surface ruptures associated with the 2014 Mw6.2 Nagano earthquake using differential LiDAR	Bull. Seismol. Soc. Am.	109	780-796	○	10.1785/0120180020	1(1)ウ	2(1)イ	
及川輝樹	2016	2014年御嶽山噴火	地質と調査	145	12-17			1(1)ウ	2(4)ア	
高田亮・山元孝広・石塚吉浩・中野俊	2016	富士火山地質図（第2版）及び同説明書	特殊地質図12.産総研地質調査総合センター		56p			1(1)ウ	2(4)ア	富士火山地質図（第2版）は地表踏査を基本として、必要に応じて掘削調査やトレンチ調査を行い、また、最新の炭素同位体年代測定法や航空機による測量データとその解析技術を活用しながら、定量的な火山噴出物層序や、詳細な山腹噴火口位置及び溶岩流分布などの情報をとりまとめた。富士火山の噴火履歴の基礎情報であり、富士火山の噴火予知研究や災害軽減の取り組みに資するものである。
山崎誠子・星住英夫・松本哲一	2016	九重火山群中西部の発達史—感度法K-Ar年代に基づく再検討—	火山	61	519-531	○		1(1)ウ	2(4)ア	
杉山美美子・長谷中利昭・安田敦・外西奈津美・森康	2017	阿蘇3、阿蘇4間テフラに含まれる鉱物中のメルト包有物—カルデラ噴火前のマグマ供給系の推定—	号外地球国際火山噴火史情報研究-11—噴火史とその関連研究—火山地質図20.産総研地質調査総合センター	68	74-79			1(1)ウ	2(4)ア	
石塚治・下司信夫	2018	八丈島火山地質図	火山地質図20.産総研地質調査総合センター		8p			1(1)ウ	2(4)ア	
伊藤順一	2019	岩手火山、一本木原岩層なだれ堆積物の14Cウィグルマッチング年代と崩壊堆積物の特徴：活火山における小規模な表層崩壊堆積物	火山	64	153-167	○	10.18940/kazan.64.3.153	1(1)ウ	2(4)ア	
Conway, C.E., K.J. Chamberlain, Y. Harigane, D.J. Morgan and C.J.N. Wilson	2020	Rapid assembly of high-Mg andesites and dacites by magma mixing at a continental arc stratovolcano	Geology	48(10)		○	10.1130/G47614.1	1(1)ウ	2(4)ア	
及川輝樹・谷健一郎	2020	伊豆諸島、利島火山の新时期活動の年代：14C年代値と地形判読を基に	火山	65	83-87	○		1(1)ウ	2(4)ア	
山元孝広・中野俊・石塚吉浩・高田亮	2020	新期富士火山降下火砕物の再記載と噴出量の見積もり	地質調査研究報告	71	517-580			1(1)ウ	2(4)ア	
産業技術総合研究所地質調査総合センター	2016-2020	日本の火山データベース（WEB）						1(1)ウ	2(4)ア	日本の火山データベースとして、460の第四紀火山、111の活火山について1万年噴火イベントデータ集、20万分の1日本火山図で第四紀火山の噴火履歴、火口位置、噴出物分布など火山地質情報を整備して公開している（ <a href="https://gbank.gsj.jp/volcano/">https://gbank.gsj.jp/volcano/</a> ）
山元孝広・高田亮・吉本充宏・千葉達朗・荒井健一・細根清治	2016	富士山山麓を巡る：火山地質から防災を考える	地質学雑誌	122	433-444	○		1(1)ウ	2(4)ア、5(7)	
伊藤順一	2018	岩手火山における最近1万年間の爆発的噴火履歴の再検討：水蒸気噴火とマグマ噴火の時間的関連	地質学雑誌	124	271-296	○	10.5575/geosoc.2018.0009	1(1)ウ	5(2)オ	
伊藤順一	2018	御嶽山噴火の教訓と噴火予測の現状：過去の火山活動から学ぶ危険予知	日本旅行医学会学会誌	13	45-51	○		1(1)ウ	5(2)オ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
及川輝樹・大場司・藤縄明彦・佐々木寿	2018	水蒸気噴火の地質学的研究	地質学雑誌	124	231-250	○	10.5575/g eosoc.201 7.0071	1(1)ウ	5(2)オ	
Minami, Y., T. Ohba, S. Hayashi, Y. Saito-Kokubu and K. Kataoka	2019	Lahar record during the last 2500 years, Chokai Volcano, northeast Japan: Flow behavior, sourced volcanic activity, and hazard implications	J. Volcanol. Geotherm. Res.	387	106661	○		1(1)ウ	5(2)オ	
Miura, D., R. Furukawa and K. Arai	2019	Late Pleistocene-Holocene Volcaniclastic Ejecta Along the Southern Apron of the Esan Volcanic Complex, Japan	J. Disaster Res.	14	755-765	○		1(1)ウ	5(2)オ	
草野有紀・石塚吉浩	2020	トレンチ調査に基づく日光白根火山1400年間の噴火履歴	地質調査研究報告	71	1-18			1(1)ウ	5(2)オ	
Hsiung, K-H., T. Kanamatsu, K. Ikehara, K. Usami, C-H. Horng, N. Ohkouchi, N-O. Ogawa, S. Saito and M. Murayama	2021	X-ray fluorescence core scanning, magnetic signatures, and organic geochemistry analyses of Ryukyu Trench sediments: turbidites and hemipelagites	Prog. Earth Planet. Sci.			○	10.1186/s 40645- 020- 00396-2	1(1)ウ	5(3)イ	
Hutchinson, J., H. Kao, G. Spence, K. Obana, K. Wang and S. Kodaira	2019	Seismic Characteristics of the Nootka Fault Zone: Results from the Seafloor Earthquake Array Japan-Canada Cascadia Experiment (SeaJade)	Bull. Seismol. Soc. Am.			○	10.1785/0 120190008	1(1)ウ	5(5)	
Tejada, M.L.G., E.Y. Lee, S.S. Chun, D.L. Harry, L. Riquier and C.C. Wainman	2020	Data report: Petrology and volcanic stratigraphy at Site U1513, IODP Expedition 369	Proc. of the International Ocean Discovery Program	369		○	10.10.143 79/iodp.p roc.369.2 02	1(1)ウ	1(5)ウ	
北村繁・伊藤響平	2020	弘前城に達する岩城山の山体崩壊堆積物	歴史地震史料研究会(編)「2020年歴史地震史料研究会講演要旨集」		8-10			1(1)ウ		
<b>(2) 低頻度大規模地震・火山噴火現象の解明</b>										
山中佳子・新井田倫子	2018	明治22年熊本地震の詳細震度分布	地震2	70	233-248	○	10.4294/z isin.2017 -7	1(2)		
山中佳子	2019	昭和東南海地震の地震像	名古屋大学減災連携研究センタークラウドファンディング報告書		1-12			1(2)		
矢田俊文	2017	1855年安政江戸地震における家屋倒壊率の再検討—武蔵国幸手領・川崎領—	資料学研究	14	1-14	○		1(2)	1(1)ア	
矢田俊文	2018	近世の巨大地震	(単著書, 吉川弘文館)		1-248			1(2)	1(1)ア	1586年天正地震から1855年安政江戸地震まで近世の日本各地で発生した被害地震の特徴について文書(地震被害報告書)や日記を用いて検討した。特に家屋全壊率と死亡者数の解明につとめ、文書にみられる家屋被害の状態については、家屋全壊を示す「潰家(皆潰)」以外の「半潰」「大破」等は被害程度の区別は困難であるため、歴史地震における家屋倒壊率は「潰家」のみに基づいて検討する必要があるとした。
矢田俊文	2018	1855年安政江戸地震と1856年安政台風の被害数—武蔵葛西領・武蔵多摩地域・武蔵川崎領—	資料学研究	15	1-20	○		1(2)	1(1)ア	
矢田俊文・堀田嵩洋	2019	地震被害評価方法の再検討	資料学研究	16	1-15	○		1(2)	1(1)ア	1707年宝永地震、1854年嘉永東海地震、1855年安政江戸地震などにおける家屋の地震被害に関する史料記述を検討し、家屋倒壊率を導き出す方法の再検討を行った。その結果、史料に記されている家屋の「半潰」軒数は、家屋倒壊率を導き出すための被害数として使用することは不適当であり、広域の地震被害を検討する際には、家屋全壊率を家屋倒壊率として用いることが妥当であるとの結論に至った。
矢田俊文	2020	1804年象潟地震における家屋倒壊数と死亡者数／1854年東海地震江川太郎左衛門代官領の被害	前近代歴史地震史料研究会(編)「歴史学による前近代歴史地震史料集2—近世以前地震家屋倒壊率・死亡者数基礎史料—」		84-87			1(2)	1(1)ア	1804年象潟地震、1828年三桑地震、1854年東海地震の被害史料を分析した。①一軒当り死亡者数が0.27人以上の村は活断層近くの村であり、活断層近くの村では家屋全壊率も90%を超える。②活断層近くの村でなくても家屋全壊率も90%を超える場合、活断層近くの村と比較すると一軒当り死亡者数はそれほど多くない。③活断層とそれほど近づく家屋全壊率90%を超え、一軒当り死亡者数がそれほど多くない村は地盤が極めて弱いことを明らかにした。
齋藤瑞穂	2018	弥生土器型式細別論	(単著書, 同成社)		1-304			1(2)	1(1)イ	
Garrett, E., O. Fujiwara, P. Garrett, V. M. A. Heyverart, M. Shishikura, Y. Yokoyama, A.H. Ferrari, H. Bruckner, A. Nakamura, M. D. Batist, and the QuakeRecNankai team	2016	A systematic review of geological evidence for Holocene earthquakes and tsunamis along the Nankai-Suruga Trough, Japan	Earth Sci. Rev.	159	337-357	○	10.1016/j. earscre v.2016.06 .011	1(2)	1(1)ウ	南海トラフでは繰り返し巨大地震が起きている。近年、放射性炭素による津波堆積物の年代決定により、過去数千年間の地震活動の復元が盛んに行われるようになった。本研究ではこれらの研究による放射性炭素年代をコンパイルし、過去の南海トラフ地震の震源域の時空間分布をまとめた。さらに得られた結果から巨大地震の発生間隔について検討を行った。
Matsumoto, D., Y. Sawai, K. Tanigawa, O. Fujiwara, Y. Namegaya, M. Shishikura, K. Kagohara and H. Kimura	2016	Tsunami deposit associated with the 2011 Tohoku-oki tsunami in the Hasunuma site of the Kujukuri coastal plain, Japan	Island Arc	25	369-385	○	10.1111/i ar.12161	1(2)	1(1)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
澤井祐紀・谷川晃一郎・篠崎鉄哉・田村亨・那須浩郎	2016	宮城県熊の作遺跡から発見された貞観地震による津波堆積物	第四紀研究	55	59-66	○		1(2)	1(1)ウ	
Shinozaki, T., Y. Sawai, J. Hara, M. Ikehara, D. Matsumoto and K. Tanigawa	2016	Geochemical characteristics of deposits from the 2011 Tohoku-oki tsunami at Hasunuma, Kujukuri coastal plain, Japan	Island Arc	25	350-368	○	10.1111/iar.12159	1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展・鎌滝孝信・藤原治	2016	房総半島南部沿岸の海岸段丘と津波堆積物に記録された過去の関東地震の履歴	地質学雑誌	122	357-370	○		1(2)	1(1)ウ	
Ando, M., A. Kitamura, Y. Tu, Y. Ohashi, T. Imai, M. Nakamura, R. Ikuta, Y. Miyairi, Y. Yokoyama and M. Shishikura	2017	Source of high tsunamis along the southernmost Ryukyu trench inferred from tsunami stratigraphy	Tectonophysics	722	265-276	○	10.1016/j.tecto.2017.11.007	1(2)	1(1)ウ	
Bradak-Hayashi, B., K. Tanigawa, M. Hyodo and Y. Seto	2017	Magnetic fabric evidence for rapid, characteristic changes in the dynamics of the 2011 Tohoku-oki tsunami	Mar. Geol.	387	85-96	○	10.1016/j.margeo.2017.04.003	1(2)	1(1)ウ	
今井健太郎・石橋正信・行谷佑一・蝦名裕一	2017	新たな史料に基づく和歌山県沿岸における安政東海・南海地震の津波痕跡調査	津波工学研究報告	33	121-130	○		1(2)	1(1)ウ	
澤井祐紀	2017	珪藻類が明らかにする過去の巨大地震と津波	環境技術	46	192-195	○		1(2)	1(1)ウ	
澤井祐紀	2017	東北地方太平洋側における古津波堆積物の研究	地質学雑誌	123	819-830	○		1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2017	日本列島周辺で今後起こりうる海溝型巨大～超巨大地震	環境管理	53	32-41	○		1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2017	史料・地形・地層から読み解く海溝型地震	地盤工学会誌	65	41-48	○		1(2)	1(1)ウ	
Ikehara, K., K. Usami, T. Kanamatsu, K. Arai, A. Yamaguchi and R. Fukuchi	2018	Spatial variability in sediment lithology and sedimentary processes along the Japan Trench: Use of deep-sea turbidite records to reconstruct past large earthquakes	Geological Society Special Publication	456	75-89	○	10.1144/S1456.9	1(2)	1(1)ウ	
Okutsu, N., J. Ashi, A. Yamaguchi, T. Irino, K. Ikehara, T. Kanamatsu, Y. Saganuma and M. Murayama	2018	Evidence for surface sediment remobilization by earthquakes in the Nankai forearc region from sedimentary records	Geological Society, London, Special Publications	47	SP477.22	○	10.1144/S1477.22	1(2)	1(1)ウ	
Tanigawa, K., M. Shishikura, O. Fujiwara, Y. Namegaya and D. Matsumoto	2018	Mid to late Holocene marine inundations inferred from coastal deposits facing the Nankai Trough in Nankoku, Kochi Prefecture, southern Japan	Holocene	28	867-878	○	10.1177/0959683617752837	1(2)	1(1)ウ	
Tanigawa, K., Y. Sawai and Y. Namegaya	2018	Diatom assemblages in tsunami deposits from the 2011 Tohoku earthquake along the Misawa coast, Aomori Prefecture, northern Japan	Mar. Geol.	396	6-15	○	10.1016/j.margeo.2016.11.016	1(2)	1(1)ウ	
Baba, T., Y. Gon, K. Imai, K. Yamashita, T. Matsuno, M. Hayashi and H. Ichihara	2019	Modeling of a dispersive tsunami caused by a submarine landslide based on detailed bathymetry of the continental slope in the Nankai trough, southwest Japan	Tectonophysics	768		○	10.1016/j.tecto.2019.228182	1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2019	房総半島南西岸の関東地震における隆起生物遺骸群集の露頭データ	歴史地震	34	91-102	○		1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2019	千島・日本海溝沿いの超巨大地震履歴	地震予知連絡会会報	101	471-474	○		1(2)	1(1)ウ	
Komori, J., R. Ando and M. Shishikura	2020	Cluster analysis of marine terraces and quantitative seismotectonic interpretation of the Boso Peninsula, central Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2019JB019211	○	10.1029/2019JB019211	1(2)	1(1)ウ	
Okamura, Y. and M. Shishikura	2020	New hypothesis to explain Quaternary forearc deformation and the variety of plate boundary earthquakes along the Suruga-Nankai Trough by oblique subduction of undulations on the Philippine Sea Plate	Earth Planet. Space	72	55	○	10.1186/s40623-020-01183-5	1(2)	1(1)ウ	
Sawai, Y.	2020	Subduction zone paleoseismology along the Pacific coast of northeast Japan: progress and remaining problems-	Earth Sci. Rev.	208	103261	○	10.1016/j.earscirev.2020.103261	1(2)	1(1)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Shinozaki, T., Y. Sawai, K. Ito, J. Hara, D. Matsumoto, K. Tanigawa and J. Pilarczyk	2020	Recent and historical tsunami deposits from Lake Tokotan, eastern Hokkaido, Japan, inferred from non-destructive, grain size, and radioactive cesium analyses	Nat. Hazards	103	713-730	○	10.1007/s11069-020-04007-7	1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展・越後智雄・行谷佑一	2020	能登半島北部沿岸の低位段丘および離水生物遺骸群集の高度分布からみた海域活断層の活動性	活断層研究	53	33-49	○		1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2020	地震の情報の正しい理解に向けて	環境管理	56	16-23			1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展・行谷佑一・前奎英明・越後智雄	2020	1872年浜田地震による石見豊ヶ浦の隆起—離水生物遺骸群集と地形データによる検証—	地震2	73	159-177	○	10.4294/zisin.2020-4	1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2020	地形・地質から読みとく過去の巨大地震	法政地理	52	1-22			1(2)	1(1)ウ	
Watanabe, T., N. Tsuchiya, S. Yamasaki, Y. Sawai, N. Hosoda, F.W. Nara, T. Nakamura and T. Komai	2020	A geochemical approach for identifying marine incursions: implications for tsunami geology on the Pacific coast of northeast Japan	Appl. Geochem.	118	104644	○	j.apgeochem.2020.104644	1(2)	1(1)ウ	
Shinozaki, T.	2021	Geochemical approaches in tsunami research: current knowledge and challenges	Geosci. Lett.	8	6	○	10.1186/s40562-021-00177-9	1(2)	1(1)ウ	
穴倉正展	2021	隆起痕跡が示す過去の地震・津波	季刊考古学	154	30-33			1(2)	1(1)ウ	
Komori, J., M. Shishikura, R. Ando, Y. Yokoyama and Y. Miyairi	2017	History of the great Kanto earthquakes inferred from the ages of Holocene marine terraces revealed by a comprehensive drilling survey	Earth Planet. Sci. Lett.	471	74-84	○	10.1016/j.epsl.2017.04.044	1(2)	1(1)ウ、1(3)イ	相模トラフ沿いの房総半島東部に位置する千倉低地の4つのレベルの海成段丘の離水年代について、海成堆積物から採取した貝化石の放射性炭素年代測定によって推定した。その結果、高位の段丘から順にそれぞれ6300cal yBP、3000cal yBP、2200cal yBP、AD1703と推定された。さらにこれまで認識されていなかった別の段丘が検出され、その年代は5800cal yBPであった。これらの年代は、従来の推定値よりも1000年近く若く、また再来間隔もばらついており、変化に富んでいる。
松本亜希子・中川光弘・井口正人	2016	火山灰中の本質ガラスの石基組織からみる桜島火山2012年7月24日南岳山頂火口噴火—特にマイクロライトの特徴について—	火山	61	545-558	○		1(2)	1(1)ウ、2(4)ア	
Ioki, K., Y. Tanioka, G. Kawakami, Y. Kase, K. Nishina, W. Hirose, K. Hayashi and R. Takahashi	2019	Fault model of the 12th century southwestern Hokkaido earthquake estimated from tsunami deposit distributions.	Earth Planet. Space	71	1-9	○	10.1186/s40623-019-1034-6	1(2)	1(1)ウ、3(1)ウ	
Fujino, S., H. Kimura, J. Komatsubara, D. Matsumoto, Y. Namegaya, Y. Sawai and M. Shishikura	2018	Stratigraphic evidence of historical and prehistoric tsunamis on the Pacific coast of central Japan: Implications for the variable recurrence of tsunamis in the Nankai Trough	Quat. Sci. Rev.	201	147-161	○	10.1016/j.quascirev.2018.09.026	1(2)	1(2)ウ	南海トラフにおける津波の歴史的な文書記録を補完し、先史時代の津波記録を復元するために、三重県の海岸低地でコアリング調査を行った。その結果、約4500年前から500年前の間に堆積した10層のイベント砂層を発見した。最近3回のイベントは1498年明応、1096年永長、684年白鳳の南海トラフ地震にそれぞれ対比される可能性がある。
Shimada, Y., S. Fujino, Y. Sawai, K. Tanigawa, D. Matsumoto, A. Momohara, M. Saito-Kato, M. Yamada, E. Hirayama, T. Suzuki and C. Chagué	2019	Geological record of prehistoric tsunamis in Mugi Town, facing the Nankai Trough, western Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	6		○	10.1186/s40645-019-0279-9	1(2)	1(2)ウ	
Nakata, R., T. Hori, S. Miura and R. Hino	2021	Presence of interplate channel layer controls of slip during and after the 2011 Tohoku-Oki earthquake through the frictional characteristics	Sci. Rep.			○	10.1038/s41598-021-86020-9	1(2)	1(3)ア	日本海溝南部のプレート境界浅部において、2011年東北沖地震時の大規模すべりは発生せず、地震後に顕著な余効すべりが進行している原因を、すべり様式の境界が重力異常分布の境界と一致していることに注目し、海山の沈み込みに起因するプレート境界沿いの低速度・低密度の薄い層の存在を考慮した地震サイクルシミュレーションにより解明した。
浜口博之・中道治久・植木真人	2016	1888年磐梯山水蒸気爆発に関するノート—(4) 諸大家の誤謬に関する考察—	火山	61	503-518	○		1(2)	1(4)ア	
Coussens, M., D. Wall-Palmer, P.J. Talling, S.F.L. Watt, M. Cassidy, M. Jutzeler, T. Gernon, M. Clare, M.R. Palmer, S. Hatter, G. Boudon, D. Endo, A. Fujinawa, R. Hatfield, M. Hornbach, O. Ishizuka, K. Kataoka, A. Le Friant, F. Maeno, M. Manga, M. McCanta and A. Stinton	2016	The relationship between eruptive activity, flank collapse, and sea level at volcanic islands: A long-term (>1 Ma) record offshore Montserrat, Lesser Antilles	Geochemistry, Geophys. Geosystems	17		○	10.1002/2015GC006053	1(2)	1(4)ア、1(4)イ	
増淵佳子・石崎泰男・白井智仁・松本亜希子・宮坂瑞穂・中川光弘	2016	岩石学的にみた沼沢火山におけるマグマ溜まりの長期的進化とカルデラ形成噴火の準備過程	地質学雑誌	122	533-550	○		1(2)	1(4)ア、1(4)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Miyamoto, H., T. Niihara, T. Kuritani, P. Hong, J. Dohm and S. Sugita	2016	Cluster analysis on the bulk elemental compositions of Antarctic stony meteorites	Meteoritics Planet. Sci.	51	906-919	○	10.1111/maps.12634	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Nagai, Y. and T. Yokoyama	2016	Molybdenum isotope analysis by negative thermal ionization mass spectrometry (N-TIMS): Effects of oxygen isotopic compositions	J. Anal. At. Spectrom.	31	948-960	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Nakada, S., T. Yamamoto and F. Maeno	2016	Miocene-Holocene volcanism	In Moreno, T. et al (eds.), "The Geology of Japan," Geological Society of London		273-308			1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
吉村俊平	2016	火山噴火の素過程に関する実験的・理論的研究	火山	61	605-613	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Geshi, N., F. Maeno, S. Nakagawa, H. Naruo and T. Kobayashi	2017	Tsunami deposits associated with the 7.3 ka caldera-forming eruption of the Kikai Caldera, insights for tsunami generation during submarine caldera-forming eruptions	J. Volcanol. Geotherm. Res.	347	221-233	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.09.015	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Kuvikas, O.B., M. Nakagawa, T. Kuritani, Y. Muravyev, N. Malik, E. Klimenko, M. Amma-Miyasaka, A. Matsumoto and S. Shimada	2017	A petrological and geochemical study on time-series samples from Klyuchevskoy volcano, Kamchatka arc	Contrib. Mineral. Petrol.	172		○	10.1007/s00410-017-1347-z	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Liu, J., Q.-K. Xia, T. Kuritani, E. Hanski and H.-R. Yu	2017	Mantle hydration and the role of water in the generation of large igneous provinces.	Nat. Commun.	8	1824	○	10.1038/s41467-017-01940-3	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
七山太・中川正二郎・前野深・成尾英仁	2017	南九州、屋久島において記載された過去の巨大地震津波を示唆する幾つかの証拠	月刊地球号外	67	99-106			1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Yoshimura, S., M. Nakamura and H. Yurimoto	2017	Carbonate ions in high-SiO2 rhyolite observed in fluid-melt equilibrium experiments	Geochem. J.	51	251-262	○	10.2343/geochem.j.1466	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
長谷川健・望月伸竜・大岩根尚	2018	堆積物から超大規模噴火の継続時間を読み取る方法	地学雑誌	127	273-288	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
長谷川健・松本亜希子・東宮昭彦・中川光弘	2018	大規模カルデラ形成噴火と活動的後カルデラ火山	地学雑誌	127	289-301	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
廣瀬直・川上源太郎・長谷川健・林圭一・渡辺真人	2018	網走地域の地質（5万分の一地質図幅および説明書）	産業技術総合研究所地質調査総合センター		1-66			1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Kaneko, T., K. Takasaki, F. Maeno, M. J. Wooster and A. Yasuda	2018	Himawari-8 infrared observations of the June-August 2015 Mt Raung eruption, Indonesia.	Earth Planet. Space	70	89	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Matsumoto, A., T. Hasegawa and M. Nakagawa	2018	Petrology of the 120 ka Caldera-Forming Eruption of Kutcharo Volcano, Eastern Hokkaido, Japan: Coexistence of Multiple Silicic Magmas and their Relationship with Mafic Magmas	J. Petrol.	59	771-793	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
宮坂瑞穂・中川光弘	2018	支笏火山60ka台噴火の噴火推移	地学雑誌	127	229-246	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
中川光弘・宮坂瑞穂・富島千晴・松本亜希子・長谷龍一	2018	支笏湖南方地域の火山口近傍堆積物層序からみた46 ka支笏カルデラ形成噴火推移	地学雑誌	127	247-271	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
中川光弘・宮坂瑞穂・三浦大助・上澤真平	2018	南西北海道、石狩低地帯におけるテフラ層序学：支笏一洞爺火山地域の噴火履歴	地質学雑誌	124	473-489	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Matsumoto, A. and M. Nakagawa	2019	Reconstruction of the eruptive history of Usu volcano, Hokkaido, Japan, inferred from petrological correlation between tephra and dome lavas.	Island Arc	28	e12301	○	10.1111/iar.12301	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Yoshimura, S., T. Kuritani, A. Matsumoto and M. Nakagawa	2019	Fingerprint of silicic magma degassing visualised through chlorine microscopy	Sci. Rep.	9	786	○	10.1038/s41598-018-37374-0	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
Yoshimura, S. and M. Nakagawa	2021	Chlorine heterogeneity in volcanic glass as a faithful record of silicic magma degassing	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021195	○	10.1029/2020JB021195	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
前野深・中野俊・吉本充宏・大湊隆雄・渡邊篤志・川上和人・千田智基・武尾実	2017	新火山島の初上陸調査—西之島（東京都小笠原村）—（日本の露頭・景観100選）	地学雑誌	126	N1-N13	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ, 2(4)ア	
Nanayama, F. and F. Maeno	2018	Evidence on the Koseda coast of Yakushima Island of a tsunami during the 7.3 ka Kikai caldera eruption	Island Arc		2018:e12291	○	10.1111/iar.12291	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ, 2(4)ア	
Maeno, F., S. Nakada, M. Yoshimoto, T. Shimano, N. Hokanishi, A. Zaennudin and M. Iguchi	2019	A sequence of a plinian eruption preceded by dome destruction at Kelud volcano, Indonesia, on February 13, 2014, revealed from tephra fallout and pyroclastic density current deposits	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	24-41	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.03.002	1(2)	1(4)ア, 1(4)イ, 2(4)ア, 2(5)	2014年にインドネシアケルト火山で発生したプリニー式噴火について、堆積物の解析をもとに噴火推移を詳細に明らかにした。とくに噴火初期にプラストが発生していたことや、後期に火砕密度流が発生していたことなど、地物観測では十分に制約できないプリニー式噴火の火口近傍での現象と推移を明らかにした。
鈴木由希	2016	噴火時のマグマプロセスを噴出物組織から探る手法—過去10年間の研究進展のレビュー—	火山	61	367-384	○		1(2)	1(4)アイ	
Yokoyama, T., Y. Nagai, Y. Hinohara and T. Mori	2016	Investigating the influence of nonspectral matrix effects for determination 22 trace elements in rock samples by ICP-QMS	Geostand. Geoanal. Res.	41	221-242	○	10.1111/gr.12147	1(2)	1(4)アイ	
Kuritani, T., E. Sato, K. Wada, A. Matsumoto, M. Nakagawa, D. Zhao, K. Shimizu and T. Ushikubo	2021	Conditions of magma generation at the Me-akan volcano, northern Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.		in press	○	10.1016/j.jvolgeores.2021.107323	1(2)	1(4)イ, 1(5)ア, 1(5)ウ	
Gerasimenko M.D., N.V. Shestakov, A.G. Koromuets, G.N. Gerasimov, H. Takahashi, D.V. Svisoev and G.V. Nechaev	2016	Vertical crustal movement of the south of Primorsky Krai and their relationship with the subduction zone geodynamic processes	Geodesy Cartogr.		33-37	○		1(2)	1(5)ア	
Ioki, K. and Y. Tanioka	2016	Rupture Process of the 1969 and 1975 Kurile Earthquakes Estimated from Tsunami Waveform Analyses	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-016-1402-0	1(2)	1(5)ア	
Kuritani, T. and M. Nakagawa	2016	Origin of ultra rear-arc magmatism at Rishiri Volcano, Kuril Arc	Geochemistry, Geophys. Geosystems	17	4032-4050	○	10.1002/2016GC006594	1(2)	1(5)ア	
Kuritani, T., M. Tanaka, T. Yokoyama, M. Nakagawa and A. Matsumoto	2016	Intensive hydration of the wedge mantle at the Kuril arc-NE Japan arc junction: Implications from mafic lavas from Usu Volcano, northern Japan	J. Petrol.	57	1223-1240	○	10.1093/ptetrology/egw038	1(2)	1(5)ア	
Fukuchi, R., A. Yamaguchi, Y. Yamamoto and J. Ashi	2017	Paleothermal structure of the Nankai inner accretionary wedge estimated from vitrinite reflectance of cuttings	Geochemistry, Geophys. Geosystems	18	3185-3196	○	10.1002/2017GC006928	1(2)	1(5)ア	
Kuritani, T., T. Sakuyama, N. Kamada, T. Yokoyama and M. Nakagawa	2017	Fluid-fluxed melting of mantle versus decompression melting of hydrous mantle plume as the cause of intraplate magmatism over a stagnant slab: implications from Fukue Volcano Group, SW Japan	Lithos	282-283	98-110	○	10.1016/j.lithos.2017.02.011	1(2)	1(5)ア	
Oohashi, K., W. Lin, H.-Y. Wu, A. Yamaguchi and Y. Yamamoto	2017	Stress State in the Kumano Basin and in Slope Sediment Determined From Anelastic Strain Recovery: Results From IODP Expedition 338 to the Nankai Trough	Geochemistry, Geophys. Geosystems	18	3608-3616	○	10.1002/2017GC007137	1(2)	1(5)ア	
Yamada T., Y. Sato, Y. Tanioka, and J. Kawahara	2017	Spatial pattern in stress drops of moderate-sized earthquakes on the Pacific Plate off south-east of Hokkaido, Japan: implications for the heterogeneity of frictional properties	Prog. Earth Planet. Sci.	4	38	○	10.1186/s40645-017-0152-7	1(2)	1(5)ア	
Yamanaka, Y., Y. Tanioka and T. Shina	2017	A long source area of the 1906 Colombia-Ecuador earthquake estimated from observed tsunami waveforms	Earth Planet. Space	69	163	○	10.1186/s40623-017-0750-z	1(2)	1(5)ア	
Ahmadi, P., M.R. Ghorbani, M. Coltorti, T. Kuritani, Y. Cai, A. M. Fioretti, E. Braschi, P.P. Giacomoni, F. Aghabazaz, S. Babazadeh and S. Conticelli	2018	High-Nb hawaiite-mugearite and high-Mg calc-alkaline lavas from northeastern Iran: Oligo-Miocene melts from modified mantle wedge	Int. Geol. Rev.	61	150-174	○	10.1080/00206814.2017.1416502	1(2)	1(5)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Chiba, T., Y. Nishimura and T. Otsuka	2018	Fossil diatom assemblages during the last millennium in the Toveri River mouth area, Hokkaido, Japan	Diatom	34	8029	○		1 (2)	1 (5) ア	
Kuritani, T., A. Yamaguchi, S. Fukumitsu, M. Nakagawa, A. Matsumoto and T. Yokoyama	2018	Magma plumbing system at Izu-Oshima Volcano, Japan: constraints from petrological and geochemical analyses	Front. Earth Sci.	6	178	○	10.3389/feart.2018.00178	1 (2)	1 (5) ア	
Tanioka, Y. and A.R. Gusman	2018	Near-field tsunami inundation forecast method assimilating ocean bottom pressure data: A synthetic test for the 2011 Tohoku-oki tsunami	Phys. Earth Planet. Int.			○	10.1016/j.pepi.2018.08.006	1 (2)	1 (5) ア	震源域近傍の海底圧力観測データを同化する事で地震情報なしでも津波遡上を即時予測できる手法を開発し、2011年東北地方太平洋沖地震の震源モデルで数値実験を行った結果、精度良く予測可能であることが示された。
Tanioka, Y., M. Shibata, A. Gusman, Y. Yamanaka and K. Ioki	2018	Generation Mechanism of Large Later Phases of the 2011 Tohoku-oki Tsunami Causing Disaster at Hakodate, Hokkaido, Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	6	30	○	10.1186/s40645-019-0278-x	1 (2)	1 (5) ア	
Tanioka, Y., A.G. Cabrera and Y. Yamanaka	2018	Simulation of a Dispersive Tsunami due to the 2016 El Salvador, Nicaragua Outer-Rise Earthquake (Mw 6.9)	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-018-1773-5	1 (2)	1 (5) ア	
Tanioka, Y.	2018	Tsunami simulation method assimilating ocean bottom pressure data near a tsunami source region	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-017-1697-5	1 (2)	1 (5) ア	
Voropaev, P., H. Takahashi and V. Saltykov	2018	Statistical Estimation of the Seismicity Level Change around Hokkaido, Northern Japan	Pure Appl. Geophys.	175	1971-1982	○	10.1007/s00024-018-1776-2	1 (2)	1 (5) ア	
Ito, C., H. Takahashi and M. Ohzono	2019	Estimation of convergence boundary location and velocity between tectonic plates in northern Hokkaido inferred by GNSS velocity data	Earth Planet. Space	71	85	○	10.1186/s40623-019-1065-z	1 (2)	1 (5) ア	
Kuritani, T., C. Kanai, S. Yamashita and M. Nakagawa	2019	Magma generation conditions at the Akita-Komagatake volcano, Northeast Japan arc: implications of across-arc variations in mantle melting parameters	Lithos	348-349	105197	○	10.1016/j.lithos.2019.105197	1 (2)	1 (5) ア	
Kuritani, T., Q.-K. Xia, J.-I. Kimura, J. Liu, K. Shimizu, T. Ushikubo, D. Zhao, M. Nakagawa and S. Yoshimura	2019	Buoyant hydrous mantle plume from the mantle transition zone	Sci. Rep.	9	6549	○	10.1038/s41598-019-43103-y	1 (2)	1 (5) ア	
Fabbri, O., D.L. Goldsby, F. Chester, A.M. Karpoff, G. Morvan, K. Ujiie, A. Yamaguchi, A. Sakaguchi, C.-F. Li, G. Kimura, A. Tsutsumi, E. Soreaton and D. Curewitz	2020	Deformation Structures From Splay and De collement Faults in the Nankai Accretionary Prism, SW Japan (IODP NanTroSEIZE Expedition 316): Evidence for Slow and Rapid Slip in Fault Rocks	Geochemistry, Geophys. Geosystems	21	e2019GC008786	○	10.1029/2019GC008786	1 (2)	1 (5) ア	
Hua, Y., D. Zhao, G. Toyokuni and Y. Xu	2020	Tomography of the source zone of the great 2011 Tohoku earthquake	Nat. Commun.	11	1163	○	10.1038/s41467-020-14745-8	1 (2)	1 (5) ア	地震波トモグラフィー法をS-netデータに応用して2011年東北沖巨大地震震源域の不均質構造を調べた結果、この大地震の破壊は深い側の硬い岩石と浅い側の柔らかい岩石との構造境界から開始し、浅い側の柔らかい岩石は日本海溝まで続いていることが明らかになった。このような構造によって海溝付近まで大きな滑りが生じて大津波が生じたと考えられる。
Lormand, C., G.F. Zellmer, G.N. Kilgour, K. Nemeth, A.S. Palmer, N. Sakamoto, H. Yurimoto, T. Kuritani, Y. Iizuka and A. Moebis	2020	Slow ascent of unusually hot intermediate magmas triggering Strombolian to sub-Plinian eruptions	J. Petrol.	61	egaa077	○	10.1093/ptrology/egaa077	1 (2)	1 (5) ア	
Misawa, A., J. Ashi, K. Tara, M. Yamashita and M. Kinoshita	2020	Active deformation of Sagami Bay triggered by approach of the Izu island arc	Geo-Mar. Lett.	40	741-753	○		1 (2)	1 (5) ア	
Taniuchi, H., T. Kuritani and M. Nakagawa	2020	Generation of calc-alkaline andesite magma through crustal melting induced by emplacement of mantle-derived water-rich primary magma: evidence from Rishiri Volcano, southern Kuril Arc	Lithos	254-255	105362	○	10.1016/j.lithos.2019.105362	1 (2)	1 (5) ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Taniuchi, H., T. Kuritani, T. Yokoyama, E. Nakamura and M. Nakagawa	2020	A new concept for the genesis of felsic magma: the separation of slab-derived supercritical liquid	Sci. Rep.	10	8698	○	10.1038/s41598-020-65641-6	1(2)	1(5)ア	
Brahm, R., G.F. Zellmer, T. Kuritani, D. Coulthard Jr, M. Nakagawa, N. Sakamoto, H. Yurimoto and E. Sato	2021	MushPEC: Correcting post-entrapment processes affecting melt inclusions hosted in olivine antecrysts	Front. Earth Sci.	6	178	○	10.3389/feart.2020.599726	1(2)	1(5)ア	
Fan, J. and D. Zhao	2021	Subslab heterogeneity and giant megathrust earthquakes	Nat. Geosci.	14	349-353	○	10.1038/s41561-021-00728-x	1(2)	1(5)ア	近地震と遠地震の走時データの同時インバージョンで M9.0 以上の巨大地震が起きた6つの沈み込み帯地域の詳細な3次元P波速度構造を調べた結果、沈み込んだ海洋スラブ下のマントルに顕著な低速度異常体 (SLVA) が存在しており、巨大地震の震源はSLVAの端部や複数のSLVAの間 (SLVAギャップ) の真上に位置し、巨大地震の地震時すべりは主にSLVAギャップの真上に分布することがわかった。
Kimura, G., Y. Nakamura, K. Shiraishi, G. Fujie, S. Kodaira, A. Yamaguchi, R. Fukuchi and Y. Hashimoto	2021	Rejuvenated extension of the Philippine Sea plate and its effect on subduction dynamics in the Nankai Trough	Island Arc	30	e12402	○	10.1111/isar.12402	1(2)	1(5)ア	
Sas, M., P. Shane, T. Kuritani, G.F. Zellmer, A.J.R. Kent and M. Nakagawa	2021	Mush, melts and metasediments: a history of rhyolites from the Okataina Volcanic Centre, New Zealand, as captured in plagioclase	J. Petrol.	in press		○	10.1093/ptrology/egab038	1(2)	1(5)ア	
Yamanaka, Y. and Y. Tanioka	2021	Study on the 1906 Colombia-Ecuador Megathrust Earthquake Based on Tsunami Waveforms Observed at Tide Gauges: Release Variation of Accumulated Slip Deficits in the Source Area	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126(5)	e2020JB021375	○	10.1029/2020JB021375	1(2)	1(5)ア	
勝俣啓	2018	Mw8.0以上の地震に先行した地震活動長期静穏化	地震予知連絡会会報	99	463-464			1(2)	1(5)ア, 2(2)イ, 2(3)	
Tanaka, Y., V. Klemann and Z. Martinec	2019	Surface Loading of a Self-Gravitating, Laterally Heterogeneous Elastic Sphere: Preliminary Result for the 2D Case	P. Novák et al. (eds.), IX Hotine-Marussi Symposium on Mathematical Geodesy, International Association of Geodesy Symposia	151	157-163	○	10.1007/1345_2019_62	1(2)	2(1)ア, 2(1)イ, 2(2)ア, 5(2)ア	
Ito, Y., M.J. Ikari, K. Ujiie and A.J. Kopf	2017	Coseismic slip propagation on the Tohoku plate boundary fault facilitated by slip-dependent weakening during slow fault slip	Geophys. Res. Lett.	44	8749-8756	○	10.1002/2017GL074307	1(2)	2(2)ア	
Hasegawa, T. and M. Nakagawa	2016	Large scale explosive eruptions of Akan volcano, eastern Hokkaido, Japan: A geological and petrological case study for establishing tephro-stratigraphy and -chronology around a caldera cluster	Quat. Int.	397	39-51	○		1(2)	2(4)ア	
Prambada, O., Y. Arakawa, K. Ikehata, R. Furukawa, A. Takada, H.E. Wibowo, M. Nakagawa and M.N. Kartadinata	2016	Eruptive history of Sundoro volcano, Central Java, Indonesia since 34 ka.	Bull. Volcanol.	78		○	10.1007/s00445-016-1079-3	1(2)	2(4)ア	
Razzhigaeva, N.G., A. Matsumoto and M. Nakagawa	2016	Age, source and distribution of Holocene tephra in the southern Kurile Islands: Evaluation of Holocene eruptive activities in the southern Kurile arc.	Quat. Int.	397	63-78	○		1(2)	2(4)ア	
Uesawa, S., M. Nakagawa and A. Umetsu	2016	Explosive eruptive activity and temporal magmatic changes at Yotei Volcano during the last 50,000 years, southwest Hokkaido, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.		27-44	○		1(2)	2(4)ア	
前野深	2019	アナク・クラカタウ島でおきた山体崩壊と津波 (特集 崩れる火山 過去に学び次に備える)	地理	64	14-21			1(2)	2(4)ア	
Kuritani, T., M. Nakagawa, J. Nishimoto, T. Yokoyama and T. Miyamoto	2020	Magma plumbing system for the Millennium Eruption at Changbaishan volcano, China: constraints from whole-rock U-Th disequilibrium	Lithos	366-367	105564	○	10.1016/j.lithos.2020.105564	1(2)	2(4)ア	過去2000年間における世界最大規模のカルデラ形成噴火である白頭山の10世紀噴火を対象に、U-Th放射非平衡を軸とした地球化学的解析を行った。その結果、主要な珪長質マグマは2万年以上前から地殻内のマグマ溜まりに準備されていたこと、そして新しい玄武岩質マグマが珪長質マグマ溜まりに貫入したことによって噴火が引き起こされたこと、などを明らかにした。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
加瀬善洋・仁科健二・川上源太郎・林圭一・高清水康博・廣瀬亘・嵯峨山積・高橋良・渡邊達也・奥水健一・田近淳・大津直・ト部厚志・岡崎紀俊・深見浩司・石丸聡	2016	北海道南西部奥尻島で見発見された津波堆積物	地質学雑誌	122	587-602	○	10.5575/geosoc.2016.0042	1(2)	3(1)ウ	
Kawakami, G., K. Nishina, Y. Kase, J. Tajika, K. Hayashi, W. Hirose, T. Sagayama, T. Watanabe, S. Ishimaru, K. Koshimizu, R. Takahashi and K. Hirakawa	2017	Stratigraphic records of tsunamis along the Japan Sea, southwest Hokkaido, northern Japan	Island Arc	26		○	10.1111/iar.12197	1(2)	3(1)ウ	北海道南西部の日本海沿岸域において津波堆積物調査を行い、津波発生履歴を明らかにした。奥尻島では少なくとも5枚の津波堆積物が確認でき、古津波の発生間隔は平均で500年程度であることが明らかとなった。これは、北海道南西沖で発生した大地震の発生間隔を示している可能性が高い。
川上源太郎・加瀬善洋・ト部厚志・高清水康博・仁科健二	2017	日本海東縁の津波とイベント堆積物	地質学雑誌	123	857-877	○	10.5575/geosoc.2017.0054	1(2)	3(1)ウ	
高清水康博・仁科健二・川上源太郎・佐藤善輝・岡村聡・中西諒・田村慎・廣瀬亘・高橋良・石丸聡	2017	北海道日高海岸北部から確認された17世紀の津波堆積物	第四紀研究	56	1-9	○	10.4116/jaqua.56.1	1(2)	3(1)ウ	
Takashimizu, Y., G. Kawakami, and A. Urabe	2020	Tsunamis caused by offshore active faults and their deposits	Earth-Sci. Rev.		103380	○	10.1016/j.earscirev.2020.103380	1(2)	3(1)ウ	
齋藤瑞穂	2017	晩期縄文越後地震の復興と土器型式—新潟平野における弥生集落の出現順序—	前近代歴史地震史料研究会(編)「2017年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集」		9-14			1(2)	1(1)イ	
矢田俊文	2016	一八五八年飛越地震の史料と家屋倒壊率—飛騨国を事例として—	災害・復興と資料	7	1-30	○		1(2)	1(1)ア	
Hasegawa, T., A. Matsumoto and M. Nakagawa	2016	Evolution of the 120 ka caldera-forming eruption of Kutcharo volcano, eastern Hokkaido, Japan: Geologic and petrologic evidence for multiple vent systems and rapid generation of pyroclastic flow.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	321	58-72	○		1(2)	1(4)ア, 1(4)イ	
<b>(3) 地震発生過程の解明とモデル化</b>										
<b>ア. 地震発生機構の解明</b>										
Hatakeyama, N., N. Uchida, T. Matsuzawa, T. Okada, J. Nakajima, T. Matsushima, T. Kono, S. Hirahara and T. Nakayama	2016	Variation in high-frequency wave radiation from small repeating earthquakes as revealed by cross-spectral analysis	Geophys. J. Int.		207(2)	1030-1048	○	10.1093/gji/egg313	1(3)ア	
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2016	Tremor activity inhibited by well-drained conditions above a megathrust	Nat. Commun.	7	13863	○	10.1038/ncomms13863.2016	1(3)ア		
Sano, Y., N. Takahata, T. Kagoshima, T. Shibata, T. Onoue and D. Zhao	2016	Groundwater helium anomaly reflects strain change during the 2016 Kumamoto earthquake in Southwest Japan	Sci. Rep.	6	37939	○	10.1038/srep37939	1(3)ア		2016年の熊本地震の前後で、震源周辺の地下水の希ガスを調べ、化学組成の変化量と歪み変化量とに相関があることを明らかにした。
山中佳子	2016	4月16日熊本地震の震源過程	熊本地震速報報告書		60-64			1(3)ア		
山中佳子	2017	熊本地震等近年の地震からの教訓	東三河地域研究	145	2-10			1(3)ア		
Nakajima, J. and N. Uchida	2018	Repeated drainage from megathrusts during episodic slow slip	Nat. Geosci.	11	351-356	○	10.1038/s41561-018-0090-z	1(3)ア		
Chen, A., C. Shen, T.B. Byrne, Y. Sano, N. Takahata, T.F. Yang and Y. Wang	2019	Mantle fluids associated with crustal-scale faulting in a continental subduction setting, Taiwan	Sci. Rep.	9	10805	○	10.1038/s41598-019-47070-2	1(3)ア		
Escobar, M., N. Takahata, T. Kagoshima, K. Shirai, K. Tanaka, J. Park, H. Obata and Y. Sano	2019	Assessment of Helium Isotopes near the Japan Trench 5 Years after the 2011 Tohoku-Oki Earthquake	ACS Earth Space Chem.	3	581-587	○	10.1021/acsearthsp.acechem.8b00190	1(3)ア		2011年の東北沖地震後の海底の状態を、震源付近の堆積物に含まれる希ガスをを用いて調べ、地震5年後には深部流体の移動は落ち着いたことを明らかにした。
Lee, H., H. Kim, T. Kagoshima, J. Park, N. Takahata and Y. Sano	2019	Mantle degassing along strike-slip faults in the Southeastern Korean Peninsula	Sci. Rep.	9	15334	○	10.1038/s41598-019-51719-3	1(3)ア		
Oikawa, G., N. Aso and J. Nakajima	2019	Focal Mechanisms of Deep Low-Frequency Earthquakes Beneath Zao Volcano, Northeast Japan, and Relationship to the 2011 Tohoku Earthquake	Geophys. Res. Lett.	46	7361-7370	○	10.1029/2019GL082577	1(3)ア		
Chen A., Y. Sano, T.B. Byrne, N. Takahata, T.F. Yang, Y. Wang and C.-C. Shen	2020	Helium isotopic signature of a plate boundary suture in an active arc-continent collision	ACS Earth Space Chem.	4	1237-1246	○	10.1021/acsearthsp.acechem.0c00038	1(3)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Kim, H., H. Lee, J. Lee, H. A. Lee, N. C. Woo, Y.-S. Lee, T. Kagoshima, N. Takahata and Y. Sano	2020	Mantle-derived helium emission near the Pohang EGS site, South Korea: Implications for active fault distribution	Geofluids	-	2359740	○	10.1155/2020/2359740	1(3)ア		
Tomonaga, Y., K. Yagasaki, J.-O. Park, J. Ashi, S. Toyoda, N. Takahata and Y. Sano	2020	Fluid Dynamics along the Nankai Trough: He Isotopes Reveal Direct Seafloor Mantle-Fluid Emission in the Kumano Basin (Southwest Japan)	ACS Earth Space Chem.	4	2105-2112	○	10.1021/acsearthsp.acechem.0c00229	1(3)ア		南海トラフで大規模地震を起こすと考えられる断層付近で、堆積物に含まれる希ガスを用いて調査し、地下深部から物質がもたらされたことを明らかにした。このことは大規模断層が存在することを示唆する。
Tomita, F. T. Iinuma, Y. Ohta, R. Hino, M. Kido and N. Uchida	2020	Improvement on spatial resolution of a coseismic slip distribution using postseismic geodetic data through a viscoelastic inversion	Earth Planet. Space	72	84	○	10.1186/s40623-020-01207-0	1(3)ア	1(2)	
Kubota, T., T. Saito and W. Suzuki	2020	Millimeter-scale tsunami detected by a wide and dense observation array in the deep ocean: fault modeling of an Mw 6.0 interplate earthquake off Sanriku, NE Japan	Geophys. Res. Lett.	47	e2019GL085842	○	10.1029/2019GL085842	1(3)ア	1(3)ア, 5(3)ア	海域の地震の震源域直上に設置された海底水圧計記録から地震動成分のみ分離する手法を考案し、2011年東北地方太平洋沖地震の震源域直上の地震動記録を抽出することに成功した。これまで、巨大地震に伴う震源ごく近傍の海底の地震動記録が得られた例は世界的にもないだけでなく、水圧計の地震動成分の活用可能性を示した点でも有用である。
Hirauchi, K., K. Fukushima, M. i Kido, J. Muto and A. Okamoto	2016	Reaction-induced rheological weakening enables oceanic subduction.	Nat. Commun.			○	10.1038/ncomms12550	1(3)ア	1(3)イ	室内での岩石変形実験の結果を元に、海水のプレート内部への浸透と水と鉱物との反応によって生まれる弱い鉱物の存在が「どのようにしてプレートテクトニクスが始まったのか」として重要であることを明らかにした。我々は、海洋底に存在するトランスフォーム断層に海水が浸透することにより「力学的に異常に弱い面」が形成されることが、プレートの沈み込みが起きる上で重要な役割を果たすことを突き止めた。
Yamaguchi, T., Y. Sawae and S. M. Rubinstein	2016	Effects of loading angles on stick-slip dynamics of soft sliders	Extreme Mechanics Letters	9	331-335	○	10.1016/j.eml.2016.09.008	1(3)ア	1(3)イ	
Endo K. and H. Katsuragi	2017	Statistical properties of gravity-driven granular discharge flow under the influence of an obstacle	EPJ Web of Conferences	140	3004	○		1(3)ア	1(3)イ	
Fukuda, J. and I. Shimizu	2017	Theoretical estimation of quartz dislocation creep: Comparison with experimental creep data and extrapolation of flow laws with water fugacity correction to natural conditions	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	5956-5971	○	10.1002/2016JB013798	1(3)ア	1(3)イ	石英の転位クリープは、地殻強度と地震発生帯の下限の深さを規定する重要なレオロジー特性であり、これまで多くの実験が行われてきたが、実験室で得られた流動則の天然系への外挿には大きな不確実性があった。本論文ではH <sub>2</sub> O流体存在下の石英流動則を理論モデルにより導き、内陸地殻のレオロジー断面を推定した。この結果は、地殻中部の温度 300°C~400°C付近で脆性延性遷移が起きるという観測・観察事実と調和的である。
Furuta, T., K. Katou, S. Itoh, K. Tachibana, S. Ishikawa and H. Katsuragi	2017	Geometry-dependent constitutive law for granular slow frictional drag	Int. J. Mod. Phys. B	31	1742006	○	10.1142/S0217979217420061	1(3)ア	1(3)イ	
Kawamura, H., Y. Ueda, S. Kakui, S. Morimoto and T. Yamamoto	2017	Statistical properties of the one-dimensional Burridge-Knopoff model obeying the date and state dependent friction law	Phys. Rev. E	95	42122	○	10.1103/PhysRevE.95.042122	1(3)ア	1(3)イ	
Yamaguchi, T., H. Ohtsubo and Y. Sawae	2017	Critical Scaling and Prediction of Snap-Through Buckling	Mathematical Analysis of Continuum Mechanics and Industrial Applications II. CoMfOs 2016. Mathematics for Industry	30	51-57	○		1(3)ア	1(3)イ	
Itoh, R. and T. Hatano	2018	Geological implication of grain-size segregation in dense granular matter	Philos. Trans. Royal Soc. A	377	20170390	○	10.1098/rsta.2017.0390	1(3)ア	1(3)イ	
Matcharashvili, T., T. Hatano, T. Chelidze and N. Zhukova	2018	Simple statistics for complex Earthquake time distributions	Nonlinear Pross. Geophys.	25	497 - 510	○	10.5194/npg-25-497-2018	1(3)ア	1(3)イ	
Ootani, Y., J. Xu, T. Hatano and M. Kubo	2018	Contrasting Roles of Water at Sliding Interfaces between Silicon-Based Materials: First-Principles Molecular Dynamics Sliding Simulations	J. Phys. Chem. C	122	10459 - 10467	○	10.1021/acs.jpcc.8b01953	1(3)ア	1(3)イ	
Roy, S. and T. Hatano	2018	Creeplike behavior in athermal threshold dynamics: Effects of disorder and stress	Phys. Rev. E	97	62149	○	10.1103/PhysRevE.97.062149	1(3)ア	1(3)イ	
Uemura, M., Y. Ito, K. Ohta, R. Hino and M. Shinohara	2018	Spatio-temporal changes in the seismic velocity induced by the 2011 Tohoku-Oki earthquake and slow slip event revealed from seismic interferometry, using Ocean Bottom Seismometer's records	Prog. Earth Planet. Sci.	5		○	10.1186/s40645-018-0240-3	1(3)ア	1(3)イ	
Yamaguchi, Y., S. Takada and T. Hatano	2018	Rheology of Cohesive Granular Particles under Constant Pressure	J. Phys. Soc. Jpn.	87	94802	○	10.7566/JPSJ.87.094802	1(3)ア	1(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Chanard, K., A. Nicolas, T. Hatano, F. Petrelis, S. Latour, S. Vinciguerra and A. Schubnel	2019	Sensitivity of Acoustic Emission Triggering to Small Pore Pressure Cycling Perturbations During Brittle Creep	Geophys. Res. Lett.	46	7414 - 7423	○	10.1029/2019gl082093	1(3)ア	1(3)イ	
Chang, T.W. and Ide, S.	2019	Empirical relocation of large subduction-zone earthquakes via the teleseismic network correlation coefficient method	Earth Planet. Space	71	79	○	10.1186/s40623-019-1057-z	1(3)ア	1(3)イ	
Fukuda, J., H. Raimbourg, I. Shimizu, K. Neufeld and H. Stunitz	2019	Experimental grain growth of quartz aggregates under wet conditions and its application to deformation in nature	Solid Earth	10	621-636	○	10.5194/se-10-621-2019	1(3)ア	1(3)イ	
Ide, S.	2019	Frequent observations of identical onsets of large and small earthquakes	Nature	573	112-116	○	10.1038/s41586-019-1508-5	1(3)ア	1(3)イ	日本海溝周辺のプレート境界において、大地震と小地震の始まりが極めてよく似ている場合があることをデータ分析から示した論文。地震の破壊が階層的な構造を破壊しつつ成長するという様子を明らかにし、地震の限定的予測可能性を示した。
Wang, K., L. Brown, Y. Hu, K. Yoshida, J. He and T. Sun	2019	Stable forearc stressed by a weak megathrust: Mechanical and geodynamic implications of stress changes caused by the M=9 Tohoku-oki earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	6179-6194	○	10.1029/2018JB017043	1(3)ア	1(3)イ	
Hirauchi, K., Y. Yoshida, Y. Yabe and J. Muto	2020	Slow stick-slip failure in halite gouge caused by brittle-plastic fault heterogeneity	Geochemistry, Geophys. Geosystems	21	e2020GC009165	○	10.1029/2020GC009165	1(3)ア	1(3)イ	
Ikeda, A., T. Kawasaki, L. Berthier, K. Saitoh and T. Hatano	2020	Universal Relaxation Dynamics of Sphere Packings below Jamming	Phys. Rev. Lett.	124	58001	○	10.1103/PhysRevLett.124.058001	1(3)ア	1(3)イ	
Ootani, Y., J. Xu, N. Takahashi, K. Akagami, S. Sakaki, Y. Wang, N. Ozawa, T. Hatano, K. Adachi and M. Kubo	2020	Self-Formed Double Tribolayers Play Collaborative Roles in Achieving Superlow Friction in an Aqueous Environment	J. Phys. Chem. C	124	8295 - 8303	○	10.1021/acs.jpcc.0c02068	1(3)ア	1(3)イ	
Roy, S. and T. Hatano	2020	Creep failure in a threshold-activated dynamics: Role of temperature during a subcritical loading	Phys. Rev. Res.	2	23104	○	10.1103/PhysRevResearch.2.023104	1(3)ア	1(3)イ	
Saitoh, K., T. Hatano, A. Ikeda and B.P. Tighe	2020	Stress Relaxation above and below the Jamming Transition	Phys. Rev. Lett.	124	118001	○	10.1103/PhysRevLett.124.118001	1(3)ア	1(3)イ	
Sato, Y., S. Shinzato, T. Ohmura, T. Hatano and S. Ogata	2020	Unique universal scaling in nanoindentation pop-ins	Nat. Commun.	11	4177	○	10.1038/s41467-020-17918-7	1(3)ア	1(3)イ	
Yamaguchi, Y., S. Biswas, T. Hatano and L. Goehring	2020	Failure processes of cemented granular materials	Phys. Rev. E	102	52903	○	10.1103/PhysRevE.102.052903	1(3)ア	1(3)イ	
Kundu, S., A. Opris, Y. Yukutake and T. Hatano	2021	Extracting Correlations in Earthquake Time Series Using Visibility Graph Analysis	Front. Phys.	9	656310	○	10.3389/fphy.2021.656310	1(3)ア	1(3)イ	
Park, J., T. Tsuru, G. Fujie, E. Hondori, T. Kagoshima, N. Takahata, D. Zhao and Y. Sano	2021	Seismic reflection images of possible mantle-fluid conduits and basal erosion in the 2011 Tohoku earthquake rupture area	Front. Earth Sci.	9		○	10.3389/feart.2021.687382	1(3)ア	1(3)イ	
Pétrellis, F., K. Chanard, A. Schubnel and T. Hatano	2021	Earthquake sensitivity to tides and seasons: theoretical studies	Journal of Statistical Mechanics: Theory and Experiment	2021	23404	○	10.1088/1742-5468/abda29	1(3)ア	1(3)イ	
Ohta, K., Y. Ito, R. Hino, S. Ohyanagi, T. Matsuzawa, H. Shiobara and M. Shinohara	2019	Tremor and inferred slow slip associated with afterslip of the 2011 Tohoku earthquake	Geophys. Res. Lett.	46	4591-4598	○	10.1029/2019GL0824268	1(3)ア	1(3)イ, 2(2)ア	
Tanaka, H. and T. Hatano	2017	Statistical properties of Olami-Feder-Christensen model on Barabasi-Albert scale-free network	Eur. Phys. J. B.	90	248	○	10.1140/epjb/e2017-80295-0	1(3)ア	1(3)イ, 2(2)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Shibazaki, B., L.M. Wallace, Y. Kaneko, I. Hamling, Y. Ito and T. Matsuzawa	2019	Three-dimensional modeling of spontaneous and triggered slow-slip events at the Hikurangi subduction zone	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	13,250-13,268	○	10.1029/2019JB018190	1(3)ア	1(3)イ, 5(5)	
Ozawa, S.W., T. Hatano and N. Kame	2019	Longer Migration and Spontaneous Decay of Aseismic Slip Pulse by Fault Roughness	Geophys. Res. Lett.	46	636 - 643	○	10.1029/2018GL081465	1(3)ア	1(3)イ, 2(2)ア	
Katakami, S., Y. Ito, K. Ohta, R. Hino, S. Suzuki and M. Shinohara	2018	Spatiotemporal Variation of Tectonic Tremor Activity Before the Tohoku-Oki Earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	9676-9688	○	10.1029/2018JB016651	1(3)ア	1(3)イ, 2(2)ア	
小笠原宏・矢部康男・伊藤高敏・ワークショップ参加者	2016	南アフリカ金鉱山M2-5.5地震発生場 掘削ICDP ワークショップ報告	J-DESC ニュースレター	9	14			1(3)ア	1(5)	
Funato, A. and T. Ito	2017	A new method of diametrical core deformation analysis for in-situ stress measurements	Int. J. Rock Mech. Min. Sci.	91	112-118	○	10.1016/j.ijrmm.2016.11.002	1(3)ア	1(5)	
Moyer, P.A., M.S. Boettcher, W.L. Ellsworth, H. Ogasawara, A. Cichowicz, D. Birch and G. van Aswegen	2017	Call for models - a test case for the source inversion validation: the 2014 ML 5.5 Orkney, South Africa, earthquake	Seismol. Res. Lett.	88	1333-1338	○	10.1785/0220160218	1(3)ア	1(5)	
Voosen, P.	2017	Deep in a South African gold mine, scientists drill for the heart of an earthquake	Science	356	891-892	○	10.1126/science.aan6905	1(3)ア	1(5)	
ICDP	2019	The Thrill to Drill	ICDP 広報pdf					1(3)ア	1(5)	
小笠原宏 (ICDP DSeis 計画国際研究チーム代表者)	2020	地震発生帯の掘削調査に成功	なみふる, 日本地震学会	120	2-3			1(3)ア	1(5)	
小笠原宏	2020	南アフリカ大深度金鉱山の地震リスク低減 -2010~2015年度SATREPS研究成果の概要-	地震ジャーナル	70	32-41			1(3)ア	1(5)	約四半世紀にわたる南アフリカの震源至近距離観測の概要を平易に紹介している。SATREPSやICDP DSeis計画の成功までなど、このエクセル中の1(3)アに関するほぼすべての論文や学会発表内容の概要について記されている。
Mngadi, S., A. Tsutsumi, Y. Onoe, M.S.D. Manzi, R. Durrheim, Y. Yabe, H. Ogasawara, S. Kaneki, N. Wechsler, A. Ward, M. Naoi, H. Moriya and M. Nakatani	2021	The effect of a gouge layer on rupture propagation along brittle shear fractures in deep and high-stress mines	Int. J. Rock Mech. Min. Sci.	137		○	10.1016/j.ijrmm.2020.104454	1(3)ア	1(5)	珪岩中の薄板状採掘前線前方で準静的に生まれて準静的に成長した破壊を、直井らがSATREPS計画で詳細を描出した。この母岩と破壊をICDP DSeis計画によって回収した。室内摩擦実験によって破壊の準静的成長と整合性のある結果が得られた。
直井誠	2018	南アフリカ大深度金鉱山での微小破壊観測による震源の物理の研究	地震2	71	43-62	○	10.4294/zisin.2017-13	1(3)ア	1(5), 2(2)イ	
Mngadi, S.B., R.J. Durrheim, R.J., M.S.D. Manzi, H. Ogasawara, Y. Yabe, H. Yilmaz, N. Wechsler, G. Van aswegen, D. Roberts, A.K. Ward, M. Naoi, H. Moriya, M. Nakatani, A. Ishida, SATREPS team and ICDP Dseis team	2019	Integration of underground mapping, petrology, and high-resolution microseismicity analysis to characterise weak geotechnical zones in deep South African gold mines	Int. J. Rock Mech. Min. Sci.	114	79-91	○	10.1016/j.ijrmm.2018.10.003	1(3)ア	1(5), 2(2)イ	
Naoi, N., M. Nakatani, H. Moriya and Y. Yabe	2016	Acoustic emission monitoring for mitigating seismic risks in deep gold mines in South Africa	Int. J. Jpn. Soc. Rock Mech.	12	19-22		10.11187/ijjrsrm.12_1_19	1(3)ア	1(5), 2(3), 2(2)イ	
Katakami, S., Y. Yamashita, H. Yakiyama, Hiroshi Shimizu, Y. Ito and K. Ohta	2017	Tidal Response in Shallow Tectonic Tremors	Geophys. Res. Lett.	44 (19)	9699-9706	○	10.1002/2017GL074060	1(3)ア	1(5)ア	
Takemura, S., T. Matsuzawa, A. Noda, T. Tonegawa, Y. Asano, T. Kimura and K. Shiomi	2019	Structural characteristics of the Nankai Trough shallow plate boundary inferred from shallow very low frequency earthquakes	Geophys. Res. Lett.	46	4192-4201	○	10.1029/2019GL082448	1(3)ア	1(5)ア	S-net で観測された強震動記録の最大加速度、最大速度、加速度応答スペクトルについて、距離減衰の特徴を調べた結果、短周期成分は陸域観測点と類似した特徴を有するのに対し、長周期成分は明らかにS-net 観測点での値が大きくなることを示した。この特徴は緊急地震速報の高度化に不可欠な情報である。
Yu, Z. and D. Zhao	2020	Seismic evidence for water transportation in the forearc off Northern Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2019JB018600	○	10.1029/2019JB018600	1(3)ア	1(5)ア	
Sawaki, Y., Y. Ito, K. Ohta, T. Shibutani and T. Iwata	2021	Seismological structures on bimodal distribution of deep tectonic tremor	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL092183	○	10.1029/2020GL092183	1(3)ア	1(5)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kato, A., S. Sakai, S. Matsumoto and Y. Iio	2021	Conjugate faulting and structural complexity on the young fault system associated with the 2000 Tottori earthquake	Commun. Earth Environ.	2	13	○	10.1038/s43247-020-00086-3	1(3)ア	1(5)イ, 2(2)イ, 2(3)	
Okada, T., Y. Iio, S. Matsumoto, S. Bannister, S. Ohmi, S. Horiuchi, T. Sato, T. Miura, J. Pettinga, F. Ghisetti and R.H. Sibson	2019	Comparative tomography of reverse-slip and strike-slip seismotectonic provinces in the northern South Island, New Zealand	Tectonophysics	765	172-186	○	10.1016/j.tecto.2019.03.016	1(3)ア	1(5)イ, 5(5)	ニュージーランド南島北部で実施した臨時地震観測データを用いて、同地域の地震波速度トモグラフィを実施した。その結果、断層帯深部およびカイコウラ地震の震源付近に地震波速度低速度・高いVp/Vsの領域を見出した。この地震波速度低速度・高Vp/Vsの領域は高い間隙流体圧の領域を示していると解釈でき、断層活動や地震活動と流体との関連が示唆される。
伊藤喜宏	2018	南海トラフのスロー地震と断層活動	地盤工学会誌	66	54-60	○		1(3)ア	2(2)ア	
Kano, M., A. Kato and K. Obara	2019	Episodic tremor and slip silently invades strongly locked megathrust in the Nankai Trough	Sci. Rep.	9	9270	○	10.1038/s41598-019-45781-0	1(3)ア	2(2)ア	プレート沈み込み帯深部で発生する短期的SSEに同期して、浅部の固着域下端でも微小なゆっくりすべりが生じていることを見出した。
Katakami, S., Y. Kaneko, Y. Ito and E. Araki	2020	Stress sensitivity of instantaneous dynamic triggering of shallow slow slip events	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	9676-9688	○	10.1029/2019JB019178	1(3)ア	2(2)ア	
Kawamura, K., A. Wada, M. Römer, M. Strasser, H.G. Fink, Y. Ito and R. Hino	2020	Detailed seafloor observation on a deep-sea terrace along the Japan Trench after the 2011 Tohoku Earthquake	Understanding and Reducing Landslide Disaster Risk, Catastrophic Landslides	1		○	10.1007/978-3-030-60196-6_32	1(3)ア	2(2)ア	
Kato, A. and Y. Ben-Zion	2021	The generation of large earthquakes	Nat. Rev. Earth Environ.	2	26-39	○	10.1038/s43017-020-00108-w	1(3)ア	2(2)ア	
Kano, M. and A. Kato	2020	Detailed spatial slip distribution for short-term slow slip events along the Nankai subduction zone, southwest Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2020JB019613	1(3)ア	2(2)ア, 5(2)ア	
Chu, A. and J. Zhuang	2016	Multiple Linear Regression Analyses on the Relationships among Magnitude, Rupture Length, Rupture Width, Rupture Area, and Surface Displacement	In Rock Anisotropy, Fracture and Earthquake Assessment		219-237	○		1(3)ア	2(2)イ	
Luo, J. and J. Zhuang	2016	Three regimes of the distribution of the largest event in the critical ETAS model	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	1364-1369	○	10.1785/0120150324	1(3)ア	2(2)イ	
Maeda, S., T. Matsuzawa, S. Toda, K. Yoshida and H. Katakami	2017	Complex microseismic activity and depth-dependent stress field changes in Wakayama, southwestern Japan	Earth Planet. Space	70	21	○	10.1186/s40623-018-0788-6	1(3)ア	2(2)イ	
Gulia, L., A. P. Rinaldi, T. Tormann, G. Vannucci, B. Enescu and S. Wiemer	2018	The effect of a mainshock on the size distribution of the aftershocks	Geophys. Res. Lett.	45	13,277-13,287	○	10.1029/2018GL080619	1(3)ア	2(2)イ	
Iwata, T.	2018	A Bayesian approach to estimating a spatial stress pattern from P wave first-motions	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	4841-4858	○	10.1002/2017JB015359	1(3)ア	2(2)イ	
横谷直人	2021	二次モーメントによる小中規模地震の震源過程の推定、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻・修士論文					1(3)ア	2(2)イ	
Gardonio, B., A. Schubnel, S. Das, H., Lyon-Caen, D. Marsan, M. Bouchon and A. Kato	2020	The preseismic and postseismic phases of the ~700-km deep Mw7.9 Bonin Islands earthquake, Japan	Geophys. Res. Lett.	47	e2019GL085589	○	10.1029/2019GL085589	1(3)ア	2(2)イ, 2(3), 1(5)ア	
Shimojo, K., Enescu, B., Yagi, Y. and T. Takeda	2021	Nucleation process of the 2011 Northern Nagano earthquake from nearby seismic observations	Sci. Rep.	11	8143	○	10.1038/s41598-021-86837-4	1(3)ア	2(2)イ, 5(3)ア	
Murakami, S., T. Ichimura, K. Fujita, T. Hori and Y. Ohta	2021	Sensitivity analysis for seafloor geodetic constraints on coseismic slip and interseismic slip-deficit distributions	Front. Earth Sci.	9	614088	○	10.3389/feart.2021.614088	1(3)ア	5(2)ウ	
Muramoto, T., Y. Ito, D. Inazu, L.M. Wallace, R. Hino, S. Suzuki, S.C. Webb and S. Henrys	2019	Seafloor crustal deformation on ocean bottom pressure records with non-tidal variability corrections: application to Hikurangi margin, New Zealand	Geophys. Res. Lett.	46	303-310	○	10.1029/2018GL080830	1(3)ア	5(3)イ, 5(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Inoue, T., Y. Ito, L.M. Wallace, Y. Yoshikawa, D. Inazu, E.S.M. Garcia, T. Muramoto, S.C. Webb, K. Ohta, S. Suzuki and R. Hino	2021	Water depth dependence of long-range correlation in nontidal variations in seafloor pressure	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL092173	○	10.1029/2020GL092173	1(3)ア	5(3)イ, 5(5)	
Podolskiy, E. A., Y. Murai, N. Kanna and S. Sugiyama	2021	Ocean-bottom and surface seismometers reveal continuous glacial tremor and slip	Nat. Commun.	12	3929	○	10.1038/s41467-021-24142-4	1(3)ア	5(4)	
Podolskiy, E. A., Y. Murai, N. Kanna and S. Sugiyama	2021	Ocean-Bottom Seismology of Glacial Earthquakes: The Concept, Lessons Learned, and Mind the Sediments	Seismol. Res. Lett.			○	10.1785/0220200465	1(3)ア	5(4)	
Cruz-Atienza, V.M., Y. Ito, V. Kostoglodov, V. Hjørleifsdóttir, A. Iglesias, J. Tago, M. Calò, J. Real, A. Husker, S. Ide, T. Nishimura, M. Shinohara, C. Mortera-Gutierrez, S. Garcia and M. Kido	2018	A Seismogeodetic Amphibious Network in the Guerrero Seismic Gap, Mexico	Seismol. Res. Lett.	89	1435-1449	○	10.1785/0220170173	1(3)ア	5(5)	
Kaneko, Y., Y. Ito, B. Chow, L.M. Wallace, C. Tape, R. Grapenthin, E. D'Anastasio, S. Henrys and R. Hino	2019	Ultra-long Duration of Seismic Ground Motion Arising From a Thick, Low-Velocity Sedimentary Wedge	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	10347-10359	○	10.1029/2019JB017795	1(3)ア	5(5)	
Barnes, P.M., L.M. Wallace, D.M. Saffer, R.E. Bell, M.B. Underwood, A. Fagereng, F. Meneghini, H.M. Savage, H.S. Rabinowitz, J.K. Morgan, H. Kitajima, S. Kutterolf, Y. Hashimoto, C.H. Engelmann de Oliveira, A. Noda, M.P. Grundwell, C.L. Shepherd, A.D. Woodhouse, R.N. Harris, M. Wang, S. Henrys, D.H.N. Barker, K.E. Petronotis, S.M. Bourlange, M.B. Glennell, A.E. Cook, B.E. Dugan, J. Elger, P.M. Fulton, D. Gamboa, A. Greve, S. Han, A. Hüpers, M.J. Ikari, Y. Ito, G.Y. Kim, H. Koge, H. Lee, X. Li, M. Luo, P.R. Malie, G.F. Moore, J.J. Mountjoy, D.D. McNamara, M. Paganoni, E.J. Sreaton, U. Shankar, S. Shreedharan, E.A. Solomon, X. Wang, H-Y. Wu, I.A. Pecher, L.J. LeVay and IODP Expedition 372 Scientists	2020	Slow slip source characterized by lithological and geometric heterogeneity	Sci. Adv.	6	eaay3314	○	10.1126/sciadv.aay3314	1(3)ア	5(5)	ニュージーランド北島東方沖のヒクラング沈み込み帯で実施された国際海洋探査プログラムによる調査で、プレート境界浅部のプレート境界付近の科学掘削を実施した。その結果、スロースリップの震源域付近における、極めて非常に多様な不均質構造が明らかされた。これらの結果は、スロー地震現象が、周囲と大きく異なる岩石学的、力学的および摩擦的な不均一性によりその発生が促進されている可能性を示した。
Černý, J., M.T. Ramírez-Herrera, E.S. Garcia and Y. Ito	2020	Seafloor morphology along the active margin in Guerrero, Mexico: Probable earthquake implications	J. South Am. Earth Sci.	102	102671	○	10.1016/j.jsames.2020.102671	1(3)ア	5(5)	
Ito, Y., S.C. Webb, Y. Kaneko, L.M. Wallace and R. Hino	2020	Sea surface gravity waves excited by dynamic ground motions from large regional earthquakes	Seismol. Res. Lett.	94	2268-2277	○	10.1785/0220190267	1(3)ア	5(5)	
Karaş, M., S.B. Tank, Y. Ogawa, N. Oshiman, M. Matsushima and Y. Honkura	2020	Probing the relationship between electrical conductivity and creep through upper crustal fluids along the western part of the North Anatolian Fault with three-dimensional magnetotellurics	Tectonophysics	791	228561	○	10.1016/j.tecto.2020.228561	1(3)ア	5(5)	
Cruz-Atienza, V.M., J. Tago, C. Villafuerte, M. Wei, R. Garza-Girón, L.A. Dominguez, V. Kostoglodov, T. Nishimura, S.I. Franco, J. Real, M.A. Santoyo, Y. Ito and E. Kazachkina	2021	Short-term interaction between silent and devastating earthquakes in Mexico	Nat. Commun.	12		○	10.1038/s41467-021-22326-6	1(3)ア	5(5)	日本・メキシコによる国際共同研究の一環として、メキシコ合衆国のグロ州の太平洋沿岸部のグレロ地震空白域周辺のGNSS及び地震観測網を強化し、2017-2018年にかけてメキシコ中南部で発生した3つの大地震およびその周辺で発生したスロースリップの同時観測に成功した。解析の結果、2017年から2019年にかけてメキシコで発生した3つの大地震とスロースリップの運動と2つの関連性を明らかにした。
Tago, J., V.M. Cruz-Atienza, C. Villafuerte, T. Nishimura, V. Kostoglodov, J. Real and Y. Ito	2021	Adjoint Slip Inversion under a Constrained Optimization Framework: Revisiting the 2006 Guerrero Slow Slip Event	Geophys. J. Int.	226	1187-1205	○	10.1093/gji/ggab165	1(3)ア	5(5)	
Sano Y., S. Onda, T. Kagoshima, T. Miyajima, N. Takahata, T. Shibata, C. Nakagawa, T. Onoue, N.K. Kim, H. Lee, M. Kusakabe and D.L. Pinti	2020	Groundwater oxygen anomaly related to the 2016 Kumamoto earthquake in Southwest Japan	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	96	322-334	○	10.2183/pjab.96.024	1(3)ア		2016年の熊本地震の前後で震源付近の地下水の酸素同位体を調査し、化学組成の変化と地震の関係について明らかにした。地震の前に地下での歪み蓄積に伴う岩石破壊が地下水の化学成分に影響を及ぼす可能性を示唆した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Murakami, T., S. Yarimitsu, N. Sakai, K. Nakashima, T. Yamaguchi, Y. Sawae and A. Suzuki	2017	Superior lubrication mechanism in poly (vinyl alcohol) hybrid gel as artificial cartilage	Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers, Part J: Journal of Engineering Tribology	231	1160-1170	○		1(3)ア	1(3)イ	
Ogasawara, H., R.J. Durrheim, Y. Yabe, T. Ito, G. van Aswegen, M. Grobbelaar, A. Funato, A. Ishida, H. Jnr, Ogasawara, S. Mngadi, M.S.D. Manzi, Z. Martin, A. Ward, P. Moyer, M. Boettcher, P. Dight, W. Ellsworth, B. Liebenberg, N. Wechsler, T. Onstott, N. Berset and the DSeis Team	2017	Drilling into seismogenic zones of M2.0-M5.5 earthquakes from deep South African gold mines (DSeis): establishment of research sites	Proc. Afrirock Symposium 2017 (Int. Soc. Rock Mech.), 30 September - 6 October 2017, Cape town		237-248	○		1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H., A. Ishida, K. Sugimura, Y. Yabe, S. Abe, T. Ito, A. Funato, H. Kato, B. Liebenberg, G. Hofmann, L. Scheepers, R. J. Durrheim and the SATREPS and DSeis teams	2019	Spatial variation in stress in seismogenic zones in South African gold mines	Proc. 2019 Rock Dynamics Summit in Okinawa, 7-11 May 2019, Tayler & Francis		33-44	Invited Keynote	10.1201/9780429327933	1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H., B. Liebenberg, M. Rickenbacher, M. Ziegler, V.H. Esterhuizen, T.C. Onstott, R. J. Durrheim, M.S.D. Manzi, S. Mngadi, Y. Yabe, H.Y. Ogasawara, S. Kaneki, E. Cason, J.G. Vermeulen, E. an Heerden, T. Wiersberg, M. Zimmer, C. Kujawa, R. Conze, G. van Aswegen, N. Wechsler, A.K. Ward, S. Enslin, S. Tau, M.S. Bucibo and the DSeis Team	2019	2019 status report: Drilling into seismogenic zones of M2.0-M5.5 earthquakes in South African gold mines (DSeis project)	Proc. 9th Int. Congr. Deep High Stress Mining, Meldersberg, South Africa		375-384	○	10.36487/ACG_rep/1952_28_Ogasawara	1(3)ア	1(5)	M5.5地震の余震発生帯上縁部(下部地殻質マントル起源の変質した貫入体)にICDP DSeis計画の掘削が到達した速報。
Yabe, Y., S. Abe, T. Ito, A. Ishida, K. Sugimura, M. Kanematsu, M. Higashi, R. Tadokoro, H. Ogasawara, A. Funato, H. Kato, B. Watson, S. Mngadi, R. Durrheim, G. Hofmann, L. Scheepers and S. Yoshida	2019	In-situ stress around source faults of seismic events in and beneath South African deep gold mines	Proc. 9th Int. Congr. Deep High Stress Mining, Meldersberg, South Africa		399-411	○	10.36487/ACG_rep/1952_30_Yabe	1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H.	2017	Drilling seismogenic zones in deep South African gold mines (DSeis)	ICDP Post-Operations International Workshop on "Scientific Deep Drilling in Koyna, India"			Invited talk		1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H., Y. Yabe, T. Ito, A. Cochowicz, R. J. Durrheim, T. Onstott, A. Ishida, H. Ogasawara, A. Funato, K. Imanishi, M. Okubo, M.S. Boettcher, P.A. Moyer, W.L. Ellsworth, M. Ziegler, S. Wiemer, C. Janssen, S. Shapiro, H. Gupta, P. Dight, N. Wechsler, A. Ward, B. Liebenberg, Y. Mkuhira, S.N. Somala, J.P. Hunt, S. Bucibo, N. Berset, R.L. Harris, E.D. Cason, The ICDP Dseis Team, T. Kieft and T. Yasutomi	2017	Drilling to probe quasi-static and dynamic seismic ruptures in deep South African gold mines	Schatzalp Workshop on Induced Seismicity, 14-17 March 2017, Switzerland			Invited Keynote		1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H. and the DSeis team	2018	Drilling into seismogenic zones of M2.0-M5.5 earthquakes in deep South African gold mines - completed last Friday	AfricaArray Annual Workshop 2018, Johannesburg			Invited keynote		1(3)ア	1(5)	
Ogasawara, H., Y. Yabe, T. Ito, and the ICDP DSeis and JST-JICA SATREPS teams	2020	The 2014 Orkney M5.5 sinistral earthquake below a deep South African gold mine and the post-earthquake drilling investigation from 2.9km depth	2020 International Forum on Pohang Earthquake, online (Korea), 14 Nov. 2020			Invited talk		1(3)ア	1(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Ogasawara, H., B. Liebenberg, Y. Yabe, Y. Yokoyama, T. Hirono, D.M. Nisson, T.C. Onstott, T.L. Kieft, E. van Heerden, T. Wiersberg, T. Noda, M.S.D. Manzi, S.B. Mngadi, R.J. Durrheim, Y. Yamamoto, T. Ito, A. Funato, M. Ziegler, J.J. Mori, C. Dinske and the DSeis team	2020	The seismogenic zones of an M2.0-5.5 earthquakes successfully recovered in deep South African gold mines: the outcomes and the follow-up plan	EGU 2020		EGU2020-12094	Session on Convergence selected highlight	https://presentations.copernicus.org/EGU2020/EGU2020-12094_preseparation.pdf	1(3)ア	1(5)	
深井雅斗・小川康雄	2019	Elucidation of crustal fluid distribution in NE Japan backarc active zone by wideband MT observation	第146回地球電磁気・地球惑星圏学会総会および講演会					1(3)ア	1(5)エ	
市來雅啓・海田俊輝・小川康雄	2019	A 3-D crust and uppermost mantle electrical conductivity model of subduction zone beneath NE Japan	2019年地球惑星科学連合大会					1(3)ア	1(5)エ	
本山葵・小川康雄・上嶋誠・浅森浩一・内田利弘・長谷英彰・小山崇夫・坂中伸也・山谷祐介・相澤広記・市來雅啓	2019	日本東北地方南部の地殻の三次元比抵抗構造	2019年地球惑星科学連合大会					1(3)ア	1(5)エ	
布原啓史・Kuo Hsuan Tseng・岡野広樹・小川康雄・土屋範芳	2019	Preliminary report on geothermal structure revealed by geological and MT surveys around Akayumasawa river in Sanzugawa caldera, NE Japan	2019年地球惑星科学連合大会					1(3)ア	1(5)エ	
Tank, S.B. and Y. Ogawa	2019	Role of Fluids in the earthquake generation: The Nagamachi-Rifu reverse fault, NE Honshu, Japan	2019年地球惑星科学連合大会					1(3)ア	1(5)エ	
Fukai, M., Y. Ogawa, S. Takakura and M. Mishina	2020	3D imaging of NE Japan forearc: implications for fluid distribution and transport	SEM21-05, JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(3)ア	1(5)エ	
Motoyama, A., M. Ichiki, Y. Ogawa, M. Uyeshima, K. Asamori, T. Uchida, T. Koyama, S. Sakanaka, H. Hase, K. Aizawa and Y. Yamaya	2020	A three-dimensional electrical conductivity model of the crust beneath the southern Tohoku district, NE Japan	SIT24-P03, JpGU-AGU Joint Meeting 2020.					1(3)ア	1(5)エ	
<b>イ. 地震断層滑りのモデル化</b>										
Ito, T., E. Gunawan, F. Kimata, T. Tabei, I. Meilano, Agustan, Y. Ohta, N. Ismail, I. Nurdin and D. Sugiyanto	2016	Co-seismic offsets due to two earthquakes (M-w 6.1) along the Sumatran fault system derived from GNSS measurements	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0427-z	1(3)イ		
Maeda, T., K. Nishida, R. Takagi and K. Obara	2016	Reconstruction of a 2D seismic wavefield by seismic gradiometry	Prog. Earth Planet. Sci.	3	31	○	10.1186/s40645-016-0107-4	1(3)イ		
Kaneko, Y., T. Takeshita, Y. Watanabe, N. Shigematsu and K. Fujimoto	2017	Alteration reaction and mass transfer via fluids with progress of fracturing along the Median Tectonic Line, Mie Prefecture, Southwest Japan	INTEC "Evolutionary Models of Convergent Margins" edited by Yasuto Ito			○	10.5772/68112	1(3)イ		
Shigematsu, N., M. Kametaka, N. Inada, M. Miyawaki, A. Miyakawa, J. Kameda, T. Togo and K. Fujimoto	2017	Evolution of the Median Tectonic Line fault zone, SW Japan, during exhumation	Tectonophysics	696-697	52-69	○	10.1016/j.tecto.2016.12.017	1(3)イ		天然の断層である中央構造線の露頭の解析に基づき、異なる深度における断層挙動の違いの解明の可能性を探った。解析を行った露頭では、異なる時期に異なる地殻深度において断層運動を被っており、深度ごとに異なる変質作用を被ったことが明らかになった。今後、この露頭における深度ごとの力学挙動の違いの解析が期待される。
Gunawan, E., S. Widiyantoro, S. Rosalia, M.R. Daryono, I. Meilano, P. Supendi, T. Ito, T. Tabei, F. Kimata, Y. Ohta and N. Ismail	2018	Coseismic Slip Distribution of the 2 July 2013 Mw 6.1 Aceh, Indonesia, Earthquake and Its Tectonic Implications	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	1918-1928	○	10.1785/120180035	1(3)イ		
Ichihara, H., J. Kanehiro, T. Mogi, K. Yamaoka, N. Tada, E.A. Bertrand and M. Adachi	2018	A 3D electrical resistivity model around the focal zone of the 2017 southern Nagano Prefecture earthquake (M-JMA 5.6): implications for relationship between seismicity and crustal heterogeneity	Earth Planet. Space		70	○	10.1186/s40623-018-0950-1	1(3)イ		
Takagi, R., K. Nishida, T. Maeda and K. Obara	2018	Ambient seismic noise wavefield in Japan characterized by polarization analysis of Hi-net records	Geophys. J. Int.	215	1682-1699	○	10.1093/gji/ggy334	1(3)イ		
Agustan, R.N. Hanifa, Y. Anantasena, M. Sadly and T. Ito	2019	Ground Deformation Identification related to 2018 Lombok Earthquake Series based on Sentinel-1 Data	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	280		○	10.1088/1755-1315/280/1/012004	1(3)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Aso, N., R. Ando and S. Ide	2019	Ordinary and slow earthquakes reproduced in a simple continuum system with stochastic temporal stress fluctuations	Geophys. Res. Lett.	46	14347-14357	○	10.1029/2019GL085010	1(3)イ		
Czertowicz, T. A., T. Takeshita, S. Arai, T. Yamamoto, J.-I. Ando, N. Shigematsu and K. Fujimoto	2019	The architecture of long-lived fault zones: insights from microstructure and quartz lattice-preferred orientations in mylonites of the Median Tectonic Line, SW Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	6	25	○	10.1186/s40645-019-0261-6	1(3)イ		
Mizera, M., T. Little, C. Boulton, D. Prior, E. Watson, J. Biemiller, J. White and N. Shigematsu	2020	Slow-to-fast deformation in mafic fault rocks on an active low-angle normal fault, Woodlark Rift, SE Papua New Guinea	Geochemistry, Geophys. Geosystems	21	e2020GC009171	○	10.1029/2020GC009171	1(3)イ		
Sawa, S., J. Muto, N. Miyajima, R. Shiraiishi, M. Kido and H. Nagahama	2021	Strain localization bands in fine-grained aggregates of germanate olivine and pyroxene deformed by a Griggs type apparatus.	Internat. J. Rock Mech. Mining Sci.	104812		○	10.1016/j.ijrmm.2021.104812	1(3)イ		歪集中帯は周囲の岩石と空隙率や透水率が異なるため、地下への水浸透を理解する上で重要である。しかしながら、非常に細粒な実験試料で歪集中帯が観察された例はなかった。そこで、細粒なゲルマニウムかんらん石を用いて実験を行ったところ、数百ナノサイズの粒子で充填された数多くの歪集中帯が見られ、変形によって生じた転位（結晶の面欠陥）に沿って粒子が破壊し、歪集中帯が形成されたことが明らかになった。
Nakano, M., S. Murphy, R. Agata, Y. Igarashi, M. Okada and T. Hori	2020	Self-similar stochastic slip distributions on a non-planar fault for tsunami scenarios for megathrust earthquakes	Prog. Earth Planet. Sci.			○	10.1186/s40645-020-00360-0	1(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(5)ア	
Sato, T., S. Hasegawa, A. Kono, H. Shiobara, T. Yagi, T. Yamada, M. Shinohara and N. Usui	2017	Detection of vertical motion during a slow-slip event off the Boso Peninsula, Japan, by ocean-bottom pressure gauges	Geophys. Res. Lett.	44	2710-2715	○	10.1002/2017GL072838	1(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Azuma, R., R. Hino, Y. Ohta, Y. Ito, K. Mochizuki, K. Uehira, Y. Murai, T. Sato, T. Takanami, M. Shinohara and T. Kanazawa	2018	Along-arc heterogeneity of the seismic structure around a large coseismic shallow slip area of the 2011 Tohoku-Oki earthquake: 2-D Vp structure estimation through an airgun-ocean bottom seismometer experiment in the Japan Trench subduction zone	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	5249 - 5264	○	10.1029/2017JB015361	1(3)イ	1(2), 1(4)ア, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
高橋美紀・廣瀬文洋・飯尾能久	2018	断層の強度に関する論争と学際的アプローチの必要性	地質学雑誌	124	725-739	○	10.5575/geosoc.2018.0015	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 1(5)イ, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Ando, R.	2016	Domain Partitioning Method for dynamic boundary integral equations applicable to non-planar faults dipping in 3-D elastic half-space	Geophys. J. Int.	207	833-847	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Hirono, T., K. Tsuda, W. Tanikawa, J.P. Ampuero, B. Shibasaki, M. Kinoshita and J. Mori	2016	Near-trench slip potential of megaquakes evaluated from fault properties and conditions	Sci. Rep.	6	28184	○	10.1038/srep28184	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kubota, T., R. Hino, D. Inazu, Y. Ito, T. Iinuma, Y. Ohta, S. Suzuki and K. Suzuki	2016	Coseismic slip model of offshore moderate interplate earthquakes on March 9, 2011 in Tohoku using tsunami waveforms	Earth Planet. Sci. Lett.	458	241-251	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Mizoguchi, K. and T. Hirose	2016	Transient water adsorption on newly formed fault gouge and its relation to frictional heating	Geophys. Res. Lett.	43	7921-7927	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Wada, J., K. Kanagawa, H. Kitajima, M. Takahashi, A. Inoue, T. Hirose, J. Ando and H. Noda	2016	Frictional strength of ground dolerite gouge at a wide range of slip rates	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	2961-2979	○	10.1002/2015JB012013	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
林為人・廣瀬文洋・谷川亘・濱田洋平	2017	科学掘削による地震断層の応力状態・物性・すべりパラメータの評価	地学雑誌	126	223-246	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
廣瀬文洋	2017	実験室から探る南海トラフ地震断層運動	地盤工学会誌	65	70-77	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kitajima, H., D. Saffer, H. Sone, H. Tobin and T. Hirose	2017	In situ stress and pore pressure in the deep interior of the Nankai accretionary prism, integrated Ocean Drilling Program Site C0002	Geophys. Res. Lett.	44	9644-9652	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kitamura, M. and T. Hirose	2017	Strength determination of rocks by using indentation tests with a spherical indenter	J. Struct. Geol.	98	1-11	○	10.1016/j.jsg.2017.03.009	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kono A., T. Sato, M. Shinohara, K. Mochizuki, T. Yamada, K. Uehira, T. Shinbo, Y. Machida, R. Hino and R. Azuma	2017	Geometry and spatial variations of seismic reflection intensity of the upper surface of the Philippine Sea plate off the Boso Peninsula, Japan	Tectonophysics	709	44-54	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Mizutani, T., K. Hirauchi, W. Lin and M. Sawai	2017	Depth dependence of the frictional behavior of montmorillonite fault gouge: Implications for seismicity along a décollement zone	Geophys. Res. Lett.	44	5383-539	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Noda, H., M. Sawai and B. Shibazaki	2017	Earthquake sequence simulations with measured properties for JFAST core samples	Philos. Trans. Royal Soc. A	A375		○	10.1098/rsta.2016.0003	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Sawai, M., A.R. Niemeijer, T. Hirose and C.J. Spiers	2017	Frictional properties of JFAST core samples and implications for slow earthquakes at the Tohoku subduction zone	Geophys. Res. Lett.	44	8822-8831	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Tomita, F., M. Kido, Y. Ohta, T. Iinuma and R. Hino	2017	Along-trench variation in seafloor displacements after the 2011 Tohoku earthquake	Sci. Adv.	3	e1700113	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Hamahashi, M., G. Kimura, W. Tanikawa, Y. Hamada, Y. Hashimoto and S. Saito	2018	Physical property anisotropy of foliated fault rocks: Study from the Nobeoka Thrust, Shimanto Belt, southwest Japan	Island Arc	27	e12257	○	10.1111/iar.12257	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kameda, J. and K. Hirauchi	2018	Rheological properties of composite serpentine-brucite suspensions: Implications for mudflow behavior on forearc seamounts.	Mar. Geol.	403	191-196	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Shibazaki, B., H. Noda and M. J. Ikari	2019	Quasi-dynamic 3D modeling of the generation and afterslip of a Tohoku-oki earthquake considering thermal pressurization and frictional properties of the shallow plate boundary	Pure Appl. Geophys.	176		○	10.1007/s00024-018-02089-w	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Hirauchi, K., I. Katayama and Y. Kouketsu	2020	Semi-brittle deformation of antigorite serpentinite under forearc mantle wedge conditions	J. Struct. Geol.	140	104151	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kaneki, S. and H. Noda	2020	On approximations of EASY%Ro solutions to estimate maximum temperature from vitrinite reflectance	地質学雑誌	26	655-661	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
大橋聖和・竹下徹・平内健一	2020	断層帯と断層レオロジーの進化	地学雑誌	129	473-489	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Shinohara, M., T. Yamada, K. Uehira, S. Sakai, H. Shiobara and T. Kanazawa	2021	Development and operation of an Ocean Bottom Cable Seismic and Tsunami observation system (OBCST) in the source region of the Tohoku-oki earthquake	Earth Space Sci.			○	10.1029/2020EA001359	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Sawai, M., A.R. Niemeijer, O. Plümpner, T. Hirose and C.J. Spiers	2016	Nucleation of frictional instability caused by fluid pressurization in subducted blueschist	Geophys. Res. Lett.	43	2543-2551	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
木村学・木下正高・金川久一・金松敏也・芦寿一郎・斎藤実篤・廣瀬文洋・山田泰広・荒木英一郎・江口暢久・Sean Toozko	2018	南海トラフ地震発生帯掘削がもたらした沈み込み帯の新しい描像	地質学雑誌	124	47-65	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Wang, K., T. Sun, L. Brown, R. Hino, F. Tomita, M. Kido, T. Iinuma, S. Kodaira and T. Fujiwara	2018	Learning from crustal deformation associated with the M9 2011 Tohoku-oki earthquake	Geosphere	14	552 - 571	○	10.1130/GES01531.1	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Kitamura, M., H. Kitajima, H. Sone, Y. Hamada and T. Hirose	2019	Strength profile of the inner Nankai accretionary prism at IODP Site C0002	Geophys. Res. Lett.	46	10791-10799	○		1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Hirauchi, K., Y. Yamamoto, S.A.M. den Hartog and A.R. Niemeijer	2020	The role of metasomatic alteration on frictional properties of subduction thrusts: An example from a serpentinite body in the Franciscan Complex, California	Earth Planet. Sci. Lett.	53	115967	○	10.1016/j.epsl.2019.115967	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Kanagawa, K., H. Murayama, A. Sugita, M. Takahashi, M. Sawai, N. Furukawa and T. Hirose	2020	Weakening of quartz rocks at subseismic slip rates due to frictional heating, but not to lubrication by wear materials of hydrated amorphous silica or silica gel	Tectonophysics	784		○	10.1016/j.tecto.2020.228429	1(3)イ	1(2)ア, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Han, R., J.-S. Kim, C.-M. Kim, T. Hirose, J.O. Jeong and G.Y. Jeong	2019	Dynamic weakening of ring faults and catastrophic caldera collapses	Geology	47	107-110	○		1(3)イ	1(2)ア, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Sakai, Y., M. Nakatani, A. Takeuchi, Y. Omorai and T. Kishi	2016	Mechanical behavior of cement paste and alterations of hydrates under high-pressure triaxial testing	J. Advanced Concrete Technology	14	1-12	○	10.3151/jact.14.1	1(3)イ	1(3)ア	
酒井雄也・中谷正生・竹内昭洋・岸利治	2016	高圧条件下におけるセメントペーストの挙動と変形機構の検討	セメント・コンクリート論文集	69	199-206	○	10.14250/cement.69.199	1(3)イ	1(3)ア	
Kouketsu, Y., I. Shimizu, Y. Wang, L. Yao, S. Ma and T. Shimamoto	2017	Raman spectra of carbonaceous materials in a fault zone in the Longmenshan thrust belt, China: comparisons with those of sedimentary and metamorphic rocks	Tectonophysics	699	29-145	○	10.1016/j.tecto.2017.01.01	1(3)イ	1(3)ア	
Suzuki, T.	2017	Emergence and seismological implications of phase transition and universality in a system with interaction between thermal pressurization and dilatancy	Phys. Rev. E	96	023005	○	10.1103/PhysRevE.96.023005	1(3)イ	1(3)ア	
Miyake, Y. and H. Noda	2019	Fully dynamic earthquake sequence simulation of a fault in a viscoelastic medium using a spectral boundary integral equation method: does interseismic stress relaxation promote aseismic transients?	Earth Planet. Space	71	137	○	10.1186/s40623-019-1113-8	1(3)イ	1(3)ア	
Ohtani, M., N. Kame and M. Nakatani	2019	Synchronization of megathrust earthquakes to periodic slow slip events in a single-degree-of-freedom spring-slider model	Sci. Rep.	9	8285	○	10.1038/s41598-019-44684-4	1(3)イ	1(3)ア	
Suzuki, T. and H. Matsukawa	2019	Transition between Macroscopic Steady Slippage and Creep Motion in a System with Velocity-Dependent Friction Stress	J. Phys. Soc. Jpn	88	114402	○	10.7566/JPSJ.88.114402	1(3)イ	1(3)ア	
Nagaya, T., A. Okamoto, R. Oyanagi, Y. Seto, A. Miyake, M. Uno, J. Muto and S. Wallis	2020	Talc CPO determined by improved EBSD procedure for sheet silicates: Implications for anisotropy at the slab-mantle interface due to Si-metasomatism	Am. Mineral.			○	10.2138/am-2020-7006	1(3)イ	1(3)ア	
Ueda, T., M. Obata, K. Ozawa and I. Shimizu	2020	The Ductile-to-brittle transition recorded in the Balmuccia peridotite body, Italy: Ambient temperature for the onset of seismic rupture in mantle rocks	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2019JB017385	○	10.1029/2019JB017385	1(3)イ	1(3)ア	
Huang, Y., H. Guo, T. Nakatani, K. Uesugi, M. Nakamura and H. Keppeler	2021	Electrical conductivity in texturally equilibrated fluid-bearing forsterite aggregates at 800° C and 1 GPa: Implications for the high electrical conductivity anomalies in mantle wedges	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021343	○	10.1029/2020JB021343	1(3)イ	1(3)ア	
Noda, H.	2021	Shear strength of a shear zone in the brittle-plastic transition based on tensorial strain partitioning	J. Struct. Geol.	146	104313	○	10.1016/j.jsg.2021.104313	1(3)イ	1(3)ア	
Amagai, T., A. Okamoto, T. Niibe, N. Hirano, K. Motomiya and N. Tsuchiya	2019	Silica nanoparticles produced by explosive flash vaporization during earthquakes	Sci. Rep.	9	9738	○	10.1038/s41598-019-46320-7	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Amanda, F.F., R. Yamada, M. Uno, S. Okumura and N. Tsuchiya	2019	Evaluation of caldera hosted geothermal potential during volcanism and magmatism in subduction system, NE Japan	Geofluids	2019	3031586	○	10.1155/2019/3031586	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Nohara, T., M. Uno and N. Tsuchiya	2019	Enhancement of permeability activated by supercritical fluid flow through granite	Geofluids	2019	6053815	○	10.1155/2019/6053815	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Watanabe, N., K. Sakaguchi, R. Goto, K. Yamane, T. Ishibashi, Y. Chen, T. Komai and N. Tsuchiya	2019	Cloud-fracture networks as a means of accessing superhot geothermal energy	Sci. Rep.	9	939	○	10.1038/s41598-018-37634-z	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Huang, Y., T. Nakatani, M. Nakamura and C. McCammon	2020	Experimental constraint on grain-scale fluid connectivity in subduction zones	Earth Planet. Sci. Lett.	552	116610	○	10.1016/j.epsl.2020.116610	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Mindaleva, D., M. Uno, F. Higashino, T. Nagaya, A. Okamoto and N. Tsuchiya	2020	Rapid fluid infiltration and permeability enhancement during middle-lower crustal fracturing: Evidence from amphibolite-granulite-facies fluid-rock reaction zones, Sor Rondane Mountains, East Antarctica	Lithos	372-372	105521	○	10.1016/j.lithos.2020.105521	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Yoshida, K.	2021	Detection of temporal change in near-source attenuation during intense fluid-driven seismicity following the 2011 Tohoku-Oki earthquake	Geophys. J. Int.	224	138-150	○	10.1093/gji/ggaa421	1(3)イ	1(3)ア, (5)イ	
Huang, Y., T. Nakatani, M. Nakamura and C. McCammon	2019	Saline aqueous fluid circulation in mantle wedge inferred from olivine wetting properties	Nat. Commun.	10	5557	○	10.1038/s41467-019-13513-7	1(3)イ	1(3)ア, 1(5)イ	
Okamoto, A.S., B.A. Verberne, A.R. Niemeijer, M. Takahashi, I. Shimizu, T. Ueda and C.J. Spier	2019	Frictional properties of simulated chlorite gouge at hydrothermal conditions: Implications for subduction megathrusts	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	4545-4565	○	10.1029/2018JB017205	1(3)イ	1(3)ア, 2(2)ア	断層帯においては雲母粘土鉱物が摩擦強度の低下をもたらすことが知られてきたが、海溝型地震発生帯や地殻中部に匹敵する高温高間隙圧条件下での実験は少なく、緑泥石については皆無であった。本論文では低速・大変位摩擦試験により、緑泥石が広い温度圧力条件下で0.3程度の低い摩擦係数と速度強化特性を示すことを明らかにした。この結果は沈み込みプレート境界断層の性質が岩質に強く依存することを示唆している。
Park, J.-O., N. Takahata, E. Jamali Hondori, A. Yamaguchi, T. Kagoshima, T. Tsuru, G. Fujie, Y. Sun, J. Ashi, M. Yamano and Y. Sano	2021	Mantle-derived helium released through the Japan trench bend-faults	Sci. Rep.	11	12026	○	10.1038/s41598-021-91523-6	1(3)イ	1(4)ア	東北沖の日本海溝に沈み込む前の海洋地殻を断ち切る大規模正断層の構造と物性を明らかにし、その断層に沿ったマントル流体の上昇を発見した。海溝の海側に発達する正断層に沿ったマントル流体上昇と海水浸透の証拠が初めて得られ、マントルと海洋を結ぶ大規模な流体循環モデルを構築した。マントル由来の水は海洋プレート内部の巨大地震の引き金になり得るため、マントル流体の変動の定期観測は今後の地震・津波防災に重要である。
Kameda, J., S. Inoue, W. Tanikawa, A. Yamaguchi, Y. Hamada, Y. Hashimoto and G. Kimura	2017	Alteration and dehydration of subducting oceanic crust within subduction zones: Implications for décollement step-down and plate boundary seismogenesis	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0635-1	1(3)イ	1(4)イ	
Suzuki, T.	2021	Characteristic sensitivity of turbulent flow within a porous medium under initial conditions	J. Phys. Soc. Jpn.	90	024401	○	10.7566/JPSJ.90.024401	1(3)イ	1(4)イ	
Shiina, T., J. Nakajima, T. Matsuzawa, G. Toyokuni and S. Kita	2017	Depth variations in seismic velocity in the subducting crust: Evidence for fluid-related embrittlement for intermediate-depth earthquakes	Geophys. Res. Lett.	44	810-817	○	10.1002/2016GL071798	1(3)イ	1(5)ア	
Matsumoto, N. and N. Shigematsu	2018	In-situ permeability of fault zones estimated by hydraulic tests and continuous groundwater-pressure observations	Earth Planet. Space	70	13	○	10.1186/s40623-017-0765-5	1(3)イ	1(5)ア	中央構造線を貫通する地下水化観測井の長期的その場観測により、断層の内部構造に対応した透水性構造を明らかにした。透水性構造は様々な断層挙動に影響を与える一方、スケールの問題から評価が困難であったが、これらの問題を解決した。
Shiina, T., J. Nakajima and T. Matsuzawa	2018	P-wave attenuation in the Pacific slab beneath northern Japan revealed by the spectral ratio of intraslab earthquakes	Earth Planet. Sci. Lett.	489	37-48	○	10.1016/j.epsl.2018.02.032	1(3)イ	1(5)ア	
Ariyoshi, K., J-P. Ampuero, R. Burgmann, T. Matsuzawa, A. Hasegawa, R. Hino and T. Hori	2019	Quantitative relationship between aseismic slip propagation speed and frictional	Tectonophysics	767	128151	○	10.1016/j.tecto.2019.06.021	1(3)イ	1(5)ア	
重松紀生・大谷具幸・小林健太・奥平敬元・豊島剛志	2018	陸域断層の内部構造	地質学雑誌	124	759-775	○	10.5575/geosoc.2018.0004	1(3)イ	1(5)イ	
Yoshida, K., T. Saito, K. Emoto, Y. Urata and D. Sato	2019	Rupture directivity, stress drop and hypocenter migration of small- and moderate-sized earthquakes in the Yamagata-Fukushima border swarm triggered by the upward pore pressure migration after the 2011 Tohoku-Oki earthquake	Tectonophysics	769	228184	○	10.1016/j.tecto.2019.228184	1(3)イ	1(5)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yoshida, K., A. Hasegawa, S. Noguchi and K. Kasahara	2020	Low-frequency earthquakes observed in close vicinity of repeating earthquakes in the brittle upper crust of Hakodate, Hokkaido, northern Japan	Geophys. J. Int.	223	1724-1740	○	10.1093/gji/ggaa418	1(3)イ	1(5)イ	
Yoshida, K., T. Taira, Y. Matsumoto, T. Saito, K. Emoto and T. Matsuzawa	2020	Stress release process along an intraplate fault analogous to the plate boundary: a case study of the 2017 M 5.2 Akita-Daisen earthquake, NE Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2020JB019527	1(3)イ	1(5)イ	2017年M5.2秋田県大仙市の地震は東北沖地震・余効変動の応力変化と調和的な南北走向横ずれ断層で発生した。前震活動や余震活動のマイグレーションから、本震発生前に震源核形成過程、余効滑りなどの非地震学的な応力再分配、間隙水圧拡散が進行していた可能性を示した。
Matsumoto, Y., K. Yoshida, T. Matsuzawa and A. Hasegawa	2021	Fault-valve behavior estimated from intensive foreshocks and aftershocks of the 2017 M 5.3 Kagoshima Bay earthquake sequence, Kyushu, southern Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB020278	○	10.1029/2020JB020278	1(3)イ	1(5)イ	2017年鹿児島湾でのM5.3の地震の前震-本震-余震系列の高精度震源決定を行なった。前震活動・余震活動の発生場所が徐々に移動したことが分かった。このことから前震-本震-余震系列の発生に深部から浅部への流体移動が関与していた可能性が考えられる。
Kato, A. and T. Ueda	2019	Source fault model of the 2018 Mw 5.6 northern Osaka earthquake, Japan, inferred from the aftershock sequence	Earth Planet. Space	77	11	○	10.1186/s40623-019-0995-9	1(3)イ	1(5)イ, 2(1)イ	
Sugan M., A. Vuan, A. Kato, M. Massa and G. Amati	2019	Seismic evidence of an early afterslip during the 2012 sequence in Emilia (Italy)	Geophys. Res. Lett.	46	625-635	○	10.1029/2018GL079617	1(3)イ	1(5)イ, 2(2)イ, 2(3)	
Opris, A., B. Enescu, Y. Yagi and J. Zhuang	2018	Triggering and decay characteristics of dynamically activated seismicity in Southwest Japan	Geophys. J. Int.	212	1010-1021	○	10.1093/gji/ggx456	1(3)イ	1(5)エ	
Ando, R.	2016	Fast Domain Partitioning Method for dynamic boundary integral equations applicable to non-planar faults dipping in 3-D elastic half-space	Geophys. J. Int.	207	833-847	○	10.1093/gji/ggw299	1(3)イ	2(1)イ	
Ando, R.	2017	On Applications of Fast Domain Partitioning Method to Earthquake Simulations with Spatio-temporal Boundary Integral Equation Method	Mathematical Analysis of Continuum Mechanics and Industrial Applications II - Proceedings of the International Conference CoMfO16, Springer	30	87-99	○	10.1007/978-981-10-6283-4_8	1(3)イ	2(1)イ	
Ozawa, S. and R. Ando	2020	Mainshock and Aftershock Sequence Simulation in Geometrically Complex Fault Zones	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	10.1029/2020JB020865	1(3)イ	2(1)イ	
Romanet, P., D. Sato and R. Ando	2020	Curvature, a mechanical link between the geometrical complexities of a fault: application to bends, kinks and rough faults	Geophys. J. Int.	223	211-232	○	10.1093/gji/ggaa308	1(3)イ	2(1)イ	
Sato, D., P. Romanet and R. Ando	2020	Paradox of Modeling Curved Faults Revisited with General Non-Hypersingular Stress Green's Functions	Geophys. J. Int.	223	197-210	○	10.1093/gji/ggaa172	1(3)イ	2(1)イ	
Noda, H. and M. Takahashi	2016	The effective stress law at a brittle-plastic transition with a halite gouge layer	Geophys. Res. Lett.	43		○	10.1002/2015GL067544	1(3)イ	2(2)ア	
Noda, H. and M. Takahashi	2016	Technical note: Correction of output from an internal load cell in a high-pressure triaxial deformation apparatus without a split-piston	J. Geol. Soc. Japan	122	653-658	○	10.5575/geosoc.2016.0047	1(3)イ	2(2)ア	
Yoshida, S.	2016	Earthquakes in Oita triggered by the 2016 M7.3 Kumamoto earthquake	Earth Planet. Space	68	176	○	10.1086/s40623-016-0552-8	1(3)イ	2(2)ア	
Yoshida, S., N. Kato and J. Fukuda	2016	Forecast experiment on the Kamaishi repeating earthquakes based on numerical simulations using friction law	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0448-7	1(3)イ	2(2)ア	
Kusakabe, T. and N. Kame	2017	Derivation of 2-D XBIEM kernels and their application to a rupture crossing a bimaterial interface	Geophys. J. Int.	210	1374-1387	○	10.1093/gji/ggx240	1(3)イ	2(2)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Kato, A.	2019	The evolution of fault slip rate prior to earthquake: The role of slow and fast slip modes	In Mechanics of Earthquake Faulting: Proc. of the International School of Physics 'Enrico Fermi'	202	53-80	○	10.3254/978-1-61499-979-9-53	1(3)イ	2(2)ア	
Ohtani, M., N. Kame and M. Nakatani	2019	Nucleation of characteristic earthquakes in simulated cycles involving deep huge slow slip events	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	1822-1837	○	10.1029/2018JB016156	1(3)イ	2(2)ア	
Noda, H., D. SK Sato and Y. Kurihara	2020	Comparison of two time-marching schemes for dynamic rupture simulation with a space-domain BIEM	Earth Planet. Space	72	76	○	10.1186/s40623-020-01202-5	1(3)イ	2(2)ア	
Ohtani, M., M. Nakatani and N. Kam	2021	Time to seismic failure induced by repeating SSEs in a single-degree-of-freedom spring-slider model	Geophys. J. Int.	224	1242-1255	○	10.1093/gji/ggaa489	1(3)イ	2(2)ア	
Noda, H.	in press	Dynamic earthquake sequence simulation with a SBIEM without periodic boundaries	Earth Planet. Space			○		1(3)イ	2(2)ア	
Iwata, T.	2016	A variety of aftershock decays in the Rate- and State-Friction Model Due to the Effect of Secondary Aftershocks: Implications Derived from an Analysis of Real Aftershock Sequences	Pure Appl. Geophys.	173	21-33	○	10.1007/s00024-015-1151-5	1(3)イ	2(2)イ	
Mildon, Z., S. Toda, J.P. Faure Walker and G.P. Roberts	2016	Evaluating models of Coulomb stress transfer: Is variable fault geometry important?	Geophys. Res. Lett.	43	12,407-12,414	○	10.1002/2016GL071128	1(3)イ	2(2)イ	
Zhuang, J., D. Wang and M. Matsu'ura	2016	Features of the earthquake source process simulated by Vere- Jones' branching crack model	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	1832-1839	○	10.1785/0120150337	1(3)イ	2(2)イ	
Ishibe, T., Y. Ogata, H. Tsuruoka and K. Satake	2017	Testing the Coulomb stress triggering hypothesis for three recent megathrust earthquakes	Geosci. Lett.	4	5	○	10.1186/s40562-017-0070-y	1(3)イ	2(2)イ	
Guo, Y., J. Zhuang and N. Hirata	2018	Modeling and forecasting 3D-hypocenter seismicity in the Kanto region	Geophys. J. Int.	214	520-530	○	10.1093/gji/ggy154	1(3)イ	2(2)イ	
Yoshida, S.	2018	Numerical simulations of earthquake triggering by dynamic and static stress changes based on a revised friction law	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	4109-4122	○	10.1029/2017JB014781	1(3)イ	2(2)イ	
桑野修	2018	高速せん断される摩擦接触面の発熱の可視化	可視化情報学会誌	38	21-24	○	10.3154/jvs.38.149-21	1(3)イ	3(1)ア	
Pratama, C., T. Ito and T. Tabei	2017	Inhomogeneous Spherical-Earth Finite Element Model of Coseismic Offset due to The 2012 Indian Ocean Earthquake	AIP Conference Proceedings	1857		○	10.1063/1.4987066	1(3)イ		
Pratama, C., T. Ito, T. Tabei, F. Kimata, E. Gunawan, Y. Ohta, T. Yamashina, I. Nurdning, D. Sugiyanto, U. Muksin, N. Ismail and I. Meilano	2018	Evaluation of the 2012 Indian Ocean coseismic fault model in 3-D heterogeneous structure based on vertical and horizontal GNSS observation	AIP Conference Proceedings	1987		○	10.1063/1.5047296	1(3)イ		
Kato, A., K. Nakamura and Y. Hiyama	2016	The 2016 Kumamoto earthquake sequence	Proc. Jpn. Acad. Ser. B	92	358-371	○	10.2183/pjab.92.359	1(3)イ	2(2)ア	
Uchida, N., T. Iinuma, R. M. Nadeau, R. Bürgmann and R. Hino	2016	Periodic slow slip triggers megathrust zone earthquakes in northeastern Japan	Science	351	488-492	○	10.1126/science.123108	1(3)イ	1(2), 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
<b>(4) 火山現象の解明とモデル化</b>										
<b>ア. 火山現象の定量化と解明</b>										
Aizawa, K., C. Cimarelli, M.A. Alatorre-Igbarguengoitia, A. Yokoo, D.B. Dingwell and M. Iguchi	2016	Physical properties of volcanic lightning: constraints from magnetotelluric and video observations at Sakurajima volcano, Japan.	Earth Planet. Space	444	45-55	○		1(4)ア		
Cimarelli, C., M.A. Alatorre-Igbarguengoitia, K. Aizawa, A. Yokoo, A. Diaz-Marina, M. Iguchi and D.B. Dingwell	2016	Multiparametric observation of volcanic lightning: Sakurajima volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	43	4221-4228	○		1(4)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Geshi, N., M. Iguchi and H. Shinohara	2016	Phreatomagmatic eruptions of 2014 and 2015 in Kuchinoerabujima Volcano triggered by a shallow intrusion of magma	J. Nat. Disaster Sci.	37	67-78	○		1(4)ア		
大湊隆雄・金子隆之・小山崇夫・渡邊篤志・神田径・為栗健	2016	Generation and propagation of G waves from the Niigata earthquake of June 16, 1964. 2. Estimation of earthquake moment, released energy, and stress-strain drop from G wave spectrum	京都大学防災研究所年報	59B	76-83			1(4)ア		
Fee, D., P. Izvekoy, K. Kim, A. Yokoo, T. Lopez, F. Prata, R. Kazahaya, H. Nakamichi and M. Iguchi	2017	Eruption mass estimation using infrasound waveform inversion and ash and gas measurements; Evaluation at Sakurajima Volcano, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	480	42-52	○	10.1016/j.epsl.2017.09.043	1(4)ア		
Kameda, M., M. Ichihara, S. Maruyama, N. Kurokawa, Y. Aoki, S. Okumura and K. Uesugi	2017	Advancement of magma fragmentation by inhomogeneous bubble distribution	Sci. Rep.	7		○	10.1038/s41598-017-16941-x	1(4)ア		
McKee, K., D. Fee, A. Yokoo, R. Matoza and K. Kim	2017	Analysis of gas jetting and fumarole acoustics at Aso Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	340	16-29	○	10.1016/j.volgeores.2017.03.029	1(4)ア		
Murayama, T., M. Kanao, M. Yamamoto, Y. Ishihara, T. Matsushima, Y. Kakinami, K. Okada, H. Miyamachi, M. Nakamoto, Y. Takeuchi and S. Toda	2017	Time-space variations in infrasound sources related to environmental dynamics around Lützow-Holm Bay, east Antarctica	Polar Sci.			○	10.1016/j.polar.2017.10.001	1(4)ア		
中道治久・井口正人・為栗健	2017	2015年8月桜島群発地震の振幅を用いた震源推定	京都大学防災研究所年報	60	396-401			1(4)ア		
Nishimura, T., M. Iguchi, M. Hendrasto, H. Aoyama, T. Yamada, M. Ripepe and R. Genco	2017	Correction to: Magnitude-frequency distribution of volcanic explosion earthquakes	Earth Planet. Space	69	143	○	10.1186/s40623-017-0728-x	1(4)ア		
Tournigand, P.Y., J. Taddeucci, D. Gaudin, J.P. Fernandez, E. Del Bello, P. Scarlato, U. Kueppers, J. Sesterhenn and A. Yokoo	2017	The initial development of transient volcanic plumes as a function of source conditions.	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	9784-9803	○	10.1002/2017JB014907	1(4)ア		
Yakiwara, H., S. Hirano, Y. Yamashita, H. Shimizu, K. Uchida, K. Umakoshi, K. Nakahigashi, H. Miyamachi, M. Yagi, H. Kanehara and S. Nakao	2017	Seismic Observations using Ocean Bottom Seismometers around Kuchierabujima Volcano	J. Nat. Disaster Sci.	38	119-131	○	10.2328/jnds.38.119	1(4)ア		2015年の口永良部島噴火に対応し、噴火発生約1か月後に島の周辺海域に海底地震計を4台投入し、約3か月間の観測を実施した。さらなる地震活動の活発化には至らず、火山性地震活動の低下を捉えるにとどまった。一方で、最低限、山麓部の陸上に1観測点と海域に4観測点の地震観測が確保されれば、離島火山の電源喪失時にも地震活動の推移をつかめることを示した。
Gigolini, C., D. Coppola, A. Yokoo and M. Laiolo	2018	The thermal signature of Aso Volcano during unrest episodes detected from space and ground-based measurements	Earth Planet. Space	70	67	○	10.1186/s40623-018-0831-7	1(4)ア		
Ichimura, M., A. Yokoo, T. Kagiyama, S. Yoshikawa and H. Inoue	2018	Temporal variation in source location of continuous tremor before the ash-gas emissions in January 2014 at Aso volcano, Japan	Earth Planet. Space	70	125	○	10.1186/s40623-018-0895-4	1(4)ア		
小山崇夫・金子隆之・大湊隆雄・渡邊篤志	2018	無人ヘリ繰り返し空中磁気測量による磁場時間変化の検出	2015年CA研究会論文集		59-66			1(4)ア		
Muramatsu, D., K. Aizawa, A. Yokoo, M. Iguchi and T. Tameguri	2018	Estimation of Vent Radii From Video Recordings and Infrasound Data Analysis: Implications for Vulcanian Eruptions From Sakurajima Volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	45(23)	12829-12836	○	10.1029/2018GL079898	1(4)ア		
大湊隆雄・金子隆之・小山崇夫・渡邊篤志・安田敦・武尾実・青木陽介・柳澤孝寿・本多嘉明・梶原康司・神田径・為栗健・風早電之介・篠原宏志	2018	無人ヘリによる火口近傍観測の進展	2016年CA研究会論文集		43-58			1(4)ア		
大湊隆雄	2018	最近の火山観測技術と噴火の予測	建築防災	2018.12	19-29			1(4)ア		
上嶋誠・相澤広記・塚本果織・神田径・関香織・木下貴裕・大湊隆雄・渡邊篤志	2018	2016熊本地震活動に伴ってえびのにおいて観測された電磁気変動について	2017年CA研究会論文集		67-68			1(4)ア		
Wang, X. and Y. Aoki	2019	Post-eruptive thermoelastic deflation of intruded magma in Usu volcano, Japan, 1992-2017	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	335-357	○	10.1029/2018JB016729	1(4)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ishihara, Y., T. Murayama, M. Yamamoto, T. Matsushima and M. Kanao	2020	Infrasound observation at Japanese Antarctic Station "Syowa": 11 years observations and results	Polar Data Journal	4	45-54	○	10.20575/00000012	1(4)ア		
Ishii, K., A. Yokoo, M. Iguchi and E. Fujita	2020	Utilizing the solution of sound diffraction by a thin screen to evaluate infrasound waves attenuated around volcano topography	J. Volcanol. Geotherm. Res.	402	106983	○	10.1016/j.jvolgeores.2020.106983	1(4)ア		
Kaneko, T., A. Yasuda, K. Takasaki, S. Nakano, T. Fujii, Y. Honda, K. Kajiwara and H. Murakami	2020	A new infrared volcano monitoring using GCOM-C (SHIKISAI) satellite: applications to the Asia-Pacific region	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01246-7	1(4)ア		
Maher, S., R. Matoza, C. de Groot-Hedlin, K. Gee, D. Fee and A. Yokoo	2020	Investigating spectral distortion of local volcano infrasound by nonlinear propagation at Sakurajima volcano, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB018284	1(4)ア		
大湊隆雄・渡邊篤志	2020	2019年 西之島における地震・空振観測	小笠原研究	46	53-68			1(4)ア		
Yamaoka, K.	2020	The 2014 Eruption of Mt. Ontake Volcano and Its Disaster	Human Geoscience		159-166	○	10.1007/978-981-32-9224-6_13	1(4)ア		
Miyabuchi, Y., Y. Lizuka, C. Hara, A. Yokoo and T. Ohkura	2018	The September 14, 2015 phreatomagmatic eruption of Nakadake first crater, Aso Volcano, Japan: Eruption sequence inferred from ballistic, pyroclastic density current and fallout deposits	J. Volcanol. Geotherm. Res.			○	10.1016/j.jvolgeores.2017.12.009	1(4)ア	1(1)ウ	
Maeno, F., S. Nakada and T. Kaneko	2016	Morphological evolution of a new volcanic islet sustained by compound lava flows	Geology	44	259-262	○	10.1130/G37461.1	1(4)ア	1(2), 1(4)イ, 2(5)	西之島の2013年以降の噴火における噴火様式、噴出率の変遷やマグマ組成を明らかにした。海洋島における溶岩流出プロセスや噴火推移の特徴を、詳細な時系列データに基づき議論した。
Suzuki, Y., F. Maeno, M. Nagai, H. Shibutani, S. Shimizu and S. Nakada	2018	Conduit processes during the climactic phase of the Shinmoe-dake 2011 eruption (Japan): Insights into intermittent explosive activity and transition in eruption style of andesitic magma	J. Volcanol. Geotherm. Res.	358	87-104	○	10.1016/j.jvolgeores.2018.02.008	1(4)ア	1(2), 1(4)イ, 2(5)	
Kurokawa A., M. Takeo and K. Kurita	2016	Two types of volcanic tremor changed with eruption style during 1986 Izu-Oshima eruption	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	2727-2736	○	10.1002/2015JB012500	1(4)ア	1(4)イ	
前田裕太	2016	火山性地震の波形解析に基づく流体移動と噴火過程の研究	火山	61	459-464	○	10.18940/kazan.61.2_459	1(4)ア	1(4)イ	
三輪学央	2016	ブルカノ式噴火の現在地	火山	61	465-475	○		1(4)ア	1(4)イ	
Ozawa T., E. Fujita and H. Ueda	2016	Crustal deformation associated with the 2016 Kumamoto Earthquake and its effect on the magma system of Aso volcano	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0563-5	1(4)ア	1(4)イ	
Kurokawa, A.K., T. Miwa, S. Okumura and K. Uesugi	2017	Rheology of basaltic ash from Stromboli volcano inferred from intermittent compression experiment	J. Volcanol. Geotherm. Res.	343		○		1(4)ア	1(4)イ	
Tanada T., H. Ueda and M. Nagai	2017	NIED's V-net, the Fundamental Volcano Observation Network in Japan	J. Disaster Res.	12	926-931	○		1(4)ア	1(4)イ	
Iriyama, Y., A. Toramaru and T. Yamamoto	2018	Theory for deducing volcanic activity from size distributions in plinian pyroclastic fall deposits	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	2199-2213	○	10.1002/2017JB014782	1(4)ア	1(4)イ	
Kurokawa, A., H. Ishibashi, T. Miwa and F. Nanayama	2018	Rheological behavior of water-ash mixtures from Sakurajima and Ontake volcanoes: implications for lahar flow dynamics	Bull. Volcanol.	80	50	○	10.1007/s00445-018-1224-2	1(4)ア	1(4)イ	
Miwa, T., M. Nagai and R. Kawaguchi	2018	Resuspension of ash after the 2014 phreatic eruption at Ontake volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	351	105-114	○		1(4)ア	1(4)イ	
Ueda, H., M. Nagai and T. Tanada	2018	Phreatic eruptions and deformation of Ioto Island (Iwo-jima), Japan, triggered by deep magma injection	Earth Planet. Space			○		1(4)ア	1(4)イ	
Fujita, E., Y. Iriyama, T. Shimbori, E. Sato, K. Ishii, Y. Suzuki, K. Tsunematsu and K. Kiyosugi	2019	Evaluating Volcanic Hazard Risk Through Numerical Simulations	J. Disaster Res.	14	604-615	○	10.20965/jdr.2019.p0604	1(4)ア	1(4)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Himematsu, Y., F. Sigmundsson and M. Furuya	2019	Icecap and Subglacial Crustal Deformation Inferred From SAR Pixel Tracking: The 2014 Dike Intrusion Episode in the Bárðarbunga Volcanic System, Iceland	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	9940-9955	○		1(4)ア	1(4)イ	
Hirose, T., H. Nakahara, T. Nishimura and M. Campillo	2019	A Passive Estimation Method of Scattering and Intrinsic Absorption Parameters From Envelopes of Seismic Ambient Noise Cross-Correlation Functions	Geophys. Res. Lett.	46	3634-3642	○		1(4)ア	1(4)イ	
Jitsufuchi, T.	2019	Development of an optical multispectral remote sensing system for measuring volcanic surface phenomena -Promotion Project for Next Generation Volcano Research B2(subtopic2-2)	J. Disaster Res.	14	728-743	○		1(4)ア	1(4)イ	
Kurokawa, A., T. Miwa and H. Ishibashi	2019	A Simple Procedure for Measuring Magma Rheology	J. Disaster Res.	14	616-622	○		1(4)ア	1(4)イ	
Maeda, Y., M. Takeo and R. Kazahaya	2019	Comparison of high- and low-frequency signal sources for very-long-period seismic events at Asama volcano, Japan	Geophys. J. Int.	217	389-404	○	10.1093/gji/ggz021	1(4)ア	1(4)イ	
Mannen K., T. Tanada, A. Jomori, T. Akatsuka, G. Kikugawa, Y. Fukazawa, H. Yamashita and K. Fujimoto	2019	Source constraints for the 2015 phreatic eruption of Hakone volcano, Japan, based on geological analysis and resistivity structure	Earth Planet. Space	71	1-20	○		1(4)ア	1(4)イ	
Miwa, T.	2019	Measurement of H2O molecule and hydroxyl concentrations in hydrous rhyolitic glass by UV-Vis-NIR dispersive micro-spectrophotometry	J. Disaster Res.	14	780-785	○		1(4)ア	1(4)イ	
Morita, Y., E. Fujita, M. Nakagawa and S. Nakada	2019	Special Issue on Integrated Program for Next Generation Volcano Research and Human Resource Development	J. Disaster Res.	14	569-570	○		1(4)ア	1(4)イ	
Ozawa, T., Y. Aoki, S. Okuyama, X. Wang, Y. Miyagi and A. Nohmi	2019	Database of crustal deformation observed by SAR: Improving atmospheric delay mitigation for satellite SAR interferometry and developing L-band multi-type portable SAR	J. Disaster Res.	14	713-727	○		1(4)ア	1(4)イ	
Pallister, J., P. Papale, J. Eichelberger, C. Newhall, C. Mandeville, S. Nakada, W. Marzocchi, S. Loughlin, G. Jolly, J. Ewart and J. Selva	2019	Volcano observatory best practices (VOBP) workshops - a summary of findings and best-practice recommendations	J. Appl. Volcanol.	8	2	○		1(4)ア	1(4)イ	
Ueda, H., T. Yamada, T. Miwa, M. Nagai and T. Matsuzawa	2019	Development of a Data Sharing System for Japan Volcanological Data Network	J. Disaster Res.	14	571-579	○		1(4)ア	1(4)イ	
Yamada, T., H. Ueda, T. Mori and T. Tanada	2019	Tracing Volcanic Activity Chronology from a Multiparameter Dataset at Shinmoedake Volcano (Kirishima), Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	14	687-700	○		1(4)ア	1(4)イ	
Fujita, E., H. Ueda and S. Nakada	2020	A New Japan Volcanological Database	Front. Earth Sci.	8		○	10.3389/feart.2020.00205	1(4)ア	1(4)イ	
Himematsu, Y., T. Ozawa and Y. Aoki	2020	Coeruptive and posteruptive crustal deformation associated with the 2018 Kusatsu-Shirane phreatic eruption based on PALSAR-2 time series analysis	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01247-6	1(4)ア	1(4)イ	
Himematsu, Y. and M. Furuya	2020	Rift-parallel block-like motion of the graben floor during the 2005-2010 Afar rifting episode	Tectonophysics	791		○	10.1016/j.tecto.2020.228571	1(4)ア	1(4)イ	
Kurokawa, A.K. and M. Ichihara	2020	Identification of infrasonic and seismic components of tremors in single-station records: application to the 2013 and 2018 events at Ioto Island, Japan	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01302-2	1(4)ア	1(4)イ	
Miwa, T., Y. Iriyama, M. Nagai and F. Nanayama	2020	Sedimentation process of ashfall during a Vulcanian eruption as revealed by high-temporal-resolution grain size analysis and high-speed camera imaging	Prog. Earth Planet. Sci.	7	1-16	○	10.1186/s40645-019-0316-8	1(4)ア	1(4)イ	
Miwa, T. and T. Nanayama	2021	Sedimentary System of Ash Deposits From Long-Term Vulcanian Activity at Sakurajima Volcano, Japan	J. Geol.	129		○	10.1086/714175	1(4)ア	1(4)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Okumura, S., H. Ishibashi, S. Itoh, A. Suzumura, Y. Furukawa, T. Miwa and H. Kagi	2021	Decompression experiments for sulfur-bearing hydrous rhyolite magma: Redox evolution during magma decompression	Am. Mineral.	106		○	10.2138/am-2020-7535	1(4)ア	1(4)イ	
Hirose, T., H. Nakahara, T. Nishimura and M. Campillo	2020	Locating Spatial Changes of Seismic Scattering Property by Sparse Modeling of Seismic Ambient Noise Cross-Correlation Functions: Application to the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku (Mw6.9), Japan, Earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019jb019307	1(4)ア	1(4)イ, 1(5)ウ, 1(5)エ	
Maeda, Y., A. Kato and Y. Yamanaka	2017	Modeling the dynamics of a phreatic eruption based on a tilt observation: Barrier breakage leading to the 2014 eruption of Mount Ontake, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	1007-1024	○	10.1002/2016JB013739	1(4)ア	1(4)イ, 2(4)ア	
Maeno, F., S. Nakada, T. Oikawa, M. Yoshimoto, J. Komori, Y. Ishizuka, Y. Takeshita, T. Shimano, T. Kaneko and M. Nagai	2016	Reconstruction of a phreatic eruption on 27 September 2014 at Ontake volcano, central Japan, based on proximal pyroclastic density current and fallout deposits	Earth Planet. Space	68	82	○	10.1186/s40623-016-0449-6	1(4)ア	1(4)イ, 2(4)ア, 2(5)	2014年に御嶽山で発生した水蒸気噴火について、噴火堆積物の分布、層序、構成物や粒度の特徴を基に、噴火推移を詳細に明らかにした。また、噴出量、火砕密度流の流速や粒子濃度など、水蒸気噴火の地表現象を特徴づける物理量を明らかにした。
Kozono, T., M. Iguchi, T. Miwa, M. Maki, T. Maesaka and D. Miki	2019	Characteristics of tephra fall from eruptions at Sakurajima volcano, revealed by optical disdrometer measurements	Bull. Volcanol.	81	41	○	10.1007/s00445-019-1300-2	1(4)ア	1(4)イ, 3(2)ウ	
Ichihara, M. and S. Matsumoto	2017	Relative source locations of continuous tremor before and after the subplinian events at Shimoe-dake, in 2011	Geophys. Res. Lett.	44(21)		○	10.1002/2017GL075293	1(4)ア	1(5)イ	
木下貴裕・神田径・高倉伸一・関香織・松永康生	2016	高密度電気探査による那須火山茶臼岳噴火地帯における比抵抗構造の推定	2016年CA研究会論文集		78-83			1(4)ア	1(5)ウ	
田中良・橋本武志	2016	薩阿寒岳ナカマテシリ火口の全磁力変化と磁気測量	北海道大学地球物理学研究報告	79	15-23			1(4)ア	1(5)ウ	
Tanaka, R., T. Hashimoto, N. Matsushima and T. Ishido	2017	Permeability-Control on Volcanic Hydrothermal System: Case Study for Mt. Tokachidake, Japan, Based on Numerical Simulation and Field Observation	Earth Planet. Space	69	39	○	10.1186/s40623-017-0623-5	1(4)ア	1(5)ウ	水蒸気噴火を起こす火山を念頭に、火道とその周辺域での熱水流動に伴う温度・圧力場の時間的推移を数値計算で調べた。火道浅部で、熱水変質等に伴う浸透率の低下が起こると、熱や流体の放出が阻害され、水蒸気噴火が発生しやすい状態になることがわかった。
柳澤妙佳	2017	秋田駒ヶ岳火山、主成層火山形成期のマグマ供給系変遷について	茨城大学大学院理工学研究科修士学位論文					1(4)ア	1(5)ウ	
Hashimoto, T., A. Terada and R. Tanaka	2018	Volcanic smoke reduction in visible and thermal infrared imagery	Earth Planet. Space	70	109	○	10.1186/s40623-018-0886-5	1(4)ア	1(5)ウ	火口の写真から、噴気を効果的に除去する画像処理方法を開発した。これにより、噴気に隠されて見えにくいことが多い火口内の状況を、簡便な処理で詳細に観察できるようになった。
橋本武志・寺田暁彦・森俊哉	2018	ドローンによる火山観測	地理	63	29-35			1(4)ア	1(5)ウ	
橋本武志・青山裕・小山寛・森井敦司・三嶋渉・荻野激・高橋良・岡崎紀俊	2018	非噴火時における多項目観測の重要性(樽前山の事例)	月刊地球	40	163-169			1(4)ア	1(5)ウ	地磁気全磁力、火山ガス組成、火口温度、地震活動、地盤変動等の多項目観測データを総合して、最近20年程度の樽前山の火山活動推移モデルを提示した。
石毛康介・中川光弘・石塚吉浩	2018	北海道中部、旭岳の形成史：特に完新世、後期水蒸気噴火履歴および噴火様式について	地質学雑誌	124	297-310	○	10.5575/geosoc.2018.0001	1(4)ア	1(5)ウ	
Tanaka, R., T. Hashimoto, N. Matsushima and T. Ishido	2018	Contention between supply of hydrothermal fluid and hydrothermal sealing: Inferences from numerical simulations	Earth Planet. Space	70	72	○	10.1186/s40623-018-0840-6	1(4)ア	1(5)ウ	
Tsukamoto, K., K. Aizawa, K. Chiba, W. Kanda, M. Uyeshima, T. Koyama, M. Utsugi, K. Seki and T. Kishita	2018	Three-Dimensional Resistivity Structure of Iwo-Yama Volcano, Kirishima Volcanic Complex, Japan: Relationship to Shallow Seismicity, Surface Uplift, and a Small Phreatic Eruption	Geophys. Res. Lett.	45(23)	12821-12828	○	10.1029/2018GL080202	1(4)ア	1(5)ウ	霧島硫黄山周辺での比抵抗構造調査から、粘土層下部(液相の熱水)と上部(液相一気相)の2箇所の構造が水蒸気噴火の発生に重要であることを初めて指摘した。難透水性の粘土層で蓋をされた熱水だまりは、火山や地熱地帯で一般的な構造と考えられ、水蒸気噴火の発生源となりうる。論文により比抵抗構造の特徴と地盤変動源、地震との対応から水蒸気噴火の潜在的可能性がある場所を評価できることが示された。
井村匠・大場司・中川光弘	2019	噴出物中の熱水変質鉱物の特徴	地質学雑誌	125	203-218	○	10.5575/geosoc.2018.0064	1(4)ア	1(5)ウ	
Ishii, K., A. Yokoo, T. Kagiya, T. Ohkura, S. Yoshikawa and H. Inoue	2019	Gas flow dynamics in the conduit of Strombolian explosion inferred from seismo-acoustic observation at Aso volcano, Japan	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-0992-z	1(4)ア	1(5)ウ	
神田径・関香織・木下貴裕	2019	コンダクタンスを用いた熱水系構造の比較	2019年CA研究会論文集		51-54			1(4)ア	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
小山崇夫・神田径・宇津木充・金子隆之・大湊隆雄・渡邊篤志・辻浩・西本太郎・本多嘉明	2019	無人ヘリによる草津白根山中磁気測量	2019年CA研究会論文集		33-40			1(4)ア	1(5)ウ	
Morita, M., T. Mori, A. Yokoo, T. Ohkura and Y. Morita	2019	Continuous monitoring of soil CO2 flux at Aso volcano, Japan: The influence of environmental parameters on diffuse degassing	Earth Planet. Space	71	13	○	10.1186/s40623-018-0980-8	1(4)ア	1(5)ウ	
Tsunematsu, K., K. Ishii and A. Yokoo	2019	Transport of ballistic projectiles during the 2015 Aso Strombolian eruptions	Earth Planet. Space	71	49	○	10.1186/s40623-019-1029-3	1(4)ア	1(5)ウ	
Yokoo, A., K. Ishii, T. Ohkura and K. Kim	2019	Monochromatic infrasound waves observed during the 2014-2015 eruption of Aso volcano, Japan	Earth Planet. Space	71	12	○	10.1186/s40623-019-0993-y	1(4)ア	1(5)ウ	
Ohminato, T., T. Kaneko, T. Koyama, A. Watanabe, W. Kanda, T. Tameguri and R. Kazahaya	2017	Observations using an unmanned aerial vehicle in an area in danger of volcanic eruptions at Kuchinoerabu-jima Volcano, southern Kyushu, Japan	J. Nat. Disaster Sci.	38	85-104	○		1(4)ア	1(5)ウ, 2(4)ア	
武尾実・大湊隆雄・前野深・篠原雅尚・馬場聖至・渡邊篤志・市原美恵・西田究・金子隆之・安田敦・杉岡裕子・浜野洋三・多田訓子・中野俊・吉本充宏・高木朗充・長岡優	2018	西之島の地球物理観測と上陸調査	海洋理工学会誌	24	45-56	○	10.14928/amstec.24.1_45	1(4)ア	1(5)ウ, 2(4)ア, 2(4)イ, 2(5)	
Takano, T., T. Nishimura and H. Nakahara	2017	Seismic velocity changes concentrated at the shallow structure as inferred from correlation analyses of ambient noise during volcano deformation at Izu-Oshima, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	6721-6736	○	10.1002/2017JB014340	1(4)ア	1(5)ウ, 2(4)イ	数ヶ月程度の火山体膨張収縮変動に伴って火山体のごく浅部の地震波速度構造が時間変化することを明らかにした。
Terada, A., Y. Morita, T. Hashimoto, T. Mori, T. Ohba, M. Yaguchi and W. Kanda	2018	Water sampling using a drone at Yugama crater lake, Kusatsu-Shirane volcano, Japan	Earth Planet. Space	70	64	○	10.1186/s40623-018-0835-3	1(4)ア	1(5)ウ, 2(4)イ	ドローンを利用して、火口湖の湖水を遠隔操作で安全にサンプリングする技術を開発した。これにより、火山のモニタリング項目としての火口湖水の化学分析が、火山活動活発化による立入規制の下でも確実に行えるようになった。
風間卓仁・栗原剛志・山本圭吾・井口正人・福田洋一	2016	2015年8月15日桜島膨張イベント時にCG-3M重力計で観測された相対重力および傾斜の連続的な時間変化	火山	61	593-604	○	10.18940/kazan.61.4.593	1(4)ア	1(5)ウ, 2(5)	
石毛康介・中川光弘	2017	北海道中部部、大雪火山群、旭岳サブグループの後期更新世～完新世火山活動史	地質学雑誌	123	73-91	○	10.5575/geosoc.2016.0058	1(4)ア	2(4)ア	
前野深・安田敦・中野俊・吉本充宏・大湊隆雄・渡邊篤志・金子隆之・中田節也・武尾実	2018	噴出物から探る西之島の新火山島形成プロセス	海洋理工学会誌	24	35-44	○	10.14928/amstec.24.1_35	1(4)ア	2(4)ア, 2(5)	
Nishimura, T., M. Iguchi, M. Hendrasto, H. Aoyama, T. Yamada, M. Ripepe and R. Genco	2016	Magnitude-frequency distribution of volcanic explosion earthquakes	Earth Planet. Space	68	125	○	10.1186/s40623-016-0505-2	1(4)ア	2(4)イ	
Hasib, M., T. Nishimura and H. Nakahara	2019	Spectral ratio analyses of explosion earthquakes at Sakurajima Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	381	302-311	○	10.1016/j.jvolgeores.2019.05.005	1(4)ア	2(4)イ	
Takano, T., T. Nishimura, H. Nakahara, E. Fujita and H. Ueda	2019	Sensitivity of seismic velocity changes to the tidal strain at different lapse-times: Data analyses of a small seismic array at Izu-Oshima volcano	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	3011-3023	○	10.1029/2018JB016235	1(4)ア	2(4)イ	
Yamada, T., H. Aoyama, T. Nishimura, H. Yakiwara, H. Nakamichi, J. Oikawa, M. Iguchi, M. Hendrasto and Y. Suparman	2016	Initial phases of explosion earthquakes accompanying Vulcanian eruptions at Lokon-Empung volcano, Indonesia	J. Volcanol. Geotherm. Res.	327	310-321	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.08.011	1(4)ア	2(4)イ, 5(5)	Lokon-Empung火山で発生するブルカノ式噴火の広帯域地震、空気振動、傾斜変動観測を行った。観測データの特徴や爆発地震発震機構解析の結果が、桜島や諏訪之瀬島などの国内火山での観測研究で得られている噴火機構の概念モデルと整合的であることを示した。
Kaneko, T., F. Maeno and S. Nakada	2016	2014 Mount Ontake eruption: Characteristics of the phreatic eruption as inferred from aerial observations	Earth Planet. Space	68	72	○	10.1186/s40623-016-0452-y	1(4)ア	2(5)	
前野深・吉本充宏	2020	西之島噴火による地形・地質・噴出物の特徴とその変化	小笠原研究	46	37-51			1(4)ア	2(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Fukui, M., T. Matsushima, N. Yumitori, J. Oikawa, A. Watanabe, T. Okuda, T. Ozawa, Y. Kohno and Y. Miyagi	2017	Pressure sources of the Miyakejima volcano estimated from crustal deformation studies during 2011-2013	Proceedings of the International Symposium on Geodesy for Earthquake and Natural Hazards, GENAH, 2014	145	117-123	○	10.1007/1345_2015_150	1(4)ア		
Minami Y., T. Imura, S. Hayashi and T. Ohba	2016	Mineralogical study on volcanic ash of the eruption on September 27, 2014 at Ontake volcano, central Japan: correlation with porphyry copper systems	Earth Planet. Space	68	67	○	10.1186/s40623-016-0440-2	1(4)ア	1(5)ウ	
Murase, M., F. Kimata, Y. Yamanaka, S. Horikawa, K. Matsuhiro, T. Matsushima, H. Mori, T. Ohkura, S. Yoshikawa, R. Miyajima, H. Inoue, T. Mishima, T. Sonoda, K. Uchida, K. Yamamoto and H. Nakamichi	2016	Preparatory process preceding the 2014 eruption of Mount Ontake volcano, Japan: insights from precise leveling measurements	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0386-4	1(4)ア	2(4)イ	
<b>イ. マグマ溜まりと火道内過程のモデル化</b>										
Kawagucci, J. Miyazaki, T. Noguchi, K. Okamura, T. Shibuya, T. Watsujii, M. Nishizawa, H. Watanabe, K. Okino, N. Takahata, Y. Sano, K. Nakamura, A. Shuto, M. Abe, Y. Takaki, T. Nunoura, M. Koonjul, M. Singh, G. Beedesssee, M. Khishma, V. Bhoyroo, D. Bissessur, L. S. Kumar, D. Marie, K. Tamaki and K. Takai	2016	Fluid chemistry in the Solitaire and Dodo hydrothermal fields of the Central Indian Ridge	Geofluid	16	988-1005	○	10.1111/gfl.12201	1(4)イ		
Ooki, M., T. Kagoshima, N. Takahata, J. Ishibashi, T. Lan, Z. Guo, and Y. Sano	2016	Volatile element isotopes of submarine hydrothermal mineral deposits in the Western Pacific	Geochemistry, Geophys. Geosystems	17	2128-2142	○	10.1002/2016GC006630	1(4)イ		
Rouilleau, E., D. Tardani, Y. Sano, N. Takahata, N. Vinet, F. Bravo, C. Muñoz, J. Sanchez	2016	New insight from noble gas and stable isotopes of geothermal/hydrothermal fluids at Caviahué-Copahue Volcanic Complex: Boiling steam separation and water-rock interaction at shallow depth	J. Volcanol. Geotherm. Res.	328	70-83	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.10.007	1(4)イ		
Tardani, D., M. Reich, E. Rouilleau, N. Takahata, Y. Sano, P. Peréz-Flores, P. Sánchez, J. Cembrano, G. Arancibia	2016	Exploring the structural controls on helium, nitrogen and carbon isotope signatures in hydrothermal fluids along an intra-arc fault system	Geochim. Cosmochim. Acta.	184	193-211	○	10.1016/j.gca.2016.04.031	1(4)イ		
Toki, T., M. Itoh, D. Iwata, S. Ohshima, R. Shinjo, J. Ishibashi, U. Tsunogai, N. Takahata, Y. Sano, T. Yamanaka, A. Ijiri, N. Okabe, T. Gamo, Y. Muramatsu, Y. Ueno, S. Kawagucci, K. Takai	2016	Geochemical characteristics of hydrothermal fluids at Hatoma Knoll in the southern Okinawa Trough	Geochem. J.	50	493-525	○	10.2343/gcochemj.2016.0449	1(4)イ		沖縄トラフの鳩間海丘において、熱水に含まれる揮発性元素を調べ、熱水活動の特徴を明らかにした。
Wen, H.-Y., Y. Sano, N. Takahata, Y. Tomonaga, A. Ishida, K. Tanaka, T. Kagoshima, K. Shirai, J. Ishibashi, H. Yokose, U. Tsunogai and T. F. Yang	2016	Helium and methane sources and fluxes of shallow submarine hydrothermal plumes near the Tokara Islands, Southern Japan	Sci. Rep.	6	34126	○	10.1038/srep34126	1(4)イ		トカラ列島の海底熱水活動域を音響探査により調査し熱水噴出を発見した。この方法により船上から熱水活動域を効率的に探すことができることがわかった。発見した熱水活動域の希ガスを調べ、その付近の海底熱水活動を評価した。
Lee, H., T.P. Fischer, J.D. Muirhead, C.J. Ebinger, S.A. Kattenhorn, Z.D. Sharp, G. Kianji, N. Takahata, Y. Sano	2017	Incipient rifting accompanied by the release of subcontinental lithospheric mantle volatiles in the Magadi and Natron basin, East Africa	J. Volcanol. Geotherm. Res.	346	118-133	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.03.017	1(4)イ		
Rouilleau, E., F. Bravo, D.L. Pinti, S. Barde-Cabusson, M. Pizarro, D. Tardani, C. Muñoz, J. Sanchez, Y. Sano, N. Takahata, F. de la Cal, C. Esteban, D. Morata	2017	Structural controls on fluid circulation at the Caviahué-Copahue Volcanic Complex (CCVC) geothermal area (Chile-Argentina), revealed by soil CO2 and temperature, self-potential, and helium isotopes	J. Volcanol. Geotherm. Res.	341	104-118	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.05.010	1(4)イ		
Toki, T., D. Iwata, U. Tsunogai, D. Komatsu, Y. Sano, N. Takahata, H. Hamasaki, J. Ishibashi	2017	Formation of gas discharging from Taketomi submarine hot spring off Ishigaki Island in the southern Ryukyu Islands, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	330	24-35	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.11.018	1(4)イ		南西諸島南部に位置する竹富海底温泉の起源を調べるために、温泉水に含まれる揮発性元素を調べ、その特徴を明らかにした。
Takahata, N., K. Shirai, K. Ohmori, H. Obata, T. Gamo and Y. Sano	2018	Distribution of helium-3 plumes and deep-sea circulation in the central Indian Ocean	Terr. Atmos. Ocean. Sci.	29	331-340	○	10.3319/TAO.2017.10.21.02	1(4)イ		
Yamamoto, J., T. Kawano, N. Takahata and Y. Sano	2018	Noble gas and carbon isotopic compositions of petit-spot lavas from southeast of Marcus Island	Earth Planet. Sci. Lett.	497	139-148	○	10.1016/j.epsl.2018.06.020	1(4)イ		
Geshi, N., K. Nemeth, R. Noguchi and T. Oikawa	2019	Shift from magmatic to phreatomagmatic explosions controlled by the lateral evolution of a feeder dike in the Suoana-Kazahaya eruption, Miyakejima volcano, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	511	177-189	○	10.1016/j.epsl.2019.01.038	1(4)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Tsuru, T., K. Amakasu, J.-O. Park, J. Sakakibara and M. Takanashi	2019	A new seismic survey technology using underwater speaker detected a low-velocity zone near the seafloor: an implication of methane gas accumulation in Tokyo Bay	Earth Planet. Space	71	31	○	10.1186/s40623-019-1011-0	1(4)イ		
Chang, J.-H., J.-O. Park, T.-T. Chen, A. Yamaguchi, T. Tsuru, Y. Sano, H.-H. Hsu, K. Shirai, T. Kagoshima, K. Tanaka and C. Tamura	2020	Structural-morphological and sedimentary features of forearc slope off Miyagi, NE Japan: implications for development of forearc basins and plumbing systems	Geo-Mar. Lett.	40	309-324	○	10.1007/s00367-020-00636-w	1(4)イ		
Escobar, M., N. Takahata, H. Obata and Y. Sano	2020	Observation of the deep Indonesian throughflow using helium isotopes	J. Oceanog.	77	93-101	○	10.1007/s10872-020-00560-8	1(4)イ		
Geshi, N., J. Browning and S. Kusumoto	2020	Magmatic overpressures, volatile exsolution and potential explosivity of fissure eruptions inferred via dike aspect ratios	Sci. Rep.	10	9406	○	10.1038/s41598-020-66226-z	1(4)イ		火道形状と母岩物性から推定される火道内のマグマの過剰圧と実際の噴火爆発性の関係を明らかにした。
風間卓仁	2020	可搬型相対重力計を用いた重力連続観測：システムの概要およびラコスト重力計G680による観測例	北海道大学地球物理学研究報告	83	9-23		10.14943/gbhu.83.9	1(4)イ		
Miyagi, I., N. Geshi, S. Hamasaki, T. Oikawa and A. Tomiya	2020	Heat source of the 2014 phreatic eruption of Mount Ontake, Japan	Bull. Volcanol.	82	33	○	10.1007/s00445-020-1358-x	1(4)イ		御嶽山2014年9月噴火を駆動した熱源としての潜在マグマ検出及びその組成及び熱力学的挙動解析
Snyder, G.T., Y. Sano, N. Takahata, R. Matsumoto, Y. Kizaki, H. Tomaru	2020	Magmatic fluids play a role in the development of active gas chimneys and massive gas hydrates in the Japan Sea	Chem. Geol.	535	119462	○	10.1016/j.chemgeo.2020.119462	1(4)イ		
Tsuru, T., J.-O. Park, K. Amakasu, T. No, K. Arai, T. Inoue, S. Furuyama, K. Uchida and Y. Nakamura	2020	Possible fluid discharge associated with faults observed by a high-resolution dense-2D seismic reflection survey in Uchiura Bay off Numazu, Japan	Earth Planet. Space	72	121	○	10.1186/s40623-020-01242-x	1(4)イ		
Matsumoto, K. and N. Geshi	2021	Shallow crystallization of eruptive magma inferred from volcanic ash microtextures: a case study of the 2018 eruption of Shinmoedake volcano, Japan	Bull. Volcanol.	83	31	○	10.1007/s00445-021-01451-6	1(4)イ		霧島新燃岳2018年噴火噴出物の微細組織解析に基づく火道浅部でのマグマ減圧結晶化過程とそれによる噴火推移変化の解析
Suzuki, T., R. Yoshimura, K. Yamazaki and N. Oshiman	2021	A procedure for stable electrical measurements on a rock sample against high contact resistance as a prerequisite for electrical tomography	Earth Planet. Space	73:123		○	10.1186/s40623-021-01446-9	1(4)イ		
Kazahaya, R., H. Shinohara, T. Mori, M. Iguchi and A. Yokoo	2016	Pre-eruptive inflation caused by gas accumulation: Insight from detailed gas flux variation at Sakurajima volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	43	11.219-11.225	○	10.1002/2016GL070727	1(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ	
Shinohara, H., A. Yokoo and R. Kazahaya	2018	Variation of volcanic gas composition during the eruptive period in 2014-2015 at Nakadake crater, Aso volcano, Japan	Earth Planet. Space	70	151	○	10.1186/s40623-018-0919-0	1(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ	
Kazahaya, R., H. Shinohara, T. Ohnino and T. Kaneko	2019	Airborne measurements of volcanic gas composition during unrest at Kuchinoerabujima volcano, Japan	Bull. Volcanol.	81	7	○	10.1007/s00445-018-1262-9	1(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ	口永良部島の2014-2015年噴火前後に実施した、無人ヘリやセスナ機を用いた火山ガス組成観測結果の解析を行い、噴火前後における火山ガス組成の変動を定量化した。火山ガスのCO <sub>2</sub> /S比は2014-2015年噴火前後で大きな変動は見られないが、SO <sub>2</sub> /H <sub>2</sub> S比は2014年噴火以前の3程度から、2014年噴火後には10に上昇し、その後再び3程度に減少した。この変動は脱ガス圧力の変動に起因すると推定された。
東京大学地震研究所	2020	伊豆大島三原山の見掛け比抵抗変化	第147回火山噴火予知連絡会資料	その3の4	28			1(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ, 2(4), 2(5)	
東京大学地震研究所	2020	伊豆大島全磁力	第147回火山噴火予知連絡会資料	その3の4	29-30			1(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ, 2(4), 2(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Mujin, M., M. Nakamura and M. Matsumoto	2020	Late-stage groundmass differentiation as a record of magma stagnation, fragmentation, and rewelding	Bull. Volcanol.	82	48	○	10.1007/s00445-020-01389-1	1(4)イ	1(4)ア, 2(5), 5(2)エ	
Otsubo, M., A. Miyakawa, R. Kawasaki, K. Sato, A. Yamaguchi and G. Kimura	2016	Variations in stress and driving pore fluid pressure ratio using vein orientations along megasplay faults - example from the Nobeoka Thrust, southwest Japan	Island Arc	25	421-432	○	10.1111/iar.12155	1(4)イ	1(5)ア	
Palazzin, G., H. Raimbourg, V. Famin, L. Jolivet, Y. Kusaba and A. Yamaguchi	2016	Deformation processes at the down-dip limit of the seismogenic zone: the example of Shimanto accretionary complex	Tectonophysics	687	28-43	○	10.1016/j.tecto.2016.08.013	1(4)イ	1(5)ア	
Yamaguchi, A., S. Hina, Y. Hamada, J. Kameda, M. Hamahashi, T. Kuwatani, M. Shimizu and G. Kimura	2016	Source and sink of fluid in pelagic siliceous sediments along a cold subduction plate boundary	Tectonophysics	686	146-157	○	10.1016/j.tecto.2016.07.030	1(4)イ	1(5)ア	
Kameda, J., A. Okamoto, K. Sato, K. Fujimoto, A. Yamaguchi and G. Kimura	2017	Opal-CT in chert beneath the toe of the Tohoku margin and its influence on the seismic aseismic transition in subduction zones	Geophys. Res. Lett.	44	687-693	○	10.1002/2016GL071784	1(4)イ	1(5)ア	
Kawasaki, R., M. Hamahashi, Y. Hashimoto, M. Otsubo, A. Yamaguchi, Y. Kitamura, J. Kameda, Y. Hamada, R. Fukuchi and G. Kimura	2017	Temporal stress variations along a seismogenic megasplay fault in the subduction zone: an example from the Nobeoka Thrust, southwestern Japan	Island Arc	26	e12193	○	10.1111/iar.12193	1(4)イ	1(5)ア	
Raimbourg, H., R. Thiery, M. Vacelet, V. Famin, C. Ramboz, M. Boussafir, J.-R. Disnar and A. Yamaguchi	2017	Organic matter cracking: A source of fluid overpressure in subducting sediments	Tectonophysics	721	254-274	○	10.1016/j.tecto.2017.08.005	1(4)イ	1(5)ア	
Hamada, Y., G. Kimura, J. Kameda, A. Yamaguchi, M. Hamahashi, R. Fukuchi, Y. Kitamura and S. Okamoto	2018	Three-dimensional texture of natural pseudotachylyte: Pseudotachylyte formation mechanism in hydrous accretionary complex	Island Arc	27	e12241	○	10.1111/iar.12241	1(4)イ	1(5)ア	
Kimura, G., A. Yamaguchi and M. Kinoshita	2018	Upper-plate tectonic hysteresis and segmentation of the rupture area during seismogenesis in subduction zones-A case study of the Nankai Trough	Geological Society of America Special Paper	534	87-99	○	10.1130/2018.2534(05)	1(4)イ	1(5)ア	
Koge, H., Y. Yamada, A. Ohde, A. Bauville, A. Yamaguchi and J. Ashi	2018	Dynamic formation process of thick deformation zone on the shallow plate boundary fault of the Japan Trench: insight from analog experiments of half-graben subduction	Prog. Earth Planet. Sci.	5	69	○	10.1186/s40645-018-0230-5	1(4)イ	1(5)ア	
Raimbourg, H., V. Famin, G. Palazzin, M. Mayoux, L. Jolivet, C. Ramboz and A. Yamaguchi	2018	Fluid properties and dynamics along the seismogenic plate interface	Geosphere	14	469-491	○	10.1130/GES01504.1	1(4)イ	1(5)ア	
Fisher, D.M., A.J., Smye, C. Marone, P.E. van Keken and A. Yamaguchi	2019	Kinetic models for healing of the subduction interface based on observations of ancient accretionary complexes	Geochemistry, Geophys. Geosystems	20	3431-3449	○	10.1029/2019GC008256	1(4)イ	1(5)ア	
Fisher, D.M., A.J. Smye, C. Marone, P.E. van Keken and A. Yamaguchi	2019	Postseismic fluid discharge chemically recorded in altered pseudotachylyte discovered from an ancient megasplay fault: an example from the Nobeoka Thrust in the Shimanto accretionary complex, SW Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	6	36	○	10.1186/s40645-019-0281-2	1(4)イ	1(5)ア	
Otsubo, M., J.L. Hardebeck, A. Miyakawa, A. Yamaguchi and G. Kimura	2020	Localized fluid discharge by tensile cracking during the post-seismic period in subduction zones	Sci. Rep.	10	12281	○	10.1038/s41598-020-68418-z	1(4)イ	1(5)ア	
Shinohara, H., N. Geshi, N. Matsushima, G. Saito and R. Kazahaya	2017	Volcanic gas composition changes during the gradual decrease of the gigantic degassing activity of Miyakejima volcano, Japan, 2000-2015	Bull. Volcanol.	79	21	○	10.1007/s00445-017-1105-0	1(4)イ	1(5)ウ	三宅島火山におけるMulti-GASを用いた火山ガス組成観測結果を解析し、2000-2015年の火山ガス放出過程の変化をモデル化した。観測された組成変化が、火道内マグマ対流の維持とSO <sub>2</sub> 放出率の低下にともなう熱水系の影響の増加によって説明できることを明らかにした。
Fischer, T.P., S. Arellano, S. Carn, A. Aiuppa, B. Galle, P. Allard, T. Lopez, H. Shinohara, P. Kelly, C. Werner, C. Cardellini and G. Chiodini	2019	The emissions of CO <sub>2</sub> and other volatiles from the world's subaerial volcanoes	Sci. Rep.	9	18716	○	10.1038/s41598-019-54682-1	1(4)イ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
篠原宏志	2019	火山ガス観測から推定される火山活動推移過程	火山	64	121-129	○	10.18940/kazan.64.2_121	1(4)イ	1(5)ウ	
Werner, C., T.P. Fischer, A. Aiuppa, M. Edmonds, C. Cardellini, S. Carn, G. Chiodini, E. Cottrell, M. Burton, H. Shinohara and P. Allard	2019	Carbon dioxide emissions from subaerial volcanic regions: two decades in review, in "Deep Carbon: Past to Present", ed. by B.N. Orcutt, I. Daniel, and R. Dasgupta	Cambridge University Press, Cambridge		188-236	○	10.1017/9781108677950	1(4)イ	1(5)ウ	
Shinohara, H., R. Kazahaya, T. Ohninato, T. Kaneko, U. Tsunogai and M. Morita	2020	Variation of volcanic gas composition at a poorly accessible volcano: Sakurajima, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	407	107098	○	10.1016/j.jvolgeores.2020.107098	1(4)イ	1(5)ウ	桜島火山におけるMulti-GASを用いた火山ガス組成の連続観測、セスナ機による繰り返し観測の結果を解析し、火山ガス組成の特徴と活動推移に伴う火山ガス組成の変化について明らかにした。桜島の火山ガスのCO <sub>2</sub> /S比はほぼ一定であるのに対し、SO <sub>2</sub> /H <sub>2</sub> S比は1-1000と大きな変動を示しており、30を超える比は火山灰の放出時のみ観測され、1-30の間の変動は爆発回数と相関があることが見出された。
吉村俊平	2020	石基ガラスの塩素濃度不均質から読み解く珪長質マグマの脱ガス現象	岩石鉱物科学	49	51-57	○		1(4)イ	2(4), 2(5)	珪長質のマグマは、火砕物を爆発的に噴出することもあれば、溶岩を穏やかに流出することもある。この違いは火道内での脱ガス過程の違いに依存すると考えられているが、噴出物にはガス成分は殆ど残っていないため、脱ガス過程を解明することは難しかった。本研究では拡散が著しく遅い塩素に着目し、石基ガラス中の濃度分布を調べた。その結果、塩素の不均質が残っていることを見出し、そこから脱ガス過程を復元できることを示した。
北海道大学・札幌管区気象台	2020	十勝岳（地磁気全磁力）	第146回火山噴火予知連絡会資料	その2の6	34-35			1(4)イ	2(4)(5)	
北海道大学・札幌管区気象台	2020	十勝岳（地磁気全磁力）	第147回火山噴火予知連絡会資料	その2の6	42			1(4)イ	2(4)(5)	
<b>(5) 地震発生及び火山活動を支配する場の解明とモデル化</b>										
<b>ア. プレート境界地震と海洋プレート内部の地震</b>										
Sasajima, R. and T. Ito	2016	Strain rate dependency of oceanic intraplate earthquake b-values at extremely low strain rates	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	4523-4537	○	10.1002/2016JB013221	1(5)ア		
Takeo, A., H. Kawakatsu, T. Isse, K. Nishida, H. Sugioka, A. Ito, H. Shiobara and D. Suetsugu	2016	Seismic azimuthal anisotropy in the oceanic lithosphere and asthenosphere from broadband surface-wave analysis of OBS array records at 60 Ma seafloor	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	1927-1947	○	10.1002/2015JB012429	1(5)ア		
Akuhara, T., K. Mochizuki, H. Kawakatsu and N. Takeuchi	2017	A fluid-rich layer along the Nankai trough megathrust fault off the Kii Peninsula inferred from receiverfunction inversion	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	6524-6537	○	10.1002/2017JB013965	1(5)ア		
Hasegawa, A. and J. Nakajima	2017	Seismic imaging of slab metamorphism and genesis of intermediate-depth intraslab earthquake	Prog. Earth Planet. Sci.	4	12	○	10.1186/s40645-017-0126-9, 2017	1(5)ア		
小菅正裕	2017	東北地方太平洋沖地震後の秋田県内の誘発地震活動の推移	東北地域災害科学研究	55	139-144			1(5)ア		
Pratama, C., T. Ito, R. Sasajima, T. Tabei, F. Kimata, E. Gunawan, Y. Ohta, T. Yamashina, N. Ismail, I. Nurdin, D. Sugiyanto, U. Muksin and I. Meilano	2017	Transient rheology of the oceanic asthenosphere following the 2012 Indian Ocean Earthquake inferred from geodetic data	J. Asian Earth Sci.	147	50-59	○	10.1016/j.jseas.2017.07.049	1(5)ア		
Sasajima, R. and T. Ito	2017	Anisotropic Horizontal Thermal Contraction of Young Oceanic Lithosphere Inferred From Stress Release Due To Oceanic Intraplate Earthquakes	Tectonics	36	1988-2021	○	10.1002/2017TC004680	1(5)ア		
Sato, S., T. Goto, T. Kasaya and H. Ichihara	2017	Noise-reduction method of magnetotelluric data based on frequency-domain independent component analysis	SEG Technical Program Expanded Abstracts		1241-1245	○	10.1190/ssegam2017-17727472.1	1(5)ア		
山野誠・川田佳史	2017	海溝近傍の熱流量異常-海洋地殻内の流体循環による熱輸送-	地学雑誌	126	147-161	○	10.5026/jgeography.126.147	1(5)ア		
Itaba, S.	2018	Rapid estimation of the moment magnitude of the 2011 Tohoku-Oki earthquake (Mw 9.0) from static strain changes	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0894-5	1(5)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kinoshita, C. and D.M. Saffer	2018	In Situ Permeability and Scale Dependence of an Active Accretionary Prism Determined From Cross-Borehole Experiments	Geophys. Res. Lett.	45	6935-6943	○	10.1029/2018gl078304	1(5)ア		
小菅正裕	2018	岩手県沖プレート沈み込み帯で発生した地震の波形の特徴把握	東北地域災害科学研究	54	241-246			1(5)ア		
Nakajima, J.	2018	Isolated intermediate-depth seismicity north of the Izu peninsula, Japan: Implications for subduction of the Philippine Sea plate	Earth Planet. Space	70	11	○	10.1186/s40623-018-0779-7	1(5)ア		
Ogawa, K., T. Matsuno, H. Ichihara, K. Nakahigashi and N. Seama	2018	A new miniaturized magnetometer system for long-term distributed observation on the seafloor	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0877-6	1(5)ア		
Tatsumi, Y., K. Suzuki-Kamata, T. Matsuno, H. Ichihara, N. Seama, K. Kiyosugi, R. Nakaoka, K. Nakahigashi, H. Takizawa, K. Hayashi, T. Chiba, S. Shimizu, M. Sano, H. Iwamaru, H. Morozumi, H. Sugioka and Y. Yamamoto	2018	Giant rhyolite lava dome formation after 7.3 ka supereruption at Kikai caldera, SW Japan	Sci. Rep.	8		○	10.1038/s41598-018-21066-w	1(5)ア		
Fujita, M., T. Nishimura and S. Miyazaki	2019	Detection of small crustal deformation caused by slow slip events in southwest Japan using GNSS and tremor data	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1075-x	1(5)ア		
木口努・桑原保人	2019	孔井内測定で検出した透水性亀裂の方向と応力場の関係：産総研西尾善明観測点の結果	活断層・古地震研究報告	19	33-59			1(5)ア		
小菅正裕	2019	地殻浅部での低周波地震活動	東北地域災害科学研究	55	172-178			1(5)ア		
Nakajima, J.	2019	Revisiting intraslab earthquakes beneath Kyushu, Japan: Effect of ridge subduction on seismogenesis	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	8660-8678	○	10.1029/2019JB017869	1(5)ア		
七條彰啓・中尾茂・松島健・大倉敬宏	2019	ブロック断層モデルを用いた鹿児島ー宮崎・熊本県境付近のブロック境界の検討	鹿児島大学理学部紀要	52	15-22			1(5)ア		ブロック境界モデルを用いて、鹿児島ー宮崎・熊本県境のブロック境界について検討した。GNSS観測から求まった変位速度を説明するためには、ブロック境界は必要であり、1997年3月26日に発生した鹿児島県北西部地震の東西に伸びる余震域をほぼ直線状に延長した位置に境界があるとよいことがわかった。
Yabe, S., R. Fukuchi, R. Hamada and G. Kimura	2019	A new method for the empirical conversion of logging data to clay mineral fraction in the Nankai accretionary prism	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01303-1	1(5)ア		
Yabe, S., R. Fukuchi, R. Hamada and G. Kimura	2019	Simultaneous estimation of in situ porosity and thermal structure from core sample measurements and resistivity log data at Nankai accretionary prism	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1097-4	1(5)ア		
Chiba, K.	2020	Stress state along the western Nankai Trough subduction zone inferred from b-values, long-term slow-slip events, and low-frequency earthquakes	Earth Planet. Space	72 (3)		○	10.1186/s40623-020-1130-7	1(5)ア		
Nishimura, T.	2020	Slow slip events in the Kanto and Tokai regions of central Japan detected using GNSS data during 1994-2020	Geochemistry, Geophys. Geosystems			○	10.1029/2020GC009329	1(5)ア		
Sato, S., T. Goto, T. Kasaya and H. Ichihara	2020	Method for obtaining response functions from noisy magnetotelluric data using frequency-domain independent component analysis	Geophysics	86		○	10.1190/geo2018-0792.1	1(5)ア		
木口努・桑原保人	2021	地下透水性亀裂の方向の支配要因：産総研地下水等総合観測井（愛知県・紀伊半島～四国）の16地点の孔井内測定データからの考察	活断層・古地震研究報告	20	1-78			1(5)ア		
Takagi, R., G. Toyokuni and N. Chikadasa	2021	Ambient noise correlation analysis of the S-net records: extracting surface wave signals below instrument noise levels	Geophys. J. Int.	224(3)	1640-1657	○	10.1093/gji/fgaa548	1(5)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Tsuchiyama, A. and J. Nakajima	2021	Diversity of deep earthquakes with waveform similarity	Phys. Earth Planet. Int.	314	106695	○	10.1016/j.pepi.2021.106695	1(5)ア		
Yamashita, S., Y. Yagi, R. Okuwaki, K. Shimizu, R. Agata and Y. Fukahata	2021	Consecutive ruptures on a complex conjugate fault system during the 2018 Gulf of Alaska earthquake	Sci. Rep.	11	5979	○	10.1038/s41598-021-85522-w	1(5)ア		
Yamaya, L., K. Mochizuki, T. Akuhara and K. Nishida	2021	Sedimentary structure derived from multi-mode ambient noise tomography with dense OBS network at the Japan Trench	J. Geophys. Res.: Solid Earth			○	10.1029/2021JB021789	1(5)ア		
Kodaira, S., T. Fujiwara, G. Fujie, Y. Nakamura and T. Kanamatsu	2020	Large Coseismic Slip to the Trench During the 2011 Tohoku-Oki Earthquake	Annu. Rev. Earth Planet. Sci.	48		○	10.1146/annurev-earth-071719-055216	1(5)ア	1(2)	
Nakamura, Y., T. Fujiwara, S. Kodaira, S. Miura and K. Obana	2020	Correlation of frontal prism structures and slope failures near the trench axis with shallow megathrust slip at the Japan Trench	Sci. Rep.			○	10.1038/s41598-020-68449-6	1(5)ア	1(2)	
Fujiwara, T., F.C. dos Santos, A.K. Bachmann, M. Strasse, G. Wefer, T. Sun, T. Kanamatsu and S. Kodaira	2017	Seafloor Displacement after the 2011 Tohoku-oki Earthquake in the Northern Japan Trench Examined by Repeated Bathymetric Surveys	Geophys. Res. Lett.	44		○	10.1002/2017GL075839	1(5)ア	1(2)イ	
Nakano, M., M. Hyodo, A. Nakanishi, M. Yamashita, T. Hori, S. Kamiya, K. Suzuki, T. Tonegawa, S. Kodaira, N. Takahashi and Y. Kaneda	2018	The 2016 Mw 5.9 earthquake off the southeastern coast of Mie Prefecture as an indicator of preparatory processes of the next Nankai Trough megathrust earthquake	Prog. Earth Planet. Sci.	5		○	10.1186/s40645-018-0188-3	1(5)ア	1(3)ア	
Obana, K. Y. Nakamura, G. Fujie, S. Kodaira, Y. Kaiho, Y. Yamamoto and S. Miura	2018	Seismicity in the source areas of the 1896 and 1933 Sanriku earthquakes and implications for large near-trench earthquake faults	Geophys. J. Int.	212(3)	2061-2072	○	10.1093/gji/ggx532	1(5)ア	1(3)ア	
Yabe, S. and S. Ide	2018	Variations in precursory slip behavior resulting from frictional heterogeneity	Prog. Earth Planet. Sci.	5		○	10.1186/s40645-018-0201-x	1(5)ア	1(3)ア	
Gou, T., D. Zhao, Z. Huang and L. Wang	2020	Structural heterogeneity in source zones of the 2018 Anchorage intraslab earthquake and the 1964 Alaska megathrust earthquake	Geochemistry, Geophys. Geosystems	21	e2019GC008812	○	10.1029/2019GC008812	1(5)ア	1(3)ア	
Tonegawa, T., Y. Yamashita, T. Takahashi, M. Shinohara, Y. Ishihara, S. Kodaira and Y. Kaneda	2020	Spatial relationship between shallow very low frequency earthquakes and the subducted Kyushu-Palau Ridge in the Hyuga-nada region of the Nankai subduction zone	Geophys. J. Int.	222		○	10.1093/gji/ggaa264	1(5)ア	1(3)ア	海底地震計のノイズ記録から推定したアレイ内のレーリー波伝播速度を用いて、エンベロープ相関により日向灘の浅部超低周波地震の震央を求め、フィリピン海プレートのコンターと比較して震源の深さを推定した。沈み込む海山の影響が小さい東側では震源の深さは10km以浅となり、西側の海山近傍ではそれより深くなった。これは沈み込む海山がスロー地震の発生域に局地的に影響を及ぼしていることを示唆している。
Sawa, S., N. Miyajima, J. Muto and H. Nagahama	2021	Strain-induced partial serpentinization of germanate olivine with a small amount of water	Am. Mineral.	in press		○	10.2138/am-2021-7735	1(5)ア	1(3)ア	海洋プレートに存在する蛇紋石はやや深発地震を引き起こす鉱物の1つと考えられているが、高密度の海洋プレートの内部にどれだけの水が浸透し蛇紋石を作るかは明らかでない。そこで、ゲルマニウムかんらん石を用いて変形実験を行い、極微量の水でも断層に沿って蛇紋石の細粒な板状粒子が形成されることを明らかにした。この結果は、海洋プレート内部のかんらん石が差応力下で極少量の水により蛇紋岩化することを示唆している。
Kubota, T., R. Hino, D. Inazu and S. Suzuki	2019	Fault model of the 2012 doublet earthquake, near the up-dip end of the 2011 Tohoku-Oki earthquake, based on a near-field tsunami: implications for intraplate stress state	Prog. Earth Planet. Sci.	6	67	○	10.1186/s40645-019-0313-y	1(5)ア	1(3)ア, 1(3)イ, 2(3)	大地震直後の余震による地震波記録に極値統計解析を施し、解析観測点における最大振幅の将来予測を行う手法を開発した。この手法は、地震波の重なり合いの影響を受けにくい、マグニチュードではなく揺れの予測を行える等、地震カタログを用いた従来法にはない利点があり、余震活動の早期予測に向けて重要な進展をもたらすと考えられる。
Ito, A., T. Tonegawa, N. Uchida, Y. Yamamoto, D. Suetsugu, R. Hino, H. Sugioka, K. Obana, K. Nakahigashi and M. Shinohara	2019	Configuration and structure of the Philippine Sea Plate off Boso, Japan: constraints on the shallow subduction kinematics	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1090-y	1(5)ア	1(3)ア, 1(5)オ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kurashimo, E., H. Sato, S. Sakai, N. Hirata, A.P. Gajurel, D.P. Adhikali, K.P. Subedi, H. Yagi, and B.N. Upreti	2019	The 2015 Gorkha Earthquake: Earthquake reflection imaging of the source fault and connecting seismic structure with fault slip behavior	Geophys. Res. Lett.	46	3206-3215	○	10.1029/2018GL081197	1(5)ア	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア, 2(1)イ	
Kubota, T., T. Saito, H. Tsumura, R. Hino, Y. Ohta, S. Suzuki and D. Inazu	2021	Extracting near-field seismograms from ocean-bottom pressure gauge inside the focal area: application to the 2011 Mw 9.1 Tohoku-Oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL091664	○	10.1029/2020GL091664	1(5)ア	1(3)ア, 5(3)ア, 5(3)イ	即時震源パラメータ解析システムAQUAに対し、一定規模以上の地震が発生したと判断された場合、自動的に速度型強震計のデータを解析対象に切り替えるとともに、断層破壊の継続時間を考慮した解析パラメータに切り替える等の仕組みを導入することで、東北地方太平洋沖地震のような超巨大地震への対応を実現した。
Takeo, A., H. Kawakatsu, T. Isse, K. Nishida, H. Shiobara, H. Sugioka, A. Ito and H. Utada	2018	In situ characterization of the lithosphere - asthenosphere system beneath NW Pacific Ocean via broadband dispersion survey with two OBS arrays	Geochemistry, Geophys. Geosystems	19	3529-3539	○	10.1029/2018GC007588	1(5)ア	1(3)ア, 5(3)イ	
Todd, E.K., S.Y. Schwartz, K. Mochizuki, L.M. Wallace, A.F. Sheehan, S.C. Webb, C.A. Williams, J. Nakai, J. Yarce, B. Fry, S. Henrys and Y. Ito	2018	Earthquakes and Tremor Linked to Seamount Subduction During Shallow Slow Slip at the Hikurangi Margin, New Zealand	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	6769-6783	○	10.1029/2018JB016136	1(5)ア	1(3)ア, 5(5)	
Yarce, J., A.F. Sheehan, J.S. Nakai, S.Y. Schwartz, K. Mochizuki, M.K. Savage, L.M. Wallace, S.A. Henrys, S.C. Webb, Y. Ito, R.E. Abercrombie, B. Fry, H. Shaddox and E.K. Todd	2019	Seismicity at the northern Hikurangi Margin, New Zealand, and investigation of the potential spatial and temporal relationships with a shallow slow slip event	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	4751-4766	○	10.1029/2018JB017211	1(5)ア	1(3)ア, 5(5)	
Heise, W., Y. Ogawa, E.A. Bertrand, T.G. Caldwell, R. Yoshimura, H. Ichihara, S.L. Bennie, K. Seki, Z. Saito, Y. Matsunaga, A. Suzuki, T. Kishita and Y. Kinoshita	2019	Electrical resistivity imaging of the inter-plate coupling transition at the Hikurangi subduction margin, New Zealand	Earth Planet. Sci. Lett.	524	115710	○	10.1016/j.epsl.2019.115710	1(5)ア	1(3)ア, 5(5)	
Hu, Y., R. Buergermann, P. Banerjee, L. Feng, E.M. Hill, T. Ito, T. Tabei and K. Wang	2016	Asthenosphere rheology inferred from observations of the 2012 Indian Ocean earthquake	Nature	538	368-372	○	10.1038/nature19787	1(5)ア	1(3)イ	
Nakano, M., S. Yabe, H. Sugioka, M. Shinohara and S. Ide	2019	Event size distribution of shallow tectonic tremor in the Nankai trough	Geophys. Res. Lett.	46		○	10.1029/2019GL083029	1(5)ア	1(3)イ	
Honsho, C., M. Kido, F. Tomita and N. Uchida	2019	Offshore postseismic deformation of the 2011 Tohoku earthquake revisited: Application of improved GPS-acoustic positioning method considering sloping sound speed structure	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124		○	10.1029/2018JB017135	1(5)ア	1(3)イ, 2(2)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	2011年東北沖地震後の日本海溝沿いの余効変動場について、GNSS-A観測によって蓄積されたデータを横中音速の不均質を考慮した解析により高精度処理することで信頼度高く推定し、変動要因の切り分けを可能にした。
Honsho, C., M. Kido, T. Ichikawa, T. Ohashi, T. Kawakami, and H. Fujimoto	2021	Application of Phase-Only Correlation to Travel-Time Determination in GNSS-Acoustic Positioning	Front. Earth Sci.	9	600732	○	10.3389/feart.2021.600732	1(5)ア	1(3)イ, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Shiraishi, K., Y. Yamada and T. Nibe	2019	Thermogenic petroleum potential of the Nankai subduction zone, offshore SW Japan	J. Petroleum Geol.	42		○	10.1111/jpg.12744	1(5)ア	1(3)オ	
Fukahata, Y. and M. Matsu'ura	2016	Deformation of island-arc lithosphere due to steady plate subduction	Geophys. J. Int.	204	825-840	○	10.1093/gji/ggv482	1(5)ア	1(5)イ	沈み込み帯における変形は基本的に、海陸プレート間の相互作用、具体的には海洋プレートが沈み込みに際して曲げられることに対する作用（海洋プレートに対する曲げモーメント）と反作用（陸側プレートに対する曲げモーメント）の結果として生じることを明らかにした。この考えにより、外縁隆起帯と共に島弧で隆起運動が生じることが理解できる。
Fukahata, Y. and M. Matsu'ura	2018	Characteristics of viscoelastic crustal deformation following a megathrust earthquake: discrepancy between the apparent and intrinsic relaxation time constants	Pure Appl. Geophys.	175	549-558	○	10.1007/s00024-017-1735-3	1(5)ア	1(5)イ	
Okuwaki, R., A. Kasahara, Y. Yagi, S. Hirano and Y. Fukahata	2019	Backprojection to image slip	Geophys. J. Int.	216	1529-1537	○	10.1093/gji/ggy505	1(5)ア	1(5)イ	
Sasajima, R., B. Shibazaki, H. Iwamori, T. Nishimura and Y. Nakai	2019	Mechanism of subsidence of the Northeast Japan forearc during the late period of a gigantic earthquake cycle	Sci. Rep.	4	35138889	○	10.1038/s41598-019-42169-y	1(5)ア	1(5)イ	
Fan, J. and D. Zhao	2019	P-wave anisotropic tomography of the central and southern Philippines	Phys. Earth Planet. Int.	286	154-164	○	10.1016/j.pepi.2018.12.001	1(5)ア	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Shiina, T., K. Katsumata, K. Yomogida and A. Kato	2021	Attenuation contrast in mantle wedge across the volcanic front of northeastern Japan that controls propagations of high-frequency S-wave later phases	Earth Planet. Space	73	33	○	10.1186/s40623-021-01361-z	1(5)ア	1(5)ウ	
Wang, Z.W. and D. Zhao	2021	3D anisotropic structure of the Japan subduction zone	Sci. Adv.	7	eabc9620	○	10.1126/sciadv.abc9620	1(5)ア	1(5)ウ	地震波異方性トモグラフィー法を改良して日本列島下の3次元異方性構造とマントル対流について調べた。その結果、太平洋プレートの沈み込みとその変形がマントル対流のパターンを支配していることを発見した。
Zhao, D.	2021	Seismic imaging of Northwest Pacific and East Asia: New insight into volcanism, seismogenesis and geodynamics	Earth-Sci. Rev.	214	103507	○	10.1016/j.earscirev.2021.103507	1(5)ア	1(5)ウ	
Nakamura, H., H. Iwamori, O. Ishizuka and T. Nisizawa	2017	Distribution of slab-derived fluids around the edge of the Philippine Sea Plate from Central to Northeast Japan	Tectonophysics	723	297-308	○	10.1016/j.tecto.2017.12.004	1(5)ア	1(5)ウ, 1(5)オ	
Arai, R., S. Kodaira, Y. Kaiho, T. Takahashi, S. Miura and Y. Kaneda	2016	Crustal structure of the southern Okinawa Trough: Symmetrical rifting, submarine volcano and potential mantle accretion in the continental back-arc basin	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122		○	10.1002/2016JB013448	1(5)ア	1(5)オ	
Arai, R., T. Takahashi, S. Kodaira, Y. Kaiho, A. Nakanishi, G. Fujie, Y. Nakamura, Y. Yamamoto, Y. Ishihara, S. Miura and Y. Kaneda	2016	Structure of the tsunamigenic plate boundary and low-frequency earthquakes in the southern Ryukyu Trench	Nat. Commun.			○	10.1038/ncomms12255	1(5)ア	1(5)オ	
Agata, Y., T. Ichimura, T. Hori, K. Hirahara, C. Hashimoto and M. Hori	2017	An adjoint-based simultaneous estimation method of the asthenosphere's viscosity and afterslip using a fast and scalable finite element adjoint solver	Geophys. J. Int.	213	461-474	○	10.1093/gji/ggx561	1(5)ア	1(5)オ	
Ito, A., H. Sugioka, K. Obana, R. Hino, D. Suetsugu, K. Nakahigashi, M. Shinohara, M. Nakano and Y. Yamamoto	2017	Upper boundaries of the Pacific and Philippine Sea plates near triple junction off the Boso Peninsula deduced from ocean-bottom seismic observation	Earth Planet. Space			○	10.1186/s40623-017-0608-4	1(5)ア	1(5)オ	
Shiraishi, K., G. Fujie, T. Sato, S. Abe, E. Asakawa and S. Kodaira	2017	Interferometric OBS imaging for wide-angle seismic data	Geophysics	82		○	10.1190/geo2016-0482.1	1(5)ア	1(5)オ	
Tonegawa, T., E. Araki, T. Kimura, T. Nakamura, M. Nakano and L. Suzuki	2017	Sporadic low-velocity volumes spatially correlate with shallow very low frequency earthquake clusters	Nat. Commun.			○	10.1038/s41467-017-02276-8	1(5)ア	1(5)オ	
Arai, R., S. Kodaira, T. Takahashi, S. Miura and Y. Kaneda	2018	Seismic evidence for arc segmentation, active magmatic intrusions and syn-rift fault system in the northern Ryukyu volcanic arc	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0830-8	1(5)ア	1(5)オ	
Fujie, G., S. Kodaira, Y. Kaiho, Y. Yamamoto, T. Takahashi, S. Miura and T. Yamada	2018	Controlling factor of incoming plate hydration at the north-western Pacific margin	Nat. Commun.	9		○	10.1038/s41467-018-06320-z	1(5)ア	1(5)オ	
Shiraishi, K., G.F. Moore, Y. Yamada, M. Kinoshita, Y. Sanada and G. Kimura	2019	Seismogenic Zone Structures Revealed by Improved 3-D Seismic Images in the Nankai Trough off Kumano	Geochemistry, Geophys. Geosystems	20	2252-2271	○	10.1029/2018gc008173	1(5)ア	1(5)オ	南海トラフ地震発生帯において、旧来の解析では不明であった付加体内部の詳細構造を明らかにするため、既存の三次元反射法地震探査データを最新技術により再解析を行った。その結果、高度な解析技術の適用により刷新された地下構造イメージに基づき、熊野海盆下の付加体内部の変形構造、プレート境界および巨大分岐断層周辺の三次元的な地質構造と物性の特徴を明らかにし、新しい地質構造モデルを提案した。
Shiraishi, K., Y. Yamada, M. Nakano, M. Kinoshita and G. Kimura	2020	Three-dimensional topographic relief of the oceanic crust may control the occurrence of shallow very-low-frequency earthquakes in the Nankai Trough off Kumano	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01204-3	1(5)ア	1(5)オ	
Arai, R., S. Kodaira, S. Henrys, N. Bangs, K. Obana, G. Fujie, S. Miura, D. Barker, D. Bassett, R. Bell, K. Mochizuki, R. Kellett, V. Stucker, B. Fry and NZ3D Team	2020	Three-dimensional P wave velocity structure of the northern Hikurangi margin from the NZ3D experiment: Evidence for fault-bound anisotropy	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2020JB020433	1(5)ア	1(5)オ, 5(5)	
大園真子	2020	GEONET観測網による北海道東部における地殻ひずみの時空間変化	北海道大学地球物理学研究報告	83	85-96		10.14943/gbhu.83.85	1(5)ア	2(1)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Sakaue, H., T. Nishimura, J. Fukuda and T. Kato	2019	Spatiotemporal evolution of long- and short-term slow slip events in the Tokai region, central Japan estimated from a very dense GNSS network during 2013–2016	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124		○	10.1029/2019JB018650	1(5)ア	2(2)ア	
Kurashimo, E., T. Iwasaki, N. Tsumura and T. Iidaka	2021	The Role of Fluid-Related Heterogeneous Structures in Controlling the Fault Slip Behavior in the Slow-Earthquake Source Region Along the Nankai Subduction Zone, Southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL089882	○	10.1029/2020GL089882	1(5)ア	2(2)ア	
Takemura, S., T. Maeda, T. Furumura and K. Obara	2016	Constraining the source location of the 30 May 2015 (Mw 7.9) Bonin deep-focus earthquake using seismogram envelopes of high-frequency P waveforms: Occurrence of deep-focus earthquake at the bottom of a subducting slab	Geophys. Res. Lett.	43	4297–4302	○	10.1002/2016GL068437	1(5)ア	3(1)ア, 3(1)ウ	
加納靖之	2021	紀伊半島における土地傾斜プロマイド記録のデジタルアーカイブ構築	東京大学地震研究所技術研究報告	26	16–19	○		1(5)ア	5(2)ア, 5(3)エ	
Ishise, M., A. Kato, S. Sakai, S. Nakagawa and H. Hirata	2021	Improved 3-D P Wave Azimuthal Anisotropy Structure beneath the Tokyo Metropolitan Area, Japan: New Interpretations of the Dual Subduction System Revealed by Seismic Anisotropy	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021194	○	10.1029/2020JB021194	1(5)ア	5(2)イ	
Imano, M., M. Kido, C. Honsho, Y. Ohta, N. Takahashi, T. Fukuda, H. Ochi and R. Hino	2019	Assessment of directional accuracy of GNSS-Acoustic measurement using a slackly moored buoy	Prog. Earth Planet. Sci.	6, No56		○	10.1186/s40645-019-0302-1	1(5)ア	5(2)ウ, 5(3)イ	
Matsui, R., M. Kido, Y. Niwa and C. Honsho	2019	Effects of disturbance of seawater excited by internal wave on GNSS-acoustic positioning	Mar. Geophys. Res.	40		○	10.1007/s11001-019-09394-6	1(5)ア	5(2)ウ, 5(3)イ	
Tonegawa, T., T. Kimura and E. Araki	2021	Near-Field Body-Wave Extraction From Ambient Seafloor Noise in the Nankai Subduction Zone	Front. Earth Sci.	8		○	10.3389/feart.2020.610993	1(5)ア	5(3)イ	
Harris, R., L. Wallace, S. Webb, Y. Ito, K. Mochizuki, H. Ichihara, S. Henrys, A. Trehu, S. Schwartz, A. Sheehan, D. Saffer and R. Lauer	2016	Investigations of Shallow Slow Slip Offshore of New Zealand	EOS (Trans. Am. Geophys. Union)	97		○		1(5)ア	5(5)	
Kvarven, T., R. Mjelde, B.O. Hjelstuen, J.I. Faleide, H. Thybo, E. Flueh and Y. Murai	2016	Crustal composition of the Møre margin and compilation of a conjugate Atlantic margin transect	Tectonophysics	666	144–157	○	10.1016/j.tecto.2015.11.002	1(5)ア	5(5)	
Breivik, A.J., J.I. Faleide, R. Mjelde, E.R. Flueh and Y. Murai	2017	A new tectono-magmatic model for the Lofoten/Vesterålen Margin at the outer limit of the Iceland Plume influence	Tectonophysics	718	25–44	○	10.1016/j.tecto.2017.07.002	1(5)ア	5(5)	
Heise, W., T. G. Caldwell, S. Bannister, E.A. Bertrand, Y. Ogawa, S.L. Bennie and H. Ichihara	2017	Mapping subduction interface coupling using magnetotellurics: Hikurangi margin, New Zealand	Geophys. Res. Lett.	44	9261–9266	○	10.1002/2017GL074641	1(5)ア	5(5)	
望月公廣	2017	沈み込み帯におけるプレート境界面の不均質と地震活動-日本海溝およびヒクラング沈み込み帯を例として-	地学雑誌	126	207–221	○		1(5)ア	5(5)	
Mochizuki, K., R. Sutherland, S. Henrys, D. Bassett, H. Van Avendonk, R. Arai, S. Kodaira, G. Fujie, Y. Yamamoto, N. Bangs and D. Barker	2019	Recycling of depleted continental mantle by subduction and plumes, Hikurangi Plateau Large Igneous Province, southwest Pacific	Geology	47	795–798	○	10.1130/G46250.1	1(5)ア	5(5)	
Warren-Smith, E., B. Fry, L. Wallace, E. Chon, S. Henrys, A. Sheehan, K. Mochizuki, S. Schwartz, S. Webb and S. Lebedev	2019	Episodic stress and fluid pressure cycling in subducting oceanic crust during slow slip	Nat. Geosci.	12	475–481	○		1(5)ア	5(5)	
Zal, H., K. Jacobs, M. Savage, J. Yarce, S. Mroczek, K. Graham, E.K. Todd, J. Naka, Y. Iwasaki, A. Sheehan, K. Mochizuki, L. Wallace, S. Schwartz, S. Webb and S. Henrys	2019	Temporal and spatial variations in seismic anisotropy and Vp/Vs ratios in a region of slow slip	Earth Planet. Sci. Lett.	532		○		1(5)ア	5(5)	
Breivik, A.J., J.I. Faleide, R. Mjelde, E.R. Flueh and Y. Murai	2020	Crustal structure and erosion of the Lofoten/Vesterålen shelf, northern Norwegian margin	Tectonophysics	776	228318	○	10.1016/j.tecto.2020.228318	1(5)ア	5(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Mochizuki, K., S. Henrys, D. Haijima, E. Warren-Smith and B. Fry	2021	Seismicity and velocity structure in the vicinity of repeating slow slip earthquakes, northern Hikurangi subduction zone, New Zealand	Earth Planet. Sci. Lett.	563		○	10.1016/j.epsl.2021.116887	1(5)ア	5(5)	
Yarce, J., A. Sheehan, S. Roecker and K. Mochizuki	2021	Seismic Velocity Heterogeneity of the Hikurangi Subduction Margin, New Zealand: Elevated Pore Pressures in a Region with Repeating Slow Slip Events	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	10.1029/2020JB021605	1(5)ア	5(5)	
Wallace, L., S.C. Webb, Y. Ito, K. Mochizuki, R. Hino, S. Henrys, S.R. Schwartz and A.F. Sheehan	2016	Slow slip near the trench at the Hikurangi subduction zone, New Zealand	Science	352	701-704	○		1(5)ア	5(5)	
<b>イ. 内陸地震</b>										
Aoki, S., Y. Iio, H. Katao, T. Miura, I. Yoneda and M. Sawada	2016	Three-dimensional Distribution of S-wave Reflectors in the Northern Kinki District, Southwest Japan	Earth Planet. Space	68	107	○	10.1186/s40623-016-0468-3	1(5)イ		
Iidaka, T., Y. Hiramatsu and The Research Group for the Joint Seismic Observations at the Nobi Area	2016	Heterogeneous mantle anisotropy and fluid upwelling: Implication for generation of the 1891 Nobi earthquake	Earth Planet. Space	68	164	○	10.1186/s40623-016-0540-z	1(5)イ		
Matsumoto, S.	2016	Method for estimating the stress field from seismic moment tensor data based on the flow rule in plasticity theory	Geophys. Res. Lett.			○	10.1002/2016GL070129	1(5)イ		
Okada, T., T. Matsuzawa, N. Umino, K. Yoshida, A. Hasegawa, H. Takahashi, T. Yamada, M. Kosuga, T. Takeda, A. Kato, T. Igarashi, K. Obara, S. Sakai, A. Saiga, T. Iidaka, T. Iwasaki, N. Hirata, N. Tsumura, Y. Yamanaka, T. Terakawa, H. Nakamichi, T. Okuda, S. Horikawa, H. Katao, T. Miura, A. Kubo, T. Matsushima, K. Goto and H. Miyamachi	2016	Hypocenter migration and crustal seismic velocity distribution observed for the inland earthquake swarms induced by the 2011 Tohoku-Oki earthquake in NE Japan: Implications for crustal fluid distribution and crustal permeability	Crustal Permeability		307-323	○	10.1002/9781119166573.ch24	1(5)イ		
水藤尚・小林知勝・川元智司・森下遊	2016	ひずみ集中帯の地殻変動特性に関する研究(第2年時)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
Iidaka, T., T. Igarashi, A. Hashima, A. Kato, T. Iwasaki and The Research Group for the Joint Seismic Observations at the Nobi Area	2017	Receiver function images of the distorted Philippine Sea Slab contact with the continental crust: implications for generation of the 1891 Nobi earthquake (Mj 8.0)	Tectonophysics	717	41-50	○		1(5)イ		
Iio, Y., I. Yoneda, M. Sawada, T. Miura, H. Katao, Y. Takada and S. Horiuchi	2017	Which is heterogeneous, stress or strength? An estimation from high-density seismic observations	Earth Planet. Space	69	144	○	10.1186/s40623-017-0730-3	1(5)イ		地震のメカニズム解が様々な方向を向くことは良く知られているが、その原因は全く不明だった。精度の良いメカニズム解と応力場の解析から、応力場ではなく、断層の強度の不均質がその原因であることが分かった。
飯尾能久	2017	熊本地震はなぜ起こったのか?	日本の科学者	52	6-11			1(5)イ		
飯尾能久	2017	地震観測システムの小型化・軽量化・低コスト化	日本地震工学会誌	32	8-12			1(5)イ		
飯尾能久	2017	2016年熊本地震の発生過程について	防災研究所年報	60	158-163			1(5)イ		
Nakajima, J. and T. Matsuzawa	2017	Anelastic properties beneath the Niigata-Kobe Tectonic Zone, Japan	Earth Planet. Space	69	33	○	10.1186/s40623-017-0619-1	1(5)イ		
Nishimura, T. and Y. Takada	2017	San-in shear zone in southwest Japan, revealed by GNSS observations	Earth Planet. Space	69	85	○	10.1186/s40623-017-0673-8	1(5)イ		
水藤尚・小林知勝・川元智司・森下遊	2017	ひずみ集中帯の地殻変動特性に関する研究(第3年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
水藤尚	2017	日本列島下の粘性構造の推定に関する研究(第1年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Terakawa, T.	2017	Overpressurized fluids drive microseismic swarm activity around Mt. Ontake volcano, Japan	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0671-x	1(5)イ		
Tsuno, S., M. Korenaga, K. Okamoto, H. Yamanaka, K. Chimoto and T. Matsushima	2017	Local site effects in Kumamoto City revealed by the 2016 Kumamoto earthquake sequence and its impact on earthquake science and hazard assessment	Earth Planet. Space	69(1)		○	10.1186/s40623-017-0622-6	1(5)イ		
Chiba, K. and H. Shimizu	2018	Spatial and temporal distributions of b-value in and around Shinmoe-dake, Kirishima volcano, Japan	Earth Planet. Space	70(1)		○	10.1186/s40623-018-0892-7	1(5)イ		
Coats, R., J.E. Kendrick, P.A. Wallace, T. Miwa, A.J. Hornby, J.D. Ashworth, T. Matsushima and Y. Lavallée	2018	Failure criteria for porous dome rocks and lavas A study of Mt. Unzen, Japan	Solid Earth	9(6)	1299-1328	○	10.5194/se-9-1299-2018	1(5)イ		
Iio, Y., R.H. Sibson, T. Takeshita, T. Sagiya, B. Shibazaki and T.J. Nakajima	2018	Crustal dynamics: unified understanding of geodynamic processes at different time and length scales	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0869-6	1(5)イ		
Iio, Y., S. Kishimoto, S. Nakao, T. Miura, I. Yoneda, M. Sawada and H. Katao	2018	Extremely weak fault planes: an estimate of focal mechanisms from stationary seismic activity in the San'in district, Japan,	Tectonophysics	723	136-148	○	10.1016/j.tecto.2017.12.007	1(5)イ		
金廣純奈・茂木透・市原寛・山岡耕春・足立守・田中良	2018	御嶽山南東麓でのMT法による地熱探査	2018年CA研究会論文集					1(5)イ		
Katoh, S., Y. Iio, H. Katao, M. Sawada, K. Tomisaka, T. Miura and I. Yoneda	2018	The relationship between S-wave reflectors and deep low-frequency earthquakes in the northern Kinki district, southwestern Japan	Earth Planet. Space	70	149	○	10.1186/s40623-018-0921-6	1(5)イ		
小林知勝・矢来博司	2018	2018. SARデータによる地殻変動解析および地殻変動データに基づく力学的モデリングに関する研究(第9年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
中島淳一	2018	中島淳一, 東北地方の火山周辺の地震波速度・減衰構造: 地殻構造と低周波地震・S波反射面との関係	東京大学地震研究所集報	92	49-62	○		1(5)イ		
Okazaki, T., A. Takahashi, K. Takeuchi, T. Iwata and Y. Fukahata	2018	Global Distribution of Tectonic Plates Revealed by the Cluster Analysis of Geodetic Data in the Angular Velocity Space	DPRJ Annu.	61B	301-311			1(5)イ		
Ross, Z.E., H. Kanamori, E. Hauksson and N. Aso	2018	Dissipative intraplate faulting during the 2016 Mw 6.2 Tottori, Japan earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	1631-1642	○	10.1002/2017JB015077	1(5)イ		
水藤尚・小林知勝・山田晋也	2018	ひずみ集中帯の地殻変動特性に関する研究(第4年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
水藤尚	2018	日本列島下の粘性構造の推定に関する研究(第2年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
Chiba, K.	2019	Spatial and temporal distributions of b-values related to long term slow-slip and low-frequency earthquakes in the Bungo Channel and Hyuga-nada regions, Japan	Tectonophysics	757	1-9	○	10.1016/j.tecto.2019.02.021	1(5)イ		
Fukahata, Y.	2019	Estimate of the contraction rate of central Japan through the deformation of the Philippine Sea slab	Prog. Earth Planet. Sci.	6	4	○	10.1186/s40645-018-0251-0	1(5)イ		
Hara, S., Y. Fukahata and Y. Iio	2019	P wave first motion polarity determination of waveform data in western Japan using deep learning	Earth Planet. Space	71	127	○	10.1186/s40623-019-1111-x	1(5)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ikeda, H. and R. Takagi	2019	Coseismic changes in subsurface structure associated with the 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake detected using autocorrelation analysis of ambient seismic noise	Earth Planet. Space	71	72	○	10.1186/s40623-019-1051-5	1(5)イ		Hi-netと気象庁の地震観測点で観測された常時微動記録に地震波干渉法を適用し、2018年北海道胆振東部地震による地震波速度および散乱特性の時間変化を検出した。地震波速度低下量が強震動による動的ひずみ変化量と相関することを示し、また、震源域の深さ30 km付近における散乱特性変化が変化した可能性を示した。これは地震時すべりの応力変化による断層帯やその近傍におけるクラック形成を捉えた可能性がある。
川畑亮二・小林知勝・山田晋也	2019	ひずみ集中帯の地殻変動特性に関する研究(第5年次)	国土地理院調査研究年報					1(5)イ		
Meneses-Gutierrez, A., T. Nishimura and M. Hashimoto	2019	Coseismic and postseismic deformation of the 2016 Central Tottori earthquake and its slip model	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	2202-2217	○	10.1029/2018JB016105	1(5)イ		
Takahashi, A., M. Hashimoto, J.-C. Hu, K. Takeuchi, M.-C. Tsai and Y. Fukahata	2019	Hierarchical cluster analysis of GPS data and examination of the nature of the clusters associated with regional tectonics in Taiwan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124		○	10.1029/2018JB016995	1(5)イ		
Tsuda, H., Y. Iio and T. Shibutani	2019	Origin of the seismic belt in the San-in district, southwest Japan, inferred from the seismic velocity structure of the lower crust	Earth Planet. Space	71	109	○	10.1186/s40623-019-1091-x	1(5)イ		
堤浩之・飯尾能久	2019	地形・地質・物理探査データに基づく2018年大阪府北部の地震の震源域周辺の活構造の再検討	地震2	72	57-67	○		1(5)イ		
Wallace, P.A., J.E. Kendrick, T. Miwa, J.D. Ashworth, R. Coats, J.E.P. Utley, S.H. De Angelis, E. Mariani, A. Biggin, R. Kendrick, S. Nakada, T. Matsushima and Y. Lavallée	2019	Petrological architecture of a magmatic shear zone. A multidisciplinary investigation of strain localisation during magma ascent at Unzen volcano, Japan	J. Petrol.	60 (4)	791-826	○	10.1093/petrology/egz016	1(5)イ		
原将太・深畑幸俊・飯尾能久	2020	深層学習によるP波検出・到達時刻・初動極性決定	京都大学防災研究所年報	63B	69-92			1(5)イ		
Hashimoto, T.M., K. Aizawa, Y. Hayashida, Y. Yuasa, T. Matsushima, Y. Yamamoto, K. Tsukamoto, K. Miyano, S. Matsumoto and H. Shimizu	2020	Joint seismological-magnetotelluric investigation of shallow and impulsive non-DC and DC earthquakes beneath the gravitationally unstable Heisei-Shinzan Lava Dome, Unzen Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.			○	10.1016/j.jvolgeores.2020.107066	1(5)イ		
Iio, Y., S. Matsumoto, Y. Yamashita, S. Sakai, K. Tomisaka, M. Sawada, T. Iidaka, T. Iwasaki, M. Kamizono, H. Katao, A. Kato, E. Kurashimo, Y. Teguri, H. Tsuda and T. Ueno	2020	Stationarity of aftershock activities of the 2016 Central Tottori Prefecture earthquake revealed by dense seismic observation	Earth Planet. Space	72(1)	42	○	10.1186/s40623-020-01161-x	1(5)イ		
飯尾能久	2020	大阪府北部の地震(2018年6月18日, M6.1)	地震予知連絡会50年のあゆみ 第2部		220-223.			1(5)イ		
Meneses-Gutierrez, A. and T. Nishimura	2020	Inelastic deformation zone in the lower crust for the San-in Shear Zone, Southwest Japan, as observed by a dense GNSS network	Earth Planet. Space	72	10	○	10.1186/s40623-020-1138-z	1(5)イ		
Mitogawa, T. and T. Nishimura	2020	Coulomb stress change on inland faults during megathrust earthquake cycle in southwest Japan	Earth Planet. Space	72	60	○	10.1186/s40623-020-01174-7	1(5)イ		
Mitsuoka, A., A. Shito, S. Matsumoto, Y. Yamashita, M. Nakamoto, S. Sakai, Y. Iio, H. Shimizu, K. Goto, T. Okada, M. Ohzono, Y. Yamanaka, M. Kosuga, M. Yoshimi and Y. Asano	2020	Spatiotemporal Change in the Stress State Around the Hypocentral Area of the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB018515	1(5)イ		2016年熊本地震前後の稠密な観測による応力場推定を行い、熊本地震の断層形状、一部の地域での差応力絶対値を求めた。差応力は10MPa程度と低いことが明らかになった。
Suemoto, Y., T. Ikeda, T. Tsuji and Y. Iio	2020	Identification of a nascent tectonic boundary in the San-in area, southwest Japan, using a 3D S-wave velocity structure obtained by ambient noise surface wave tomography	Earth Planet. Space	72	15	○	10.1186/s40623-020-1139-y	1(5)イ		
Terakawa, T., W. Seo K.H. Kim and J.H. Ree	2020	Three-Dimensional Pore Fluid Pressures in Source Region of 2017 Pohang Earthquake Inferred From Earthquake Focal Mechanisms	Geophys. Res. Lett.	47		○	10.1029/2019GL085964	1(5)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Nakagomi, K., T. Terakawa, S. Matsumoto and S. Horikawa	2021	Stress and pore fluid pressure control of seismicity rate changes following the 2016 Kumamoto earthquake, Japan	Earth Planet. Space	73		○	10.1186/s40623-021-01358-8	1(5)イ		
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2021	Prevalence of shallow low-frequency earthquakes in the continental crust	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021391	○	10.1029/2020JB021391	1(5)イ		
塩崎一郎・宇都智史・上嶋誠・村上英記	2021	豊後水道周辺域における陸上電磁気観測	「スロー地震学」成果集Ⅲ (2019-2020)		39			1(5)イ		
Usui, Y., M. Uyeshima, T. Ogawa, R. Yoshimura, N. Oshiman, S. Yamaguchi, H. Toh, H. Murakami, K. Aizawa, T. Tanbo, Y. Ogawa, T. Nishitani, S. Sakanaka, M. Mishina, H. Satoh, T. Goto, T. Kasaya, T. Mogi, Y. Yamaya, I. Shiozaki and Y. Honkura	2021	The data of the 2-D inversion combining Wideband-MT and Network-MT datasets observed around the Atotsugawa fault, central Japan	The University of Tokyo				10.15083/00080173	1(5)イ		
今西祐一・西山竜一	2020	弟子屈における絶対重力測定 (2019年および2020年)	東京大学地震研究所彙報	95	9-13	○		1(5)イ	1(2)	
名和一成・今西祐一・西山竜一・高橋浩晃・大園真子・岡田和見・山口照寛・本多亮	2020	絶対重力計との比較による超伝導重力計のスケールファクターの推定 - 2019年9月北海道大学弟子屈観測所において -	地質調査研究報告	71	63-76	○		1(5)イ	1(2)	
今西祐一・西山竜一・本多亮・田村良明	2021	絶対重力計FG5 #109と#241の器差の検定について - 東京および富士山における相互比較 -	測地学会誌	67		○		1(5)イ	1(2), 5(3)ア, 5(3)イ	
Nishimura, T., Y. Yokota, K. Tadokoro and T. Ochi	2018	Strain partitioning and interplate coupling along the northern margin of the Philippine Sea plate, estimated from Global Navigation Satellite System and Global Positioning System-Acoustic data	Geosphere	14		○	10.1130/GES01529.1	1(5)イ	1(2)イ, 2(2)ア, 5(3)イ	
Fukahata, Y. and M. Hashimoto	2016	Simultaneous estimation of the dip angles and slip distribution on the faults of the 2016 Kumamoto earthquake through a weak nonlinear inversion of InSAR data	Earth Planet. Space	68	204	○	10.1186/s40623-016-0580-4	1(5)イ	1(3)ア	
Yukutake, Y. and Y. Iio	2017	Why do aftershocks occur? Relationship between mainshock rupture and aftershock sequence based on highly resolved hypocenter and focal mechanism distributions	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0650-2	1(5)イ	1(3)ア	
Watanabe, T., M. Makimura, Y. Kaiwa, G. Desbois, K. Yoshida and K. Michibayashi	2019	Elastic wave velocity and electrical conductivity in a brine-saturated rock and microstructure of pores	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1112-9	1(5)イ	1(3)ア	
Hayashida, Y., S. Matsumoto, Y. Iio, S. Sakai and A. Kato	2020	Non-Double-Couple Microearthquakes in the Focal Area of the 2000 Western Tottori Earthquake (M 7.3) via Hyperdense Seismic Observations	Geophys. Res. Lett.	47	e2019GL084841	○	10.1029/2019GL084841	1(5)イ	1(3)ア	2000年鳥取県西部地震震源域で1000点に及ぶ地震観測を行った結果、余震の中には通常の断層滑りのほかに、クラックが開く成分を持つ地震があることが見いだされた。この結果は断層帯の成熟過程や余震発生過程の理解にとって重要な結果である。
吉田圭佑・松澤暢	2020	近年の地震観測により得られた東北日本の応力場の不均質性と断層強度および地震発生機構の関係	地学雑誌	129	451-471	○	10.5026/jgeography.129.451	1(5)イ	1(3)ア	
Yukutake, Y., T. Iwata and Y. Iio	2020	Estimation of the heterogeneity of stress fields using misfit angles in focal mechanisms	Tectonophysics			○	10.1016/j.tecto.2020.228553	1(5)イ	1(3)ア	
Ichihara, H., T. Mogi, H. Satoh and Y. Yamaya	2019	Electrical resistivity modeling around the Hidaka collision zone, northern Japan: regional structural background of the 2018 Hokkaido Eastern Iburu earthquake (Mw 6.6)	Earth Planet. Space	71	100	○	10.1186/s40623-019-1078-7	1(5)イ	1(3)ア, 1(3)イ	
Usui, Y., M. Uyeshima, T. Ogawa, R. Yoshimura, N. Oshiman, S. Yamaguchi, H. Toh, H. Murakami, K. Aizawa, T. Tanbo, Y. Ogawa, T. Nishitani, S. Sakanaka, M. Mishina, H. Satoh, T. Goto, T. Kasaya, T. Mogi, Y. Yamaya, I. Shiozaki and Y. Honkura	2021	Electrical resistivity structure around the Atotsugawa fault, central Japan, revealed by a new 2-D inversion method combining wideband-MT and Network-MT data sets	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB020904	○	10.1029/2020JB020904	1(5)イ	1(3)ア, 1(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Aizawa, K., S. Takakura, H. Asaue, K. Koike, R. Yoshimura, K. Yamazaki, S. Komatsu, M. Utsugi, H. Inoue, K. Tsukamoto, M. Uyeshima, T. Koyama, W. Kanda, T. Yoshinaga, N. Matsushima, K. Uchida, Y. Tsukashima, T. Matsushima, H. Ichihara, D. Muramatsu, Y. Teguri, A. Shito, S. Matsumoto and H. Shimizu	2021	Electrical conductive fluid-rich zones and their influence on the earthquake initiation, growth, and arrest processes: observations from the 2016 Kumamoto earthquake sequence, Kyushu Island, Japan	Earth Planet. Space	73	12	○	10.1186/s40623-020-01340-w	1(5)イ	1(3)ア, 1(3)イ, 2(1)イ	熊本地震震源域周辺で高空間分解の比抵抗構造を推定し、高精度震源分布やすべり分布との対応を検討することで、これまで指摘されてこなかった以下の項目をはじめ指摘した。1. 低比抵抗体のそばで破壊が開始すると、大きな地震に発展しやすい。2. 低比抵抗体の空間分布が地震の最大規模を規定する。3. 流体と間隙水圧分布の不均質が上記の2つを支配する。これらは内陸地震の空間ポテンシャル評価を行う上で重要な知見となる。
岩田貴樹・吉田圭佑・深畑幸俊	2019	地震学的データを用いた応力インバージョン	地学雑誌	128(5)	797-811	○	10.5026/jgeography.128.797	1(5)イ	1(3)ア, 1(5)ア	
Terakawa, T. and E. Hauksson	2018	Absolute Stress Fields in the Source Region of the 1992 Landers Earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	8874-8890	○	10.1029/2018JB015765	1(5)イ	1(3)ア, 2(1)イ	
Matsumoto, S., T. Okada, T. Terakawa, M. Uyeshima and Y. Iio	2020	The advancement of research on inland earthquake generation 2014-2018	J. Disaster Res.	15	96-105	○	10.20965/jdr.2020.p0096	1(5)イ	1(3)ア, (5)エ	
Yoshida, K.	2019	Prevalence of asymmetrical rupture in small earthquakes and its effect on the estimation of stress drop: A systematic investigation in inland Japan	Geosci. Lett.	6	16	○	10.1186/s40562-019-0145-z	1(5)イ	1(3)イ	
Yoshida, K., N. Uchida, S. Hirahara, T. Nakayama, T. Matsuzawa, T. Okada, Y. Matsumoto and A. Hasegawa	2020	2019 M6.7 Yamagata-Oki earthquake in the stress shadow of 2011 Tohoku-Oki earthquake: Was it caused by the reduction in fault strength?	Tectonophysics	793	228609	○	10.1016/j.tecto.2020.228609	1(5)イ	1(3)イ	2019年山形県沖の地震が東北沖地震・余効変動のストレスシャドウで発生した。余震分布のマイグレーションに基づき、この地震が深部からの間隙水圧拡散による断層強度低下により発生した可能性を示した。
Fukushima, Y., S. Toda, S. Miura, D. Ishimura, J. Fukuda, T. Demachi and K. Tachibana	2018	Extremely early recurrence of intraplate fault rupture following the Tohoku-Oki earthquake	Nat. Geosci.	11	777-781	○	10.1038/s41561-018-0201-x	1(5)イ	1(3)イ, 2(2)ア	
Chiba, K., H. Ueda and T. Tanada	2017	Relationship Between b-Value Distribution and the Magma Plumbing System in and Around Mt. Tarumae, Japan	J. Disaster Res.	12(5)	932-943	○	10.20965/jdr.2017.p0932	1(5)イ	1(4)ア, 1(4)イ	
Hata, M., M. Uyeshima, S. Handa, M. Shimoizumi, Y. Tanaka, T. Hashimoto, T. Kagiya, H. Utada, H. Munekane, M. Ichiki and K. Fuji-ta	2017	3-D electrical resistivity structure based on geomagnetic transfer functions exploring the features of arc magmatism beneath Kyushu, Southwest Japan Arc	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	172-190	○	10.1002/2016JB013179	1(5)イ	1(4)ア, 1(5)ウ	
Yoshimura, R., Y. Ogawa, Y. Yukutake, W. Kanda, S. Komori, H. Hase, T. Goto, R. Honda, M. Harada, T. Yamazaki, M. Kamo, S. Kawasaki, T. Higa, T. Suzuki, Y. Yasuda, M. Tani and Y. Usui	2018	Resistivity characterisation of Hakone volcano, Central Japan, by three-dimensional magnetotelluric inversion	Earth Planet. Space	70	66	○	10.1186/s40623-018-0848-y	1(5)イ	1(4)ア, 1(5)ウ	
Muto, J., J.D.P. Moore, S. Barbot, T. Iinuma, Y. Ohta and H. Iwamori	2019	Coupled afterslip and transient mantle flow after the 2011 Tohoku earthquake	Sci. Adv.	5	eaaw1164	○	10.1126/sciadv.aaw1164	1(5)イ	1(5)ア	2011年東北沖地震の大滑り域を通る宮城-山形の2次元測線で、岩石の非線形流動特性および速度状態依存摩擦構成則を考慮することで、太平洋沿岸部の隆起が、深部の余効すべりによって引き起こされていることを解明した。また粘弾性緩和と余効すべりの相互作用によって沿岸部の沈降回復過程に影響がでること、相互作用は今後時間とともに徐々に大きくなることを示し、沿岸部の隆起の予測には岩石の変形特性の検討が必要なことを示した。
Fukahata, Y., A. Meneses-Gutierrez and T. Sagiya	2020	Detection of Plastic Strain Using GNSS Data of Pre- and Post-seismic Deformation of the 2011 Tohoku-oki Earthquake	Earth Planet. Space	72	28	○	10.1186/s40623-020-1144-1	1(5)イ	1(5)ア	測地データから弾性歪みと非弾性歪みを分離することは長年の課題であるが、東北沖地震前後のGNSSデータを解析することにより、非弾性歪みをさらに粘性歪みと塑性歪みに分離することに成功した。この結果、東北沖地震前は歪み速度が例外的に速い時期であったことが推察され、日本列島の歪み速度パラドックスの解決に繋がる成果となった。
Shimizu, K., Y. Yagi, R. Okuwaki and Y. Fukahata	2020	Development of an inversion method to extract information on fault geometry from teleseismic data	Geophys. J. Int.	220	1055-1065	○	10.1093/gji/ggz496	1(5)イ	1(5)ア	
Shimizu, K., Y. Yagi, R. Okuwaki and Y. Fukahata	2021	Construction of fault geometry by finite-fault inversion of teleseismic data	Geophys. J. Int.	224	1003-1014	○	10.1093/gji/ggaa501	1(5)イ	1(5)ア	
Yamaya, Y., T. Mogi, R. Honda, H. Hase, T. Hashimoto and M. Uyeshima	2017	Three-dimensional resistivity structure in Ishikari Lowland, Hokkaido, northeastern Japan? Implications to strain concentration mechanism	Geochemistry, Geophys. Geosystems	18	735-754	○	10.1002/2016GC006771	1(5)イ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Triahadini, A., K. Aizawa, Y. Teguri, T. Koyama, K. Tsukamoto, D. Muramatsu, K. Chiba and M. Uyeshima	2019	Magnetotelluric transect of Unzen graben, Japan: Conductors associated with normal faults	Earth Planet. Space	71 (28)		○	10.1186/s40623-019-1004-z	1(5)イ	1(5)ウ	
Yuan, Y., M. Uyeshima, Q. Huang, J. Tang, Q. Li and Y. Teng	2020	Continental-scale deep electrical resistivity structure beneath China	Tectonophysics	790		○	10.1016/j.tecto.2020.228559	1(5)イ	1(5)ウ、1(5)エ	
Aizawa K., H. Asaue, K. Koike, S. Takakura, M. Utsugi, H. Inoue, R. Yoshimura, K. Yamazaki, S. Komatsu, M. Uyeshima, T. Koyama, W. Kanda, T. Shiotani, N. Matsushima, M. Hata, T. Yoshinaga, K. Uchida, Y. Tsukashima, A. Shito, S. Fujita, A. Wakabayashi, K. Tsukamoto, T. Matsushima, M. Miyazaki, K. Kondo, K. Takashima, T. Hashimoto, M. Tamura, S. Matsumoto, Y. Yamashita, M. Nakamoto and H. Shimizu	2017	Seismicity controlled by resistivity structure: the 2016 Kumamoto earthquakes, Kyushu Island, Japan	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-016-0590-2	1(5)イ	1(5)エ	
Matsumoto, S., Y. Yamashita, M. Nakamoto, M. Miyazaki, S. Sakai, Y. Iio, H. Shimizu, K. Goto, T. Okada, M. Ohzono, T. Terakawa, M. Kosuga, M. Yoshimi and Y. Asano	2018	Prestate of stress and fault behavior during the 2016 Kumamoto Earthquake (M7.3)	Geophys. Res. Lett.	45 (2)	637-645	○	10.1002/2017GL075725	1(5)イ	1(5)エ	2016年熊本地震震源域において、地震発生前の稠密観測によって応力場を推定した。推定した応力場と布田川、日奈久断層形状から期待されるすべり方向が、本震で観測された複雑なすべり方向と相関を持っていることが見いだされた。これは大地震が不均質な応力場を反映して破壊が進むことを初めて観測から示したものであり、今後の強震動予測の高度化に資する。一方、応力場から期待される方向と異なる地震時すべりが火山の近傍で起こっていることがわかり、破壊の進展が火山によって作用を受けていることが示唆された。
Yamasaki, T., H. Takahashi, M. Ohzono, T. J. Wright and T. Kobayashi	2020	The influence of elastic thickness non-uniformity viscoelastic crustal response to magma emplacement: Application to the Kutcharo caldera, eastern Hokkaido, Japan	Geophys. J. Int.	224	701-718	○	10.1093/gji/ggaa440	1(5)イ	1(5)エ	
Yuasa, Y., S. Matsumoto, S. Nakao, T. Matsushima and T. Ohkura	2020	Inelastic strain rate and stress fields in and around an aseismic zone of Kyushu Island, Japan, inferred from seismic and GNSS data	Geophys. J. Int.	221 (1)	289-304	○	10.1093/gji/ggaa008	1(5)イ	1(5)エ	熊本西部の非地震体の原因について地震観測データとGNSS解析データの2つを用いて検討を行った。その結果、子に地域は相対的に強度が高く、その周辺で活発な活動が起こっていることが分かった。九州地方の地震活動のない領域において下部地殻の非弾性ひずみを地表のひずみ変化と地震のモーメントテンソルを使って推定した。非弾性変形が起こっている領域での変化は0.1 $\mu$ strain/yrにもおよび、温度が高いか流体が存在するあるいはその両方であることが示唆された。
Shito, A., S. Matsumoto, H. Shimizu, T. Ohkura, H. Takahashi, S. Sakai, T. Okada, H. Miyamachi, M. Kosuga, Y. Maeda, M. Yoshimi, Y. Asano and M. Okubo	2017	Seismic velocity structure in the source region of the 2016 Kumamoto earthquake sequence, Japan	Geophys. Res. Lett.	44 (15)	7766-7772	○	10.1002/2017GL074593	1(5)イ	1(5)エ、1(5)オ	詳細な地震は速度構造から熊本地震の発生場を解明し、破壊の開始点や複雑性と地震の発生について議論した。
Shito A., S. Matsumoto, T. Ohkura, H. Shimizu, S. Sakai, Y. Iio, H. Takahashi, H. Yakiwara, T. Watanabe, M. Kosuga, T. Okada, M. Yoshimi and Y. Asano	2020	3-D Intrinsic and Scattering Seismic Attenuation Structures Beneath Kyushu, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB018742	1(5)イ	1(5)エ、1(5)オ	
志藤あずさ・光岡郁穂・松本聡・松島健・相澤 広記・清水洋・内田和也・神蘭めぐみ・手操佳子・中元真美・宮野凛太郎・柳昌義・大園真子・岡田和見・勝俣啓・高田真秀・高橋浩晃・谷岡勇市郎・山口照寛・小菅正裕・東龍介・内田直希・江本賢太郎・太田雄策・岡田知己・海田俊輝・小園誠史・鈴木秀市・高木涼太・出町知嗣・中原恒・中山貴史・平原聡・松澤暢・三浦哲・山本希・今西和俊・内出崇彦・吉見雅行・青井真・浅野陽一・上野友岳・藤田英輔・阿部英二・飯高隆・岩崎貴哉・加藤愛太郎・蔵下英司・酒井慎一・椎名高裕・芹澤正人・田中伸一・中川茂樹・平田直・増田正孝・宮川幸治・八木健夫・渡邊篤志・後藤和彦・伊藤武男・奥田隆・寺川寿子・堀川信一郎・前田裕太・松廣健二郎・山中佳子・渡辺俊樹・飯尾能久・片尾浩・加納靖之・津田寛大・三浦勉・村本智也・山下裕亮・大久保慎人・山品匡史・大倉敬宏・中尾茂・平野舟一郎・宮町宏樹・八木原寛	2020	2016年熊本地震合同地震観測データ——地震学的解析の基礎的資料として——	地震 2	73	149-157	○	10.4294/zisin.2019-11	1(5)イ	1(5)エ、2(1)イ	2016年熊本地震合同地震観測データとそれ以前のデータを用いて震源域の三次元地震波速度構造、震源再決定、震源メカニズムを報告した。三次元地震波速度構造モデルおよび熊本地震発生後の震源情報を公開するものである。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Hashimoto, C. and T. Terakawa	2018	Stress data inversion to estimate collision rate distribution and its application to the Izu Peninsula, Japan	Tectonophysics	744	47-57	○	10.1016/j.tecto.2018.06.001	1(5)イ	2(1)ア	
Tsukahara, K. and Y. Takada	2018	Aseismic fold growth in southwestern Taiwan detected by InSAR and GNSS.	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0816-6	1(5)イ	2(1)イ	
Ohzono, M., H. Takahashi and C. Ito	2019	Spatiotemporal crustal strain distribution around the Ishikari-Teichi-Toen fault zone estimated from Global Navigation Satellite System data	Earth Planet. Space	71	50	○	10.1186/s40623-019-1024-8	1(5)イ	2(1)イ	
Takada, Y.	2019	Study of intra-plate crustal deformation before and after the 2011 Tohoku-Oki earthquake using InSAR and GNSS	J. Geod. Soc. Jpn.	65	1 - 13	○		1(5)イ	2(1)イ	東北地方太平洋沖地震によって内陸に引き起こされた火山性の地殻変動とこれまでの内陸地震の震源断層、および火山分布の関係を論じたもの。
Terakawa, T., M. Matsu'ura and A. Noda	2020	Elastic strain energy and pore-fluid pressure control of aftershocks	Earth Planet. Sci. Lett.	535		○	10.1016/j.epsl.2020.116103	1(5)イ	2(1)イ	
Takada, Y., T. Sagiya and T. Nishimura	2018	Interseismic crustal deformation in and around the Atotsugawa fault system, central Japan, detected by InSAR and GNSS	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0801-0	1(5)イ	2(1)イ, 2(2)イ	
飯尾能久・米田裕・澤田麻沙代・伊藤喜宏・片尾浩・富坂和秀・長岡愛理・松本聡・宮崎真大・酒井慎一・加藤愛太郎・林能成・山品匡史・大久保慎人・野口竜也・香川敬生	2017	鳥取県西部地域における満点地震観測	京大防災研究所年報	60	382-389			1(5)イ	2(1)イ, 3(1)ウ	
Matsumoto, S., T. Nishimura, and T. Ohkura	2016	Inelastic strain rate in the seismogenic layer of Kyushu Island, Japan	Earth Planet. Space	68(1)		○	10.1186/s40623-016-0584-0	1(5)イ	2(2)イ	微小地震の発震機構から地震発生層の地震による非弾性変形を見積もった。2016熊本地震の震源域はこの変形が大きい場所に隣接しており、応力集中が起こっていた可能性を指摘した。
Katsumata, K., M. Ichiyonagi, M. Ohzono, H. Aoyama, R. Tanaka, M. Takada, T. Yamaguchi, K. Okada, H. Takahashi, S. Sakai, S. Matsumoto, T. Okada, T. Matsuzawa, S. Hirano, T. Terakawa, S. Horikawa, M. Kosuga, H. Katao, Y. Iio, A. Nagaoka, N. Tsumura, T. Ueno and the Group for the Aftershock Observations of the 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake	2019	The 2018 Hokkaido Eastern Iburi earthquake (MJMA = 6.7) was triggered by a strike-slip faulting in a stepover segment: insights from the aftershock distribution and the focal mechanism solution of the main shock	Earth Planet. Space	71(1)	53	○	10.1186/s40623-019-1032-8	1(5)イ	2(2)イ	本研究では、定常地震観測網のデータを用いて、本震の発震機構解と余震の震源を決定した。その結果、日本で発生する他の内陸地震に比べ、余震の震源は非常に深く、深さ20~40kmに集中していた。余震域は3つのセグメントで構成され、1つは余震域の北部、2つ目は南部、3つ目は他の2つのセグメントの中間に分布していた。本震のCMT解は逆断層を示し、P波初動を用いて本研究で決定された発震機構解は横ずれ断層を示す。この不一致は、小さな横ずれ断層として中間地点で破壊が始まり、その後、北部と南部で2つの大きな逆断層の破壊が誘発されたと考えたと説明ができる。
Chen, S., J. Zhuang, X. Li, H. Lu and W. Xu	2019	Bayesian approach for network adjustment for gravity survey campaign: methodology and model test	J. Geod.	93	681-700	○	10.1007/s00190-018-1190-7	1(5)イ	2(3)	
Matsumoto, S., Y. Iio, S. Sakai and A. Kato	2020	Inelastic strain in the hypocentral region of the 2000 Western Tottori Earthquake (M7.3) inferred from the seismic moment tensor of the aftershocks	Earth Planet. Space	72	62	○	10.1186/s40623-020-01186-2	1(5)イ	2(3)	
Sun, Y.C., M. Uyeshima, H.X. Ren, Q.H. Huang, K. Aizawa, K. Tsukamoto, W. Kanda, K. Seki, T. Kishita, T. Ohminato, A. Watanabe, J.J. Ran and X.F. Chen	2019	Numerical simulations to explain the coseismic electromagnetic signals: a case study for a M5.4 aftershock of the 2016 Kumamoto earthquake	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1122-7	1(5)イ	2(3), 5(5)	
Kawamoto, S., Y. Hiyama, Y. Ohta and T. Nishimura	2016	First result from the GEONET real-time analysis system (REGARD): the case of the 2016 Kumamoto Earthquakes	Earth Planet. Space	68	1-12	○	10.1186/s40623-016-0564-4	1(5)イ	3(2)ア, 5(3)イ	
上芝晴香・三浦優司・宮原伐折羅・仲井博之・本田昌樹・撈上泰亮・山下達也・矢来博司・小林知勝・森下遊	2016	だいち2号SAR 干渉解析による熊本地震に伴う地殻変動の検出	国土地理院時報	128	139-146			1(5)イ	5(3)ア	
矢来博司・小林知勝・森下遊・藤原智・檜山洋平・川元智司・上芝晴香・三浦優司・宮原伐折羅	2016	熊本地震に伴う地殻変動から推定された震源断層モデル	国土地理院時報	128	169-176			1(5)イ	5(3)ア	
Morishita, Y., T. Kobayashi, S. Fujiwara and H. Yurai	2018	Complex crustal deformation of the 2016 Kaikoura, New Zealand, earthquake revealed by ALOS-2	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	1746-1756	○	10.1785/0120180070	1(5)イ	5(3)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
清水洋・松本聡・酒井慎一・岡田知己・渡辺俊樹・飯尾能久・相澤広記・松島健・高橋浩晃・中尾茂・鈴木康弘・後藤秀昭・大倉敬宏・山本希・中道治久・山中浩明・神野達夫・三宅弘恵・織藤一起・浅野公之・松島信一・福岡浩・若井明彦・大井昌弘・田村圭子・木村玲欧・井ノ口宗成・前原喜彦・赤星朋比古	2016	2016年熊本地震と関連する活動に関する総合調査	自然災害科学総合シンポジウム講演論文集	53	73 - 90			1(5)イ		
Takada, Y., K. Katsumata, H. Katao, M. Kosuga, Y. Iio and T. Sagiya	2016	Stress accumulation process in and around the Atotsugawa fault, central Japan, estimated from focal mechanism analysis	Tectonophysics			○	10.1016/j.tecto.2016.05.013	1(5)イ	2(2)イ	
<b>ウ. 火山噴火を支配するマグマ供給系・熱水系の構造の解明</b>										
鎌山恒臣・宇津木充・吉川慎	2016	大分県万年山周辺の表層電気伝導度分布	大分県温泉調査研究会報告	67	41-46			1(5)ウ		
Koshida, K., A. Ishikawa, H. Iwamori and T. Komiya	2016	Petrology and geochemistry of mafic rocks in the Acasta Gneiss Complex: Implications for the oldest mafic rocks and their origin	Precambrian Res.	283	190-207	○	10.1016/j.precamres.2016.07.004	1(5)ウ		
田村慎	2016	有珠山北西山麓、洞爺湖温泉周辺におけるMT法探査(序報)	北海道地質研究所報告	88	25-29			1(5)ウ		
Huang, Y.C., C.H. Lin and T. Kagiya	2017	Shallow crustal velocities and volcanism suggested from ambient noise studies using a dense broadband seismic network in the Tatun Volcano Group of Taiwan.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	341	6-20	○		1(5)ウ		
Iwamori, H., K. Yoshida, H. Nakamura, T. Kuwatani, M. Hamada, S. Haraguchi and K. Ueki	2017	Classification of geochemical data based on multivariate statistical analyses: Complementary roles of cluster, principal component, and independent component analyses	Geochemistry, Geophys. Geosystems	18		○	10.1002/2016GC006663	1(5)ウ		
鎌山恒臣・宇津木充・吉川慎	2017	大分県玖珠町周辺の表層電気伝導度分布	大分県温泉調査研究会報告	68	61-66			1(5)ウ		
鎌山恒臣	2017	表層電気伝導度から示唆される阿蘇火山の活動様式と中部九州の活構造	CA研究会論文集		1-8			1(5)ウ		
鎌山恒臣・吉川慎・大沢信二・三島壮智・黄有志	2017	霧島火山群硫黄山周辺の地熱活動の変化	京都大学防災研究所年報	60B	408-416			1(5)ウ		
Nishizawa, T., H. Nakamura, T. Churikova, B. Gordeychik, O. Ishizuka, S. Haraguchi, T. Miyazaki, B.S. Vaglarov, Q. Chang, M. Hamada, J. Kimura, K. Ueki, C. Toyama, A. Nakao and H. Iwamori	2017	Genesis of ultra-high-Ni olivine in high-Mg andesite lava triggered by seamount subduction	Sci. Rep.	7		○	10.1038/s41598-017-10276-3	1(5)ウ		
高橋良・岡崎紀俊・田村慎・橋本武志・高橋浩晃・道下剛史・茂木透・荻野激・八幡正弘・村山泰司・青山裕・田中良・山谷祐介・奥田真央・田利信二郎	2017	火山体内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化(十勝岳)	北海道地質研究所調査研究報告	44	1-194			1(5)ウ		
Ueki, K. and H. Iwamori	2017	Geochemical differentiation processes for arc magma of the Sengan volcanic cluster, Northeastern Japan, constrained from principal component analysis	Lithos	290-291	60-75	○	10.1016/j.lithos.2017.08.001	1(5)ウ		
Hamada, M., J. Kimura, Q. Chang, T. Hanyu, T. Ushikubo, K. Shimizu, M. Ito, T. Ozawa and H. Iwamori	2018	High-precision in situ analysis of Pb isotopes in melt inclusions by LA-ICP-MS and application of Independent Component Analysis	Geochem. J.	51		○	10.2343/geochemj.2017.0497	1(5)ウ		
Huang, Y.C., T. Ohkura, T. Kagiya, S. Yoshikawa and H. Inoue	2018	Shallow volcanic reservoirs and pathways beneath Aso caldera revealed using ambient seismic noise tomography	Earth Planet. Space	70	169	○	10.1186/s40623-018-0941-2	1(5)ウ		
Nakanishi, N., T. Yokoyama, S. Okabayashi, T. Usui and H. Iwamori	2018	Re-Os Isotope Systematics and Fractionation of Siderophile Elements in Metal Phases from CBa Chondrites	Meteoritics Planet. Sci.			○	10.1111/maps.13050	1(5)ウ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Takahashi, K., S. Takakura, N. Matsushima and I. Fujii	2018	Relationship between volcanic activity and shallow hydrothermal system at Meakandake volcano, Japan, inferred from geomagnetic and audiofrequency magnetotelluric measurements	J. Volcanol. Geotherm. Res.	349	351-369	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.11.019	1(5)ウ		
Takahashi, R. and M. Yahata	2018	Effects of subvolcanic hydrothermal systems on edifice collapses and phreatic eruptions at Tokachidake volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	352	117-129	○		1(5)ウ		
Usui, Y., T. Kasaya, Y. Ogawa and H. Iwamoto	2018	Marine magnetotelluric inversion with an unstructured tetrahedral mesh	Geophys. J. Int.	214	952-974	○	10.1093/gji/ggy171	1(5)ウ		
Yamazaki, T., T. Kobayashi, T.J. Wright and Y. Fukahata	2018	Viscoelastic crustal deformation by magmatic intrusion: A case study in the Kutcharo caldera, eastern Hokkaido, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	349	128-145	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.10.011	1(5)ウ		
Hanyu, T., K. Shimizu, T. Ushikubo, J.I. Kimura, Q. Chang, M. Hamada, M. Ito, H. Iwamori and T. Ishikawa	2019	Tiny droplets of ocean island basalts unveil Earth's deep chlorine cycle	Nat. Commun.	10		○	10.1038/s41467-018-07955-8	1(5)ウ		
風間卓仁	2019	日本の火山地域における重力観測の現状と陸水擾乱問題	火山	64	189-212	○	10.18940/kazan.64.3.189	1(5)ウ		
風間卓仁・安部祐希・原田昌武・加藤照之	2019	箱根火山における相対重力繰り返し測定(2018年7月~2019年10月)	神奈川県温泉地学研究所報告	51	25-36	○		1(5)ウ		
Kharitonova, N., G. Chelnokov, I. Bragin, H. Nakamura, H. Iwamori, N. Morikawa and A. Korzun	2019	The geochemistry of water and gas phases from high pCO2 sparkling springs within the northern Sikhote-Alin ridge region, Russian Far East	E3S Web of Conferences	98	1025	○	10.1051/e3sconf/20199801025	1(5)ウ		
Kurihara, R., K. Obara, A. Takeo and Y. Tanaka	2019	Deep Low-Frequency Earthquakes Associated With the Eruptions of Shinmoe-dake in Kirishima Volcanoes	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	13079-13095	○	10.1029/2019JB018032	1(5)ウ		
Nakamura, H., H. Iwamori, M. Nakagawa, T. Shibata, J.-I. Kimura, T. Miyazaki, Q. Chang, B.S. Vaglarov, T. Takahashi and Y. Hirahara	2019	Geochemical mapping of slab-derived fluid and source mantle along Japan arcs	Gondwana Res.	70	36-49	○	10.1016/j.gr.2019.01.007	1(5)ウ		
Ohkura, T., A. Yokoo, Y. Miyabuchi, J. Fairley, C. Cigolini and V. Acocella	2019	Special issue "Advancement of our knowledge on Aso volcano: current activity and background"	Earth Planet. Space	71		○		1(5)ウ		
Okabayashi, S., T. Yokoyama, N. Nakanishi and H. Iwamori	2019	Fractionation of highly siderophile elements in metal grains from unequilibrated ordinary chondrites: Implications for the origin of chondritic metals	Geochim. Cosmochim. Acta.	244	197-215	○	10.1016/j.gca.2018.10.003	1(5)ウ		
Tseng, K.H., Y. Ogawa, T. Kunitomo, M. Fukai and H. Ichihara	2019	A controlled-source electromagnetic investigation using new developed EM-ACROSS signal at Kusatsu Shirane volcano	2019年CA研究会論文集	55				1(5)ウ		
Utsugi, M.	2019	3-D inversion of magnetic data based on the L1-L2 norm regularization	Earth Planet. Space	71	73	○	10.1186/s40623-019-1052-4	1(5)ウ		
Yasukawa, K., J. Ohta, T. Miyazaki, B.S. Vaglarov, Q. Chang, K. Ueki, C. Toyama, J.-I. Kimura, E. Tanaka, K. Nakamura, K. Fujinaga, K. Iijima, H. Iwamori and Y. Kato	2019	Statistic and isotopic characterization of deep-sea sediments in the western North Pacific Ocean: Implications for genesis of the sediment extremely enriched in rare earth elements. Geochemistry	Geochemistry, Geophys. Geosystems	20		○	10.1029/2019GC008214	1(5)ウ		
Asaah, A. N. E., T. Yokoyama, F. T. Aka, H. Iwamori, T. Kuritani, T. Usui, M. Gountie Dedzo, J. Tamen, T. Hasegawa, E. M. Fozing, M. J. Wirmvem and A. L. Nche	2020	Major/trace elements and Sr-Nd-Pb isotope systematics of lavas from lakes Barombi Mbo and Barombi Koto in the Kumba graben, Cameroon volcanic line: Constraints on petrogenesis	J. African Earth Sci.	161		○	10.1016/j.jafrearsci.2019.103675	1(5)ウ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Iwamori, H., H. Nakamura, Q. Chang, N. Morikawa and S. Haraguchi	2020	Multivariate statistical analyses of rare earth element compositions of spring waters from the Arima and Kii areas, Southwest Japan	Geochem. J.	54		○	10.2343/g eochem.j. .0583	1(5)ウ		
Kawano, Y., T. Isse, A. Takeo, H. Kawakatsu, D. Suetsugu, H. Shiobara, H. Sugioka, A. Ito, Y. Ishihara, S. Tanaka, M. Obayashi, T. Tonegawa and J. Yoshimitsu	2020	Persistent Long - Period Signals Recorded by an OBS Array in the Western - Central Pacific: Activity of Ambrym Volcano in Vanuatu	Geophys. Res. Lett.	47	e2020GL089108	○	10.1029/2020GL089108	1(5)ウ		
Matsushima, N., M. Utsugi, S. Takakura, T. Yamasaki, M. Hata, T. Hashimoto and M. Uyeshima	2020	Magmatic-hydrothermal system of Aso Volcano, Japan, from electrical resistivity structures	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01180-8	1(5)ウ		
中道治久・山本圭吾・山田大志・為栗健・高橋幸祐・青山裕・山本希・野上健治・及川純・前田裕太・大倉敬宏・松島健・八木原寛・菅原道智・塚本果織・岸本博志・工藤直樹・山村卓也・平原聡・八木健夫・堀川信一郎・吉川慎・園田忠臣・仲谷幸浩・平野舟一郎・宮町宏樹・田中佑樹・吉田英臣・西川空良・甲斐建・高橋龍平・田ノ上和志・川辺智士・若林環・村松輝・橋本匡・大須賀啓士	2020	2019年桜島火山人工地震探査の概要と過去の探査との比較	京都大学防災研究所年報	63B	100-107			1(5)ウ		
Nakamura, H., A. Sano, S. Kagami, T. Yokoyama, A. Ishikawa, T. Komiya and H. Iwamori	2020	Compositional heterogeneity of Archean mantle estimated from Sr and Nd isotopic systematics of basaltic rocks from North Pole, Australia, and the Isua supracrustal belt, Greenland	Precambrian Res.	347		○	10.1016/j.precamres.2020.105803	1(5)ウ		
筒井智樹・為栗健・井口正人	2020	始良カルデラにおける地震波反射面の検出	京都大学防災研究所年報	63B	118-135			1(5)ウ		
Ye, T., X. Chen, Q. Huang, L. Zhao, Y. Zhang and M. Uyeshima	2020	Bifurcated Crustal Channel Flow and Seismogenic Structures of Intraplate Earthquakes in Western Yunnan, China as Revealed by Three - Dimensional Magnetotelluric Imaging	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB018991	1(5)ウ		
Ichiki, M., T. Kaida, T. Nakayama, S. Miura, M. Yamamoto, Y. Morita and M. Uyeshima	2021	Magma reservoir beneath Azumayama Volcano, NE Japan, as inferred from a three-dimensional electrical resistivity model explored by means of magnetotelluric method	Earth Planet. Space		in press	○		1(5)ウ		吾妻山付近の深さ20km程度までの比抵抗構造を推定した。大穴火口を中心とした南北約20km、東西約15km、深さ約3-15kmの範囲に顕著な低比抵抗領域が確認できた。この低比抵抗領域の広がりは、東北沖地震時の沈降をInSAR解析で得た低粘性領域より精緻化したマグマ溜りのイメージを提供した。
筒井智樹・為栗健・井口正人	2021	人工地震記録による始良カルデラ西部の地殻内S波地震反射面の推定	火山	66	71-81	○		1(5)ウ		人工地震観測記録と自然地震観測記録の両方に現れる後続相から始良カルデラ西部の海面下13.6 kmに明瞭なS波地震波速度不連続面の存在することを指摘した論文。人工地震記録に現れた後続相の走時は地下13.6 kmのS波速度不連続面に入射したP波が反射時S波に変換したもので説明ができる。この不連続面は始良カルデラ西部を横断する自然地震記録にS波後続相の存在することも説明でき、始良カルデラ地下のマグマだまりの上面である可能性を指摘した。
若林環・風間卓仁	2021	京都大学～比叡山頂間の高頻度キャンペーン重力データから推定された可搬型相対重力計の相対スケールファクター	北海道大学地球物理学研究報告	84	11-20		10.14943/gbhu.84.11	1(5)ウ		
Obayashi, M., J. Yoshimitsu, H. Sugioka, A. Ito, T. Isse, H. Shiobara, D. Reymond and D. Suetsugu	2016	Mantle plumes beneath the South Pacific superswell revealed by finite frequency P tomography using regional seafloor and island data	Geophys. Res. Lett.	43		○	10.1002/2016GL070793	1(5)ウ	1(1)ウ	
Yoshida, M.	2016	Formation of a future supercontinent through plate motion-driven flow coupled with mantle downwelling flow	Geology	44	755-758	○	10.1130/G38025.1	1(5)ウ	1(1)ウ	
Suetsugu, D., H. Shiobara, H. Sugioka, A. Ito, T. Isse, Y. Ishihara, S. Tanaka, M. Obayashi, T. Tonegawa, J. Yoshimitsu and T. Kobayashi	2019	High QScS beneath the Ontong Java Plateau	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1077-8	1(5)ウ	1(1)ウ	
Tanaka, S., W. Siripunvaraporn, S. Boonchaisuk, S. Noisagool, T. Kim, K. Kawai, Y. Suzuki, Y. Ishihara, R. Iritani, K. Miyakawa, N. Takeuchi and H. Kawakatsu	2019	Thai Seismic Array (TSAR) Project	Bull. Earthq. Res. Inst.	94	1月11日	○		1(5)ウ	1(1)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yoshida, M.	2019	Influence of convection regimes of two-layer thermal convection with large viscosity contrast on the thermal and mechanical states at the interface of the two layers: Implications for dynamics in the present-day and past Earth	Phys. Fluids	31		○	10.1063/1.5119753	1(5)ウ	1(1)ウ	
Miyagoshi, T., M. Kameyama and M. Ogawa	2020	Tectonic plates in 3D mantle convection model with stress-history-dependent rheology	Earth Planet. Space			○	10.1186/s40623-020-01195-1	1(5)ウ	1(1)ウ	
Abe, Y., T. Ohkura, T. Shibutani, K. Hirahara, S. Yoshikawa and H. Inoue	2017	Low-velocity zones in the crust beneath Aso caldera, Kyushu Japan derived from receiver function analyses	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122		○	10.1002/2016JB013686	1(5)ウ	1(2)	
Hasegawa, T., A.F. Tongwa, M. Miyabuchi, A. Anye, T. Kobayashi, K. Kaneko, A.N.E. Asaahk, B.K. Issa, T. Ohba, M. Kusakabe and J.V. Hell	2019	Eruption history and petrogenesis of rocks from Nyos volcano (NW Cameroon): Evidence from lithostratigraphy and geochemistry	J. Volcanol. Geotherm. Res.	378	51-71	○	10.1016/j.jvolgeores.2019.04.003	1(5)ウ	1(2)	
Kaneko, K., K. Mishiro and Y. Tatsumi	2019	Control of volcanic activity by crustal structure: Inference from the Izu-Bonin-Mariana and Northeast Japan arcs	Geophys. Res. Lett.	46	12968-12976	○	10.1029/2019GL084554	1(5)ウ	1(2)	
Baba, K., N. Tada, H. Ichihara, Y. Hamano, H. Sugioka, T. Koyama, A. Takagi and M. Takeo	2020	Two independent signals detected by ocean bottom electromagnetometers during a non-eruptive volcanic event: Ogasawara Island arc volcano, Nishinoshima	Earth Planet. Space	72	112	○	10.1186/s40623-020-01240-z	1(5)ウ	1(2)	
Mannen, K., T. Hasenaka, A. Higuchi, K. Kiyosugi and Y. Miyabuchi	2020	Simulations of Tephra Fall Deposits From a Bending Eruption Plume and the Optimum Model for Particle Release	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB018902	1(5)ウ	1(2)	
Nakaoka, R., S. Kado, S. Hasegawa, K. Suzuki-Kamata, O. Ishizuka, S. Sekimoto, H. Kawabata and Y. Tatsumi	2020	Teshima pyroclastics: Onset of characteristic Setouchi magmatism induced by slab melting at 14.8 Ma	Island Arc	30	1-15	○	10.1111/iar.12378	1(5)ウ	1(2)	
里和玲伊・鈴木桂子・中岡礼奈	2020	薩摩半島南部海岸沿いに点在する阿多火砕流堆積物の粗粒岩相の岩相記載と定置温度の推定	地質技術	67	21-32	○		1(5)ウ	1(2)	
Tatsumi, Y., N. Suenaga, S. Yoshioka, K. Kaneko and T. Matsumoto	2020	Contrasting volcano spacing along SW Japan arc caused by difference in age of subducting lithosphere	Sci. Rep.	10	15005	○	10.1038/s41598-020-72173-6	1(5)ウ	1(2)	
Yasuda, Y., E. Sato and K. Suzuki-Kamata	2020	Paleomagnetic constraints on a time-stratigraphic framework for the evolution of Ohachidaira volcano and the summit caldera, central Hokkaido, Japan	Bull. Volcanol.	82	1-24	○	10.1007/s00445-020-01403-6	1(5)ウ	1(2)	
島伸和	2021	鬼界海底カルデラ探査プロジェクト - 巨大カルデラ噴火に至るメカニズムの理解	マリンエンジニアリング	56	139-143	○	10.5988/jime.56.139	1(5)ウ	1(2)	
Noguchi, R., A. Hoskuldsson and K. Kurita	2016	Detailed topographical, distributional, and material analyses of rootless cones in Myvatn, Iceland	J. Volcanol. Geotherm. Res.	318	89-102	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.03.020	1(5)ウ	1(4)ア	
Seki, K., W. Kanda, T. Tanbo, T. Ohba, Y. Ogawa, S. Takakura, K. Nogami, M. Ushioda, A. Suzuki, Z. Saito and Y. Matsunaga	2016	Resistivity structure and geochemistry of the Jigokudani Valley hydrothermal system, Mt Tateyama, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	325	15-26	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.06.010	1(5)ウ	1(4)ア	
Terada, A. and T. Hashimoto	2017	Variety and sustainability of volcanic lakes: Response to subaqueous thermal activity predicted by a numerical model	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	6108-6130	○	10.1002/2017JB014387	1(5)ウ	1(4)ア	
Usui, Y., Y. Ogawa, K. Aizawa, W. Kanda, T. Hashimoto, T. Koyama, Y. Yamaya and T. Kagiyama	2017	Three-dimensional resistivity structure of Asama Volcano revealed by data-space magnetotelluric inversion using unstructured tetrahedral elements	Geophys. J. Int.	208	1359-1372	○	10.1093/gji/ggw459	1(5)ウ	1(4)ア	
Hata, M., N. Matsushima, S. Takakura, M. Utsugi, T. Hashimoto and M. Uyeshima	2018	Three-dimensional electrical resistivity modeling to elucidate the crustal magma supply system beneath Aso caldera, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	6334-6346	○	10.1029/2018JB015951	1(5)ウ	1(4)ア	
鍵山恒臣	2018	熱と電磁気の出会い—火山活動の定期的理解にむけて	2018年CA研究会論文集					1(5)ウ	1(4)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Noguchi, R., A. Hamada, I. Suzuki and K. Kurita	2018	Experimental approach to rootless eruptions using kitchen materials	Earth Planet. Space	70	208	○	10.1186/s40623-018-0974-6	1(5)ウ	1(4)ア	
Shinohara, H., N. Geshi, A. Yokoo, T. Ohkura and A. Terada	2018	Salt shell fallout during the ash eruption at the Nakadake crater, Aso volcano, Japan: evidence of an underground hydrothermal system surrounding the erupting vent	Earth Planet. Space	70	46	○	10.1186/s40623-018-0798-4	1(5)ウ	1(4)ア	
Shoji, D., R. Noguchi, S. Otsuki and H. Hino	2018	Classification of volcanic ash particles using a convolutional neural network and probability	Sci. Rep.	8	8111	○	10.1038/s41598-018-26200-2	1(5)ウ	1(4)ア	
Kanda, W., M. Utsugi, S. Takakura and H. Inoue	2019	Hydrothermal system of the active crater of Aso volcano (Japan) inferred from a three-dimensional resistivity structure model	Earth Planet. Space	71	73	○	10.1186/s40623-019-1017-7	1(5)ウ	1(4)ア	
野上健治	2019	日本近海における海底火山活動とその観測	水路	191	14-21		https://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-1000000012598-00	1(5)ウ	1(4)ア	
Okamoto, K., H. Asanuma, T. Ishibashi, Y. Yamaya, H. Saishu, N. Yanagisawa, T. Mogi, N. Tsuchiya, A. Okamoto, S. Naganawa, Y. Ogawa, K. Ishitsuka, Y. Fujimitsu, K. Kitamura, T. Kajiwara, S. Horimoto and K. Shimada	2019	Geological and engineering features of developing ultra-high-temperature geothermal systems in the world	Geothermics	82	267-281	○	10.1016/j.geothermics.2019.07.002	1(5)ウ	1(4)ア	
東京大学地震研究所 (2019)	2019	第 145 回火山噴火予知連絡会資料 (2019 年 12 月)						1(5)ウ	1(4)ア	
Abdallah, S., M. Utsugi, K. Aizawa, M. Uyeshima, W. Kanda, T. Koyama and T. Shiotani	2020	Three-dimensional electrical resistivity structure of the Kuju volcanic group, Central Kyushu, Japan revealed by magnetotelluric survey data	J. Volcanol. Geotherm. Res.	400	106898	○	10.1016/j.jvolgeores.2020.106898	1(5)ウ	1(4)ア	
James, M.R., B.B. Carr, F. D'Arcy, A.K. Diefenbach, H.R. Dietterich, A. Fornaciai, E. Lev, E.J. Liu, D.C. Pieri, M. Rodgers, B. Smets, A. Terada, F.W. von Aulock, T.R. Walter, K.T. Wood and E.U. Zorn	2020	Volcanological applications of unoccupied aircraft systems (UAS): Developments, strategies, and future challenges	Volcania	3	67-114	○	10.30909/vol.03.01.67114	1(5)ウ	1(4)ア	
Matsunaga, Y., W. Kanda, S. Takakura, T. Koyama, Z. Saito, K. Seki, A. Suzuki, T. Kishita, Y. Kinoshita and Y. Ogawa	2020	Magmatic hydrothermal system inferred from the resistivity structure of Kusatsu-Shirane Volcano	J. Volcanol. Geotherm. Res.	390	106742	○	10.1016/j.jvolgeores.2019.106742	1(5)ウ	1(4)ア	
Tseng, K-H., Y. Ogawa, Nurhasan, S.B. Tank, N. Ujihara, Y. Honkura, A. Terada, Y. Usui and W. Kanda	2020	Anatomy of Active Volcanic Edifice at the Kusatsu-Shirane Volcano, Japan, by Magnetotellurics: Hydrothermal Implications for Volcanic Unrests	Earth Planet. Space	72	161	○	10.1186/s40623-020-01283-2	1(5)ウ	1(4)ア	
Seki, K., W. Kanda, K. Mannen, S. Takakura, T. Koyama, R. Noguchi, Y. Yukutake, M. Ishikawa, M. Fukai, M. Harada and Y. Abe	2021	Imaging the source region of the 2015 phreatic eruption at Owakudani, Hakone Volcano, Japan, using high-density audio-frequency magnetotellurics	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL091568	○	10.1029/2020GL091568	1(5)ウ	1(4)ア	
Shingubara, R., U. Tsunogai, M. Ito, F. Nakagawa, S. Yoshikawa, M. Utsugi and A. Yokoo	2021	Development of a drone-borne volcanic plume sampler	J. Volcanol. Geotherm. Res.	412		○	10.1016/j.jvolgeores.2021.107197	1(5)ウ	1(4)ア	
Gresse, M., M. Uyeshima, T. Koyama, H. Hase, K. Aizawa, Y. Yamaya, Y. Morita, D. Weller, T. Rung-Arunwan, T. Kaneko, Y. Sasai, J. Zlotnicki, T. Ishido, H. Ueda and M. Hata	2021	Hydrothermal and Magmatic System of a Volcanic Island Inferred From Magnetotellurics, Seismicity, Self-potential, and Thermal Image: An Example of Miyakejima (Japan)	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	10.1029/2021JB022034	1(5)ウ	1(4)ア, 1(4)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Hata, M., M. Uyeshima, Y. Tanaka, T. Hashimoto, N. Oshiman and R. Yoshimura	2018	Three-dimensional electrical resistivity distribution beneath the Beppu-Shimabara graben with a focus on Aso caldera, Southwest Japan subduction zone	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	6397-6410	○	10.1029/2018JB015506	1(5)ウ	1(4)ア, 1(5)イ	
Seki, K., T. Ohba, S. Aoyama, Y. Ueno, H. Sumino, W. Kanda, M. Yaguchi and T. Tanbo	2019	Variations in thermal state revealed by the geochemistry of fumarolic gases and hot-spring waters of the Tateyama volcanic hydrothermal system, Japan	Bull. Volcanol.	81	8	○	10.1007/s00445-018-1264-7	1(5)ウ	1(4)ア, 2(4)イ	
風間卓仁・山本圭吾・大島弘光・岡田和見・大柳諒・園田忠臣・井口正人	2019	桜島火山における繰り返し相対重力測定(2018年5月~2019年2月)	京都大学防災研究所年報	62B	318-324			1(5)ウ	1(4)ア, 2(5)	
Yamada, T., A. Kurokawa, A. Terada, W. Kanda, H. Ueda, H. Aoyama, T. Ohkura, Y. Ogawa and T. Tanada	2021	Locating hydrothermal fluid injection of the 2018 phreatic eruption at Kusatsu-Shirane volcano with volcanic tremor amplitude	Earth Planet. Space	73	14	○	10.1186/s40623-020-01349-1	1(5)ウ	1(4)ア, 2(5)	既往の観測研究で顕著な火山活動が確認されていなかった本白根火砕丘における草津白根山2018年噴火について、山体膨張に同期する火山性微動を地震記録から見出した。この火山性微動の励起源は既存の地震発生域の直上に対応することを示し、噴火前後の地震活動も参照しながら噴火を駆動した熱水系と噴火機構について議論した。
Ichihara, H., T. Mogi, K. Tanimoto, Y. Yamaya, T. Hashimoto, M. Uyeshima and Y. Ogawa	2016	Crustal structure and fluid distribution beneath the southern part of the Hidaka collision zone revealed by 3-D electrical resistivity modeling	Geochemistry, Geophys. Geosystems	17	1480-1491	○	10.1002/2015GC006222	1(5)ウ	1(5)ア, 1(5)イ	
岩森光・行竹洋平・飯尾能久・中村仁美	2019	地殻流体の起源・分布と変動現象	地学雑誌	128		○	10.5026/jgeography.128.761	1(5)ウ	1(5)イ	
風間卓仁・吉川慎・長縄和洋・宮内佑介・大倉敬宏・福田洋一	2019	熊本県北部における絶対重力測定および相対重力計のスケールファクター検定(2018年8月)	東京大学地震研究所年報	94	13-28	○		1(5)ウ	1(5)イ	
Jiang, G., G. Zhang, D. Zhao, Q. Lu, D. Shi, H. Li and X. Li	2021	Mantle flow and dynamics beneath central-east China: New insights from P-wave anisotropic tomography	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB020070	○	10.1029/2020JB020070	1(5)ウ	1(5)イ	中国の定常地震観測網と多くの臨時地震観測点で記録された大量の遠地地震の走時データに最新の地震波異方性トモグラフィ法を適用し、中国大陸中東部の深さ800kmまでの3次元P波速度異方性構造を調べた結果、太平洋プレートの深い沈み込みとそのマントル遷移層における停滞は中国大陸東部の上部マントルに対流を起し、地殻とマントルの不均質構造と地震・火山活動に大きく影響を及ぼしていることがわかった。
Yukutake, Y., R. Honda, M. Harada, R. Doke, T. Saito, T. Ueno, S. Sakai and Y. Morita	2017	Analyzing the continuous volcanic tremors detected during the 2015 phreatic eruption of the Hakone volcano	Earth Planet. Space	69	248-265	○	10.1186/s40623-017-0751-y	1(5)ウ	1(5)エ	
Yukutake, Y., M. Ichihara and R. Honda	2018	Infrasonic wave accompanying a crack opening during the 2015 Hakone eruption	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0820-x	1(5)ウ	1(5)エ	
Yukutake, Y., Y. Abe and R. Doke	2019	Deep Low-Frequency Earthquakes beneath the Hakone volcano, Central Japan, and their Relation to Volcanic Activity	Geophys. Res. Lett.	46		○	10.1029/2019GL084357	1(5)ウ	1(5)エ	
Kashiwagi, H., J. Nakajima, Y. Yukutake, R. Honda, Y. Abe and S. Sakai	2020	Seismic Constraint on the Fluid-Bearing Systems Feeding Hakone Volcano, Central Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2020JB020341	○	10.1029/2020JB020341	1(5)ウ	1(5)エ	
Yukutake, Y., Y. Abe, R. Honda and S. Sakai	2021	Magma reservoir and magmatic feeding system beneath Hakone volcano, central Japan, revealed by highly resolved velocity structure	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021236	○	10.1029/2020JB021236	1(5)ウ	1(5)エ	稠密地震観測データから箱根火山の地下構造を高分解能で推定し、マグマ熱水系についても概観モデルを得た。
Yukutake, Y., T. Ueno and K. Miyaoka	2016	Determination of temporal changes in seismic velocity caused by volcanic activity in and around Hakone volcano, central Japan, using ambient seismic noise records	Prog. Earth Planet. Sci.	3		○	10.1186/s40645-016-0106-5	1(5)ウ	1(5)エ, 2(4)イ	
Yoshida, K., T. Kuwatani, T. Hirajima, H. Iwamori and S. Akaho	2017	Progressive evolution of whole-rock composition during metamorphism revealed by multivariate statistical analyses	J. Metamorphic Geol.	36		○	10.1111/jmg.12282	1(5)ウ	1(5)オ	
Araya, N., M. Nakamura, A. Yasuda, S. Okumura, T. Sato, M. Iguchi, D. Miki and N. Geshi	2019	Shallow magma pre-charge during repeated Plinian eruptions at Sakurajima volcano	Sci. Rep.	9	1979	○	10.1038/s41598-019-38494-x	1(5)ウ	2(4)ア	桜島火山の過去3回の歴史時代プリニー式噴火に共通したマグマの“pre-charge”現象を発見した。いずれの噴火でも、爆発的に噴出したマグマは、噴火の直前には深部(約10 km)のマグマ溜りからそれより大幅に浅い火道(桜島直下の深さ1~3 km)に移動していたことが判明した。将来発生し得る大規模噴火が同じ前駆過程を経る場合、上昇開始からごく短時間で噴火に至る可能性があることを明らかにした。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yamamoto, K., T. Ohkura, A. Yokoo, T. Tameguri, T. Sonoda and H. Inoue	2017	Vertical ground deformation related with the 2014 and 2015 eruptions at Kuchierabujima volcano, Japan detected by repeated precise leveling surveys.	J. Nat. Disaster Sci.	38	133-144	○		1(5)ウ	2(4)ア. 2(4)イ	
Nakada, S., A. Zaennudin, M. Yoshimoto, F. Maeno, Y. Suzuki, N. Hokanishi, H. Sasaki, M. Iguchi, T. Ohkura, H. Gunawan and H. Triastuty	2017	Growth process of lava dome/flow complex at Sinabung Voldano during 2013-2016	J. Volcanol. Geotherm. Res.			○	10.1016/j.volgeores.2017.06.012	1(5)ウ	2(4)ア. 5(5)	
Noguchi, R., T. Nishizawa, W. Kanda, T. Ohkura and A. Terada	2019	Installation of new GNSS network around Kusatsu-Shirane Volcano, Japan: its perspective and the first result	J. Disaster Res.	14	744-754	○	10.20965/jdr.2019.p0744	1(5)ウ	2(4)イ	
Nogami, K. and S. Onizawa	2020	Fluorine and chlorine contents of volcanic ash from the 2004 eruption of Asama volcano, Japan	Bull. Volcanol. Soc. Japan	65	1-12	○		1(5)ウ	2(4)イ	
風間卓仁・山本圭吾・大柳諒・岡田和見・大島弘光・井口正人	2020	桜島火山における繰り返し相対重力測定(2019年5月~2020年3月)	京都大学防災研究所年報	63B	108-117			1(5)ウ	2(5)	
Minami, T., M. Utsugi, H. Utada, T. Kagiya and H. Inoue	2018	Temporal variation in the resistivity structure of the first Nakadake crater, Aso volcano, Japan, during the magmatic eruptions from November 2014 to May 2015, as inferred by the ACTIVE electromagnetic monitoring system	Earth Planet. Space	70	138	○		1(5)ウ	5(3)イ	
Hotta, K., M. Iguchi and T. Ohkura	2017	Maguma intrusion and effusion at Sinabung volcano, Indonesia, from 2013 to 2016, as revealed by continuous GPS observation	J. Volcanol. Geotherm. Res.			○	10.1016/j.volgeores.2017.12.015	1(5)ウ	5(5)	
Komori, S., M. Utsugi, T. Kagiya, S. Yoshikawa, C. J. Chen and B.F. Chao	2017	Resistivity mapping in the Tatun Volcano Group, Northern Taiwan, Revealed by VLF-MT surveys	Terr. Atmos. Ocean. Sci.	28	6	○	10.1016/j.taos.2017.02.001	1(5)ウ	5(5)	
Wannamaker, P.E., G. Hill, J. Stodt, V. Maris, Y. Ogawa, K. Selway, G. Boren, E.A. Bertrand, D. Uhlmann, B. Ayling, A.W. Green and D. Feucht	2017	Uplift of the central transantarctic mountains	Nat. Commun.	8	1588	○	10.1038/s41467-017-01577-2	1(5)ウ	5(5)	
Hill, G.J., H.M. Bibby, J. Peacock, E.L. Wallin, Y. Ogawa, L. Cariochi, H. Keys, S.L. Bennie and Y. Avram	2020	Temporal Magnetotellurics Reveals Mechanics of the 2012 Mount Tongariro, NZ, Eruption	Geophys. Res. Lett.	47	e2019GL086429	○	10.1029/2019GL086429	1(5)ウ	5(5)	
Hashimoto, T., A. Terada and R. Tanaka	2019	Simple and Fast Method to Remove Volcanic Smoke in Visible and TIR Imagery	27th IUGG General Assembly, IUGG19-0493, MONTREAL, CANADA					1(5)ウ	1(4)ア	
Hashimoto, T., M. Utsugi, T. Ohkura, W. Kanda, A. Terada, S. Miura and M. Iguchi	2019	Source characteristics of demagnetization and ground deformation during inter-eruptive periods	27th IUGG General Assembly, IUGG19-0493, MONTREAL, CANADA					1(5)ウ	1(4)ア	
香取慧・寺田暁彦・西野佳奈・沼波望・大場武・谷口無我	2019	草津白根火山における浅部熱水だまりの化学組成	日本火山学会 2019 年度秋季大会, 神戸市谷口無我・大場武					1(5)ウ	1(4)ア	
Kobayashi, T., K. Kato, R. Kawaguchi, Y. Yoshigai, Y. Ogawa, K. Nogami, W. Kanda and A. Terada	2019	Report of Volcanic Activity at Kusatsu-Shiranesan(Yugama Area), Japan in 2018-2019.	AGU Fall Meeting 2019					1(5)ウ	1(4)ア	
西嶋就平・市原寛	2019	御嶽山 MT 観測と既存データの 1 次元解析	2019年CA研究会					1(5)ウ	1(4)ア	
小川康雄・青山裕・山本希・筒井智樹・寺田暁彦・大倉敬宏・神田徑・小山崇夫・金子隆之・大湊隆雄・石崎泰男・吉本充宏・石峯康浩・野上健治・森俊哉・木川田喜一・片岡香子・松元高峰・上石勲・山口悟・伊藤陽一・常松佳恵	2019	2018 年草津白根火山噴火に関する総合調査ー草津白根山火山噴火から 1 年ー	第 56 回自然災害科学総合シンポジウム, 京都大学防災研究所自然災害研究協議会					1(5)ウ	1(4)ア	
寺田暁彦・水谷紀章	2019	草津白根火山・湯釜火口周辺における土壌水銀放出帯	地球惑星科学連合大会 2019					1(5)ウ	1(4)ア	
寺田暁彦・森俊哉・大場武・谷口無我・鬼澤真也・大野鷹士・森田裕一	2019	伊豆大島三原山火口底の火山ガス組成測定	日本火山学会 2019 年度秋季大会, 神戸市谷口無我・大場武					1(5)ウ	1(4)ア	
外山浩太郎・角野浩史・川名華織・秋山良秀・大場武・谷口無我・寺田暁彦	2019	草津白根火山周辺の噴気及び温泉ガス中の希ガス同位体組成	日本地球惑星科学連合 2019 年大会					1(5)ウ	1(4)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Tseng, K., Y. Ogawa, T. Kunitomo, M. Fukai and H. Ichihara	2019	New development and operation of the EMACROSS: an investigation at Mount Kusatsu-Shirane	日本地球惑星科学連合 2019 年大会					1(5)ウ	1(4)ア	
山田大志・黒川愛香・寺田暁彦・神田径・上田英樹・青山裕・大倉敬宏・小川康雄・棚田俊收	2019	地震波解析から推定される草津白根火山本白根山 2018 年噴火の噴火機構	日本火山学会 2019 年度秋季大会、神戸市谷口無我・大場 武					1(5)ウ	1(4)ア	
Kanda, W., K. Seki and Y. Matsunaga	2020	Resistivity structure of preparation zone for phreatic eruptions in several volcanoes in Japan	International Workshop on the mechanism of Phreatic Eruption					1(5)ウ	1(4)ア	
Matsunaga, Y., W. Kanda, S. Takakura, T. Koyama and T. Nishizawa	2020	3-D resistivity structure model around KusatsuShirane Volcano revealed by broadband magnetotellurics	2020 AGU Fall meeting, 2020. 12. 15					1(5)ウ	1(4)ア	
Matsu' ura, K., A. Terada, T. Mori and T. Ono	2020	Multi-sensor system with air blowers for airborne volcanic gas survey using drones: an improvement of a sensor response time	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
西嶋就平・市原寛・堀川信一郎・前田裕太・田ノ上和志・松廣健二郎・國友孝洋	2020	御嶽山山頂部付近における 1 次元比抵抗構造モデル	第 148 回 地球電磁気地球惑星科学会総会・講演会、R003-04					1(5)ウ	1(4)ア	
Ogawa, Y., K.H. Tseng, Nurhasan, B. Tank, N. Ujihara, Y. Honkura, A. Terada, Y. Usui and W. Kanda	2020	Active Volcanic Edifice at the Kusatsu-Shirane Volcano, Japan, imaged by Magnetotellurics: Hydrothermal Implications for Volcanic Unrests	2020 AGU Fall meeting					1(5)ウ	1(4)ア	
角野浩史・外山浩太郎・大場武・谷口無我・寺田暁彦	2020	草津白根火山の火山ガスのヘリウム同位体比	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
鈴木レオナ・寺田暁彦・谷口無我・高橋昌孝・大場武	2020	草津白根火山・湯釜火口湖水の不均質性から推定される湖底熱水の化学的特徴	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
高橋昌孝・寺田暁彦・角野浩史・外山浩太郎・大場武・鈴木レオナ	2020	火口周辺から放出される土壌ガスの起源—ヘリウム同位体比からの示唆—	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
Terada, A.	2020	Relationship between phreatic eruptions and the active hydrothermal system of KusatsuShirane volcano, Japan.	International Workshop on the mechanism of Phreatic Eruption					1(5)ウ	1(4)ア	
寺田暁彦・香取慧・谷口無我・山本希・山田大志・鬼澤真也・西澤達治・神田径・青山裕・森田裕一・大場武	2020	草津白根山西方における温泉湧出と 2018 年群発地震	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
谷口無我・大場武・寺田暁彦	2020	草津白根山湯釜火口湖の化学組成変化、JpGU-AGU Joint Meeting 2020、2020 年 7 月	JpGU-AGU Joint Meeting 2020					1(5)ウ	1(4)ア	
芹田創平・小川康雄・曾國軒・石須慶一・國友孝洋・南拓人・市原寛	2021	電磁アクロスデータの時系列解析	2020 年度 Conductivity Anomaly 研究会 (zoom 開催)					1(5)ウ	1(4)ア、 5(2)ア、 5(3)ア	
Hill, G., P.E. Wannamaker, V. Maris, J.A. Stodt, M.A. Kordy, P. Bedrosian, M. J. Unsworth, E. Wallin, P.R. Kyle, Y. Ogawa and D.F. Uhlmann	2019	Tectonic controls on the magmatic system of Erebus volcano, Antarctica, the role of the Discovery accommodation zone and termination of the Terror Rift	AGU Fall Meeting 2019					1(5)ウ	1(5)エ	
<b>工. 地震発生と火山活動の相互作用の理解</b>										
Martens, H.R., L. Rivera, M. Simons and T. Ito	2016	The sensitivity of surface mass loading displacement response to perturbations in the elastic structure of the crust and mantle	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	3911-3938	○	10.1002/2015JB012456	1(5)エ		
小菅正裕・野呂康平・増川和真	2017	東北日本で発生する深部低周波地震の震源の時空間分布の特徴と地震波形の多様性	東京大学地震研究所彙報	92	63-80	○		1(5)エ		
Amezawa, Y., M Kosuga, and T. Maeda	2019	Temporal changes in the distinct scattered wave packets associated with earthquake swarm activity beneath the Moriyoshi-zan volcano, northeastern Japan	Earth Planet. Space	71	132	○	10.1186/s40623-019-1115-6	1(5)エ		
Yamada, W., K. Ishitsuka, T. Mogi and M. Utsugi	2019	Surface displacements of Aso volcano after the 2016 Kumamoto earthquake based on SAR interferometry: implications for dynamic triggering of earthquake-volcano interactions	Geophys. J. Int.	218	755-761	○	10.1093/gji/egz187	1(5)エ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
春山太一・小菅正裕・前田拓人	2020	火山性深部低周波地震に見られる特徴的地震波形：数値モデリングに基づく生成機構の検討	東北地域災害科学研究	56	135-140			1(5)エ		
平野舟一郎・八木原寛・仲谷幸浩・後藤和彦	2020	2017年の臨時地震観測による鹿児島湾・喜入沖の震源分布と発震機構：鹿児島地溝形成に伴う断層に沿った顕著な地震活動	鹿児島大学理学部紀要	53	32-44			1(5)エ		2017年7月に鹿児島湾で発生した地震（M5.3）の発生前から、当該領域周辺で臨時観測を実施してきた。この観測データを用い、M5.3を含む震源分布・発震機構を解析した結果、M5.3の余震は鹿児島地溝の形成に関係する断層に沿って発生したことが推測された。一方、起震応力軸は九州南部の広域応力場と調和的であり、北方に位置する桜島の主マagma溜まりの膨張による応力の影響は、無いか非常に小さいと推測された。
松野有希・小菅正裕・前田拓人	2021	北海道釧路阿寒岳における深部・浅部低周波地震活動	東北地域災害科学研究	57	109-114			1(5)エ		
Yagi, Y., R. Okuwaki, B. Enescu, A. Kasahara, A. Miyakawa and M. Otsubo	2016	Rupture process of the 2016 Kumamoto earthquake in relation to the thermal structure around Aso volcano	Earth Planet. Space	68	118	○	10.1186/s40623-016-0492-3	1(5)エ	1(3)イ	
Savage, M.K., Y. Aoki, K. Unglert, T. Ohkura, K. Umakoshi, H. Shimizu, M. Iguchi, T. Tameguri, T. Ohminato and J. Mori	2016	Stress, strain rate and anisotropy in Kyushu, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	439		○	10.1016/j.epsl.2016.01.005	1(5)エ	1(4)ア, 2(4)イ	
澁谷拓郎・寺石真弘・小松信太郎・山崎健一・山下裕亮・大倉敬宏・吉川慎・井口正人・為栗健・園田忠臣	2019	地震学的手法による南九州下のフィリピン海スラブの構造の推定	京都大学防災研究所年報	62B	279-287			1(5)エ	1(5)ア	
Terakawa, T., A. Kato, Y. Yamana, Y. Maeda, S. Horikawa, K. Matsuhiro and T. Okuda	2016	Monitoring eruption activity using temporal stress changes at Mount Ontake volcano	Nat. Commun.			○	10.1038/ncomms10797	1(5)エ	1(5)イ	
Aizawa, K., H. Sumino, M. Uyeshima, Y. Yamaya, H. Hase, H.A. Takahashi, M. Takahashi, K. Kazahaya, M. Ohno, T. Rung-Arunwan and Y. Ogawa	2016	Gas pathways and remotely triggered earthquakes beneath Mt. Fuji, Japan	Geology	44	127-130	○	10.1130/G37313.1	1(5)エ	1(5)イ, 1(5)ウ	
<b>オ. 構造共通モデルの構築</b>										
今西和俊・内出崇彦・松下レイケン	2016	臨時地震観測による山梨県北東部の微小地震の発震機構と応力場	活断層・古地震研究報告	16	53-77			1(5)オ		
中島淳一	2016	プレートの沈み込みと島弧マagma活動	火山	61	23-36	○		1(5)オ		
Nakao, A., H. Iwamori and T. Nakakuki	2016	Effects of water transportation on subduction dynamics: Roles of viscosity and density reduction	Earth Planet. Sci. Lett.	454	178-191	○	10.1016/j.epsl.2016.08.016	1(5)オ		
Uchide, T. and K. Imanishi	2016	Small earthquakes deviate from the omega-square model as revealed by multiple spectral ratio analysis	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	1357-1363	○	10.1785/0120150322	1(5)オ		
Imanishi, K. and T. Uchide	2017	Non-self-similar source property for microforeshocks of the 2014 Mw 6.2 Northern Nagano, central Japan, earthquake	Geophys. Res. Lett.	44	5401-5410	○	10.1002/2017GL073018	1(5)オ		
今西和俊	2017	講座 地盤に刻まれた大地震の痕跡 5. 地震の連鎖	地盤工学会誌	65	49-56			1(5)オ		
Nakagawa, T. and H. Iwamori	2017	Long-term stability of plate-like behavior caused by hydrous mantle convection and water absorption in the deep mantle	J. Geophys. Res.: Solid Earth			○	10.1002/2017JB014052	1(5)オ		
Yoshida, M., H. Iwamori, Y. Hamano and D. Suetsugu	2017	Heat transport and coupling modes in Rayleigh-Bénard convection occurring between two layers with largely different viscosities	Phys. Fluids	29		○	10.1063/1.4989592	1(5)オ		
Haraguchi, S., K. Ueki, K. Yoshida, T. Kuwatani, M. Mohamed, S. Horiuchi and H. Iwamori	2018	Geochemical database of Japanese islands for basement rocks	J. Geol. Soc. Japan	124	1049-1054	○	10.5575/geosoc.2018.0027	1(5)オ		
Nakagawa, T., H. Iwamori, R. Yanagi and A. Nakao	2018	On the evolution of the water ocean in the plate-mantle system	Prog. Earth Planet. Sci.	5		○	10.1186/s40645-018-0209-2	1(5)オ		
Nakao, A., H. Iwamori, T. Nakakuki, Y. J. Suzuki and H. Nakamura	2018	Roles of Hydrous Lithospheric Mantle in Deep Water Transportation and Subduction Dynamics	Geophys. Res. Lett.	45	5336-5343	○	10.1029/2017GL076953	1(5)オ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Tsuru, T., J.-O. Park, T. No, Y. Kido and K. Nakahigashi	2018	Visualization of attenuation structure and faults in incoming oceanic crust of the Nankai Trough using seismic attenuation profiling	Earth Planet. Space	70	31	○	10.1186/s40623-018-0803-y	1(5)オ		
Uchide, T. and K. Imanishi	2018	Underestimation of microearthquake size by the magnitude scale of the Japan Meteorological Agency: Influence on earthquake statistics	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123		○	10.1002/2017JB014697	1(5)オ		
Yoshida, K., T. Kuwatani, A. Yasumoto, S. Haraguchi, K. Ueki and H. Iwamori	2018	GEOFCM: a new method for statistical classification of geochemical data using spatial contextual information	J. Mineral. Petrol. Sci.	113	159-169	○	10.2465/jmps.171127	1(5)オ		
今西和俊・内出崇彦・大谷真紀子・松下レイケン・中井未里	2019	関東地域の地殻応力マップの作成	地質調査研究報告	70	273-298			1(5)オ		関東地域の地殻応力マップを作成するため、過去14年間にわたるM1.5以上の地震の発震機構解を決定し、10 kmメッシュの応力マップとして纏めた。得られた応力マップは非常に複雑な様相を示しており、圧縮方位が急変する場所があること、伊豆半島から北部に向けて圧縮方位が時計回りに回転すること、数十kmスケールの複数の応力区が確認できること、太平洋沿岸域は正断層場が卓越するなどの特徴が明らかになった。
Iwamori, H., H. Nakamura, M. Yoshida, T. Nakagawa, K. Ueki, A. Nakao, T. Nishizawa and S. Haraguchi	2019	Trace-element characteristics of east-west mantle geochemical hemispheres	Comp. Ren. Geosci.	351	209-220	○	10.1016/j.crte.2018.09.007	1(5)オ		
Kaneko, T., T. Nakakuki and H. Iwamori	2019	Mechanical coupling of the motion of the surface plate and the lower mantle slab: Effects of viscosity hill, yield strength, and depth-dependent thermal expansivity	Phys. Earth Planet. Int.	294		○	10.1016/j.pepi.2019.106274	1(5)オ		
Kashiwagi, H. and J. Nakajima	2019	Three-dimensional seismic attenuation structure of central Japan and deep source of arc magmatism	Geophys. Res. Lett.	46	13746-13755	○	10.1029/2019GL084793	1(5)オ		
Matsushita, R., K. Imanishi, M. Ohtani, Y. Kuwahara, J. Chen and S. Ma	2019	Seismic potential around the northeastern edge of the Longmenshan fault zone as inferred from seismological observations	Pure Appl. Geophys.	177	37-53	○	10.1007/s00024-019-02098-3	1(5)オ		
Nakagawa, T. and H. Iwamori	2019	On the implications of the coupled evolution of the deep planetary interior and the presence of surface ocean water in hydrous mantle convection	Comp. Ren. Geosci.	351	197-208	○	10.1016/j.crte.2019.02.001	1(5)オ		
Ohtani, M. and K. Imanishi	2019	Seismic potential around the 2018 Hokkaido Eastern Iburu earthquake assessed considering the viscoelastic relaxation	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1036-4	1(5)オ		
Imanishi, K., M. Ohtani and T. Uchide	2020	Driving stress and seismotectonic implications of the 2013 Mw5.8 Awaji Island earthquake, southwestern Japan, based on earthquake focal mechanisms before and after the mainshock	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01292-1	1(5)オ		
Uchide, T.	2020	Focal mechanisms of small earthquakes beneath the Japanese islands based on first-motion polarities picked using deep learning	Geophys. J. Int.	223	1658-1671	○	10.1093/gji/ggaa401	1(5)オ		発震機構解決定のボトルネックとなっているP波初動極性の検測に深層学習を導入した。畳み込み層と全結合層からなる比較的単純なニューラルネットワークモデルを構築し、気象庁（一元化処理検測値；主にM3以上）と産総研（主にM3未満）によるP波初動極性の読み取り結果を用いた2段階学習を行った。2005～2019年に日本列島内陸部の20 km以浅で発生した約11万個の微小地震に適用し、手法の有効性を示した。
今西和俊・内出崇彦・椎名高裕・松下レイケン・中井未里	2021	中国地域の地殻内応力マップの作成	地質調査研究報告	72	23-40			1(5)オ		
Jamali Hondori, E., C. Guo, H. Mikada and J.-O. Park	2021	Full-waveform inversion for imaging faulted structures: A case study from the Japan Trench forearc slope	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-021-02727-w	1(5)オ		
Uchida, N., J. Nakajima, K. Wang, R. Takagi, K. Yoshida, T. Nakayama, R. Hino, T. Okada and Y. Asano	2020	Stagnant forearc mantle wedge inferred from mapping of shear-wave anisotropy using S-net seafloor seismometers	Nat. Commun.	11	5676	○	10.1038/s41467-020-19541-y	1(5)オ	1(3)ア	マンテルウエッジの流動は、プレート境界の深部での地震活動、マグマの生成、流体の地球深部への運搬など日本列島下の様々な動きの原動力となっている。本研究では日本海溝海底地震津波観測網（S-net）が捉えた地震波形データを分析することで、太平洋下から北海道・東北地方沿岸部までのマンテルウエッジ内では流動が生じていないことを明らかにした。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Uchide, T., H. Horikawa, M. Nakai, R. Matsushita, N. Shigematsu, R. Ando and K. Imanishi	2016	The 2016 Kumamoto-Oita earthquake sequence: Aftershock seismicity gap and dynamic triggering in volcanic areas	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0556-4	1(5)オ	1(3)ア, 1(3)イ	
Iohimura, T., R. Agata, T. Hori, K. Hirahara, C. Hashimoto, M. Hori and Y. Fukahata	2016	An elastic/viscoelastic finite element analysis method for crustal deformation using a 3D island-scale high-fidelity model	Geophys. J. Int.	206	114-129	○	10.1093/gji/ggw123	1(5)オ	1(5)ア, 2(1)ア	
Matsubara, M., H. Sato, K. Uehira, M. Mochizuki, T. Kanazawa, N. Takahashi, K. Suzuki and S. Kamiya	2019	Seismic velocity structure in and around the Japanese Island arc derived from seismic tomography including NIED MOWLAS Hi-net and S-net data, Seismic Waves	Probing Earth System, IntechOpen		1-19	○	10.5772/intechopen.86936	1(5)オ	1(5)ア, 5(3)ア	2011年東北地震の直後に発生した岩手県沖および茨城県沖の地震も含め、岩手県沖・茨城県沖で発生したプレート境界型大地震の地震前・地震時・地震後の断層破壊とスロー地震の活動との空間的な関係を調べた。その結果、大地震時の破壊領域はスロー地震の活動域とは空間的に相補的であった一方で、大地震の前震や余震の多くがスロー地震の活動域で発生していたことを示した。
Imanishi, K.	2018	Direct determination of tectonic stress field and individual focal mechanisms from waveform amplitudes	Proceedings of the 13th SEGJ International Symposium					1(5)オ		
<b>2. 地震・火山噴火の予測のための研究</b>										
<b>(1) 地震発生の新たな長期予測</b>										
<b>ア. 海溝型巨大地震の長期予測</b>										
Xu, S., E. Fukuyama, F. Yamashita and S. Takizawa	2019	Evolution of Fault-Interface Rayleigh Wave speed over simulated earthquake cycles in the lab: Observations, interpretations, and implications	Earth Planet. Sci. Lett.	524		○	10.1016/j.epsl.2019.115720	2(1)ア		
西山昭仁	2018	歴史地震研究の現状と展望	活断層研究	49	67-69	○	10.11462/afr.2018.49_67	2(1)ア	1(1)ア	
西山昭仁	2019	歴史地震研究と日記史料有感地震データベース	『デジタルアーカイブ・ベーシックス 2 災害記録を未来に活かす』 勉誠出版	第3章	198-213			2(1)ア	1(1)ア	
加納靖之	2021	地震の歴史をまなび伝えるー同和火災コレクションと歴史地震研究の交流ー	京都文化博物館(編)「伝えるー災害の記憶あおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」, NHKサービスセンター		122-130			2(1)ア	1(1)ア	
大邑潤三	2021	同和火災コレクション成立の背景とその来歴	京都文化博物館(編)「伝えるー災害の記憶あおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」, NHKサービスセンター		132-141			2(1)ア	1(1)ア	
Shiomi, K., T. Takeda and T. Ueno	2021	Seismological evidence of a dehydration reaction in the subducting oceanic crust beneath western Shikoku in southwest Japan	Geophys. J. Int.	224	151-168	○	10.1093/gji/ggaa423	2(1)ア	1(5)ア, 5(2)ア, 5(3)ア	日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) 等のインライン型の海底観測網では、約3 Hz以上の周波数帯域において、観測波形に筐体の固有振動が含まれることを確認するとともに、この事象の特徴精査、原因の考察を行った。
Kubo, H. and T. Nishikawa	2020	Relationship of preseismic, coseismic, and postseismic fault ruptures of two large interplate aftershocks of the 2011 Tohoku earthquake with slow-earthquake activity	Sci. Rep.	10	12044	○	10.1038/s41598-020-68692-x	2(1)ア	1(5)ア, 5(3)ア	海底圧力計記録に関して、2010年チリ地震時の地震計データとの比較検討を通じ、海底圧力計には、地震による表面波(レイリー波)およびその分散性を明瞭に観測する能力があることを示した。
Noda, A., T. Saito, E. Fukuyama and Y. Urata	2021	Energy-based scenarios for great thrust-type earth-	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	10.1029/2020JB020417	2(1)ア	2(2)ア, 5(2)ア	南海トラフの海溝型巨大地震を引き起こす応力蓄積の状況を明らかにするために作成した応力分布モデルをもとに、今後起こりうる大地震発生シナリオを作成した。さらに、作成した破壊シナリオの中から実現性の高いシナリオを選択することを目的に、経験的摩擦則とエネルギーバランスを利用する基本手法を開発した。
Saito, T., T. Baba, D. Inazu, S. Takemura and E. Fukuyama	2019	Synthesizing sea surface height change including seismic waves and tsunami using a dynamic rupture scenario of anticipated Nankai trough earthquakes	Tectonophysics	769		○	10.1016/j.tecto.2019.228166	2(1)ア	5(2)ア	
Saito, T. and T. Kubota	2020	Tsunami modeling for the deep sea and inside focal areas	Annu. Rev. Earth Planet. Sci.	48		○	10.1146/annurev-earth-071719-054845	2(1)ア	5(2)ア	
Araki, E., D.M. Saffer, A.J. Kopf, L.M. Wallace, T. Kimura, Y. Machida, S. Ide, E. Davis and IODP Expedition 365 shipboard scientists	2017	Recurring and triggered slow-slip events near the trench at the Nankai Trough subduction megathrust	Science	356 (6343)	1157-1160	○	10.1126/science.aan3120	2(1)ア	5(3)イ	
<b>イ. 内陸地震の長期予測</b>										

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Angster, S., S. Wesnousky, W. Huang, G. Kent, T. Nakata and H. Goto	2016	Application of UAV Photography to Refining the Slip Rate on the Pyramid Lake Fault Zone, Nevada	Bull. Seismol. Soc. Am.	106(2)	785-798	○	10.1785/0120150144	2(1)イ		
Goto, H.	2016	Extensive Area Map of Topographic Anaglyphs Covering Inland and Seafloor from Detailed Digital Elevation Model for Identifying Broad Tectonic Deformation	Kamae, K ed., Earthquakes, Tsunamis and Nuclear Risks: Prediction and Assessment Beyond the Fukushima Accident		65-74	○	10.1007/978-4-431-55822-4_5	2(1)イ		
石黒聡士・熊原康博・後藤秀昭・中田高・松多信尚・杉戸信彦・廣内大助・渡辺満久・澤祥・鈴木康弘	2016	UAVによる空撮とSfM-MVS解析による地表地震断層の地形モデル作成とその精度：2014年11月長野県北部の地震を例に(UAV小特集：最新法規から応用技術まで)	日本リモートセンシング学会誌	36	107-116	○	10.11440/rssj.36.107	2(1)イ		
石村大輔・遠田晋次・市原季彦・高橋直也・今野明咲香・佐藤隼人	2016	2016年熊本地震時に出現した熊本県阿蘇市宮地周辺の地表地震断層とビット壁面での変位の上方向減衰	活断層研究	47	9-16	○	10.11462/afr.2017.47_9	2(1)イ		
泉紀明・西澤あずさ・堀内大嗣・木戸ゆかり・後藤秀昭・中田高	2016	南西諸島海溝周辺の3D海底地形	海洋情報部研究報告	53	133-148, 付図	○		2(1)イ		
水本匡起・後藤秀昭・中田高・松田時彦・田力正好・松浦律子	2016	富士川谷の身延断層に沿った新时期断層地形の発見とその意義	活断層研究	44	9-21	○	10.11462/afr.2016.44_9	2(1)イ		
Sugito, N., H. Goto, Y. Kumahara, H. Tsutsumi, T. Nakata, K. Kagohara, N. Matsuta and H. Yoshida	2016	Surface fault ruptures associated with the 14 April foreshock (Mj 6.5) of the 2016 Kumamoto earthquake sequence, southwest Japan	Earth Planet. Space	68	no. 170	○	10.1186/s40623-016-0547-5	2(1)イ		
Toda, S., H. Kaneda, S. Okada, D. Ishimura and Z. K. Milder	2016	Slip-partitioned surface ruptures for the Mw 7.0 16 April 2016 Kumamoto, Japan, earthquake	Earth Planet. Space	68	188	○	10.1186/s40623-016-0560-8	2(1)イ		
Goto, H., H. Tsutsumi S. Toda and Y. Kumahara	2017	Geomorphic features of surface ruptures associated with the 2016 Kumamoto earthquake in and around the downtown of Kumamoto City, and implications on triggered slip along active faults	Earth Planet. Space	69	no. 26	○	10.1186/s40623-017-0603-9	2(1)イ		
後藤秀昭	2017	地球を俯瞰する自然地理学 熊本地震と活断層	科学	87	421-424			2(1)イ		
池田倫治・後藤秀昭・堤浩之	2017	四国西部の中央構造線断層帯の地形と地質	地質学雑誌	123	445-170	○	10.5575/geosoc.2017.0036	2(1)イ		
泉紀明・西澤あずさ・堀内大嗣・木戸ゆかり・後藤秀昭・中田高	2017	千島海溝南西部周辺の3D海底地形	海洋情報部研究報告	54	133-152	○		2(1)イ		
Kaneda, H. and T. Kono	2017	Discovery, controls, and hazards of widespread deep-seated gravitational slope deformation in the Etsumi Mountains, central Japan	J. Geophys. Res.: Earth Surface	122	2370-2391	○	10.1002/2017JF004382	2(1)イ		
森木ひかる・隈元崇・中田高・後藤秀昭・泉紀明・西澤あずさ	2017	アナグリフ画像による日本周辺の海底地すべりの判読と分布特性の検討	海洋情報部研究報告	54	1-16	○		2(1)イ		
鈴木康弘	2017	2016年熊本地震の地震断層に関する課題	活断層研究	46	41-44	○		2(1)イ		
鈴木康弘・石村大輔・熊木洋太・熊原康博・千田昇・中田高・中埜貴元	2017	活断層図「阿蘇」	国土地理院					2(1)イ		
渡辺満久・中田高・後藤秀昭	2017	変動地形学的特徴にもとづく立川断層南部の存在の再確認	地震2	70	81-87	○	10.4294/zisin.2016-15	2(1)イ		
Goto, H., K. Arai and T. Sato	2018	Topographic Anaglyphs from Detailed Digital Elevation Models Covering Inland and Seafloor for the Tectonic Geomorphology Studies in and around Yoron Island, Ryukyu Arc, Japan	Geosciences	8	no. 363	○	10.3390/geosciences8100363	2(1)イ		
Goto, H.	2018	Late quaternary slip rates and vectors on the Median Tectonic Line active fault zone in eastern Shikoku, southwest Japan	Quat. Int.	471	267-277	○	10.1016/j.quaint.2017.12.013	2(1)イ		
後藤秀昭	2018	石垣島とその周辺海域を統合した変動地形の研究 -沿岸域の変動地形研究の発展に向けた海底地形情報整備の必要性-	広島大学大学院文学研究科論集	78	107-122			2(1)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
廣内大助・澤祥・石村大輔・岡田真介・椿原京子・後藤秀昭・杉戸信彦・鈴木康弘・松多信尚	2018	活断層図「白馬岳・大町 一部改訂版」	国土地理院					2(1)イ		
金田平太郎・柏原真太郎・小村慶太郎	2018	山上湿地掘削のための可搬型パーカッションコアリングシステム	月刊地球	号外69	112-120			2(1)イ		
宮内崇裕・岡田篤正・杉戸信彦・鈴木康弘・吉田英嗣	2018	活断層図「恵那」	国土地理院					2(1)イ		
杉戸信彦・後藤秀昭	2018	長野県大町市街地の活断層分布に関する一検討	活断層研究	49	17-22	○	10.11462/ afr.2018. 49_17	2(1)イ		
鈴木康弘	2018	北海道胆振東部地震と石狩低地東縁断層帯の複雑な関係	科学	88(11)	1057			2(1)イ		
鈴木康弘・渡辺満久・中田高	2018	2016年熊本地震における益城町中心市街地内の地震断12層一変動地形学的意義と建物被害への影響	活断層研究	48	13-34	○		2(1)イ		
後藤秀昭	2019	活断層図の作成と防災活用の課題	月刊地理	64	54-61			2(1)イ		
石村大輔	2019	熊本県西原村布田における布田川断層の2016年熊本地震(Mw7.0)時上下変位と活動性	活断層研究	50	33-44	○	10.11462/ afr.2019. 50_33	2(1)イ		
Kaneda, H. and T. Chiba	2019	Stereopaired morphometric protection index red relief image maps (Stereo MPI-RRIMs): effective visualization of high-resolution digital elevation models for interpreting and mapping small tectonic geomorphic features	Bull. Seismol. Soc. Am.	109	99-109	○	10.1785/0 120180166	2(1)イ		
Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe and Y. Suzuki	2019	Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan	Geomorphology	327	446-455	○	10.1016/j .geomorph .2018.11. 026	2(1)イ		
杉戸信彦・古澤明・澤祥・田力正好・谷口薫・渡辺満久・鈴木康弘	2019	山梨県南アルプス市麓山における糸魚川-静岡構造線断層帯南部区間の平均変位速度	地学雑誌	128	453-464	○	10.5026/j geography .128.453	2(1)イ		
岩佐佳哉・熊原康博・後藤秀昭・中田高	2020	熊本県益城町堂園地区における2016年熊本地震の地表地震断層の詳細な分布と共役断層の活動履歴	活断層研究	52	1-8	○	10.11462/ afr.2020. 52_1	2(1)イ		
Komura, K., H. Kaneda, T. Tanaka, S. Kojima, T. Inoue and T. Nishio	2020	Synchronized gravitational slope deformation and active faulting: A case study on and around the Neodani fault, central Japan	Geomorphology	365	107214	○	10.1016/j .geomorph .2020.107 214	2(1)イ		
Suzuki, Y., T. Nakata, M. Watanabe, S. Battulga, D. Enkhtaiwan, S. Demberel, C. Odonbaatar, A. Bayasgalan and T. Badral	2020	Discovery of Ulaanbaatar Fault: A New Earthquake Threat to the Capital of Mongolia	Seismol. Res. Lett.	92	437-447	○	10.1785/0 220200109	2(1)イ		
高橋浩晃	2020	北海道胆振東部地震などの地表に痕跡を残さない地震の特徴	地震予知連絡会会報	104	467-469			2(1)イ		
高橋直也・内田嗣人・池田倫治・遠田晋次	2020	2019年カリフォルニア州リッジレスト地震の概要と最近の地震断層調査の動向	活断層研究	53	51-65	○		2(1)イ	1(1)ウ	
Wallis, S.R., F. Maeno and S. Toda	2020	Japan and Korean Peninsula	In Encyclopedia of Geology 2nd Edition Tectonics and Structural Geology:		526-543			2(1)イ	1(1)ウ	
Saito, T. and A. Noda	2020	Strain energy released by earthquake faulting with random slip components	Geophys. J. Int.	220(3)		○	10.1093/g ji/ggz561	2(1)イ	1(2)	
Noda, A., T. Saito, E. Fukuyama, T. Terakawa, S. Tanaka and M. Matsu'ura	2020	The 3-D Spatial distribution of shear strain energy changes associated with the 2016 Kumamoto earthquake sequence, southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	47(3)		○	10.1029/2 019GL0863 69	2(1)イ	1(2), 1(5)イ	
近藤久雄・勝部亜矢	2016	2014年長野県北部の地震が提起した内陸大地震の長期予測に関する諸問題	科学	86	313-317			2(1)イ	1(2)ア	
Katsube, A., H. Kondo and H. Kurosawa	2017	Surface rupturing earthquakes repeated in the 300 years along the ISTL active fault system, central Japan	Geophys. Res. Lett.	44	6057-6064	○	10.1002/ 2017GL073 746	2(1)イ	1(2)ア	
勝部亜矢・近藤久雄・谷口薫・加瀬祐子	2017	2014年長野県北部の地震(Mw6.2)に伴う地表地震断層の分布と変位量	地質学雑誌	123	1-21	○	10.5575/g eosoc.201 6.0048	2(1)イ	1(2)ア	
文部科学省研究開発局・国立研究開発法人産業技術総合研究所	2018	活断層の評価に関する調査研究「活断層帯から生じる運動型地震の発生予測に向けた活断層調査研究」	平成29年度成果報告書		1-114			2(1)イ	1(2)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
羊本英貴	2018	松田式を考慮したFEMによる断層変位評価とその上町断層系への適用	土木学会論文集A1 (構造・地震工学)	74	1_59-1_71	○		2(1)イ	1(2)ア	
堤浩之・近藤久雄・石山達也	2018	我が国における活断層研究の最近25年の成果と今後の展望	地質学雑誌	124	741-757	○		2(1)イ	1(2)ア	
文部科学省研究開発局・国立研究開発法人産業技術総合研究所	2019	活断層の評価に関する調査研究「活断層帯から生じる運動型地震の発生予測に向けた活断層調査研究」	平成30年度成果報告書		1-133			2(1)イ	1(2)ア	
羊本英貴	2019	FEMによる断層変位のスリップパーティショニング発生条件の探索 一逆断層と横ずれ断層の組み合わせ例	土木学会論文集A1 (構造・地震工学)	75	1_25-1_35	○		2(1)イ	1(2)ア	
文部科学省研究開発局・国立研究開発法人産業技術総合研究所	2020	活断層の評価に関する調査研究「活断層帯から生じる運動型地震の発生予測に向けた活断層調査研究」	平成29～令和元年度成果報告書		1-383			2(1)イ	1(2)ア	地震時変位量等に基づき運動履歴を復元する手法を確立し、主要活断層帯で初めて運動型地震の発生確率をポアソン過程で試算した。
Ömer, E., H. Kondo, S. Özalp and H. Elmacı	2020	Fault geometry, segmentation and slip distribution associated with the 1939 Erzincan earthquake rupture along the North Anatolian fault, Turkey	Geological Society, London, Special Publications	501	23-70	○	10.1144/S1539-4629-2019-141	2(1)イ	1(2)ア	
文部科学省研究開発局・国立研究開発法人産業技術総合研究所	2021	運動型地震の発生予測のための活断層調査研究	令和2年度成果報告書		1-91			2(1)イ	1(2)ア	
木村治夫・近藤久雄・小鹿浩太・川崎悠介・吉見瑠子・黒澤英樹	in press	糸魚川-静岡構造線断層帯松本盆地東縁断層北部におけるS波浅層反射法地震探査	活断層研究			○		2(1)イ	1(2)ア	
Hisakawa, T., R. Ando, T.E. Yano and M. Matsubara	2020	Dynamic rupture simulation of 2018, Hokkaido Eastern Iburu earthquake: Role of non-planar geometry	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01160-y	2(1)イ	1(3)	
Hashima, A., H. Sato and T. Sato	2020	Stress loading and the occurrence of normal-type earthquakes under Boso Peninsula, Japan	Earth Planet. Space			○	10.1186/s40623-020-01201-6	2(1)イ	1(3)ア, 1(4)ア, 1(5)ア, 1(5)オ, 2(1)ア, 2(4)ア	
Henrys, S., D. Eberhart-Phillips, D. Bassett, R. Sutherland, D. Okaya, M. Savage, D. Evanzia, T. Stern, H. Sato, K. Mochizuki, T. Iwasaki, E. i. Kurashimo, A. Seward and A. Wech	2020	Upper Plate Heterogeneity Along the Southern Hikurangi Margin, New Zealand	Geophys. Res. Lett.	47		○	10.1029/2019GL085511	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)ア, 1(5)オ, 2(1)ア, 5(5)	
Hashima, A., T. W. Becker, A. M. Freed, H. Sato and D. A. Okaya	2016	Coseismic deformation due to the 2011 Tohoku-oki earthquake: influence of 3-D elastic structure around Japan	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0535-9	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Hashima, A., T. Sato, H. Sato, K. Asao, H. Furuya, S. Yamamoto, K. Kameo, T. Miyauchi, T. Ito, N. Tsumura and H. Kaneda	2016	Simulation of tectonic evolution of the Kanto Basin of Japan since 1 Ma due to subduction of the Pacific and Philippine Sea plates and the collision of the Izu-Bonin arc	Tectonophysics	679		○	10.1016/j.tecto.2016.04.005	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Ishiyama, T., H. Sato, S. Abe, S. Kawasaki and N. Kato	2016	High-resolution 3D seismic reflection imaging across active faults and its impact on seismic hazard estimation in the Tokyo metropolitan area	Tectonophysics	689		○	10.1016/j.tecto.2016.01.042	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Freed, A.M., A. Hashima, T.W. Becker, D.A. Okaya, H. Sato and Y. Hatanaka	2017	Resolving depth-dependent subduction zone viscosity and afterslip from postseismic displacements following the 2011 Tohoku-oki, Japan Earthquake	Earth Planet. Sci. Lett.	459		○	10.1016/j.epsl.2016.11.040	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Hashima, A. and T. Sato	2017	A megathrust earthquake cycle model for Northeast Japan: bridging the mismatch between geological uplift and geodetic subsidence	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0606-6	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Ishiyama, T., N. Kato, H. Sato, S. Koshiya, S. Toda and K. Kobayashi	2017	Geometry and slip rates of active blind thrusts in a reactivated back-arc rift using shallow seismic imaging: Toyama basin, central Japan	Tectonophysics	718	72-82	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ishiyama, T., H. Sato, N. Kato, S. Koshiya, S. Abe, K. Shiraiishi and M. Matsubara	2017	Structures and active tectonics of compressionally reactivated back-arc failed rift across the Toyama trough in the Sea of Japan, revealed by multiscale seismic profiling	Tectonophysics	710-711	21-36	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Matsubara, M., H. Sato, K. Uehira, M. Mochizuki and T. Kanazawa	2017	Three-dimensional seismic velocity structure beneath Japanese islands and surroundings based on NIED seismic networks using both island and offshore events	J. Disaster Res.	12	844-857	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Matsubara, M., H. Sato, T. Ishiyama and A. Van Horne	2017	Configuration of the Moho discontinuity beneath the Japanese islands derived from three-dimensional seismic tomography	Tectonophysics	710-711	97-107	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Van Horne, A., H. Sato and T. Ishiyama	2017	Evolution of the Sea of Japan back-arc and some unsolved issues	Tectonophysics	710-711	6-20	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Becker, T.W., A. Hashima, A.M. Freed and H. Sato	2018	Stress change before and after the 2011 M9 Tohoku-oki earthquake	Earth Planet. Sci. Lett.	504		○	10.1016/j.epsl.2018.09.035	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Katou, M., S. Abe, H. Saito and H. Sato	2018	Reciprocal data and subsequent waveform matching for integrated onshore-offshore seismic profiling	Geophys. J. Int.	212	509-521	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
野徹雄・佐藤壮・小平秀一・高橋成実・佐藤比呂志・石山達也・三浦誠一・金田義行	2019	地震探査から見た富山トラフの地殻構造の特徴	地質学雑誌	125	517-525	○		2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
Wang Q.-Y., M. Campillo, F. Brenguier, A. Lecointre, T. Takeda and A. Hashima	2019	Evidence of changes of seismic properties in the entire crust beneath Japan after the Mw 9.0, 2011 Tohoku-oki earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124		○	10.1029/2019JB017803	2(1)イ	1(3)ア, 1(5)オ, 2(1)ア	
岩田貴樹・尾形良彦	2020	Gutenberg-Richter則におけるa値の最尤推定	地震2	73	93-96	○	10.4294/zisin.2020-1	2(1)イ	1(3)ア, 2(2)イ	
Alejandro, L., C. Soto, T. Ito, M. Protti and H. Kimura	2020	Earthquake potential in Costa Rica using three scenarios for the Central Costa Rica Deformed Belt as western boundary of the Panama Microplate, Journal of South American Earth Sciences	J. South Am. Earth Sci.			○	10.1016/j.jsames.2019.102375	2(1)イ	1(5)イ	
遠田晋次	2018	2018年大阪府北部地震の周辺活断層と地震活動への影響	地震ジャーナル	66	9-21			2(1)イ	2(2)イ	
Ogata, Y., K. Katsura, H. Tsuruoka and N. Hirata	2019	High-resolution 3D earthquake forecasting beneath the greater Tokyo area	Earth Planet. Space	71	113	○	10.1186/s40623-019-1086-7	2(1)イ	2(2)イ	
Xiong, Z., J. Zhuang and S. Zhou	2019	Long-term earthquake hazard in North China estimated from a modern catalog	Bull. Seismol. Soc. Am.	109	2340-2355	○	10.1785/0120190066	2(1)イ	2(2)イ	
Kumazawa, T., Y. Ogata and S. Toda	2020	Wide-area seismicity anomalies before the 2011 Tohoku-Oki earthquake	Geophys. J. Int.	223	1304-1312	○	10.1093/gji/ggaa356	2(1)イ	2(2)イ	
熊澤貴雄・尾形良彦	2020	群発地震活動の非定常 ETASモデルによる検出と測地学データに基づく予測可能性について	地震予知連絡会会報	103	378-384			2(1)イ	2(2)イ	
Ogata, Y. and T. Omi	2020	Statistical Monitoring and Early Forecasting of the Earthquake Sequence: Case Studies after the 2019 M 6.4 Searles Valley Earthquake, California	Bull. Seismol. Soc. Am.	110	1781-1798	○	10.1785/0120200023	2(1)イ	2(2)イ	
尾形良彦	2020	階層的時空間 ETAS モデルによる短期・中期予測	地震予知連絡会会報	103	385-387			2(1)イ	2(2)イ	
Toda, S. and R.S. Stein	2020	Long- and short-term stress interaction of the 2019 Ridgecrest sequence and Coulomb-based earthquake forecasts	Bull. Seismol. Soc. Am.	110	1765-1780	○	10.1785/0120200169	2(1)イ	2(2)イ	2019年リッジレスト地震(M7.1)地震後の周辺の地震活動に、クーロン破壊応力変化とすべり状態依存則に基づく予測モデルを適用した。このモデルを用いるとサン・アンドレス断層の大地震が1年間に発生する確率は1.15%となり、リッジレスト地震の影響により長期的な発生確率の3-5倍となることが推定される。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Iwasaki, T., N. Tsumura, T. Ito, K. Arita, M. Matsubara, H. Sato, E. Kurashimo, N. Hirata, S. Abe, K. Noda, A. Fujiwara, S. Kikuchi and K. Suzuki	2019	Structural heterogeneity in and around the fold-and-thrust belt of the Hidaka Collision zone, Hokkaido, Japan and its relationship to the aftershock activity of the 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake	Earth Planet. Space	71:103		○	10.1186/s40623-019-1081-z	2(1)イ	2(3)	
Ando, R., K. Imanishi, Y. Panayotopoulos and T. Kobayashi	2017	Dynamic rupture propagation on geometrically complex fault with along-strike variation of fault maturity: insights from the 2014 Northern Nagano earthquake	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0715-2	2(1)イ	3(1)ア	
Ando, R. and Y. Kaneko	2018	Dynamic rupture simulation reproduces spontaneous multi-fault rupture and arrest during the 2016 Mw 7.9 Kaikoura earthquake	Geophys. Res. Lett.	45	12875-12833	○	10.1029/2018GL080550	2(1)イ	3(1)ア	動的破壊シミュレーションの予測能力を2016年カイコウラ（ニュージールランド地震）について観測データとの比較により検証した論文。断層の3次元形状が重要なパラメータであり、予測能力を左右する要因であることが分かった。
Toda, S. and R. S. Stein	2018	Why aftershock duration matters for probabilistic seismic hazard assessment	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	1414-1426	○	10.1785/0120170270	2(1)イ	3(1)ア	
Li, Y., D. Wang, S. Xu, L. Fang, Y. Cheng, G. Luo, B. Yan, B. Enescu and J. Mori	2019	Thrust and Conjugate Strike-Slip Faults in the 17 June 2018 Mw 6.1 (Mw 5.5) Osaka, Japan, Earthquake Sequence	Seismol. Res. Lett.	90	2132-2141	○	10.1785/0220190122	2(1)イ	3(1)ア	
遠田晋次・石村大輔	2019	熊本地震など内陸大地震で見いだされた誘発性地表地震断層と短い活断層の評価	第四紀研究	58	121-136	○	10.4116/jaqua.58.1.21	2(1)イ	3(1)ア	
Suzuki, Y., M. Watanabe and T. Nakata	2019	Impact of Active Fault Discovery on Disaster Risk Reduction	The International Science Conference on Strengthening Urban Disaster Resilience		65-70			2(1)イ		
<b>(2) 地殻活動モニタリングに基づく地震発生予測</b>										
<b>ア. プレート境界滑りの時空間変化の把握に基づく予測</b>										
Gomberg, J., A. Wech, K. Creager, K. Obara and D. Agnew	2016	Reconsidering earthquake scaling	Geophys. Res. Lett.	43	6243-6251	○	10.1002/2016GL069967	2(2)ア		
気象研究所	2016	海溝と直交する方向の全国の基線長変化	地震予知連絡会会報	96	30-36			2(2)ア		
気象研究所	2016	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	96	333-336			2(2)ア		
小林昭夫・弘瀬冬樹	2016	千葉県北部の地震活動と同期した非地震性すべり	地震2	69	1-9	○	10.4294/zisin.69.1	2(2)ア		
Obara, K. and A. Kato	2016	Connecting slow earthquakes to huge earthquakes	Science	353	253-257	○	10.1126/science.1251512	2(2)ア		スロー地震は、断層破壊がゆっくりと進行する地震現象であり、強い揺れを伴いません。しかし、スロー地震の多くは沈み込むプレート境界面上で巨大地震発生域に隣接し、巨大地震と共通の低角逆断層型のメカニズムを有することから、巨大地震との関連性が示唆されてきました。スロー地震は、発見されてから20年も経っていませんが、巨大地震に対して以下の3つの役割を担う可能性があることが、これまでの観測研究により明らかになってきました。①Analog（類似現象）：スロー地震の活動様式が巨大地震と類似し、さらに高頻度で発生することから、巨大地震の発生様式を理解するためのヒントを与える可能性。②Stress meter（応力状態を反映するインジケータ）：スロー地震は周囲の応力変化に敏感であるため、巨大地震震源域における応力蓄積の状況に応じて、スロー地震の活動様式が変化する可能性。③Stress transfer（周囲への応力転荷）：スロー地震の発生によってその周囲に応力を転荷することがあるため、隣接した巨大地震震源域における断層破壊を促進する可能性。今後もスロー地震の活動を継続的にモニタリングし、その活動様式や発生原因の解明を進めることにより、巨大地震の発生過程に関する理解の進展にも繋がることを期待されます。
Ozawa, S., M. Tobita and Yarai, H.	2016	A possible restart of an interplate slow slip adjacent to the Tokai seismic gap in Japan	Earth Planet. Space	68	54	○	10.1186/s40623-016-0430-4	2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2016	広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりのモニタリングシステムの開発	平成28年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2016	測地データに基づく余効すべりと地震活動に関する研究	平成28年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
Chao, K., Z. Peng, Y.-J. Hsu, K. Obara, C. Wu, K.-E. Ohing, S. van der Lee, H.-C. Pu, P.-L. Leu and A. Wech	2017	Temporal Variation of Tectonic Tremor Activity in Southern Taiwan Around the 2010 ML6.4 Jiashian Earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	5417-5434	○	10.1002/2016JB013925	2(2)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
気象研究所	2017	海溝と直交する方向の全国の基線長変化	地震予知連絡会会報	97	30-35			2(2)ア		
気象研究所	2017	海溝と直交する方向の全国の基線長変化	地震予知連絡会会報	98	24-28			2(2)ア		
気象研究所	2017	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	97	287-290			2(2)ア		
気象研究所	2017	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	98	313-316			2(2)ア		
Ozawa, S.	2017	Long-term slow slip events along the Nankai trough subduction zone after the 2011 Tohoku earthquake in Japan	Earth Planet. Space	69	56	○	10.1186/s40623-017-0640-4	2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2017	GNSSデータを用いた短期的スロースリップイベントの検出に関する研究	平成29年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2017	広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりの時間変化に関する研究	平成29年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2017	測地学的データに基づくスロースリップイベントの発生過程に関する研究	平成29年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
露木貴裕・長谷川浩・近澤心・木村久夫・棚田理絵・沼野あかね	2017	新しい地震活動等総合監視システム (EPoS) における地殻変動監視手法の改善	験震時報	81	5	○		2(2)ア		
Baba, S., A. Takeo, K. Obara, A. Kato T. Maeda and T. Matsuzawa	2018	Temporal activity modulation of deep very low frequency earthquakes in Shikoku, southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	45	733-738	○	10.1002/2017GL076122	2(2)ア		
Fukuda, J.	2018	Variability of the space-time evolution of slow slip events off the Boso Peninsula, central Japan, from 1996 to 2014	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	732-760	○	10.1002/2017JB014709	2(2)ア		
木村一洋	2018	体積ひずみ計データの降水補正に用いる降水量データについて	気象研究所研究報告	67	35-44	○	10.2467/mripapers.67.35	2(2)ア		
気象研究所	2018	海溝と直交する方向の全国の基線長変化	地震予知連絡会会報	99	24-27			2(2)ア		
気象研究所	2018	海溝と直交する方向の全国の基線長変化	地震予知連絡会会報	100	19-22			2(2)ア		
気象研究所	2018	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	99	302-305			2(2)ア		
気象研究所	2018	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	100	255-258			2(2)ア		
Kurihara, R., K. Obara, A. Takeo and T. Maeda	2018	Migration of deep low frequency tremor triggered by teleseismic earthquakes in the southwest Japan subduction zone	Geophys. Res. Lett.	45	3413-3419	○	10.1002/2017GL076779	2(2)ア		西南日本のプレート沈み込み帯の深部低周波微動発生域では、遠地地震によって微動が誘発されることがある(以下ではこのような微動を誘発微動と呼ぶ)。この微動は西南日本では5箇所程度の場所に集中して発生していることが知られている。本論文では、既往研究により誘発微動の発生が報告されている西南日本の紀伊半島北部と四国西部の2箇所において、この遠地地震によって誘発された微動を2004年から2016年に世界中で発生したMw7.5以上の遠地地震71回について、マッチドフィルタ法により網羅的に検出し、その活動の特徴を調べて、その結果、紀伊半島北部ではそれぞれ9回、四国西部では17回の遠地地震において、誘発微動を検出した。紀伊半島北部ではすべての誘発微動が1箇所に集中して検出され、四国西部では2箇所に別れて検出された。四国西部の誘発微動はこのうち片方の場所でしか検出されない事例と、2箇所で検出される事例の両方があった。さらに、紀伊半島北部の誘発微動のうち7回と、四国西部の誘発微動のうち西側の場所で発生する誘発微動のうち5回で微動がマイグレーションしていることがわかった。このマイグレーションの方向は、紀伊半島北部では全ての誘発微動において南東から北西、つまりプレートの沈みこむ向きであり、四国西部では5回中4回で北西から南東、つまりプレートの沈みこむ向きと逆であり、残りの1回は南東から北西であった。また、マイグレーションの速さは紀伊半島北部では時速5-20km、四国西部では時速10-100kmであり、やや四国西部で速い特徴があった。マイグレーションは微動の発生場所が広がっている様子を示すと考えられる。よって、本論文の結果は誘発微動が1箇所で発生しているのではなく、微動の影にスロースリップがあり、それが拡大しながら微動を引き起こしていることを示すと考えられる。つまり、遠地地震によって微動だけではなくスロースリップも誘発された可能性を示す。
小沢慎三郎・矢来博司	2018	GNSSデータを用いた短期的スロースリップイベントの検出に関する研究	平成30年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2018	広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりの時間変化に関する研究	平成30年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2018	測地学的データに基づくスロースリップイベントの発生過程に関する研究	平成30年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
Poiata, N., J.P. Vilotte, P. Berbnard, C. Satriano and K. Obara	2018	Imaging different components of a tectonic tremor sequence in southwestern Japan using an automatic statistical detection and location method	Geophys. J. Int.	213	2193-2213	○	10.1093/gji/egy070	2(2)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Carvajal-Soto, L.A., T. Ito, M. Protti and H. Kimura	2019	Earthquake potential in Costa Rica using three scenarios for the central Costa Rica deformed belt as western boundary of the Panama microplate	J. South Am. Earth Sci.	97		○	10.1016/j.jsames.2019.102375	2(2)ア		
Chao, K., Z. Peng, W.B. Frank, G.A. Prieto and K. Obara	2019	Isolated Triggered Tremor Spots in South America and Implications for Global Tremor Activity	Seismol. Res. Lett.	90	1726-1739	○	10.1785/0220190009	2(2)ア		
気象研究所	2019	全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化	地震予知連絡会会報	101	23-26			2(2)ア		
気象研究所	2019	全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化	地震予知連絡会会報	102	17-20			2(2)ア		
気象研究所	2019	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	101	383-386			2(2)ア		
気象研究所	2019	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	102	280-283			2(2)ア		
気象研究所	2019	南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知	地震予知連絡会会報	102	277-279			2(2)ア		
Nanjo, K.Z.	2019	Capability of Tokai strainmeter network to detect and locate a slow slip: First results	Pure Appl. Geophys.	177	2701-2718	○	10.1007/s00024-019-02367-1	2(2)ア		
Ozawa, S., H. Yarai and T. Kobayashi	2019	Recovery of the recurrence interval of Boso slow slip events in Japan	Earth Planet. Space	71	78	○	10.1186/s40623-019-1058-y	2(2)ア		
小沢慎三郎・矢来博司	2019	広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりの時間変化に関する研究	令和元年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
矢来博司・小沢慎三郎・小林知勝・川畑亮二・山田晋也	2019	南海トラフ沿いの巨大地震発生に対応するための高精度な地殻活動把握手法の研究開発	令和元年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
Baba, S., S. Takemura, K. Obara and A. Noda	2020	Slow Earthquakes Illuminating Interplate Coupling Heterogeneities in Subduction Zones	Geophys. Res. Lett.	47	e2020GL088089	○	10.1029/2020GL088089	2(2)ア		
Baba, S., A. Takeo, K. Obara, T. Matsuzawa and T. Maeda	2020	Comprehensive Detection of Very Low Frequency Earthquakes Off the Hokkaido and Tohoku Pacific Coasts, Northeastern Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2019JB017988	○	10.1029/2019JB017988	2(2)ア		
Buckby, J., T. Wang, J. Zhuang and K. Obara	2020	Model checking for hidden Markov models	J. Comput. Graph. Stat.	29	859-874	○	10.1080/10618600.2020.1743295	2(2)ア		
気象研究所	2020	全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化	地震予知連絡会会報	103	22-25			2(2)ア		
気象研究所	2020	全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化	地震予知連絡会会報	104	22-26			2(2)ア		
気象研究所	2020	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	103	253-256			2(2)ア		
気象研究所	2020	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	104	369-372			2(2)ア		
Li, S., J. Fukuda and O. Oncken	2020	Geodetic evidence of time-dependent viscoelastic interseismic deformation driven by megathrust locking in the southwest Japan subduction zone	Geophys. Res. Lett.	47	e2019GL085551	○	10.1029/2019GL085551	2(2)ア		
宗包浩志・小沢慎三郎・川畑亮二・山田晋也	2020	南海トラフ沿いの巨大地震発生に対応するための高精度な地殻活動把握手法の研究開発	令和2年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
Obara K. and T. Nishimura	2020	Main Results from the Program Promotion Panel for Subduction-Zone Earthquakes	J. Disaster Res.	15	87-95	○	10.20965/jdr.2020.p0087	2(2)ア		
Obara, K.	2020	Characteristic activities of slow earthquakes in Japan	Proc. Jpn. Acad. Ser. B	96	297-315	○	10.2183/pjab.96.022	2(2)ア		
Obara, K.	2020	Errata to "Characteristic activities of slow earthquakes in Japan"	Proc. Jpn. Acad. Ser. B	96	372	○	10.2183/pjab.96.028	2(2)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ozawa S., R. Kawabata, K. Kokado and H. Yarai	2020	Long-term slow slip events along the Nankai trough delayed by the 2016 Kumamoto earthquake, Japan	Earth Planet. Space	72	61	○	10.1186/s40623-020-01189-z	2(2)ア		
小沢慎三郎・宗包浩志	2020	広域地殻変動データに基づくプレート境界の固着とすべりの時間変化に関する研究	令和2年度国土地理院調査研究年報					2(2)ア		
Supino, M., N. Poiata, G. Festa, J.P. Vilotte, C. Satriano and K. Obara	2020	Self-similarity of low-frequency earthquakes	Sci. Rep.	10	6523	○	10.1038/s41598-020-63584-6	2(2)ア		
Aiken C. and K. Obara	2021	Data-Driven Clustering Reveals More Than 900 Small Magnitude Slow Earthquakes and Their Characteristics	Geophys. Res. Lett.	48	e2020GL091764	○	10.1029/2020GL091764	2(2)ア		
気象研究所	2021	全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化	地震予知連絡会会報	105	37-41			2(2)ア		
気象研究所	2021	内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測	地震予知連絡会会報	105	378-381			2(2)ア		
小林昭夫・弘瀬冬樹・堀川晴央・平田賢治・中西一郎	2018	1707年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料——飯作家「大地震富士山焼之事覚書」の調査と翻刻——	地震2	70	221-231	○	10.4294/zisin.2017-6	2(2)ア	1(1)ア、5(2)ア	
Fukuda, J. and K.M. Johnson	2021	Bayesian inversion for a stress-driven model of afterslip and viscoelastic relaxation: Method and application to postseismic deformation following the 2011 Mw 9.0 Tohoku-Oki earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB021620	○	10.1029/2020JB021620	2(2)ア	1(2)	
Igarashi, T. and A. Kato	2021	Evolution of aseismic slip rate along plate boundary faults before and after megathrust earthquakes	Commun. Earth Environ.	2	60	○	10.1038/s43247-021-00127-5	2(2)ア	1(2)	
田所敬一・琉球大学理学部	2016	南西諸島海溝における海底地殻変動解析結果(暫定)	地震予知連絡会報	96	417-420			2(2)ア	1(2)イ	
田所敬一	2016	南海トラフ沿いでの海底地殻変動解析結果(暫定)	地震予知連絡会報	96	325-327			2(2)ア	1(2)イ	
Yasuda, K., K. Tadokoro, S. Taniguchi, H. Kimura and K. Matsuhiro	2017	Interplate locking condition derived from seafloor geodetic observation in the shallowest subduction segment at the Central Nankai Trough, Japan	Geophys. Res. Lett.	44	3572-3579	○	10.1002/2017GL072918	2(2)ア	1(2)イ	南海トラフ軸を挟む2箇所での海底地殻変動観測を行い、両観測点での平均変位速度を得た。上盤側の南海トラフ軸近傍における変位速度の実測は、南海トラフ地震域におけるプレート間固着状態ならびに固着にともなうひずみ蓄積過程の把握において極めて重要である。得られた変位速度をもとにすると、南海トラフ軸の近く近傍での固着率は少なくとも40%と推定された。
Iinuma, T.	2018	Monitoring of the spatio-temporal change in the interplate coupling at northeastern Japan subduction zone based on the spatial gradients of surface velocity field	Geophys. J. Int.	213(1)	30-47	○	10.1093/gji/ggx527	2(2)ア	1(2)イ	
木村洋・田所敬一・伊藤武男	2018	陸上及び海底地殻変動観測データに基づくブロック運動モデルを用いた南海トラフ沈み込み帯の固着推定	地震予知連絡会報	99	298-301			2(2)ア	1(2)イ	
Tadokoro, K., M. Nakamura, M. Ando, H. Kimura, T. Watanabe and K. Matsuhiro	2018	Interplate Coupling State at the Nansei-Shoto (Ryukyu) Trench, Japan, Deduced From Seafloor Crustal Deformation Measurements	Geophys. Res. Lett.	45	6869-6877	○	10.1029/2018GL078655	2(2)ア	1(2)イ	沖縄本島南～南東沖の2カ所で海底地殻変動観測を行い、平均変位速度を得た。この海域では、少なくとも長さ130km×幅20～30km(最大幅60km)にわたってプレート境界が強く固着している部分があることが分かった。この領域は1791年に沖縄本島に津波が到来した地震の波源域と重なっており、沖縄本島南方の沖合でM8クラスの海溝型地震が発生し、与那原に11mの津波が押し寄せたことが報告されています。今回発見した固着域は、この津波を起こしたとされる領域と重なっており、将来的な海溝型地震と津波の発生を示唆する結果である。
Kimura, H., K. Tadokoro and T. Ito	2019	Interplate Coupling Distribution Along the Nankai Trough in Southwest Japan Estimated From the Block Motion Model Based on Onshore GNSS and Seafloor GNSS/A Observations	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	6140-6164	○	10.1029/2018JB016159	2(2)ア	1(2)イ	陸上のGNSS観測網(GEONET)の観測結果に加えて、南海トラフ域、特にトラフ軸近傍での海底地殻変動観測結果も加えて、ブロック運動モデルに基づき、MCMC法によりプレート間固着分布の推定を行った。その結果、海溝軸近くでも固着の強さに強弱があることが分かった。
Kano, M., J. Fukuda, S. Miyazaki and M. Nakamura	2018	Spatiotemporal evolution of recurrent slow slip events along the southern Ryukyu subduction zone, Japan, from 2010 to 2013	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	7090-7107	○	10.1029/2018JB016072	2(2)ア	1(3)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Fukushima, Y., M. Hashimoto, M. Miyazawa, N. Uchida and T. Taira	2019	Surface creep rate distribution along the Philippine fault, Leyte Island, and possible repeating of Mw 6.5 earthquakes on an isolated locked patch	Earth Planet. Space	71(1)		○	10.1186/s40623-019-1096-5	2(2)ア	1(3)ア	
廣瀬仁	2019	GNSS座標時系列データに含まれる common-mode error 除去手法の開発	神戸大学都市安全研究センター研究報告	23	18-25			2(2)ア	1(3)ア	
Hirose, H. and T. Kimura	2020	Slip distributions of short-term slow slip events in Shikoku, southwest Japan from 2001 to 2019 based on tilt change measurements	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2020JB019601	○	10.1029/2020JB019601	2(2)ア	1(3)ア	四国で発生している短期的スロースリップイベント (SSE) のすべり分布を防災科学技術研究所Hi-netによる傾斜変化 (オフセット) データセットに基づいて推定し、2001年から2019年にかけて発生した61イベントについてすべり分布を求めることに成功した。この結果、短期的SSEのすべり量は空間的に一様ではなく、また2012年頃を境に、それ以降のSSEではより大規模のものが増える傾向がみられた。
廣瀬仁・卯川知希	2020	地震数データから応力変化量を推定する手法の試行	神戸大学都市安全研究センター研究報告	24	10-17			2(2)ア	1(3)ア	
副島庸平・廣瀬仁	2021	紀伊半島北部における短期的スロースリップイベントのすべり領域の傾斜データによる制約 -すべり領域と微動発生領域の空間的比較-	神戸大学都市安全研究センター研究報告	25	9-21			2(2)ア	1(3)ア	
Kano, M., A. Kato, R. Ando and K. Obara	2018	Strength of tremor patches along deep transition zone of a megathrust	Sci. Rep.	8	3655	○	10.1038/s41598-018-22048-8	2(2)ア	1(3)ア, 1(4)イ, 1(5)ア	
Kano, M. and Y. Kano	2019	Possible slow slip event beneath the Kii Peninsula, southwest Japan, inferred from historical tilt records in 1973	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1076-9	2(2)ア	1(3)ア, 1(5)ア	アナログ傾斜記録を用いて1970年代に紀伊半島で発生したSSEが現在発生するSSEよりも大規模・低頻度である可能性を示唆した。
Toya, M., A. Kato, T. Maeda, K. Obara, T. Takeda and K. Yamaoka	2017	Down-dip variations in a subducting low-velocity zone linked to episodic tremor and slip: a new constraint from ScSp waves	Sci. Rep.	7	2868	○	10.1038/s41598-017-03048-6	2(2)ア	1(3)ア, 1(5)ア, 1(5)オ	
Iinuma, T., R. Hino, N. Uchida, W. Nakamura, M. Kido, Y. Osada and S. Miura	2016	Seafloor observations indicate spatial separation of coseismic and postseismic slips in the 2011 Tohoku Earthquake	Nat. Commun.			○	10.1038/ncomms13506	2(2)ア	1(3)イ, 5(3)イ	
Imanishi, K., T. Uchide and N. Takeda	2016	Determination of focal mechanisms of nonvolcanic tremor using S wave polarization data corrected for the effects of anisotropy	Geophys. Res. Lett.	43		○	10.1002/2015GL067249	2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・小泉尚嗣・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努	2016	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2015年5月~2015年10月)(52)	地震予知連絡会会報	95	265-271			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努・武田直人	2016	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2015年11月~2016年4月)(53)	地震予知連絡会会報	96	271-277			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・武田直人・松本則夫・落唯史・木口努	2016	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2015年11月~2016年4月)	地震予知連絡会会報	96	345-358			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・小泉尚嗣・松本則夫・武田直人・落唯史	2016	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2015年5月~2015年10月)	地震予知連絡会会報	95	305-318			2(2)ア	1(5)ア	
松本則夫	2016	南海トラフ地震の中長期予測をめざして	地震ジャーナル	62	8-12			2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・武田直人・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2016	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント(2015年11月~2016年4月)	地震予知連絡会会報	96	255-270			2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・小泉尚嗣・北川有一・松本則夫・武田直人・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2016	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント(2015年5月~2015年10月)	地震予知連絡会会報	95	255-271			2(2)ア	1(5)ア	
Araki, T., T. Ochi, N. Matsumoto and S. Akaho	2017	Simultaneous estimation of spatio-temporal distribution and duration of slow slip event by switching model	J. Signal Process.	21	297-308	○	10.2299/jsp.21.297	2(2)ア	1(5)ア	短期的SSEの検出と断層すべり分布の時空間変化の推定を同時に行う方法を提案した。シミュレーションデータでは高い精度ですべり開始時点・終了を推定し、また、従来法に比べすべり量の時空間変化の推定精度が改善した。実際の歪データを用いて推定したすべり開始・終了時点は微動発生期間と一致した。
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努・武田直人	2017	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2016年5月~2016年10月)(54)	地震予知連絡会会報	97	254-260			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努・武田直人	2017	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2016年11月~2017年4月)(55)	地震予知連絡会会報	98	275-281			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・武田直人・松本則夫・落唯史・木口努	2017	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2016年11月~2017年4月)	地震予知連絡会会報	98	325-338			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・武田直人・松本則夫・落唯史・木口努	2017	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2016年5月~2016年10月)	地震予知連絡会会報	97	299-312			2(2)ア	1(5)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Nakata, R., H. Hino, T. Kuwatani, S. Yoshioka, M. Okada and T. Hori	2017	Discontinuous boundaries of slow slip events beneath the Bungo Channel, southwest Japan	Sci. Rep.	7		○	10.1038/s41598-017-06185-0	2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・武田直人・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2017	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2016年11月~2017年4月)	地震予知連絡会会報	98	263-274			2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・武田直人・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2017	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2016年5月~2016年10月)	地震予知連絡会会報	97	242-253			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努・武田直人	2018	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果 (2017年5月~2017年10月) (56)	地震予知連絡会会報	99	258-264			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努・武田直人	2018	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果 (2017年11月~2018年4月) (57)	地震予知連絡会会報	100	183-189			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・武田直人・松本則夫・落唯史・木口努	2018	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果 (2017年11月~2018年4月)	地震予知連絡会会報	100	264-275			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・武田直人・松本則夫・落唯史・木口努	2018	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果 (2017年5月~2017年10月)	地震予知連絡会会報	99	314-327			2(2)ア	1(5)ア	
Ochi, T. and N. Takeda	2018	Relation between the coupling and tremor rates in the transition zone around the Shikoku region	Earth Planet. Space	70		○	10.1186/s40623-018-0883-8	2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・武田直人・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2018	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2017年11月~2018年4月)	地震予知連絡会会報	100	165-182			2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・武田直人・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2018	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2017年5月~2017年10月)	地震予知連絡会会報	99	243-257			2(2)ア	1(5)ア	
梅田康弘・板場智史	2018	1944年東南海地震及び1946年南海地震時の海水位変化を利用した紀伊半島沿岸部における上下変動時系列の推定	地質調査研究報告	69	81-89			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努	2019	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果 (2018年5月~2018年10月) (58)	地震予知連絡会会報	101	258-264			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤努	2019	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果 (2018年11月~2019年4月) (59)	地震予知連絡会会報	102	201-208			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・松本則夫・落唯史・木口努	2019	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果 (2018年11月~2019年4月)	地震予知連絡会会報	102	284-294			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・松本則夫・落唯史・木口努	2019	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果 (2018年5月~2018年10月)	地震予知連絡会会報	101	392-402			2(2)ア	1(5)ア	
Nishikawa, T., T. Matsuzawa, K. Ohta, N. Uchida, T. Nishimura and S. Ide	2019	The slow earthquake spectrum in the Japan Trench illuminated by the S-net seafloor observatories	Science	365	808-813	○	10.1126/science.aax5618	2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2019	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2018年11月~2019年4月)	地震予知連絡会会報	102	184-200			2(2)ア	1(5)ア	
落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2019	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2018年5月~2018年10月)	地震予知連絡会会報	101	411-417			2(2)ア	1(5)ア	
Takagi, R., N. Uchida and K. Obara	2019	Along-strike variation and migration of long-term slow slip events in the western Nankai subduction zone, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	3853-3880	○	10.1029/2018JB016738	2(2)ア	1(5)ア	
Uchida, N. and R. Burgmann	2019	Repeating earthquakes	Annu. Rev. Earth Planet. Sci.	47		○	10.1146/annurev-earth-053018-0601191	2(2)ア	1(5)ア	
Uchida, N.	2019	Detection of repeating earthquakes and their application in characterizing slow fault slip	Prog. Earth Planet. Sci.	6(1)	40	○	10.1186/s40645-019-0284-z	2(2)ア	1(5)ア	
Uchida, N., D. Kalafat, A. Pinar and Y. Yamamoto	2019	Repeating earthquakes and interplate coupling along the western part of the North Anatolian Fault	Tectonophysics	769	228185	○	10.1016/j.tecto.2019.228185	2(2)ア	1(5)ア	
Khoshmanesh, M., M. Shirzaei and N. Uchida	2020	Deep slow-slip events promote seismicity in northeastern Japan megathrust	Earth Planet. Sci. Lett.		116261	○	10.1016/j.epsl.2020.116261	2(2)ア	1(5)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤秀	2020	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2019年11月~2020年4月)(61)	地震予知連絡会会報	104	265-271			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤秀・矢部優	2020	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2019年5月~2019年10月)(60)	地震予知連絡会会報	103	181-187			2(2)ア	1(5)ア	
Kitagawa, Y., N. Matsumoto and T. Kimura	2020	Estimation of fault models for short-term slow slip events from groundwater pressure in soft sedimentary layers	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01218-x	2(2)ア	1(5)ア	北勢観測点の観測井戸を密閉した。地殻変動に対する地下水位(水圧)の感度が密閉前の約10倍となった。また、同水位(水圧)によって短期的SSEを観測できるようになり、周囲のひずみ・傾斜データに加えて同水位(水圧)を用いてSSEの断層モデルを推定した。
北川有一・板場智史・松本則夫・落唯史・木口努	2020	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	373-383			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・松本則夫・落唯史・木口努・矢部優	2020	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2019年5月~2019年10月)	地震予知連絡会会報	103	257-267			2(2)ア	1(5)ア	
Uchida, N., R. Takagi, Y. Asano and K. Obara	2020	Migration of shallow and deep slow earthquakes toward the locked segment of the Nankai megathrust	Earth Planet. Sci. Lett.	531	115986	○	10.1016/j.epsl.2019.115986	2(2)ア	1(5)ア	
矢部優・落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2020	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント(2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	216-264			2(2)ア	1(5)ア	
矢部優・落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2020	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント(2019年5月~2019年10月)	地震予知連絡会会報	103	166-180			2(2)ア	1(5)ア	
木口努・松本則夫・北川有一・板場智史・落唯史・佐藤秀	2021	東海・関東・伊豆地域における地下水等観測結果(2020年5月~2020年10月)(62)	地震予知連絡会会報	105	259-265			2(2)ア	1(5)ア	
北川有一・板場智史・松本則夫・落唯史・木口努・矢部優	2021	紀伊半島~四国の歪・傾斜・地下水観測結果(2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	382-392			2(2)ア	1(5)ア	
矢部優・落唯史・板場智史・松本則夫・北川有一・木口努・木村尚紀・木村武志・松澤孝紀・汐見勝彦	2021	東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント(2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	214-258			2(2)ア	1(5)ア	
Kamigaichi, O., N. Matsumoto and F. Hirose	in press	Green's function at depth of borehole observation required for precise estimation of the effect of ocean tidal loading near coasts	Geophys. J. Int.			○	10.1093/gji/ggab216	2(2)ア	1(5)ア	
Tomita, F., M. Kido, C. Honsho and R. Matsui	2019	Development of a kinematic GNSS-Acoustic positioning method based on a state-space model	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1082-y	2(2)ア	1(5)ア, 5(2)ウ, 5(3)イ	
Tanaka, S., T. Matsuzawa and Y. Asano	2019	Shallow low-frequency tremor in the northern Japan Trench subduction zone	Geophys. Res. Lett.	46	5217-5224	○	10.1029/2019GL082817	2(2)ア	1(5)オ, 5(3)ア	基盤の地震観測網で観測された遠地地震波形データの解析から、四国西部下に沈み込むフィリピン海プレートからの脱水が、その上部のマントルウェッジの蛇紋岩化や深部低周波微動の発生に寄与していることを示した。
Uchida, N. and R. Bürgmann	2021	Learning from a disastrous megathrust earthquake	Eos		102		10.1029/2021E0159741.	2(2)ア	2(1)ア	
Uchida, N. and R. Bürgmann	2021	A decade of lessons learned from the 2011 Tohoku-oki earthquake	Rev. Geophys.		59	○	10.1029/2020RG000713	2(2)ア	2(1)ア	東北沖地震から10年目にあたって、東北沖地震前の知識およびその後の10年間の研究の進展についてまとめた。特に、地震の長期・短期予測や巨大地震の繰り返しに焦点をあて、東北沖地震から得られた広範な科学的教訓を今後の大地震のポテンシャル評価や予測の研究に活かせることを目指した。
Reverso, T., D. Marsan, A. Helmstetter and B. Enescu	2016	Background seismicity in Boso Peninsula, Japan: Long-term acceleration, and relationship with slow slip events	Geophys. Res. Lett.	43	5671-5679	○	10.1002/2016GL068524	2(2)ア	2(2)イ	
Tormann, T., S. Wiemer, B. Enescu and J. Woessner	2016	Normalized rupture potential for small and large earthquakes along the Pacific Plate off Japan	Geophys. Res. Lett.	43	7468-7477	○	10.1002/2016GL069309	2(2)ア	2(2)イ	
Tormann, T., B. Enescu, J. Woessner and S. Wiemer	2016	Reply to 'Tohoku rupture reloaded?'	Nat. Geosci.	9	183-185	○	10.1038/ngeo2650	2(2)ア	2(2)イ	
Wang, T., J. Zhuang, K. Obara and H. Tsuruoka	2016	Hidden Markov modelling of sparse time series from non-volcanic tremor observations	J. R. Stat. Soc. Ser. C. Appl. Stat.	66	691-715	○	10.1111/rssc.12194	2(2)ア	2(2)イ	
加納靖之・細善信・尾上謙介	2017	1970年代の紀伊半島の傾斜計記録の復元	東濃地震科学研究所報告	35				2(2)ア	2(2)イ	
加納靖之・細善信・尾上謙介	2018	1960年代の紀伊半島の傾斜計記録の復元	東濃地震科学研究所報告	40	173-175			2(2)ア	2(2)イ	
Wang, T., J. Zhuang, J. Buckby, K. Obara and H. Tsuruoka	2018	Identifying the recurrence patterns of non-volcanic tremors using a 2D hidden Markov model with extra zeros	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	6802-6825	○	10.1029/2017JB015360	2(2)ア	2(2)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Agata, R., S.D. Barbot, K. Fujita, M. Hyodo, T. Iinuma, R. Nakata, T. Ichimura and T. Hori	2019	Rapid mantle flow with power-law creep explains deformation after the 2011 Tohoku mega-quake	Nat. Commun.	10		○	10.1038/s41467-019-08984-7	2(2)ア	2(2)イ	
Agata, R., A. Kasahara and Y. Yag	2021	A Bayesian inference framework for fault slip distributions based on ensemble modeling of the uncertainty of underground structure – With a focus on uncertain fault dip	Geophys. J. Int.			○	10.1093/gji/ggab033	2(2)ア	2(2)イ	
Hori, T., R. Agata, T. Ichimura, K. Fujita, T. Yamaguchi and T. Iinuma	2021	High Fidelity Elastic Green's Functions for Subduction Zone Models Consistent With the Global Standard Geodetic Reference System	Earth Planet. Space	84		○	10.1186/s40623-021-01370-y	2(2)ア	2(2)イ	長周期地震動のための地下構造モデルとして公開されている全国一次地下構造モデルを取り入れた3次元不均質弾性体でのプレート境界における単位すべり応答のグリーン関数ライブラリを構築した。対象領域は西南日本と東北日本であり、地殻変動データを取得する際の準拠楕円体や座標系に合わせた有限要素モデルとなっており、観測とモデルでジオメトリを一致させた点が新しい。
Kato, A. and S. Nakagawa	2020	Detection of deep low-frequency earthquakes in the Nankai subduction zone over 11 years using a matched filter technique	Earth Planet. Space	72	128	○	10.1186/s40623-020-01257-4	2(2)ア	2(3)	
加藤愛太郎	2018	間欠的な固着のはがれと大地震の発生	パリティ	33	48-51			2(2)ア	4(2)	
弘瀬冬樹・前田憲二・藤田健一	2016	三重県南東沖の地震（2016年4月1日、M6.5）による南海トラフ大地震に対する影響	地震予知連絡会会報	96	311-316			2(2)ア	5(2)ア	
Kobayashi, A.	2017	Objective detection of long-term slow slip events along the Nankai Trough using GNSS data (1996-2016)	Earth Planet. Space	69	171	○	10.1186/s40623-017-0755-7	2(2)ア	5(2)ア	
中田健嗣・小林昭夫・平田賢治・対馬弘晃・山崎明・勝間田明男・前田憲二・馬場久紀・一ノ瀬里美・牛田亮・石原昂典・稲村嘉津也・蓮澤豪	2017	自己浮上式海底地震計観測によって推定された紀伊半島南方の南海トラフ軸南側の地震活動	地震2	69	59-68	○	10.4294/zisin.69.59	2(2)ア	5(2)ア	
気象研究所	2019	南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知	地震予知連絡会会報	101	379-382			2(2)ア	5(2)ア	
Kobayashi, A. and T. Tsuyuki	2019	Long-term slow slip event detected beneath the Shima Peninsula, central Japan, from GNSS data	Earth Planet. Space	71	60	○	10.1186/s40623-019-1037-3	2(2)ア	5(2)ア	
勝間田明男	2020	天竜船明レーザー変位計による地殻変動観測	地震予知連絡会会報	104	212-215			2(2)ア	5(2)ア	
気象研究所	2020	南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知	地震予知連絡会会報	103	251-252			2(2)ア	5(2)ア	
気象研究所	2020	南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知	地震予知連絡会会報	104	366-368			2(2)ア	5(2)ア	
宮岡一樹・小林昭夫	2020	南海トラフ地域のスロー地震（2）気象庁・気象研究所による観測	地震予知連絡会50年のあゆみ		148-150			2(2)ア	5(2)ア	
気象研究所	2021	南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知	地震予知連絡会会報	105	373-377			2(2)ア	5(2)ア	
小林昭夫	2021	GNSSによる長期的スロースリップ客観検出手法の応用－短期的スロースリップの検出と長期的スロースリップの規模推定－	気象研究所研究報告	69	1-14	○	10.2467/mripapers.69.1	2(2)ア	5(2)ア	
Kubota, T., T. Saito, N.Y. Chikada and W. Suzuki	2020	Ultra-broadband seismic and tsunami wave observation of high-sampling ocean-bottom pressure gauge covering periods from seconds to hours	Earth Space Sci.	7	e2020EA011972	○	10.1029/2020EA001197	2(2)ア	5(3)ア	2012年12月7日に日本海溝の近傍の太平洋プレート内部で発生した2つのサブイベントからなる地震について、震源域の近傍で得られた津波記録、連地震波波形、余震分布からそれぞれのサブイベントの断層モデルを推定し、2011年東北地方太平洋沖地震後のプレート内折れ曲がり応力場と巨大地震による応力場の変化について定量的な考察を行うことに成功した。
Sawazaki, K. and T. Nakamura	2020	"N"-shaped Y/X coda spectral ratio observed for in-line-type OBS networks: S-net and ETMC: interpretation based on natural vibration of pressure vessel	Earth Planet. Space	72	130	○	10.1186/s40623-020-01255-6	2(2)ア	5(3)ア	防災科研S-netのデータを用いることにより、2016年8月の三陸沖の地震（Mw6.0）の断層サイズおよび応力降下量が高い精度で推定することに成功した。
Kano, M., S. Miyazaki, Y. Ishikawa and K. Hirahara	2020	Adjoint-based direct data assimilation of GNSS time series for optimizing frictional parameters and predicting postseismic deformation following the 2003 Tokachi-oki earthquake	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01293-0	2(2)ア	5(3)イ	GNSSデータからプレート沈み込み境界の摩擦特性を直接推定し、余効滑りの時空間発展を再現・予測するデータ同化手法を開発した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yano, K., T. Shiina, S. Kurata, A. Kato, F. Komaki, S. Sakai and N. Hirata	2021	Graph-Partitioning Based Convolutional Neural Network for Earthquake Detection Using a Seismic Array	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB020269	○	10.1029/2020JB020269	2(2)ア	5(3)イ	
Kato, T., Y. Terada, K. Tadokoro, N. Kinugasa, A. Futamura, M. Toyoshima, S. Yamamoto, M. Ishii, T. Tsugawa, M. Nishioka, K. Takizawa, Y. Shoji and H. Seko	2018	Development of GNSS Buoy for a Synthetic Geohazard Monitoring System	J. Disaster Res.	13	460-471	○	10.20965/jdr.2018.p0460	2(2)ア	4(2)ウ	
Kinugasa, N., K. Tadokoro, T. Kato and Y. Terada	2020	Estimation of temporal and spatial variation of sound speed in ocean from GNSS-A measurements for observation using moored buoy	Prog. Earth Planet. Sci.	7		○	10.1186/s40645-020-00331-5	2(2)ア	4(2)ウ	
Tadokoro, K., N. Kinugasa, T. Kato, Y. Terada and K. Matsuhiro	2020	A Marine-Buoy-Mounted System for Continuous and Real-Time Measurement of Seafloor Crustal Deformation	Front. Earth Sci.	8		○	10.3389/feart.2020.00123	2(2)ア	4(2)ウ	
Ito, T., S. Suzuki, K. Kachishige and M. Hyodo	2018	Spatio-temporal afterslip distribution following the 2011 Tohoku-Oki earthquake using 3D viscoelastic Green's functions	AIP Conference Proceedings	1987		○	10.1063/1.5047341	2(2)ア		
Nakata, R., T. Hori, M. Hyodo and K. Ariyoshi	2016	Possible scenarios for occurrence of M <sup>7</sup> interplate earthquakes prior to and following the 2011 Tohoku-Oki earthquake based on numerical simulation	Sci. Rep.	161	2053-2068	○	10.1038/srep25704	2(2)ア	1(2)	
Kato, A., J. Fukuda, T. Kumazawa and S. Nakagawa	2016	Accelerated nucleation of the 2014 Iquique, Chile Mw 8.2 Earthquake	Sci. Rep.	6	24792	○	10.1038/srep24792	2(2)ア	1(3)イ	
<b>イ. 地震活動評価に基づく地震発生予測・検証実験</b>										
前田憲二・弘瀬冬樹	2016	群発的地震活動を前震活動と仮定して行う本震の発生予測手法：最近の活動事例による検証	地震予知連絡会会報	96	476-480			2(2)イ		
田中昌之・岡田正実	2016	中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率(2016)	地震予知連絡会会報	96	456-461			2(2)イ		
弘瀬冬樹・前田憲二	2017	本震前に現れるG-R則からの逸脱と、その特徴に基づいた地震予測モデルの提案	地震2	70	21-40	○	10.4294/zisin.2016-8	2(2)イ		
前田憲二・弘瀬冬樹	2017	群発的地震活動を前震活動と仮定して行う本震の発生予測手法：最近の活動事例による検証(3)	地震予知連絡会会報	98	465-469			2(2)イ		
田中昌之・岡田正実	2017	中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率(2017)	地震予知連絡会会報	98	437-442			2(2)イ		
廣田伸之・溜瀬功史	2018	即時的な解説資料における自動震源の活用	平成28年(2016年)熊本地震調査報告	135	67-72			2(2)イ		
Schorlemmer, D., M. Werner, W. Marzocchi, T. Jordan, Y. Ogata, D. Jackson, S. Mak, D. Rhoades, M. Gerstenberger, N. Hirata, M. Liukis, P. Maechling, A. Strader, M. Taroni, S. Wiemer, J. Zechar and J. Zhuang	2018	The Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability: Achievements and Priorities	Seismol. Res. Lett.	89	1305-1313	○	10.1785/0220180053	2(2)イ		
田中昌之・岡田正実・内田直希	2018	繰り返し回数少ない繰り返し地震系列に対する長期的地震発生確率予測の成績と検証	地震2	70	195-213	○	10.4294/zisin.2016-17	2(2)イ		
田中昌之	2018	中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率(2018)	地震予知連絡会会報	100	356-359			2(2)イ		
橋本徹夫・弘瀬冬樹・前田憲二	2019	群発的地震活動を前震活動と仮定して行う本震の発生予測手法：最近の活動事例による検証(4)	地震予知連絡会会報	101	492-494			2(2)イ		
Hirose, F., K. Maeda and O. Kamigaichi	2019	Tidal Forcing of Interplate Earthquakes Along the Tonga-Kermadec Trench	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	10498-10521	○	10.1029/2019JB018088	2(2)イ		
田中昌之	2019	中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率(2019)	地震予知連絡会会報	102	380-384			2(2)イ		
Otsubo, M., I. Katayama, A. Miyakawa and T. Sagiya	2020	Inelastic behavior and mechanical strength of the shallow upper crust controlled by layer-parallel slip in the high-strain zone of the Niigata region, Japan	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01154-w	2(2)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
溜瀧功史・中川茂樹	2020	広域多発時における自動震源を用いた地震活動評価—平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震への適用—	地震時報	83	3	○		2(2)イ		
田中昌之	2020	中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率(2020)	地震予知連絡会会報	104	448-452			2(2)イ		
Ishimura, D., H. Tsutsumi, S. Toda, Y. Fukushima, Y. Kumahara, N. Takahashi, T. Ichihara and K. Takada	2021	Repeated triggered ruptures on a distributed secondary fault system: an example from the 2016 Kumamoto earthquake, southwest Japan	Earth Planet. Space	73		○	10.1186/s40623-021-01371-x	2(2)イ		
Tamaribuchi, K., F. Hirose, A. Noda, Y. Iwasaki, K. Iwakiri and H. Ueno	2021	Noise classification for the unified earthquake catalog using ensemble learning: the enhanced image of seismic activity along the Japan Trench by the S-net seafloor network	Earth Planet. Space	73	91	○	10.1186/s40623-021-01411-6	2(2)イ		
Kasahara, A., Y. Yagi and B. Enescu	2016	etas_solve: A robust program to estimate the ETAS model parameters	Seismol. Res. Lett.	87	1143-1149	○	10.1785/0220150240	2(2)イ	1(3)ア	
安藤忍	2018	陸域観測技術衛星「だいち2号」(ALOS-2/PALSAR-2)を用いた合成開口レーダ(SAR)干渉解析	気象庁技術報告第135号平成28年(2016年)熊本地震調査報告		35-45			2(2)イ	1(3)ア	
Ogata, Y., K. Katsura, H. Tsuruoka and N. Hirata	2018	Exploring Magnitude Forecasting of the Next Earthquake	地震2	89	1298-1304	○	10.1785/0220180034	2(2)イ	1(3)ア	
Wang, Y., T. Wang and J. Zhuang	2018	Modelling continuous time series with many zeros and an application to earthquakes	Environmetrics	29	e2500	○	10.1002/env.2500	2(2)イ	1(3)ア	
Zhuang, J., M. Murru, G. Falcone and Y. Guo	2018	An extensive study of clustering features of seismicity in Italy from 2005 to 2016	Geophys. J. Int.	216	302-318	○	10.1093/gji/egy428	2(2)イ	1(3)ア	
Guo, Y., J. Zhuang and Y. Ogata	2019	Modelling and forecasting aftershocks can be improved by incorporating rupture geometry in the ETAS model	Geophys. Res. Lett.	46	12881-12889	○	10.1029/2019GL084775	2(2)イ	1(3)ア	
前田憲二・弘瀬冬樹・溜瀧功史	2020	群発的地震活動を前震活動と仮定して行う本震の発生予測手法(5):最近の活動事例による検証とETASモデルとの比較	地震予知連絡会会報	103	356-360			2(2)イ	1(3)ア	
Schorlemmer, D., N. Hirata, Y. Ishigaki, K. Doi, K. Z. Nanjo, H. Tsuruoka, T. Beutin and F. Euchner	2018	Earthquake Detection Probabilities in Japan	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	702-717	○	10.1785/0120170110	2(2)イ	1(3)ア, 2(3)	
Vuan, A., M. Sagan, G. Amati and A. Kato	2018	Improving the Detection of Low-Magnitude Seismicity Preceding the Mw=6.3 L'Aquila Earthquake: Development of a Scalable Code Based on the Cross-Correlation of Template Earthquakes	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	471-480	○	10.1785/0120170106	2(2)イ	1(3)ア, 2(3), 5(2)イ	
Guo, Y., J. Zhuang, N. Hirata and S. Zhou	2017	Heterogeneity of direct aftershock productivity of the main shock rupture	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	5288-5305	○	10.1002/2017JB014064	2(2)イ	1(3)イ	
Yamaguchi, J., M. Naoi, M. Nakatani, H. Moriya, T. Igarashi, O. Murakami, Y. Yabe, R. Durrheim and H. Ogasawara	2018	Emergence and disappearance of very small repeating earthquakes on a geological fault in a gold mine in South Africa	Tectonophysics	747-748	318-326	○	10.1016/j.tecto.2018.10.014	2(2)イ	1(3)イ	
Zhou, P., H. Yang, B. Wang and J. Zhuang	2019	Seismological investigations of induced earthquakes near the Hutubi underground gas storage facility	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	8753-8770	○	10.1029/2019JB017360	2(2)イ	1(3)イ	
山名祐輝	2021	本震直前の地震活動	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻・修士論文					2(2)イ	1(3)イ	
Enescu, B., K. Shimojo, A. Opris and Y. Yagi	2016	Remote triggering of seismicity at Japanese volcanoes following the 2016 M7.3 Kumamoto earthquake	Earth Planet. Space	68	165	○	10.1186/s40623-016-0539-5	2(2)イ	1(5)エ	
Liu, Y., J. Zhuang and C. Jiang	2021	Background seismicity before and after the 1976 Ms 7.8 Tangshan earthquake: Is its aftershock sequence still continuing?	Seismol. Res. Lett.	92	877-885	○	10.1785/0220200179	2(2)イ	2(1)イ	
Sawazaki, K.	2021	Early forecast of maximum amplitude due to aftershocks by applying extreme value	Bull. Seismol. Soc. Am.			○	10.1785/0120200365	2(2)イ	2(1)イ	防災科研Hi-netやF-netのデータにS-netやDONETのデータも活用することにより、海域の下の3次元地震波速度構造の高精度な推定を行った。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Ueda, T., A. Kato, Y. Ogata and L. Yamaya	2021	Spatial variations in seismicity characteristics in and around the source region of the 2019 Yamagata-Oki Earthquake, Japan	Earth Planet. Space	73	40	○	10.1186/s40623-020-01325-9	2(2)イ	2(1)イ, 2(3)	
Marsan, D., M. Bouchon, B. Gardonio, H. Perffettini, A. Socquet and B. Enescu	2017	Change in seismicity along the Japan trench, 1990-2011, and its relationship with seismic coupling	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	4645-4659	○	10.1002/2016JB013715	2(2)イ	2(2)ア	
Zakharova, O., S. Hainzl, D. Lange and B. Enescu	2017	Spatial variations of aftershock parameters and their relation to geodetic slip models for the 2010 Mw8.8 Maule and the 2011 Mw9.0 Tohoku-oki earthquakes	Pure Appl. Geophys.	174	77-102	○	10.1007/s00024-016-1408-7	2(2)イ	2(2)ア	
Kato, A., J. Fukuda, S. Nakagawa and K. Obara	2016	Foreshock migration preceding the 2016 Mw 7.0 Kumamoto earthquake, Japan	Geophys. Res. Lett.	43	8945-8953	○	10.1002/2016GL070079	2(2)イ	2(2)ア, 2(3)	
Jia, K., S. Zhou, J. Zhuang, C. Jiang, Y. Guo, Z. Gao and S. Gao	2018	Did the 2008 Mw 7.9 Wenchuan earthquake trigger the occurrence of the 2017 Mw 6.5 Jiuzhaigou earthquake in Sichuan, China?	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	2965-2983	○	10.1002/2017JB015165	2(2)イ	2(2)イ	
Huang, Y.L., S.Y. Zhou and J.C. Zhuang	2016	Numerical tests on catalog-based methods to estimate magnitude of completeness	Chinese J. Geophys.	59	1350-1358	○	10.6038/cjg20160416	2(2)イ	2(3)	
Huang, Q., M. Gestenberger and J. Zhuang	2016	Current Challenges in Statistical Seismology	Pure Appl. Geophys.	173	1-3	○	10.1007/s00024-015-1222-7	2(2)イ	2(3)	
Zhuang, J., Y. Ogata and T. Wang	2017	Data completeness of the Kumamoto earthquake sequence in the JMA catalog and its influence on the estimation of the ETAS parameters	Earth Planet. Space	69	36	○	10.1186/s40623-017-0614-6	2(2)イ	2(3)	
Manthei, G., K. Plenkens, J. Philipp, M. Naoi, H. Moriya and M. Nakatani	2019	In-Situ Acoustic Emission Monitoring in Mines	ARMA	19	1711			2(2)イ	2(3)	
Shcherbakov, R., J. Zhuang, G. Zoeller and Y. Ogata	2019	Forecasting the magnitude of the largest expected earthquake	Nat. Commun.	10	4051	○	10.1038/s41467-019-11958-4	2(2)イ	2(3)	
Nakatani, M.	2020	Evaluation of phenomena preceding earthquakes and earthquake predictability	J. Disaster Res.	15	112-143	○	10.20965/jdr.2020.p0112	2(2)イ	2(3)	
Nanjo, K.Z.	2020	Were changes in stress state responsible for the 2019 Ridgecrest, California, earthquakes?	Nat. Commun.	11	3082	○	10.1038/s41467-020-16867-5	2(2)イ	2(3)	
野村俊一・尾形良彦	2020	多様な予測方式に対する前震識別モデルとその予測性能評価	地震予知連絡会会報	103	361-366			2(2)イ	2(3)	
Varini, E., A. Peresan and J. Zhuang	2020	Topological comparison between the stochastic and the nearest-neighbour earthquake declustering methods through network analysis	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2020JB019718	○	10.1029/2020JB019718	2(2)イ	2(3)	
井筒潤・楠城一嘉・鴨川 仁・織原義明・長尾年恭	2019	地震災害予測のための地球観測データのデジタルアースによる可視化	東海大学海洋研究所研究報告	41	1-15			2(2)イ	2(3), 4(2)	
Zhuang, J., T. Wang and K. Kiyosugi	in press	Detection and replenishment of missing data in marked point processes	Stat. Sin.			○	10.5705/s.202017.0403	2(2)イ	3(2)ア	
Omi, T., Y. Ogata, K. Shiomi, B. Enescu, K. Sawazaki and K. Aihara	2016	Automatic aftershock forecasting: A test using real-time seismicity data in Japan	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	2450-2458	○	10.1785/0120160100	2(2)イ	3(3)	
楠城一嘉	2020	小さな地震が大地震を探るカギ?—カリフォルニアの直下型大地震の解析から異常をとらえ、防災につなげる	academist journal		https://academist-cf.com/journal/?p=14310			2(2)イ	4(2)	
Annoura, S., T. Hashimoto, N. Kamaya and A. Katsumata	2017	Shallow episodic tremor near the Nankai trough axis off southeast Mie prefecture, Japan	Geophys. Res. Lett.	44	3564-3571	○	10.1002/2017GL073006	2(2)イ	5(2)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Tamaribuchi, K., A. Kobayashi, T. Nishimiya, F. Hirose and S. Annoura	2019	Characteristics of Shallow Low-Frequency Earthquakes off the Kii Peninsula, Japan, in 2004 Revealed by Ocean Bottom Seismometers	Geophys. Res. Lett.	46	23	○	10.1029/2019GL085158	2(2)イ	5(2)ア	
Hirose, F., K. Maeda and Y. Yoshida	2019	Maximum magnitude of subduction earthquakes along the Japan-Kuril-Kamchatka trench estimated from seismic moment conservation	Geophys. J. Int.	219	1590-1612	○	10.1093/gji/egz381	2(2)イ	5(2)ウ	
気象庁・気象研究所	2016	平成28年(2016年)熊本地震	地震予知連絡会会報	96	492-556			2(2)イ	5(3)エ	
<b>(3) 先行現象に基づく地震発生の確率予測</b>										
Kawakata, H. and H. Inaba	2016	Development of a New Piezoelectric Transducer Usable as a Seismograph	Prog. Acoust. Emiss.	XVIII	355-358	○		2(3)		
Nakayama, M., H. Kawakata, I. Doi and N. Takahashi	2016	Spatio-temporal Variation in Propagation Characteristics of Elastic Waves in a Sand Soil during a Water Injection Test	Prog. Acoust. Emiss.	XVIII	211-216	○		2(3)		
Goto, M., Y. Yasuoka, H. Nagahama, J. Muto, Y. Omori, H. Ihara and T. Mukai	2017	Anomalous changes in atmospheric radon concentration before and the after 2011 northern Wakayama Earthquake (Mj 5.5)	Radiation Protection Dosimetry	174	412-418	○	10.1093/rpd/ncw142	2(3)		
日置幸介	2018	地震直前の電離圏変化	パリティ	33(2)	52-56			2(3)		
Iwata, D., H. Nagahama, J. Muto and Y. Yasuoka	2018	Non-parametric detection of atmospheric radon concentration anomalies related to earthquakes	Sci. Rep.	8	13028	○	10.1038/s41598-018-31341-5	2(3)		医科・薬科大学で観測されている大気中ラドン濃度のデータに異常検出データ解析手法(特異スベクトル変換法)を適用し、時系列データの異常部分を客観的に抽出した。また地震活動を表す積算地震モーメントの時系列データと比較し、大気中ラドン濃度の異常変動が地震活動との程度関連するかを定量的に明らかにした。さらに地下水位変化や地殻変動が観測された時期と同期し大気中ラドン濃度の異常変動が認められたことも指摘した。
Nakayama, M., H. Kawakata, S. Hirano, I. Doi and N. Takahashi	2018	Propagation characteristics of elastic waves transmitted through sand soils under dry and saturated conditions	Prog. Acoust. Emiss.	XIX	163-167			2(3)		
Naoi, M., Y. Chen, K. Nishihara, K. Yamamoto, S. Yano, S. Watanabe, Y. Morishige, H. Kawakata, T. Akai, I. Kurosawa and T. Ishida	2018	Monitoring hydraulically-induced fractures in the laboratory using acoustic emissions and the fluorescent method	Int. J. Rock Mech. Min. Sci.	104	53-63	○	10.1016/j.ijrmm.2018.02.015	2(3)		
Yasuoka, Y., H. Nagahama, J. Muto and T. Mukai	2018	The anomaly in atmospheric radon concentrations prior to the 2011 Tohoku-Oki Earthquake in Japan	Radiation Environment and Medicine	7	86-94.	○		2(3)		
Goto, S., R. Uchida, K. Igarashi, C.-H. Chen, M.-H. Kao and K. Umeno	2019	Pre-seismic ionospheric anomalies detected before the 2016 Taiwan earthquake	J. Geophys. Res.: Space Phys.	124(11)	9239-9252	○	10.1029/2019JA026640	2(3)		
Higuchi, S., Y. Kamishiro, M. Ishihara, Y. Yasuoka, Y. Mori, M. Hosoda, K. Iwaoka, S. Tokonami, R. Takahashi, M. Janik, J. Muto, H. Nagahama and T. Mukai	2019	Evaluation of a radon air monitor in the measurement of radon concentration in water in comparison with a liquid scintillation counter	Radiation Protection Dosimetry	184	426-429	○	10.1093/rpd/ncz070	2(3)		
Liu, J.-Y., C.-Y. Lin, Y.-L. Tsai, T.-C. Liu, K. Hattori, Y.-Y. Sun and T.-R. Wu	2019	Ionospheric GNSS total electron content for tsunami warning	J. Earthq. Tsunami	13	05n06, 1941007	○	10.1142/S1793431119410070	2(3)		
大村潤平・大山佳織・韓鵬・吉野千恵・小島春奈・服部克巳・下道國・小西敏春・古屋隆一・山口弘輝	2019	房総半島における大気電気パラメータの観測	J. Atmospheric Electricity	38	37-52		10.1541/jae.38.37	2(3)		
Orihara, Y., M. Kamogawa, Y. Noda and T. Nagao	2019	Is Japanese folklore concerning deep-sea fish appearance a real precursor of earthquakes?	Bull. Seismol. Soc. Am.	109(4)	1556-1562	○	10.1785/0120190014	2(3)		
Tramutoli, T., F. Marchese, A. Falconieri, C. Filizzola, N. Genzano, K. Hattori, M. Lisi, J.-Y. Liu, D. Ouzounov, M. Parrot and S. Pulinet	2019	Tropospheric and ionospheric anomalies induced by volcanic and Saharan dust events as part of geosphere interaction phenomena	Geosciences	9(4)	177	○	10.3390/geosciences9040177	2(3)		
Wakabayashi, A., Y. Yasuoka, M. Janik, H. Nagahama, N. Fukuhori, Y. Mori, Y. Arai, S. Fujii and T. Mukai	2019	Derivation and validity evaluation of calibration factors for activated-charcoal radon collectors	Radioisotopes	68	317-329		10.3769/radioisotopes.68.317	2(3)		
Yamamoto, K., M. Naoi, Y. Chen, K. Nishihara, S. Yano, H. Kawakata, T. Akai, I. Kurosawa and T. Ishida	2019	Moment Tensor Analysis of Acoustic Emissions Induced by Laboratory-based Hydraulic Fracturing in Granite	Geophys. J. Int.			○	10.1093/gji/egy493	2(3)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Cahyadi, M. N., R. W. Rahayu, K. Heki and Y. Nakashima	2020	Harmonic ionospheric oscillation by the 2010 eruption of the Merapi volcano, Indonesia, and the relevance of its amplitude to the mass eruption rate	J. Volcanol. Geotherm. Res.	405	107047	○	10.1016/j.jvolgeores.2020.107047	2(3)		
Enomoto, Y., K. Heki, T. Yamabe, S. Sugiura and H. Kondo	2020	A possible causal mechanism of geomagnetic variations as observed immediately before and after the 2011 Tohoku-oki earthquake	Open J. Earthq. Res.	9	33-49	○	10.4236/ojer.2020.92003	2(3)		
Huang, Q., P. Han, K. Hattori and H. Ren	2020	Electromagnetic Signals Associated With Earthquakes: A Review of Observations	Data Processing, and Mechanisms in China, Seismoelectric Exploration: Theory, Experiments, and Applications, edited by Grobbe, N., Revil, A., Zhu, Z., Slob, E. Wiley		415-436		10.1002/9781119156949.ch26	2(3)		
金子稔・茂木透・服部克巳	2020	マルチチャンネル特異スペクトル解析(MSSA)を用いたMTデータのノイズ除去法の開発	J. Atmospheric Electricity	39(1)	37-41		10.1541/jae.39.37	2(3)		
小島寿奈・吉野千恵・根本和秀・服部克巳・小西敏春・古屋隆一	2020	千葉県旭観測点における地中ラドン濃度のマルチチャンネル特異スペクトル解析：地中ラドンフラックス変動の推定と地震活動との関係の序報	J. Atmospheric Electricity	39	46-51		10.1541/jae.39.46	2(3)		房総・旭観測点におけるα線を計測する地中ラドン濃度観測データの解析に関する論文。マルチチャンネル特異スペクトル解析を用いて気圧および温度による変動を除去し、地表付近のラドンフラックスを求める手法を提案した。強い降雨がある場合(2時間の降雨量が20mmを超えるような場合)にも有意なラドンフラックスの増加があることがわかった。降雨による荷重増加と雨水の浸透による地中ラドンフラックス増加が原因であると考えられる。
Liu, J.-Y., C.-Y., Liu, Y.-I., Chen, T.-R. Wu, M.-J. Chung, T.-C. Liu, Y.-L. Tsai, L. C. Chang, C.-K. Chao, D. Quzounov and K. Hattori	2020	The Source Detection of 28 September 2018 Sulawesi Tsunami by Using Ionospheric GNSS Total Electron Content Disturbance	Geosci. Lett.	7	11	○	10.1186/s40562-020-00160-w	2(3)		
Muafiry, I.N. and K. Heki	2020	3D tomography of the ionospheric anomalies immediately before and after the 2011 Tohoku-oki (Mw9.0) earthquake	J. Geophys. Res.: Space Phys.	125	e2020JA027993	○	10.1029/2020JA027993	2(3)		
長尾年恭	2020	日本の宝「富士山頂」観測を怠る愚	ザ・ファクタ, 2020年4月号	168	52-53		https://facta.co.jp/article/202004025.html	2(3)		
長尾年恭	2020	今こそ「地震・火山庁」を創設せよ	ザ・ファクタ, 2020年5月号	169	45-46			2(3)		
長尾年恭	2020	旧富士山測候所での研究、コロナ禍で存続の危機	月刊JMS (Japan Medical Society)	2020年7月号	42-45			2(3)		
長尾年恭	2020	富士山噴火、予知のためには観測強化とその継続が急務	月刊JMS (Japan Medical Society)	2020年8月号	42-43			2(3)		
長尾年恭・鶴川 仁	2020	地震・火山噴火予知研究と電磁気観測	日本磁気学会『まぐね』	15(5)	264-271			2(3)		
Naoi, M., Y. Chen, K. Yamamoto, Y. Morishige, K. Imakita, N. Tsutsumi, H. Kawakata, T. Ishida, H. Tanaka, Y. Arima, S. Kitamura and D. Hyodo	2020	Tensile-dominant fractures observed in hydraulic fracturing laboratory experiment using eagle ford shale	Geophys. J. Int.	222(2)	769-780	○	10.1093/gji/ggaa183	2(3)		
Tsutsumi, R., K. Hattori, C. Yoshino and N. Genzano	2020	Detection of Thermal Changes Related to the 2011 Shinmoedake Volcano Activity, Japan: Spatiotemporal Variation of Singularity of MODIS Data After Discriminating False Changes Due to Cloud	Remote Sensing	12	2637	○	10.3390/rs12162637	2(3)		
Wada, Y., T. Enoto, Y. Nakamura, T. Morimoto, M. Sato, T. Ushio, K. Nakazawa, T. Yuasa, D. Yonetoku, T. Sawano, M. Kamogawa, H. Sakai, Y. Furuta, K. Makishima and H. Tsuchiya	2020	High Peak - Current Lightning Discharges Associated With Downward Terrestrial Gamma - Ray Flashes	J. Geophys. Res.: Atmospheres	125(4)	e2019JD031730	○	10.1029/2019JD031730	2(3)		
Chen, H., M. Miao, Y. Chang, Q. Wang, XH. Shen, K. Hattori and P. Han	2021	Singular Spectrum Analysis of the Total Electron Content Changes Prior to M >= 6.0 Earthquakes in the Chinese Mainland During 1998-2013	Front. Earth Sci.	9	677163	○	10.3389/feart.2021.677163	2(3)		
Hamama, I. and M.-Y. Yamamoto	2021	Infrasonic Earthquake Detectability Investigated in Southern Part of Japan, 2019	Sensors	21(3)	894	○	10.3390/s21030894	2(3)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kundu, B., B. Senapati, A. Matsushita and K. Heki	2021	Atmospheric wave energy of the 2020 August 4 explosion in Beirut, Lebanon, from ionospheric disturbances	Sci. Rep.	11	2793	○	10.1038/s41598-021-82355-5	2(3)		
Muto, J., Y. Yasuoka, N. Miura, D. Iwata, H. Nagahama, M. Hirano, Y. Ohmoto and T. Mukai	2021	Preseismic atmospheric radon anomaly associated with 2018 Northern Osaka earthquake	Sci. Rep.	11	7451	○	10.1038/s41598-021-86777-z	2(3)		2018年6月18日の大阪北部地震発生前後に大阪医科薬科大学で観測された大気中ラドン濃度データを解析した結果、2014年から観測されていた大気中ラドン濃度は、地震の約1年前から減少し、本震後2020年6月まで低いことがわかった。一方、観測点周辺での地震活動は地震前に比べて減少していた。さらに、本震後の地震活動も余震域を除く近畿地方全域で低下しており、地震後もラドン濃度が増加しなかったと考えられる。
Nakayama, M., H. Kawakata, S. Hirano and I. Doi	2021	Development of a laboratory monitoring system for elastic waves transmitted through sand under dry and nearly saturated conditions	Earth Planet. Space			○	10.1186/s40623-020-01346-4	2(3)		
Omori, Y., H. Nagahama, Y. Yasuoka and J. Muto	2021	Radon degassing triggered by tidal loading before an earthquake	Sci. Rep.	11	4092	○	10.1038/s41598-021-83499-0	2(3)		1995年兵庫県南部地震発生前に観測されたラドン濃度データを解析した結果、地球に周期的な荷重をもたらす潮汐に由来する変化が、ラドン濃度データに認められた。さらに、この周期的な変化は地震発生前5年間（1990年から1994年）のデータに認められた。この時期はラドン観測点近傍の断層において地殻の圧縮速度が小さくなったと報告されており、これがラドンの周期的な変化を生じるきっかけとなったことを指摘した。
Parrot, M., V. Tramutoli, Tiger J.Y. Liu, S. Pulnests, D. Ouzounov, N. Genzano, M. Lisi, K. Hattori and A. Namgaladze	2021	Atmospheric and ionospheric coupling phenomena associated with large earthquakes	Eur. Phys. J. Special Topics	230	197-225	○	10.1140/epjst/e2020-000251-3	2(3)		
Song, R., K. Hattori, X. Zhang and C. Yoshino	2021	The three-dimensional ionospheric electron density imaging in Japan using the approximate Kalman filter algorithm	J. Atmospheric and Solar-Terrestrial Phys.	219	105628	○	10.1016/j.jastp.2021.105628	2(3)		
Song, R., K. Hattori, X. Zhang, J.-Y. Liu and C. Yoshino	2021	Detecting the ionospheric disturbances in Japan using the three-dimensional computerized tomography	J. Geophys. Res.: Space Phys.	126(6)	e2020JA028561	○	10.1029/2020JA028561	2(3)		
Tamakuma, Y., M. Hosoda, Y. Omori, H. Nagahama, T. Ishikawa, M. Shimo and S. Tokonami	2021	Car-borne survey for a black shale area and influence of snowfall on absorbed dose rate in air of a coastal area	Radiation Environment and Medicine	10	2(in press)	○		2(3)		
Tanaka, R., M. Naoi, Y. Chen, K. Yamamoto, K. Imakita, N. Tsutsumi, A. Shimoda, D. Hiramatsu, H. Kawakata, T. Ishida, E. Fukuyama, H. Tanaka, Y. Arima, S. Kitamura and D. Hyodo	2021	Preparatory acoustic emission activity of hydraulic fracture in granite with various viscous fluids revealed by deep learning technique	Geophys. J. Int.			○	10.1093/gji/ggab096	2(3)		
長尾年恭・鴨川仁・馬場久紀・成瀬友祐・高村直也・櫻田哲生・上原宏	2016	東海大学方式VLF帯パルス電磁波観測装置の開発-地震先行現象の存在証明にむけて-	東海大学海洋研究所研究報告	37	29-36			2(3)	1(3)ア	
韓麟・服部克巳・山口拓人・廣岡伸治・吉野千恵	2017	2011年東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)に関連する地磁気日変化異常の時空間的特徴	電気学会論文誌A(基礎・材料・共通部門誌)	137(2)	119-127	○	10.1541/ieejfms.137.119	2(3)	1(3)ア	
He, L. and K. Heki	2017	Ionospheric anomalies immediately before Mw 7.0-8.0 earthquakes	J. Geophys. Res.: Space Phys.	122(8)	8659-8678	○	10.1002/2017JA024012	2(3)	1(3)ア	
Kelley, M.C., W.E. Swartz and K. Heki	2017	Apparent ionospheric total electron content variations prior to major earthquakes due to electric fields created by tectonic stresses	J. Geophys. Res.: Space Phys.	122(6)	6689-6695	○	10.1002/2016JA023601	2(3)	1(3)ア	
Liu, J.Y., C.H. Chen, T.Y. Wu, H.C. Chen, K. Hattori, T. Bleier, K. Kappler, I.C. Yang, Y. Xia, W. Chen and Z. Liu	2017	Co-seismic signatures in magnetometer, geophone, and infrasound data during the Meinong Earthquake	Terr. Atmos. Ocean. Sci.	28(5)	683-692	○	10.3319/TAO.2017.03.05.01	2(3)	1(3)ア	
織原義明・鴨川仁	2017	熊本市が公開する地下水位データを用いた2016年熊本地震の先行的変化の検証	地震2	70	147-152	○	10.4294/zisin.2016-22	2(3)	1(3)ア	
児玉哲哉	2018	新世紀地震フロンティア研究:地上-衛星連携による地震先行現象の確立	バリティ	33	46-48			2(3)	1(3)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Heki, K.	2020	Chapter 5-3: Ionospheric disturbances related to earthquakes in Advances in ionospheric research: Current understanding and challenges	Wiley/AGU Book Space Physics and Aeronomy, edited by C. Huang and G. Lu	3	320	○	ISBN:978-1-119-50755-0	2(3)	1(3)ア	GNSS ネットワークで観測できる地震に伴う電離圏TEC 変動の解説論文。地震の隆起/沈下は音波を励起し、周期が4~5 分の成分が電離圏F 層に伝播し、TEC 振動を引き起し、地震の約10 分後に、約1 km/sの速度で磁気赤道方向へ伝播するTEC 振動として出現する。非常に大きな地震の後には、何時間も続く共鳴大気振動がよく発生する。レイリー表面波も音波を発生させ、震源地から数千キロメートル離れた場所でTEC 振動を引き起こす。大地震の直前に発生するTEC の変化は、地震の10-80 分前に始まり、破壊しそうな断層の上に正の電子密度異常を作り、それらの継続時間、TEC 率の変化等はMwとの正の相関を示した。
Nagao, T., M. Kamogawa, J. Izutsu, T. Suzuki, A. Saito, A. Sugiura and H. Kondo	2021	Development and Preliminary Analysis of a VLF-Band Electromagnetic-Wave Observation System for Short-Term Earthquake Precursory Monitoring	Front. Earth Sci.	9	658825	○	10.3389/feart.2021.658825	2(3)	1(3)ア	
中谷正生	2021	階層的アスペリティを前提とした短期前兆のメカニズムについて	地震予知連絡会会報	105	500-50			2(3)	1(3)ア	
Zhuang, J., M. Matsu' ura and P. Han	2021	Critical zone of the branching crack model for earthquakes: Inherent randomness, earthquake predictability, and precursor modelling, in " The Global Earthquake Forecasting System: Towards Using Non- seismic Precursors for the Prediction of Large Earthquakes"	Eur. Phys. J. Special Topics	230	409-442	○	10.1140/epjst/e2020-000272-7	2(3)	1(3)ア	
Kono, A., T. Sato, M. Shinohara, K. Mochizuki, T. Yamada, K. Uehira, T. Shinbo, Y. Machida, R. Hino and R. Azuma	2020	2D spatial distribution of reflection intensity on the upper surface of the Philippine Sea plate off the Boso Peninsula, Japan	Tectonophysics	774(5)	228206	○	10.1016/j.tecto.2019.228206	2(3)	1(3)ア, 1(3)イ, 1(5)ア	
谷川廣祐・本島邦行・羽賀望	2017	見通し内VHF帯放送波の伝搬異常と地震及び地表面平均風速の統計的関連性	J. Atmos. Electr.	37(1)	11-24		10.1541/jae.37.11	2(3)	1(3)ア, 2(2)イ	
Tamaribuchi, K., Y. Yagi, B. Enescu and S. Hirano	2018	Characteristics of foreshock activity inferred from the JMA earthquake catalog	Earth Planet. Space	70:90		○	10.1186/s40623-018-0866-9	2(3)	1(3)ア, 2(2)イ	
He, L. and K. Heki	2016	Three-dimensional distribution of ionospheric anomalies prior to three large earthquakes in Chile	Geophys. Res. Lett.	43	7287-7293	○	10.1002/2016GL069863	2(3)	1(3)イ	
廣岡伸治・市川卓・服部克巳・韓麟・吉野千恵・劉正彦	2016	2011年東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)に先行する電離圏異常の時空間分布	電気学会論文誌A(基礎・材料・共通部門誌)	136(5)	265-271	○	10.1541/ieejfms.136.265	2(3)	1(3)イ	
Fukuyama, E., K. Tsuchida, H. Kawakata, F. Yamashita, K. Mizoguchi and S. Xu	2017	Spatiotemporal complexity of 2-D rupture nucleation process observed by direct monitoring during large-scale biaxial rock friction experiments	Tectonophys			○	10.1016/j.tecto.2017.12.023	2(3)	1(3)イ	
Xu, S., E. Fukuyama, F. Yamashita, K. Mizoguchi, S. Takizawa and H. Kawakata	2017	Strain rate effect on fault slip and rupture evolution: Insight from meter-scale rock friction experiments	Tectonophysics			○	10.1016/j.tecto.2017.11.039	2(3)	1(3)イ	
Yamashita, F., E. Fukuyama, S. Xu, K. Mizoguchi, H. Kawakata and S. Takizawa	2018	Rupture preparation process controlled by surface roughness on meter-scale laboratory fault	Tectonophysics			○	10.1016/j.tecto.2018.01.034	2(3)	1(3)イ	
Nanjo, K.Z., J. Izutsu, Y. Orihara, N. Furuse, S. Togo, H. Nitta, T. Okada, R. Tanaka, M. Kamogawa and T. Nagao	2016	Seismicity prior to the 2016 Kumamoto earthquakes	Earth Planet. Space	68	187	○	10.1186/s40623-016-0558-2	2(3)	1(3)イ, 2(2)イ	
Saade, M., J.P. Montagner, P. Roux, K. Shiomi, B. Enescu and F. Brenguier	2017	Monitoring of seismic anisotropy at the time of the 2008 Iwate-Miyagi (Japan) earthquake	Geophys. J. Int.	211	483-497	○	10.1093/gji/ggx321	2(3)	1(5)イ	
Nanjo, K.Z. and A. Yoshida	2017	Anomalous decrease in relatively large shocks and increase in the p and b values preceding the April 16, 2016, M7.3 earthquake in Kumamoto, Japan	Earth Planet. Space	69	13	○	10.1186/s40623-017-0598-2	2(3)	2(2)ア, 2(2)イ	
井筒潤・長尾年恭	2016	地震災害予測のためのb値の空間分布マッピングと系列変化	東海大学海洋研究所研究報告	37	12-28			2(3)	2(2)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Katsumata, K.	2016	Long-term seismic quiescences and great earthquakes in and around the Japan subduction zone between 1975 and 2012	Pure Appl. Geophys.	174	2427-2442	○	10.1007/s00024-016-1415-8	2(3)	2(2)イ	
織原義明・鴨川仁	2016	三陸地方における東北地方太平洋沖地震前の井戸水異常の調査 - 岩手県山田町から宮城県石巻市にかけて -	地震2	69	31-34	○	10.4294/zisin.69.31	2(3)	2(2)イ	
楠城一嘉	2018	b値に基づく全地球規模の大地震発生予測のモデル	地震予知連絡会会報	99	459-462			2(3)	2(2)イ	
Kamogawa, M., K.Z. Nanjo, J. Izutsu, Y. Orihara, T. Nagao and S. Uyeda	2019	Nucleation and Cascade Features of Earthquake Mainshock Statistically Explored from Foreshock Seismicity	Entropy	21(4)	421	○	10.3390/e21040421	2(3)	2(2)イ	
Nagao, T., M. Kamogawa and S. Uyeda	2019	Earthquake Precursors and Prediction	In: Gupta H. (eds) Encyclopedia of Solid Earth Geophysics. Encyclopedia of Earth Sciences Series. Springer, Cham				10.1007/978-3-030-10475-7_4-1	2(3)	2(2)イ	
Nanjo, K.Z., J. Izutsu, Y. Orihara, M. Kamogawa and T. Nagao	2019	Changes in Seismicity Pattern Due to the 2016 Kumamoto Earthquakes Identify a Highly Stressed Area on the Hinagu Fault Zone	Geophys. Res. Lett.	46(16)	9489-9496	○	10.1029/2019GL083463	2(3)	2(2)イ	
Osawa, Y., Y. Ogura and K. Motojima	2019	Statistical relation between earthquakes and radiation dose increments at the radiation monitoring post	J. Atmospheric Electricity	38(1)	11-21		10.1541/jae.38.11	2(3)	2(2)イ	
Ueda, T. and A. Kato	2019	Seasonal variations in crustal seismicity in San-in district, southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	46	3172-3179	○	10.1029/2018GL081789	2(3)	2(2)イ	
Chen, H., R. Wang, M. Miao, X. Liu, Y. Ma, K. Hattori and P. Han	2020	A Statistical Study of the Correlation between Geomagnetic Storms and $M \geq 7.0$ Global Earthquakes during 1957-2020	Entropy	22(11)	1270	○	10.3390/e22111270	2(3)	2(2)イ	
Han, P., J. Zhuang, K. Hattori, C.-H. Chen, F. Febriani, H. Chen, C. Yoshino and S. Yoshida	2020	Assessing the potential earthquake precursory information in ULF magnetic data recorded in Kanto, Japan during 2000 - 2010: distance and magnitude dependences	Entropy	22	859	○	10.3390/e22080859	2(3)	2(2)イ	Hattori et al., Survey in Geophysics 2013で報告した房総と伊豆で観測された地震と有意相関のあるULF磁場変動について、ROC的解析を導入し、予測パフォーマンスを定量化し、最適な予測パラメータを調査した。その結果、磁場異常に基づく地震予測がランダムな推測よりも大幅に優れていることを示し、磁場データに有用な前兆情報が含まれていることを示した。また、先行情報には、震源距離と地震のサイズ依存性があることを示し、予測のための最適パラメータも提示した。
服部克巳	2020	地震に関する電磁気現象	日本磁気学会『まぐわ』	15(5)	272-280			2(3)	2(2)イ	
Song, R., K. Hattori, X. Zhang and S. Saito	2020	Indonesia detected by the China Seismo-Electromagnetic Satellite	J. Atmospheric and Solar-Terrestrial Phys.	205	105291	○	10.1016/j.jastp.2020.105291	2(3)	2(2)イ	
Yu, Z., K. Hattori, K. Zhu, C. Chi, M. Fan and X. He	2020	Detecting earthquake-related anomalies of a borehole strain network based on multi-channel singular spectrum analysis	Entropy	22	1086	○	10.3390/e22101086	2(3)	2(2)イ	
Genzano, N., C. Filizzola, K. Hattori, N. Pergola and V. Tramutoli	2021	Statistical correlation analysis between thermal infrared anomalies observed from MTSATs and large earthquakes occurred in Japan (2005-2015)	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126(2)		○	10.1029/2020JB020108	2(3)	2(2)イ	気象衛星ひまわり6-7号データを用いて衛星熱赤外異常と地震発生との時空間関係を統計的に解析した(2005年から2015年までの11年間の夜間衛星画像)。その結果、a) 観測期間中にわずか29の熱赤外異常が発生、b) そのうち18の異常は、地震との見かけの時空間係で発生、c) そのうち13個は地震の前に発生、した。ROC的解析により、熱赤外異常と地震発生の間には有意相関があり、 $M \geq 6.5$ の場合、最大4.3の確率利得があることがわかった。
Katsumata, K. and M. Nakatani	2021	Testing the seismic quiescence hypothesis through retrospective trials of alarm-based earthquake prediction in the Kurile-Japan subduction zone	Earth Planet. Space	73	100	○	10.1186/s40623-021-01418-z	2(3)	2(2)イ	
楠城一嘉	2021	b値にもとづく大地震発生予測のモデルのレビュー	地震予知連絡会会報	105	489-492			2(3)	2(2)イ	
Yu, Z., K. Zhu, K. Hattori, C. Chi, M. Fan, K. Li, X. He and W. Xie	2021	Investigation of pre-seismic borehole strain data associated with the 2013 Lushan earthquake	IEEE Access	9	12167-12179	○	10.1109/ACCESS.2021.3051614	2(3)	2(2)イ	
Yu, Z., K. Hattori, K. Zhu, M. Fan, D. Marchetti, X. He and C. Chi	2021	Evaluation of pre-earthquake anomalies of borehole strain network by using Receiver Operating Characteristic Curve	Remote Sensing	13(3)	515	○	10.3390/rs13030515	2(3)	2(2)イ	中国・四川省-雲南省の龍門山断層帯の孔内歪計網データについて、2010年から2017年の歪データのネットワーク異常を調査し、異常を検知した観測点の数Nanoと地震に対する警告時間の長さTalmを用いたROC曲線によって評価した。その結果、最適な予測は14日以内にNano $\geq 7$ とし、Talm=1日の場合であることがわかった。また、規模が大きい地震ほど、予測結果がよいことがわかった。ROC調査により、歪データに大地震に関連する先行情報が含まれていることを示した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Han, P., K. Hattori, J. Zhuang, C-H. Chen, J-Y. Liu and S. Yoshida	2017	Evaluation of ULF seismo-magnetic phenomena in Kakioka, Japan by using Molchan's error diagram	Geophys. J. Int.	208(1)	482-490	○	10.1093/gji/ggw404	2(3)	2(2)イ、3(3)	
中谷正生	2018	経験則から期待される大地震発生の確率:相場のレビュー	地震予知連絡会会報	99	465-469			2(3)	2(2)イ、4(2)	
中谷正生	2019	地震のメカニズム解明—本当に地震予知はナンセンス?あなた、地震の何なのさ?短期前兆のメタ理論	バリテイ	34(2)	84-88			2(3)	2(2)イ、4(2)	
Hattori, K. and P. Han	2018	Statistical Analysis and Assessment of Ultralow Frequency Magnetic Signals in Japan As Potential Earthquake Precursors	Pre-Earthquake Processes: A Multidisciplinary Approach to Earthquake Prediction Studies, edited by Ouzounov et al., AGU Geophysical Monograph, Wiley	234	229-240	○	10.1002/9781119156949.ch13	2(3)	2(2)イ、5(5)	
Ouzounov, D., S. Pulinetz, K. Hattori and P. Taylor (eds.)	2018	Pre-Earthquake Processes: A Multidisciplinary Approach to Earthquake Prediction Studies	AGU Geophysical Monograph, Wiley	234	414, 384pp.	○	10.1002/9781119156949	2(3)	2(2)イ、5(5)	Wileyから出版された米国地球物理連合 (AGU) の地球物理学モノグラフィーズ。査読あり。最新の地震先行現象に関する観測やモデリングの最新成果をまとめたもので、服部が編者の一人。地震に先行する物理的、大気的、地球化学的な現象やそのモデルを紹介し、その中には、地上や衛星で観測されたULF磁場変動、電離圏電子数変動、衛星熱赤外変動なども含まれている。
Ouzounov, D., S. Pulinetz, J.Y. Liu, K. Hattori and P. Han	2018	Multiparameter Assessment of Pre - Earthquake Atmospheric Signals	Pre-Earthquake Processes: A Multidisciplinary Approach to Earthquake Prediction Studies, edited by Ouzounov et al., AGU Geophysical Monograph, Wiley	234	339-359	○	10.1002/9781119156949.ch20	2(3)	2(2)イ、5(5)	
Uyeda, S. and T. Nagao	2018	International Cooperation in Pre - Earthquake Studies: History and New Directions	Pre-Earthquake Processes: A Multidisciplinary Approach to Earthquake Prediction Studies, edited by Ouzounov et al., AGU Geophysical Monograph, Wiley	234	3-6	○	10.1002/9781119156949.ch1	2(3)	2(2)イ、5(5)	
Liu, J.E., K. Hattori and Y.I. Chen	2018	Application of Total Electron Content Derived from the Global Navigation Satellite System for Detecting Earthquake Precursors	Pre-Earthquake Processes: A Multidisciplinary Approach to Earthquake Prediction Studies, edited by Ouzounov et al., AGU Geophysical Monograph, Wiley	234	305-317	○	10.1002/9781119156949.ch17	2(3)	5(5)	
Ogata, Y., K. Katsura, M. Tanemura, D. Harte and J. Zhuang	2021	Hierarchical Space-Time Point Process Models (HIST-PPM): Software Documentation	Computer Science Monographs	35				2(3)	2(2)イ	
川方裕則・土井一生・高橋直樹・中山雅之	2017	軟弱地盤の構造変化検出を目的とした弾性波モニタリングの試み	第14回岩の力学国内シンポジウム講演集			○		2(3)		
Nakatani, M.	2018	Statistical Evaluation of Precursory Phenomena - A Review (invited)	Proceedings of the 17th Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction		19-23			2(3)	2(2)イ	
菊池秀乙・山崎政彦・鴨川仁・宮崎康行	2018	地震先行現象検証衛星PRELUDEの自動運用システムの研究開発	宇宙科学技術連合講演会講演集	62	1-6			2(3)	1(3)ア	
Tsujimura, Y., H. Kawakata, E. Fukuyama, F. Yamashita, S. Xu, K. Mizoguchi and S. Takizawa	2016	Spatio-temporal foreshock activity during stick-slip experiments of large rock samples	AGU Fall Meeting 2016		S21B-2697			2(3)	1(3)イ	
辻村優志・川方裕則・福山英一・山下太・徐世慶・溝口一生・滝沢茂・平野史朗	2016	大型岩石試料のスティックスリップ試験中に発生した前震活動	日本地球惑星科学連合大会2016年大会		SSS27-P22			2(3)	1(3)イ	
Yamashita, F., E. Fukuyama, S. Xu, H. Kawakata, K. Mizoguchi and S. Takizawa	2016	Influence of fault surface conditions on foreshock activity in large-scale biaxial friction experiment	AGU Fall Meeting 2016		S21B-2698			2(3)	1(3)イ	
山下太・福山英一・徐世慶・川方裕則・溝口一生・滝沢茂	2016	大型二軸摩擦実験において観察された前震の特徴	日本地震学会2016年度秋季大会		S08-P17			2(3)	1(3)イ	
福山英一・土田琴世・川方裕則・山下太・溝口一生・徐世慶	2017	2次元地震破壊伝播の実験室における直接観察	日本地震学会2017年度秋季大会		S08-28			2(3)	1(3)イ	
辻村優志・川方裕則・福山英一・平野史朗・山下太・徐世慶・溝口一生・滝沢茂	2017	大型岩石試料のスティック・スリップ試験中に発生した繰り返し地震的活動について	日本地震学会2017年度秋季大会		S08-26			2(3)	1(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Yamashita, F., E. Fukuyama, S. Xu, H. Kawakata, K. Mizoguchi and S. Takizawa	2017	Two types of foreshock activities observed on meter-scale laboratory faults: Slow-slip-driven and cascade-up	AGU Fall Meeting 2017		S34B-07			2(3)	1(3)イ	
Toyomoto, Y., H. Kawakata, S. Hirano and I. Doi	2016	Foreshock search over a long duration using a method of setting appropriate criteria	AGU Fall Meeting 2016		MR41B-2702			2(3)	2(2)イ	
豊本大・川方裕則・平野史朗・土井一生	2016	相互相関を用いた地震波形解析の検出基準の設定	日本地球惑星科学連合大会2016年大会		SSS30-P08			2(3)	2(2)イ	
豊本大・川方裕則・平野史朗・土井一生	2016	前震検出のための適切な基準の設定方法 ～2011年6月30日長野県中部M5.4の地震を例に	日本地震学会2016年度秋季大会		S09-P14			2(3)	2(2)イ	
Hirano, S., Y. Toyomoto, H. Kawakata and I. Doi	2018	Application of Extreme Value Theory to a Matched-Filter Analysis	10th ACES Int. Workshop - Toward Comprehensive Understanding of Earthquake Physics-					2(3)	2(2)イ	
Hirano, S., Y. Toyomoto, H. Kawakata and I. Doi	2018	Objective matched-filter analysis for detecting small events	Int. Symp. Earthq. Forecast / 5th Int. Workshop Earthq. Preparation Process					2(3)	2(2)イ	
Hirano, S., H. Kawakata and I. Doi	2019	Foreshock activity detection by a threshold-free matched-filter technique	Japan Geoscience Union Meeting		SSS04-05			2(3)	2(2)イ	
駒形亮太・平野史朗・川方裕則・直井誠	2020	Locality Sensitive Hashingを用いた波形の特徴抽出と類似波形検出	JpGU - AGU Joint Meeting 2020		SSS12-P02			2(3)	2(2)イ	
<b>(4) 中長期的な火山活動の評価</b>										
<b>ア. 火山噴火の長期活動の評価</b>										
草津白根山降灰合同調査班 (石崎泰男・石塚吉浩・金子隆之・亀谷伸子・神田径・小森次郎・宝田晋治・寺田暁彦・長井雅史・野上健治・平林順一・藤田英輔・古川竜太・本多亮・前野深・吉本充宏)	2018	草津白根火山2018年1月23日噴火による降灰分布	火山噴火予知連絡会会報		1-5			2(4)ア		
Obrochta, S.P., Y. Yokoyama, M. Yoshimoto, S. Yamamoto, Y. Miyairi, G. Nagano, A. Nakamura, K. Tsunematsu, L. Lamaire, A. Hubert-Ferrari, B.C. Lougheed, A. Hokanishi, A. Yasuda, V.M.A. Heyvaert, M. De Batist, O. Fujiwara and the QuakeRecNankai Team	2018	Mt. Fuji Holocene eruption history reconstructed from proximal lake sediments and high-density radiocarbon dating	Quat. Sci. Rev.	200	395-405	○	10.1016/j.quascirev.2018.09.001	2(4)ア		
吉本充宏	2019	崩れる火山にどう向き合うか	地理	64	4-13			2(4)ア		
石塚吉浩・山元孝広・中野俊・吉本充宏	2021	富士火山、須走期噴出物の噴出量見積もり	地質調査総合センター研究資料集	715				2(4)ア		
安井真也	2016	浅間火山天明噴火(1783年)の噴出物の記載岩石学	日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要	51	231-255			2(4)ア	1(1)ウ	
安井真也・高橋正樹・河田倫明・金丸龍夫	2016	草津白根火山の南東麓で見出された埋没岩層なだれ堆積物	日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要	51	221-230			2(4)ア	1(1)ウ	
長谷川健・中川光弘・宮城磯治	2017	北海道東部、アトサヌプリ火山における水蒸気噴火の発生履歴：炭素年代および気象庁ポーリングコアからの検討	地質学雑誌	123	269-281	○	10.5575/geosoc.2016.0051	2(4)ア	1(1)ウ	
北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学地震火山研究観測センター・札幌管区気象台	2017	火山内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化(十勝岳)	北海道地質研究所調査研究報告	44	1-194			2(4)ア	1(1)ウ	
高橋正樹・安井真也・金丸龍夫・山下大輔	2019	浅間前掛火山テフラ・トレンチ調査により得られた降下軽石の全岩主化学組成-浅間前掛火山における最近1万年間のマグマ主化学組成の時間変化	日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要	54	143-172			2(4)ア	1(1)ウ	
安井真也・高橋正樹・金丸龍夫	2019	浅間火山火車岩層なだれ堆積物の再発見-浅間家畜育成牧場および周辺地域の火山地質-	日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要	54	123-142			2(4)ア	1(1)ウ	
亀谷伸子・石崎泰男・勝岡菜々子・吉本充宏・寺田暁彦	2020	草津白根火山、白根火砕丘群、弓池マールおよび逢ノ峰火砕丘の岩石学的特徴	地質学雑誌	126	157-165	○		2(4)ア	1(1)ウ、1(2)	
亀谷伸子・石崎泰男・勝岡菜々子・吉本充宏・寺田暁彦	2021	草津白根火山、白根火砕丘群南麓の白根南火口列と弓池マールの噴火様式と活動年代	火山	66	243-251	○	10.18940/kazan.66.1.1	2(4)ア	1(1)ウ、1(2)	
Maeno, F., S. Nakada, M. Yoshimoto, T. Shimano, N. Hokanishi, A. Zaennudin and M. Iguchi	2019	Eruption pattern and a long-term magma discharge rate over the past 100 years at Kelud volcano, Indonesia	J. Disaster Res.	14	27-39	○		2(4)ア	1(2), 1(4)ア, 1(4)イ, 2(5)	
Tsunematsu, K., Y. Ishimine, T. Kaneko, M. Yoshimoto, T. Fujii and K. Yamaoka	2016	Estimation of ballistic block landing energy during 2014 Mount Ontake eruption	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0463-8	2(4)ア	1(4)ア, 3(2)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
イ. モニタリングによる火山活動の評価										
井口正人	2016	続発する日本の水蒸気噴火—そして桜島を考える—	想林	7	5-31			2(4)イ		
Kagoshima, T., Y. Sano, N. Takahata, A. Ishida, Y. Tomonaga, E. Rouleau, D.L. Pinti, T.P. Fischer, T. Lan, Y. Nishio, U. Tsunogai, Z. Guoj	2016	Spatial and temporal variations of gas geochemistry at Mt. Ontake, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	325	179-188	○	10.1016/j.jvolgeores.2016.06.013	2(4)イ		御嶽山周辺の温泉水に溶解する揮発性元素を長期的に調べ、2014年の御嶽山噴火のメカニズムや地下構造を推定するのに役に立つ時間的空間的な化学成分分布を明らかにした。
荻野激・高橋良・岡崎紀俊	2016	樽前山火山観測における湧水および地下水の水質調査報告(1998-2015)	北海道地質研究所報告	88	49-54			2(4)イ		
大森一人・鈴木隆広・石畑隆史	2016	地熱水化学成分のモニタリング結果-洞爺湖温泉地区 地熱調査ボーリング (KH-1 井)	北海道地質研究所報告	88	31-35			2(4)イ		
小沢慎三郎・矢来博司	2016	地殻変動データに基づく力源モデルによる火山活動の監視手法の開発に関する研究	平成28年度国土地理院調査研究年報					2(4)イ		
高橋良・荻野激・岡崎紀俊	2016	北海道駒ヶ岳周辺の温泉水の化学成分と酸素・水素同位体比の特徴とその変化 (2002-2015年)	北海道地質研究所報告	88	55-60			2(4)イ		
為栗健・井口正人・中道治久・山本圭吾	2016	2014~2015年口永良部島噴火の調査報告	京都大学防災研究所年報	59A	6			2(4)イ		
田村慎・鈴木隆広・林圭一・大森一人・高橋良・柴田智郎	2016	有珠山四十三山周辺の主要源泉における温度・水位・水質の推移	北海道地質研究所報告	88	17-24			2(4)イ		
Hotta, K. and M. Iguchi	2017	Ground deformation source model at Kuchinoerabu-jima volcano during 2006-2014 as revealed by campaign GPS observation	Earth Planet. Space	69	173	○	10.1186/s40623-017-0763-7	2(4)イ		
Nakamichi, H., M. Iguchi, T. Tameguri and T. Sonoda	2017	Quantification of seismic and acoustic waves to characterize the 2014 and 2015 eruptions of Kuchinoerabujima Volcano, Japan	J. Nat. Disaster Sci.	38	65-83	○		2(4)イ		地震波および空気振動を使った噴火規模評価し、他火山との比較を行った。噴火災害時において利用出来る観測点が限定されていても噴火規模評価が可能であることを示した。なお、本論文は日本自然災害学会国際賞(Hazards2000) 受賞論文である。
大見士朗・井口正人・飯尾能久	2017	飛騨山脈焼岳火山の研究監視観測網の現状	京都大学防災研究所年報	60	402-407			2(4)イ		
小沢慎三郎・矢来博司	2017	地殻変動データに基づく力源モデルによる火山活動の監視手法の開発に関する研究	平成29年度国土地理院調査研究年報					2(4)イ		
Geshi, N. and J. Itoh	2018	Pyroclastic density currents associated with the 2015 phreatomagmatic eruption of the Kuchinoerabujima volcano.	Earth Planet. Space	70	119	○	10.1186/s40623-018-0881-x	2(4)イ		
小沢慎三郎・矢来博司	2018	地殻変動データに基づく力源モデルによる火山活動の監視手法の開発に関する研究	平成30年度国土地理院調査研究年報					2(4)イ		
高橋良・岡崎紀俊・村山泰司・田村慎・荻野激・秋田藤夫	2018	十勝岳における温泉水の温度・化学成分の変化に基づいた火山活動評価	月刊地球	40	156-162			2(4)イ		
Yamakawa, K., M. Ichihara, K. Ishii, H. Aoyama, T. Nishimura and M. Ripepe	2018	Azimuth Estimations From a Small Aperture Infrasonic Array: Test Observations at Stromboli Volcano, Italy	Geophys. Res. Lett.	45	8931-8938	○	10.1029/2018GL078851	2(4)イ		
秋元良太郎・山崎明・山崎貴之・浅利晴紀・高橋幸祐	2019	活火山での全磁力観測におけるDI補正法の適用	2019年CA研究会論文集		25-32			2(4)イ		
飯野英樹・山崎明・田中達朗	2019	本白根山における2018年噴火後の自然電位および地磁気全磁力観測	2019年CA研究会論文集		15-20			2(4)イ		
Kagoshima, T., Y. Sano, N. Takahata, H. Lee, T. Lan and T. Ohba	2019	Secular variations of helium and nitrogen isotopes related to the 2015 volcanic unrest of Mt. Hakone, central Japan	Geochemistry, Geophys. Geosystems	20	4710-4722	○	10.1029/2019GC008544	2(4)イ		箱根山の噴火ガスに含まれる希ガスや揮発性元素を長期的に調べ、2015年の噴火と化学成分変化の関係から噴火のメカニズムを明らかにした。
小沢慎三郎・矢来博司	2019	地殻変動データに基づく力源モデルによる火山活動の監視手法の開発に関する研究	令和元年度国土地理院調査研究年報					2(4)イ		
Takahashi, R., N. Okazaki, M. Tamura, T. Ogino, and Y. Murayama	2019	The interaction of volcanic gas and deep magmatic fluid with shallow aquifers at Tokachidake volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	388		○	10.1016/j.jvolgeores.2019.106678	2(4)イ		十勝岳周辺の温泉において、30年以上にわたって継続的に行っている地球化学的観測についてまとめ、火山活動の変化に伴う温泉成分や泉温などの変化の要因について議論した。十勝岳では火山活動が変化すると深部のマグマ性熱水や火山ガスの供給に変化が認められ、その変化は温泉観測によって検知できることが明らかとなった。したがって、十勝岳では温泉観測は火山活動を把握する上で非常に重要である。
工藤千聖・青山裕・田中良	2020	UAVによる樽前山溶岩ドームの3次元地形モデリング	北海道大学地球物理学研究報告	83	103-114		10.14943/gbhu.83.103	2(4)イ		
小沢慎三郎・宗包浩志	2020	地殻変動データに基づく力源モデルによる火山活動の監視手法の開発に関する研究	令和2年度国土地理院調査研究年報					2(4)イ		
園田忠臣	2020	口永良部島火山における水準測量 (2020年5月)	京都大学防災研究所技術室報告		21			2(4)イ		
為栗健	2020	2014年以降の口永良部島の噴火活動について	屋久島学	7	23-36			2(4)イ		
飯野英樹・山崎明・有田真・田中達朗・下川淳	2021	2018年の本白根山噴火後の自然電位観測	駿震時報	84	1-10	○		2(4)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
下川淳・山崎明・笹岡雅宏・増子徳道・弘田瑛士	2021	草津白根山における全磁力観測の現状について	2021年CA研究会論文集		41-48			2(4)イ		
Takahashi, N. and S. Toda	2021	Evaluating variability in coseismic slips of paleoearthquakes from an incomplete slip history: an example from displaced terrace flights across the Kamishiro fault, central Japan.	Prog. Earth Planet. Sci.	8	15	○	10.1186/s40645-021-00407-w	2(4)イ	1(1)ウ	
Hirose, T., H. Nakahara and T. Nishimura	2017	Combined use of repeated active shots and ambient noise to detect temporal changes in seismic velocity: Application to Sakurajima volcano, Japan	Earth Planet. Space	69	42	○	10.1186/s40623-017-0613-7	2(4)イ	1(4)ア	
Yamakawa, K., M. Ichihara, K. Ishii, H. Aoyama, T. Nishimura and M. Ripepe	2018	Azimuth estimations from a small aperture infrasonic array: test observations at Stromboli volcano, Italy	Geophys. Res. Lett.	45	8931-8938	○	10.1029/2018GL078851	2(4)イ	1(4)ア	
Permana, T., T. Nishimura and H. Nakahara	2020	Reliability evaluation of volcanic tremor source location determination using cross-correlation functions	Geophys. J. Int.	220	1300-1315	○	10.1093/gji/ggz523	2(4)イ	1(4)ア	これまで精度の高い震源決定が難しかった火山性微動の震源決定法を提案するとともに、その決定精度を明らかにした。
Nishimura, T., K. Emoto, H. Nakahara, S. Miura, M. Yamamoto, S. Sugimura, A. Ishikawa and T. Kimura	2021	Source location of volcanic earthquakes and subsurface characterization using fiber-optic cable and distributed acoustic sensing system	Sci. Rep.	11	6319	○	10.1038/s41598-021-85621-8	2(4)イ	1(4)ア	噴火時にも連続的に観測が可能で、最新の地震観測技術であるDASが火山性地震や微動の震源決定に役立てられることを示した。また、超多点高密度で得られる地震波増幅特性の空間分布は、火山体構造の評価に役立てられるとともに、強震動予測に利用できることを指摘した。
橋本武志・宇津木充・大倉敬宏・神田径・寺田暁彦・三浦哲・井口正人	2019	非マグマ性の火山活動に伴う消磁及び地盤変動のソースの特徴	火山	64	103-119	○		2(4)イ	1(4)ア、1(4)イ、1(5)ウ、2(5)	過去に報告された、火山活動の不安定化 (unrest) に伴う地盤膨張や熱消磁の事例を収集し、その変動源の深度や強度の情報を整理した。熱消磁の発現後に噴火した事例には、消磁源が浅く強いという傾向が見られた。将来の統計的予測手法の開発に資する予察的成果と言える。
Hashimoto, T., W. Kanda, Y. Morita, M. Hayakawa, R. Tanaka, H. Aoyama and M. Uyeshima	2019	Significance of electromagnetic surveys at active volcanoes: toward evaluating the imminence of wet eruptions	J. Disaster Res.	14	580-591	○	10.20965/jdr.2019.p0580	2(4)イ	1(4)ア、1(5)ウ、2(5)	
Yamada, T., H. Aoyama, T. Nishimura, M. Iguchi and M. Hendrasto	2017	Volcanic eruption volume flux estimations from very long period infrasound signals	Geophys. Res. Lett.	44	143-151	○	10.1002/2016GL071047	2(4)イ	1(4)ア、3(2)ウ、5(5)	火山噴火に伴う噴出物による災害を軽減するためには、噴火の規模を迅速に把握することが重要である。本研究では、放出された噴出物の体積を、火山観測に広く導入されている空振記録の解析から簡便かつ迅速に算出する方法を提案し、監視カメラの映像を利用した先行研究の解析結果とよく一致することを示した。本研究の成果は広く火山観測研究・監視業務に応用できる可能性があり、日本火山学会の学生優秀論文賞(2017年度)を受賞した。火山噴火に伴う噴煙形成に同期して、周期が10秒以上の有意な空振動が励起されていることを、複数の火山における観測記録から見出した。また空振動波形解析による噴煙成長の定量的評価の可能性について検討した。
安藤忍	2016	ALOS/PALSAR及びALOS-2/PALSAR-2データを使ったSAR干渉解析による御嶽山周辺の地殻変動	火山噴火予知連絡会会報	119	82-86			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2016	ALOS-2/PALSAR-2の強度画像による西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	120	125-126			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2016	ALOS-2/PALSAR-2干渉解析による硫黄島の地殻変動	火山噴火予知連絡会会報	120	142-143			2(4)イ	1(5)ウ	
Miyaoka, K. and A. Takagi	2016	Detection of crustal deformation prior to the 2014 Mt. Ontake eruption by the stacking method	Earth Planet. Space	68	60	○	10.1186/s40623-016-0439-8	2(4)イ	1(5)ウ	
Takagi, A. and S. Onizawa	2016	Shallow pressure sources associated with the 2007 and 2014 phreatic eruptions of Mt. Ontake, Japan	Earth Planet. Space	68	135	○	10.1186/s40623-016-0515-0	2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・山本哲也・横山博文・木村一洋・中橋正樹・加藤幸司	2016	2014年御嶽山噴火前後の傾斜変動と浅部圧力源	火山噴火予知連絡会会報	119	72-75			2(4)イ	1(5)ウ	
高橋浩晃・一柳昌義・岡崎紀俊・高木朗充・宮城洋介・本多亮	2016	十勝岳白銀荘での重力鉛直勾配測定	北海道大学地球物理学研究報告	79	9-13		10.14943/gbhu.79.9	2(4)イ	1(5)ウ	
山里平	2016	火山噴火—そのメカニズムと減災	気象年鑑 2016年版		1-23			2(4)イ	1(5)ウ	
山里平	2016	噴火警戒レベル	地質と調査	145	54-57			2(4)イ	1(5)ウ	
山里平・石原和弘	2016	火山防災・減災の仕組みと防災情報	地盤工学会誌	703	76-83			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2017	だいち2号により観測された西之島の山体変形	気象研究所技術報告	78	34-52			2(4)イ	1(5)ウ	
木村一洋・長岡優	2017	海洋気象観測船「啓風丸」からの地形および熱観測	気象研究所技術報告	78	1-10			2(4)イ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Matsushima, N., Y. Nishi, S. Onizawa, S. Takakura, H. Hase and T. Ishido	2017	Self-potential characteristics of the dormant period of Izu-Oshima volcano	Bull. Volcanol.	79	86	○	10.1007/s00445-017-1173-1	2(4)イ	1(5)ウ	
長岡優	2017	西之島の火山性地震の震源決定	気象研究所技術報告	78	65-69			2(4)イ	1(5)ウ	
Prudencio, J., T. Taira, Y. Aoki, H. Aoyama and S. Onizawa	2017	Intrinsic and scattering attenuation images of Usu, volcano, Japan	Bull. Volcanol.	79	29	○	10.1007/s00445-017-1117-9	2(4)イ	1(5)ウ	
Shinohara, M., M. Ichihara, S. Sakai, T. Yamada, M. Takeo, H. Sugioka, Y. Nagaoka, A. Takagi, T. Morishita, T. Ono and A. Nishizawa	2017	Continuous seismic monitoring of Nishinoshima volcano, Izu-Ogasawara, by using long-term ocean bottom seismometers	Earth Planet. Space	69	159	○	10.1186/s40623-017-0747-7	2(4)イ	1(5)ウ	
代田寧・大場武・谷口無我	2017	箱根火山における活動活発化に連動した噴気組成(C/S比)の変化	神奈川県温泉地学研究所報告	49	29-38	○		2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 雌阿寒岳周辺におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	122	11-13			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 十勝岳周辺におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	122	38-41			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	122	251-255			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 桜島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	122	431-435			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 口永良部島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	122	472-479			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 弥陀ヶ原におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	114-116			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 御嶽山におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	117-121			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 三宅島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	192-194			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 阿蘇山におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	264-269			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 雲仙岳におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	285-288			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 霧島山新燃岳におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	336-339			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 口永良部島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	124	416-420			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	126	113-115			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた硫黄島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	126	119-121			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた薩摩硫黄島におけるSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	126	325-327			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた御嶽山の干渉解析	火山噴火予知連絡会会報	127	120-122			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 口永良部島の干渉解析	火山噴火予知連絡会会報	127	410-411			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた 秋田駒ヶ岳周辺におけるSAR干渉解析	火山噴火予知連絡会会報	128	44-45			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2 データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	129	202-208			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2018	ALOS-2/PALSAR-2 データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	130	179-186			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍・及川輝樹	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	127	175-182			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍・及川輝樹	2018	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	128	185-192			2(4)イ	1(5)ウ	
Doke, R., M. Harada and K. Miyaoka	2018	GNSS Observation and Monitoring of the Hakone Volcano and the 2015 Unrest	J. Disaster Res.	13	526-534	○	10.20965/jdr.2018.p0526	2(4)イ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Honda, R., Y. Yukutake, Y. Morita, S. Sakai, K. Itadera and K. Kokubo	2018	Precursory tilt changes associated with a phreatic eruption of the Hakone volcano and the corresponding source model	Earth Planet. Space	70	117	○	10.1186/s40623-018-0887-4	2(4)イ	1(5)ウ	
岡田和見・高橋浩晃・一柳昌義・岡崎紀俊・高木朗充	2018	十勝岳重力観測網での2機種相対重力計による測定値の比較	北海道大学地球物理学研究報告	81	27-32		10.14943/gbhu.81.27	2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・平松秀行・鬼澤真也	2018	口永良部島の地殻変動(光波測距観測)	火山噴火予知連絡会会報	122	480-481			2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・長岡優	2018	西之島の地震活動(2015年6月~2015年10月)	火山噴火予知連絡会会報	123	191-192			2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・野上健治	2018	葦津白根山の地殻変動(光波測距観測)	火山噴火予知連絡会会報	123	83-84			2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・宮城洋介・小澤拓・本多亮・高橋浩晃	2018	CG-5重力計の登山を伴う野外調査時における重力値安定性の基礎調査	北海道大学地球物理学研究報告	81	1-10		10.14943/gbhu.81.1	2(4)イ	1(5)ウ	
高橋浩晃・大園真子・一柳昌義・山口照寛・岡田和見・齊藤一真・不破智志・伊藤ちひろ・岡崎紀俊・高木朗充・本多亮	2018	十勝岳火口周辺域での重力鉛直勾配測定	北海道大学地球物理学研究報告	81	57-60		10.14943/gbhu.81.57	2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2019	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	131	220-229			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍	2019	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた西之島の地表変化	火山噴火予知連絡会会報	132	177-185			2(4)イ	1(5)ウ	
安藤忍・影山勇雄	2019	ALOS-2/PALSAR-2 データを用いた吾妻山のSAR干渉解析結果	火山噴火予知連絡会会報	132	50-53			2(4)イ	1(5)ウ	
Kusakabe, M., R. E. Tiodjio, B. Christenson, K. Saiki, T. Ohba and M. Yaguchi	2019	Enrichment of ferrous iron in the bottom water of Lake Nyos	J. African Earth Sci.	150	37-46	○	10.1016/j.jafrearsci.2018.10.014	2(4)イ	1(5)ウ	
Ohba, T., M. Yaguchi, K. Nishino, N. Numanami, Y. Daita, C. Sukigara, M. Ito and U. Tsunogai	2019	Time variations in the chemical and isotopic composition of fumarolic gases at Hakone volcano, Honshu Island, Japan, over the earthquake swarm and eruption in 2015, interpreted by magma sealing model	Earth Planet. Space	71	48	○	10.1186/s40623-019-1027-5	2(4)イ	1(5)ウ	
Ohba, T., M. Yaguchi, K. Nishino and N. Numanami	2019	Time Variation in the Chemical and Isotopic Composition of Volcanic Gas at Mt. Mihara of Izu-Oshima Island, Japan	J. Disaster Res.	14	972-977	○	10.20965/jdr.2019.p0972	2(4)イ	1(5)ウ	
岡田純・風早竜之介・松本恵子・三輪学央・入山宙	2019	第10回火山都市国際会議参加報告	火山	64		○	10.18940/kazan.64.1_11	2(4)イ	1(5)ウ	
Onizawa, S.	2019	Apparent calibration shift of the Scintrex CG-5 gravimeter caused by reading-dependent scale factor and instrumental drift	J. Geod.	93	1335-1345	○	10.1007/s00190-019-01247-9	2(4)イ	1(5)ウ	
代田寧・大場武・谷口無我・十河孝夫・原田昌武	2019	箱根火山大涌谷北側斜面で2017年に観測された噴気組成(C/S比)の変動	神奈川県温泉地学研究所報告	51	37-44	○		2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充	2019	深部圧力源による火山性地殻変動に基づく噴火発生予測の評価	火山	64	63-81	○	10.18940/kazan.64.2_63	2(4)イ	1(5)ウ	
高木朗充・谷口正実・太田健治・上田義浩・松末伸一・小窪則夫	2019	1950年代から2001年までの気象庁の検知管法による火山ガス成分観測データの調査と解析	験震時報	83	2	○		2(4)イ	1(5)ウ	
Yaguchi, M., T. Ohba and M. Sago	2019	The nature and source of the volcanic ash during the 2015 small phreatic eruption at Hakone volcano, central Japan	Geochem. J.	53	209-217	○	10.2343/geochem.j.0560	2(4)イ	1(5)ウ	
Yaguchi, M., T. Ohba, N. Numanami and R. Kawaguchi	2019	Constituent mineral and water-soluble component of volcanic ash from the 2018 eruption of Mt. Motoshirane of Kusatsu-Shirane volcano, Japan	J. Disaster Res.	14	991-995	○	10.20965/jdr.2019.p0991	2(4)イ	1(5)ウ	
村松容一・谷口無我	2020	山梨県増富温泉の水質形成機構	温泉科学	70	124-136	○		2(4)イ	1(5)ウ	
野上健治・鬼澤真也	2020	浅間山2004年噴火で放出された火山灰のフッ素・塩素含有量	火山	65	1-12	○		2(4)イ	1(5)ウ	
Yaguchi, M., A. Terada and Y. Ogawa	2020	Air-Fall Ash from the Main Crater of Asama Volcano on August 7, 2019, and its Water-Soluble Components	J. Disaster Res.	15	53-56	○	10.20965/jdr.2020.p0053	2(4)イ	1(5)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yaguchi, M.	2020	Abnormal discharge of high-temperature hot spring water observed at the abandoned well in the Okuhida hot spring area during the earthquake swarm occurred at Gifu-Nagano district, central Japan	J. Hot Spring Sci.	70	70-79	○		2(4)イ	1(5)ウ	
柳澤宏彰・飯野英樹・安藤忍・高木朗充・及川輝樹	2020	西之島の2020年6~8月のバイオレント・ストロンボリ式噴火	火山	65	119-124	○	10.18940/kazan.65.4_119	2(4)イ	1(5)ウ	
Ohba, T., M. Yaguchi, U. Tsunogai, M. Ito and R. Shingubara	2021	Behavior of magmatic components in fumarolic gases related to the 2018 phreatic eruption at Ebinkogen Ioyama volcano, Kirishima Volcanic Group, Kyushu, Japan	Earth Planet. Space	73	81	○	10.1186/s40623-021-01405-4	2(4)イ	1(5)ウ	
関晋・丹原裕・山村卓也・佐々木康氣・松浦茂郎・越谷英樹・近江克也・近澤心・若生勝・岡田純・碓井勇二	2021	2018年から2019年にかけての吾妻山の火山活動	地震時報			○		2(4)イ	1(5)ウ	
代田寧・大場武・谷口無我・十河孝夫・原田昌武	in press	箱根山火山ガス組成による火山活動予測ー火山防災への活用ー	地学雑誌			○		2(4)イ	1(5)ウ	
Ohba, T., M. Yaguchi, K. Nishino, N. Numanami, U. Tsunogai, M. Ito and R. Shingubara	2019	Time variation in the chemical and isotopic composition of fumarolic gases at Kusatsu-Shirane volcano Japan	Front. Earth Sci.	7	249	○	10.3389/feart.2019.00249	2(4)イ	1(5)ウ, 2(5)	
北海道大学・札幌管区気象台	2019	十勝岳(地磁気全磁力)	第144回火山噴火予知連絡会資料	その1	59			2(4)イ	2(5)	
北海道大学・札幌管区気象台	2019	十勝岳(地磁気全磁力)	第145回火山噴火予知連絡会資料	その5	86-87			2(4)イ	2(5)	
北海道大学・東京大学	2019	十勝岳(二酸化硫黄放出率)	第145回火山噴火予知連絡会資料	その5	88			2(4)イ	2(5)	
北海道大学	2019	有珠山(2000年噴火域の全磁力変化)	第145回火山噴火予知連絡会資料	その6-1	91			2(4)イ	2(5)	
北海道大学	2019	有珠山(山頂火口原の全磁力変化)	第145回火山噴火予知連絡会資料	その6-1	92			2(4)イ	2(5)	
Kaneko, T., F. Maeno, A. Yasuda, M. Takeo and K. Takasaki	2019	The 2017 Nishinoshima eruption: combined analysis using Himawari-8 and multiple high-resolution satellite images	Earth Planet. Space	71	141	○		2(4)イ	2(5)	
Kaneko, T., F. Maeno and A. Yasuda	2019	Observation of the eruption sequence and formation process of a temporary lava lake during the June-August 2015 Mt. Raung eruption, Indonesia, using high-resolution and high-frequency satellite image datasets	J. Volcanol. Geotherm. Res.	377	17-32	○		2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	伊豆大島三原山の見掛け比抵抗変化	第144回火山噴火予知連絡会資料	その4の4	41			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	伊豆大島全磁力	第144回火山噴火予知連絡会資料	その4の4	39-40			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	霧島-硫黄山の赤外観測	第144回火山噴火予知連絡会資料	その2	129			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	ひまわり8号・しきさいによる西之島2019年12月活動の観測	第145回火山噴火予知連絡会資料	その4	22-25			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	伊豆大島三原山の見掛け比抵抗変化	第145回火山噴火予知連絡会資料	その6の4	28			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	伊豆大島全磁力	第145回火山噴火予知連絡会資料	その6の4	29-30			2(4)イ	2(5)	
東京大学地震研究所	2019	霧島-硫黄山の赤外観測	第145回火山噴火予知連絡会資料	その1	201-202			2(4)イ	2(5)	
青山裕・田中良・橋本武志・村上亮・成田翔平	2020	十勝岳の火口近傍における力学観測: 序報	北海道大学地球物理学研究報告	83	25-48		10.14943/gbhu.83.25	2(4)イ	2(5)	
Ono, T., T. Mori and F. Tsunomori	2020	High-frequency field auto-sampling of volcanic waters discharged near craters of active volcanoes	Bull. Volcanol.	82	16	○		2(4)イ	2(5)	
橋本武志	2021	火山の活動不安定評価における熱消磁現象の活用と噴火予測の可能性	地学雑誌	印刷中		○		2(4)イ	2(5)	
丹羽俊介・青山裕・澤田可洋	2021	1950年代に雌阿寒岳山上で取得されたすずき地震記録の再解析	釧路市立博物館紀要	39	63-75			2(4)イ	2(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Yamada, T., H. Aoyama and H. Ueda	2018	Relationship between infrasound-derived and buoyancy-derived eruption plume volume estimates	Bull. Volcanol.	80	71	○	10.1007/s00445-018-1244-y	2(4)イ	3(2)ウ	
Biass, S., A. Todde, R. Cioni, M. Pistolesi, N. Geshi and C. Bonadonna	2017	Potential impacts of tephra fallout from a large-scale explosive eruption at Sakurajima volcano, Japan	Bull. Volcanol.	79	72	○	10.1007/s00445-017-1153-5	2(4)イ	5(2)エ	
Todde, A., R. Cioni, M. Pistolesi, N. Geshi and C. Bonadonna	2017	The 1914 Taisho eruption of Sakurajima volcano: stratigraphy and dynamics of the largest explosive event in Japan during the 20th century	Bull. Volcanol.	79	73	○	10.1007/s00445-017-1154-4	2(4)イ	5(2)エ	
Geshi, N., I. Yamada, K. Matsumoto, A. Nishihara and I. Miyagi	2020	Accumulation of rhyolite magma and triggers for a caldera-forming eruption of the Aira Caldera, Japan	Bull. Volcanol.	82	44	○	10.1007/s00445-020-01384-6	2(4)イ	5(2)エ	
Mori T., M. Morita, M. Iguchi and Fukuoka Regional Headquarters	2017	Sulfur dioxide flux monitoring using a public ferry after the 2014 eruption of Kuchinoerabujima Volcano, Japan	J. Nat. Disaster Sci.	38	105-118	○	10.2328/jnds.38.105	2(4)イ	5(3)イ	フェリーを用いた口永良部島の二酸化硫黄放出率の繰り返し測定手法を開発について記した論文。2015年5月29日の噴火前後の二酸化硫黄放出率の変化について議論した。
Mori, T., T. Hashimoto, A. Terada, M. Yoshimoto, R. Kazahaya, H. Shinohara and R. Tanaka	2016	Volcanic plume measurements using a UAV for the 2014 Mt. Ontake eruption	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0418-0	2(4)イ	1(4)ア, 1(5)ウ, 5(3)イ	
<b>(5) 火山活動推移モデルの構築による火山噴火予測</b>										
井口正人	2017	火山噴火の発生予測	Building maintenance & management	39	32-35			2(5)		
井口正人	2017	始良カルデラのマグマ蓄積モデルの高精度化	号外地球	68	104-108			2(5)		
村田剛志・Hiep Vinh Le・井口正人	2017	深層学習による火山活動認識	知識ベースシステム研究会	112	38-45			2(5)		
大久保修平・山本圭吾・井口正人	2017	重力と地殻変動連続観測に基づく桜島火山の火道状態の診断	東京大学地震研究所年報	92	91-99	○		2(5)		
堀田耕平・井口正人	2018	2017年の南岳爆発に前後する傾斜ひずみ変化	京都大学防災研究所年報	61B	324-329			2(5)		
井口正人・中道治久・為栗健・堀田耕平・園田忠臣	2018	2017年8月桜島溶岩噴泉活動に伴う地震活動及び地盤変動	京都大学防災研究所年報	61B	318-323			2(5)		
風間卓仁・山本圭吾・平良真純・大島弘光・前川徳光・岡田和見・園田忠臣・井口正人	2018	桜島火山における繰り返し相対重力測定 (2017年5月~2018年2月)	京都大学防災研究所年報	61B	330-336			2(5)		
為栗健・井口正人	2018	桜島火山昭和火口で発生する火砕流の特徴	京都大学防災研究所年報	61B	312-317			2(5)		
Hiep, V.L., T. Murata and M. Iguchi	2019	Deep Modular Multimodal Fusion on Multiple Sensors for Volcano Activity Recognition	Machine Learning and Knowledge Discovery in Databases		602-617	○	10.1007/978-3-030-10997-4_37	2(5)		
井口正人	2019	桜島大規模噴火の発生予測 - 非地震性地盤変動から地震活動を伴う地盤変動への推移	自然災害科学	131	306	○		2(5)		
高橋浩晃・青山裕・大園真子・田中良・伊藤ちひろ・渡邊早姫・松島健・山下裕亮・宮町宏樹・奥山哲・ゴルディエフ・エフゲニー・ムラビヨフ・ヤロスラフ・マダースキン・キリル・マリック・ナタリヤ・ミロノフ・イワン・チェブロフ・ダニラ	2019	ロシア・カムチャツカ半島アバチンスキー火山での傾斜観測	北海道大学地球物理学研究報告	82	11-18			2(5)		
Tameguri, T. and M. Iguchi	2019	Characteristics of micro-earthquake swarms preceding eruptions at Showa crater of Sakurajima volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	372	24-33	○	10.1016/j.jvolgeores.2019.01.016	2(5)		
Brown, R. J., N.R. Taylor and M. Iguchi	2020	Using high-resolution Pb isotopes to unravel the petrogenesis of Sakurajima volcano, Japan	Bull. Volcanol.	82	36	○	10.1007/s00445-020-1731-0	2(5)		
柘植鮎木・青山裕	2020	しかべ間歌泉の多項目観測と特徴的な噴出周期変化について：序報	北海道大学地球物理学研究報告	83	49-70		10.14943/gbhu.83.49	2(5)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Yamasaki, T., F. Sigmundsson and M. Iguchi	2020	Viscoelastic crustal response to magma supply and discharge in the upper crust: Implications for the uplift of the Aira caldera before and after the 1914 eruption of the Sakurajima volcano.	Earth Planet. Sci. Lett.	531	115981	○	10.1016/j.epsl.2019.115981	2(5)		
Hotta, K. and M. Iguchi	2021	Tilt and strain change during the explosion at Minami-dake, Sakurajima, on November 13, 2017	Earth Planet. Space	73	70	○	10.1186/s40623-021-01392-6	2(5)		
Koike, M. and H. Nakamichi	2021	Dike inflation process beneath Sakurajima volcano, Japan, during the earthquake swarm of August 15, 2015	Front. Earth Sci.	8	600223	○	10.3389/feart.2020.600223	2(5)		
Nakada, S., F. Maeno, M. Yoshimoto, N. Hokanishi, T. Shimano, A. Zaennudin and M. Iguchi	2019	Eruption Scenarios of Active Volcanoes in Indonesia	J. Disaster Res.	14	40-50	○	10.20965/jdr.2019.p0040	2(5)	1(2), 1(4)ア, 1(4)イ, 2(4)ア	
Nakada, S., A. Zaennudin, M. Yoshimoto, F. Maeno, Y. Suzuki, N. Hokanishi, H. Sasaki, M. Iguchi, T. Ohkura, H. Gunawan and H. Triastuty	2019	Growth process of the lava dome/flow complex at Sinabung Volcano during 2013-2016	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	120-136	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.06.012	2(5)	1(2), 1(4)ア, 1(4)イ, 5(5)	
Nishimura, T.	2017	Triggering volcanic eruptions by large earthquakes	Geophys. Res. Lett.	44	7750-7756	○	10.1002/2017GL074579	2(5)	1(4)	
Nishimura, T.	2018	Interaction between moderate earthquakes and volcanic eruptions: analyses of global data catalog	Geophys. Res. Lett.	45	8199-8204	○	10.1029/2018GL079060	2(5)	1(4)ア	
西村太志	2019	噴火発生頻度の時空間的特徴—グローバルデータベースの解析—	火山	64	53-61	○	10.18940/kazan.64.2_53	2(5)	1(4)ア	世界各地で発生する噴火について、その発生頻度や地域性など時空間変化をまとめるとともに、地震や隣接する火山との相互作用について明らかにした。
伴雅雄・及川輝樹・山崎誠子・後藤章夫・山本希・三浦哲	2019	近代的噴火観測事例のない火山での噴火推移予測：蔵王火山の例	火山	64	131-138	○	10.18940/kazan.64.2_131	2(5)	1(4)ア, 1(4)イ	
井口正人・為栗 健・平林順一・中道治久	2019	マグマ貫入速度による桜島火山における噴火事象分岐論理	火山	64	33-51	○	10.18940/kazan.64.2_33	2(5)	1(4)ア, 1(4)イ	桜島の噴火に前駆する地盤変動等を検討し、経験的事象分岐論理をマグマの貫入場所と貫入速度に基づいて構築した。
Kondo, G., H. Aoyama, T. Nishimura, M. Ripepe, G. Lacanna, R. Genco, R. Kawaguchi, T. Yamada, T. Miwa and E. Fujita	2019	Gas flux cyclic regime at an open vent magmatic column inferred from seismic and acoustic records	Sci. Rep.	9	5678	○	10.1038/s41598-019-42033-z	2(5)	1(4)ア, 1(4)イ, 2(4)イ	本研究は2014年7月に発生したストロンボリ火山の山腹溶岩流出噴火前後の地震及び空振記録の解析から、溶岩流出前に特徴的に現れた地震動や空振動のサイクルを見いだした。山頂での噴火活動が活発になった溶岩流出前の10日程度は、山頂火口からの火山ガス放出が周期的な振る舞いを示すようになり、山腹噴火に移行した後は一切見られなくなった。ストロンボリ火山における火山活動の急激な変化に先行する現象の1つと考えられる。
Kasbani, H. Gunawan, W. McCausland, J. Pallister, M. Iguchi and S. Nakada	2019	The eruptions of Sinabung and Kelud volcanoes, Indonesia	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	1-5	○	10.1016/j.jvolgeores.2019.07.008	2(5)	1(4)ア, 1(4)イ, 5(5)	
Iguchi, M., H. Nakamichi, T. Tameguri, K. Yamamoto, T. Mori, T. Ohminato and E. Saito	2017	Contribution of monitoring data to decision making for evacuation from the 2014 and 2015 eruptions of Kuchinoerabujima Volcano	J. Nat. Disaster Sci.	38	31-47	○		2(5)	1(4)ア, 2(4)イ	
Hotta, K., M. Iguchi, T. Ohkura, M. Hendrasto, H. Gunawan, U. Rosadi and E. Kriswati	2018	Method for estimating the end of the deflation initiated in 2014 at Sinabung volcano, Indonesia, under the assumption that the magma behaves as a Bingham fluid	Earth Planet. Space	70	107	○	10.1186/s40623-018-0884-7	2(5)	1(5)ウ, 5(5)	
Hickey, J., J. Gottsmann, H. Nakamichi and M. Iguchi	2016	Thermomechanical controls on magma supply and volcanic deformation: application to Aira caldera, Japan	Sci. Rep.	6	32691	○	10.1038/srep32691	2(5)	2(4)アイ	
井口正人	2017	九州の火山における噴火活動の動向：特に桜島について	学士会会報	925	85-89			2(5)	2(4)イ	
Cho, I. and T. Iwata	2017	The relationship between normalized horizontal-to-vertical spectral ratios (HVSRs) of microtremors and the F distribution	Exploration Geophysics	49	637-646	○	10.1071/E617110	2(5)	3(1)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Cho, I. and T. Iwata	2020	Limits and benefits of the spatial autocorrelation microtremor array method due to the incoherent noise, with special reference to the analysis of long wavelength ranges	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126	e2020JB019850	○	10.1029/2020JB019850	2(5)	3(1)ア	
Iguchi, M.	2018	Volcanic Activity of Sakurajima Monitored Using Global Navigation Satellite System	J. Disaster Res.	13	518-525	○	10.20965/jdr.2018.p0518	2(5)	3(2)ウ	
Aisyah, N., M. Iguchi, Subandriyo, A. Budisantoso, K. Hotta and S. Sumarti	2018	Combination of a pressure source and block movement for ground deformation analysis at Merapi volcano prior to the eruptions in 2006 and 2010	J. Volcanol. Geotherm. Res.	357	239-253	○	10.1016/j.jvolgeores.2018.05.001	2(5)	5(5)	
井口正人・中道治久・中田節也・宮本邦明・大石哲・藤田正治	2018	火山噴出物の放出に伴う災害の軽減に関する総合的研究	京都大学防災研究所年報	61A	5-23			2(5)	5(5)	
Gunawan, H., Surono, A. Budiarto, Kristianto, O. Prambada, W. McCausland, J. Pallister and M. Iguchi	2019	Overview of the eruptions of Sinabung Volcano, 2010 and 2013-present and details of the 2013 phreatomagmatic phase	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	103-119	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.08.005	2(5)	5(5)	
Hotta, K., M. Iguchi, T. Ohkura, M. Hendrasto, H. Gunawan, U. Rosadi and E. Kriswati	2019	Magma intrusion and effusion at Sinabung volcano, Indonesia, from 2013 to 2016, as revealed by continuous GPS observation	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	173-183	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.12.015	2(5)	5(5)	
Iguchi, M., H. Nakamichi, K. Miyamoto, M. Shimomura, M., I.G.M.A. Nandaka, A. Budi-Santoso, Sulistiyani, N. Aisyah	2019	Forecast of the Pyroclastic Volume by Precursory Seismicity of Merapi Volcano	J. Disaster Res.	14	51-60	○	10.20965/jdr.2019.p0051	2(5)	5(5)	世界の火山噴火のデータベースにインドネシア・メラピ山で発生した噴火を加えて検討し、噴火に前駆する火山性地震のエネルギーからその後発生する噴火規模の上限を与える経験式を導いた。
Kriswati, E., I. Meilano, M. Iguchi, H.Z. Abidin and Surono	2019	An evaluation of the possibility of tectonic triggering of the Sinabung eruption	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	224-232	○	10.1016/j.jvolgeores.2018.04.031	2(5)	5(5)	
Nakamichi, H., M. Iguchi, H. Triastuty, M. Hendrasto and I. Mulyana	2019	Differences of precursory seismic energy release for the 2007 effusive dome-forming and 2014 Plinian eruptions at Kelud volcano, Indonesia	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	68-80	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.08.004	2(5)	5(5)	プリニー式噴火（爆発性が高い噴火）とドーム形成噴火（爆発性が低い噴火）に前駆する地震エネルギーの時間変化から、爆発性の高い噴火に前駆する地震エネルギーは加速的に増加するが、爆発性が低い噴火では増加が減速することを示した。
<b>3. 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究</b>										
<b>(1) 地震・火山噴火の災害誘因の事前評価手法の高度化</b>										
<b>ア. 強震動の事前評価手法</b>										
Asano, K. and T. Iwata	2016	Source rupture processes of the foreshock and mainshock in the 2016 Kumamoto earthquake sequence estimated from the kinematic waveform inversion of strong motion data	Earth Planet. Space	68	147	○	10.1186/s40623-016-0519-9	3(1)ア		強震記録を用いた2016年熊本地震の前震及び本震の震源過程推定を行った。本震のすべりは布田川断層帯布田川区間で大きく、地表地震断層が現れた区間に対応していた。
Asano, K., H. Sekiguchi, T. Iwata, M. Yoshimi, T. Hayashida, H. Saomoto and H. Horikawa	2016	Modelling of wave propagation and attenuation in the Osaka sedimentary basin, western Japan, during the 2013 Awaji Island earthquake	Geophys. J. Int.	204	1678-1694	○	10.1093/gji/ggv543	3(1)ア		
三宅弘恵・浅野公之・瀧藤一起・岩田知孝	2016	2011年東北地方太平洋沖地震の強震記録を用いた震源モデルの概要	日本地震工学会論文集	16(4)	12-21	○	10.5610/jaee.16.4.12	3(1)ア		
Hallo, M., K. Asano and F. Gallovič	2017	Bayesian inference and interpretation of centroid moment tensors of the 2016 Kumamoto earthquake sequence, Kyushu, Japan	Earth Planet. Space	69	134	○	10.1186/s40623-017-0721-4	3(1)ア		
Asano, K. and T. Iwata	2019	Source rupture process of the 2018 Hokkaido Eastern Ibari earthquake deduced from strong-motion data considering seismic wave propagation in three-dimensional velocity structure	Earth Planet. Space	71	101	○	10.1186/s40623-019-1080-0	3(1)ア		
浅野公之	2019	気仙沼沖M6級繰り返しプレート境界地震の震源特性のばらつき評価	日本地震工学会論文集	19(5)	34-45	○		3(1)ア		
Chen, Y.-C., H.-C. Huang, T. Iwata and K. Asano	2019	Strong Ground Motion Simulation of 2016 ML6.6 Meinong, Taiwan, Earthquake Using the Empirical Green's Function Method	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124(12)	12905-12919	○	10.1029/2019JB017661	3(1)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Dan, K., D. Ju, H. Fujiwara and N. Morikawa	2019	Validation of the New Procedures for Evaluating Parameters of Crustal Earthquakes Caused by Long Faults for Ground Motion Prediction	Bull. Seismol. Soc. Am.	109(1)	152-163	○	10.1785/0120180123	3(1)ア		
Hallo, M., I. Opršal, K. Asano and F. Gallovič	2019	Seismotectonics of the 2018 northern Osaka M6.1 earthquake and its aftershocks: joint movements on strike-slip and reverse faults in inland Japan	Earth Planet. Space	71	34	○	10.1186/s40623-019-1016-8	3(1)ア		
小穴温子・壇一男・宮腰淳一・藤原広行・森川信之	2019	2016年熊本地震を対象とした震源断層近傍における強震動評価手法に関する検討	日本地震工学会論文集	19(6)	76-90	○	10.5610/jae.19.6_76	3(1)ア		
石田早祐美・前田拓人・小菅正裕	2020	地震波干渉法に基づく青森県周辺のレイリー波み群速度分布とその周期依存性	東北地域災害科学研究	56	167-172			3(1)ア		
Kubo, H., K. Asano, T. Iwata and S. Aoi	2020	Along-dip variation in seismic radiation of the 2011 Ibaraki-oki, Japan, earthquake (Mw 7.9) inferred using a multiple-period-band source inversion approach	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2020JB019936	○	10.1029/2020JB019936	3(1)ア		
Kumamoto, T., M. Fujita, H. Goto and T. Nakata	2016	Examination of the Correlation Between Tectonic Landforms and Shallow Subsurface Structural Datasets for the Estimation of Seismic Source Faults	Kamae, K ed., Earthquakes, Tsunamis and Nuclear Risks: Prediction and Assessment Beyond the Fukushima Accident		3-30	○	10.1007/978-4-431-55822-4_1	3(1)ア	2(1)イ	
鈴木康弘・渡辺満久・中田高	2018	2016年熊本地震における益城町中心市街地内の地震断層-変動地形学的意義と建物被害への影響	活断層研究	48	13-34	○		3(1)ア	2(1)イ	
Noguchi, S. T. Maeda and T. Furumura	2016	Ocean-influenced Rayleigh waves from outer-rise earthquakes and their effects on durations of long-period ground motion	Geophys. J. Int.	205	1099-1107	○	10.1093/gji/ggw074	3(1)ア	3(1)ウ	
Viens, L., H. Miyake and K. Koketsu	2016	Simulations of long-period ground motions from a large earthquake using finite rupture modeling and the ambient seismic field	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	8774-8791	○	10.1002/2016JB013466	3(1)ア	3(1)ウ	
Kobayashi, H., K. Koketsu and H. Miyake	2017	Rupture processes of the 2016 Kumamoto earthquake sequence: Causes for extreme ground motions	Geophys. Res. Lett.	44	6002-6010	○	10.1002/2017GL073857	3(1)ア	3(1)ウ	
Todoriki, M., T. Furumura and T. Maeda	2017	Effects of seawater on elongated duration of ground motion as well as variation in its amplitude for offshore earthquakes	Geophys. J. Int.	208	226-233	○	10.1002/2017JB014519	3(1)ア	3(1)ウ	
Viens, L., M. Denolle, H. Miyake, S. Sakai and S. Nakagawa	2017	Retrieving impulse response function amplitudes from the ambient seismic field	Geophys. J. Int.	210	210-222	○	10.1093/gji/ggx155	3(1)ア	3(1)ウ	
Chen, Y.-Y., W.-B. Wang and T. Furumura	2018	Three-dimensional numerical modeling of seismic ground motion of 2009 Mw6.3 Da-Qaidam earthquake in Quighai Province	Chinese J. Geophys.	62	4633-4647	○	10.6038/cjg2019M0237	3(1)ア	3(1)ウ	
Furumura, T. and B.L.N. Kennett	2018	Regional distance PL phase in the crustal waveguide - An analog to the teleseismic W phase in the upper-mantle waveguide	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123		○	10.1029/2018JB015717	3(1)ア	3(1)ウ	
Furumura, T. and B.L.N. Kennett	2019	The Significance of Long-Period Ground Motion at Regional to Teleseismic Distances From the 610-km Deep Mw 8.3 Sea of Okhotsk Earthquake of 24 May 2013	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124		○	10.1029/2019JB018147	3(1)ア	3(1)ウ	
Kennett, B.L.N. and T. Furumura	2019	Significant P wave conversions from upgoing S waves generated by very deep earthquakes around Japan	Prog. Earth Planet. Sci.	6		○	10.1186/s40645-019-0292-z	3(1)ア	3(1)ウ	
Kobayashi, H., K. Koketsu and H. Miyake	2019	Rupture process of the 2018 Hokkaido Eastern Iburu earthquake derived from strong motion and geodetic data	Earth Planet. Space	71	63	○	10.1186/s40623-019-1041-7	3(1)ア	3(1)ウ	
Furumura, T. and B.L.N. Kennett	2020	Propagation of distinct Love-wave pulses from regional to teleseismic distances in continental and oceanic environments	Geophys. J. Int.	221	665-682	○	10.1093/gji/ggaa028	3(1)ア	3(1)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Furumura, T. and B.L.N. Kennett	2021	Azimuthal Variation of Lithospheric Heterogeneity in the Northwest Pacific Inferred From Po/So Propagation Characteristics and Anomalous Large Ground Motion of Deep In-Slab Earthquakes	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	10.1029/2021JB021717	3(1)ア	3(1)ウ	
Yoshimitsu, N., T. Furumura and T. Maeda	2016	Geometric effect on a laboratory-scale wavefield inferred from a three-dimensional numerical simulation	J. Appl. Geophysics	132	184-192	○	10.1016/j.jappgeo.2016.07.002	3(1)ア	3(1)オ	
Furumura, T., B.L.N. Kennett and S. Padhy	2016	Enhanced waveguide effect for deep-focus earthquakes in the subducting Pacific slab produced by a meta-stable olivine wedge	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	6779-6796	○	10.1002/2016JB013300	3(1)ア	3(2)ア	
Furumura, T.	2016	Destructive near-fault strong ground motion from the 2016 Kumamoto Prefecture, Japan, M7.3 earthquake	Landslides	13	1519-1524	○	10.1007/s10346-016-0760-0	3(1)ア	3(2)ア	
Kennett, B.L.N. and T. Furumura	2016	Multi-scale seismic heterogeneity in the continental lithosphere	Geochemistry, Geophys. Geosystems	17	791-809	○	10.1002/2015GC006200	3(1)ア	3(2)ア	
Maeda, T., S. Takemura and T. Furumura	2017	OpenSWPC: An open-source integrated parallel simulation code for modeling seismic wave propagation in 3D heterogeneous viscoelastic media	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0687-2	3(1)ア	3(2)ア	
Shiina, T., T. Maeda, M. Kano, A. Kato and N. Hirata	2021	An optimum 2D seismic wavefield reconstruction in densely and nonuniformly distributed stations: The Metropolitan Seismic Observation Network in Japan	Seismol. Res. Lett.	XX	1-13	○	10.1785/0220200196	3(1)ア	3(2)ア	
Guo, Y., K. Koketsu and H. Miyake	2016	Propagation mechanism of long-period ground motions for offshore earthquakes along the Nankai Trough: Effects of the accretionary wedge	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	1176-1197	○	10.1785/0120150315	3(1)ア	5(2)ア	
Asano, K., T. Iwata, H. Sekiguchi, K. Somei, K. Miyakoshi, S. Aoi and T. Kunugi	2017	Surface wave group velocity in the Osaka sedimentary basin, Japan, estimated using ambient noise cross-correlation functions	Earth Planet. Space	69	108	○	10.1186/s40623-017-0694-3	3(1)ア	5(2)ア	
Asano, K.	2018	Source Modeling of an MW 5.9 Earthquake in the Nankai Trough, Southwest Japan, using Offshore and Onshore Strong-Motion Waveform Records	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	1231-1239	○	10.1785/0120170357	3(1)ア	5(2)ア	
関口春子・岩田知孝・浅野公之	2019	奈良盆地の3次元速度構造モデルの構築と検証	地質学雑誌	125	715-730	○	10.5575/geosoc.2018.0053	3(1)ア	5(2)ア	奈良盆地の深部地下構造モデルを、各種地球物理学的探査結果をもとに構築した。構築された地下構造モデルに対して、M4クラスの地震の波形シミュレーションを行い、既存地下構造モデルより再現性がよくなっている点や、更に改善が必要な地域についての検討を行った。
Viens, L. and T. Iwata	2020	Improving the retrieval of offshore-onshore correlation functions with machine learning	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	e2020JB019730	3(1)ア	5(2)ア	
Viens, L., K. Koketsu, H. Miyake, S. Sakai and S. Nakagawa	2016	Basin-scale Green's functions from the ambient seismic field recorded by MeSO-net stations	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	2507-2520	○	10.1002/2016JB012796	3(1)ア	5(2)イ	
Kobayashi, H., K. Koketsu, H. Miyake and H. Kanamori	2021	Similarities and differences in the rupture processes of the 1952 and 2003 Tokachi-oki earthquakes	J. Geophys. Res.: Solid Earth	126		○	e2020JB020585	3(1)ア	5(2)ウ	
浅野公之・岩田知孝・永井夏織	2019	平成30年北海道胆振東部地震の強震動と震源モデル	第47回地盤震動シンポジウム論文集		3-10			3(1)ア		
Sekiguchi, H., K. Asano and T. Iwata	2020	Strong Ground Motion Simulation in Osaka Basin, Japan, for the 2018 Northern Osaka Prefecture Earthquake	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering		paper no. 1d-0046			3(1)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Pratama, C., T. Ito, I. Meilano and A.D. Nugraha	2017	B-Value And Slip Rate Sensitivity Analysis For PGA Value In Lembang Fault And Cimandiri Fault Area	AIP Conference Proceedings	1857		○	10.1063/1.4987083	3(1)ア	3(1)ウ	
Iwata, T., H. Kubo, K. Asano, K. Sato and S. Aoi	2016	Long-period Ground Motion Characteristics and Simulations in the Osaka Basin during the 2011 Great Tohoku Earthquake	Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion		I101A			3(1)ア	5(2)ア	
Sekiguchi, H., K. Asano, T. Iwata, M. Yoshimi, H. Horikawa, H. Saomoto and T. Hayashida	2016	Construction of a 3D Velocity Structure Model of Osaka Sedimentary Basin	Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion		P103B			3(1)ア	5(2)ア	
岩田知孝・浅野公之・田中宏樹	2018	大阪堆積盆地北西部の尼崎観測点で観測される繰り返し地震波後続波群の特徴と3次元地震動シミュレーション	第15回日本地震工学シンポジウム論文集		G010-01-11			3(1)ア	5(2)ア	
<b>イ. 津波の事前評価手法</b>										
日下部哲也・亀伸樹	2018	津波のグリーン関数Kajiura Filterの級数表現の導出	地震2	71	117-119	○	10.4294/zisin.2017-16	3(1)イ	1(1)ア	
Ioki, K., Y. Tanioka, H. Yanagisawa and G. Kawakami	2019	Numerical simulation of the landslide and tsunami due to the 1741 Oshima-Oshima eruption in Hokkaido, Japan	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	1991-2002	○	10.1029/2018JB016166	3(1)イ	1(2), 5(2)ア, 5(2)ウ	1741年渡島大島津波は火山活動による山体崩壊により励起された大津波として知られてきた。また、最近の海底調査や津波堆積物調査により地すべりの大きさや津波の実体が明らかになってきた。本研究では全ての調査データを再現できる地すべりモデルを構築し、摩擦係数等のパラメータを推定した。開発された地すべりモデルと推定されたパラメータは、将来の地すべり津波を事前評価するための重要な手法となる。
Heidarzadeh, M., T. Harada, K. Satake, T. Ishibe and T. Takagawa	2017	Tsunamis from strike-slip earthquakes in the Wharton Basin, northeast Indian Ocean: March 2016 Mw 7.8 event and its relationship with the April 2012 Mw 8.6 event	Geophys. J. Int.	211	1601-1612	○	10.1093/gji/ggx395	3(1)イ	1(3)イ	
Watanabe, S., Y. Bock, D. Melgar and K. Tadokoro	2018	Tsunami Scenarios Based on Interseismic Models Along the Nankai Trough, Japan, From Seafloor and Onshore Geodesy	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	2448-2461	○	10.1002/2017JB014799	3(1)イ	2(2)ア	
Maeda, T., H. Tsushima and T. Furumura	2016	An effective absorbing boundary condition for linear long-wave and linear dispersive-wave tsunami simulations	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0436-y	3(1)イ	3(2)イ	
<b>ウ. 大地震による災害リスク評価手法</b>										
野口竜也・西川隼人・吉田昌平・香川敬生	2016	鳥取県内の地震観測点における地盤構造の把握とサイト特性の評価	土木学会論文集A1	72(4)	I_646-I_658	○	10.2208/jscejseee.72.1_646	3(1)ウ		
Kagawa, T., T. Noguchi, S. Yoshida and S. Yamamoto	2017	Effect of the surface geology on strong ground motions due to the 2016 Central Tottori Earthquake, Japan	Earth Planet. Space	69:106		○	10.1186/s40623-017-0689-0	3(1)ウ		2016年10月21日に発生した鳥取県中部の地震(Mj6.6)の本震および余震の強震観測記録について解析し、地盤応答特性による多様性および非線形応答の影響について示した。
香川敬生	2017	2016年10月21日鳥取県中部の地震(M6.6)について	地震ジャーナル(地震予知総合研究振興会)	63	14-22			3(1)ウ		
香川敬生・野口竜也・吉田昌平・山本真二	2017	2016年鳥取県中部の地震における鳥取大学の強震観測記録-鳥取県湯梨浜町高辻の記録-	京都大学防災研究所年報	60B	350-353			3(1)ウ		
野口竜也・上野太士・西川隼人・吉田昌平・香川敬生	2017	鳥取県鹿野地域の地盤構造および地盤震動特性	土木学会論文集A1	73(4)	I_894-I_906	○	10.2208/jscejseee.73.1_894	3(1)ウ		
五十嵐善哉・座波健仁・田中規夫・佐藤創・鳥田宏行	2018	クロマツ防潮林の間伐と成長段階に応じた津波減勢効果と樹木破壊割合の変化 74(2), I_229-I_234.	土木学会論文集 B2 (海岸工学)	74	I_229-I_234	○	10.2208/kaisan.74.1_229	3(1)ウ		
野口竜也・西川隼人・香川敬生・吉田昌平	2018	2016年鳥取県中部の地震における非線形地盤応答の基礎的検討	土木学会論文集A1	74(4)	I_1010-I_1016	○	10.2208/jscejseee.74.1_1010	3(1)ウ		
佐藤創	2018	今後の津波に備えた海岸防災林整備	森林科学	84	27-29	○	10.11519/jjsk.84.0_27	3(1)ウ		
吉田昌平・香川敬生・野口竜也	2018	2016年鳥取県中部の地震における臨時余震観測に基づいた広域の強震動評価	土木学会論文集A1	74(4)	I_417-428	○	10.2208/jscejseee.74.1_417	3(1)ウ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
西川隼人・野口竜也・宮島昌克・香川敬生	2019	微動H/Vの1次ピークの振動数と振幅に基づいた地盤増幅度評価式の検討	日本地震工学会論文集	19(7)	7_41-7_55	○	10.5610/jae.19.7_41	3(1)ウ		
野口竜也・西川隼人・吉田昌平・香川敬生	2019	微動および地震観測に基づく鳥取県中部域の地盤構造推定と地盤震動特性の把握	日本地震工学会論文集	19(6)	6_258-6_271	○	10.5610/jae.19.6_258	3(1)ウ		
香川敬生・星山賢太郎・野口竜也	2020	2000年鳥取県西部地震による気象庁境港観測点における非線形地盤応答特性と境港市役所における観測記録の再現	土木学会論文集A1	76(4)	1_163-1_171	○	10.2208/jscejseee.76.4_1_163	3(1)ウ		
Nishimura, I., T. Noguchi and T. Kagawa	2021	Estimation of Subsurface Structures and Ground Motion Characteristics in the area damaged in the 2016 Central Tottori Prefecture Earthquake in Japan	Int. J. GEOMATE	20(82)	15-21	○	10.21660/2021.82.6x185	3(1)ウ		
香川敬生・野口竜也	2018	2016年鳥取県中部の地震の背景と強震動	鳥取大学工学部研究報告	48	91-100			3(1)ウ	2(1)イ	
Diao, H., H. Miyake and K. Koketsu	2018	Near-fault broadband ground-motion simulations of the 2016 Meinong, Taiwan, earthquake	Bull. Seismol. Soc. Am.	108	3336-3357	○	10.1785/0120180113	3(1)ウ	3(1)ア	
松中亮治・大庭哲治・中川大・森倉遼太	2018	全国における土地利用及び土地利用規制と災害リスクとの関連性に関する経年分析	都市計画論文集	53(1)	19 - 26	○	10.11361/journalcpj.53.19	3(1)ウ	3(3)	本研究は、日本全国を対象に、地震・洪水・土砂災害と、土地利用及び土地利用規制に関する都市計画上の区分についてデータベースを構築し、災害リスクの指標である曝露人口を2時点と比較した。その結果、全国で震度5強以上に達する可能性のある人口割合が1.9%、浸水の恐れがある地域に居住する人口割合が0.4%増加している一方で、土砂災害のリスクは減少していることを定量的に示した。
西川隼人・野口竜也・西村武・宮島昌克・香川敬生	2019	2016年鳥取県中部の地震を対象とした木造建物の最大応答変形評価式の検討	土木学会論文集A1	75(4)	1_383-1_390	○	10.2208/jscejseee.75.1_383	3(1)ウ	4(2)	
HoushmandViki, A., H. Hamzehloo, H. Miyake and A. Ansari	2020	Estimation of strong motion generation area for the 2004 Parkfield earthquake using empirical Green's function method	Pure Appl. Geophys.	177	2241-2254	○	10.1007/s00024-019-02327-9	3(1)ウ	5(5)	
Tanircan, G., H. Miyake, H. Yamanaka and O. Ozel	2020	Large stress release during normal-faulting earthquakes in western Turkey supported by broadband ground motion simulations	Pure Appl. Geophys.	177	1969-1981	○	10.1007/s00024-019-02357-3	3(1)ウ	5(5)	
Tran, M. T., V. Vi, H. Miyake, K. Irikura and D. Bui	2020	Empirical Green's function simulations toward site-specific ground motion prediction in Vietnam	Pure Appl. Geophys.	177	2281-2298	○	10.1007/s00024-020-02491-3	3(1)ウ	5(5)	
Bijukchhen, B., N. Takai, M. Shigefuji, M. Ichiyonagi and T. Sasatani	2017	Strong-motion observation and damage assessment in rock and soil sites of Kathmandu, Nepal after April 25, 2015 Gorkha earthquake	Proceedings of the 16th World Conference of Earthquake Engineering		Paper No. 1581			3(1)ウ	3(1)ア	
Shigefuji, M., N. Takai, S. Bijukchhen, M. Ichiyonagi and T. Sasatani	2017	Features of long-period ground motion on the Kathmandu valley for the 2015 Gorkha Nepal earthquake sequence	Proceedings of the 16th World Conference of Earthquake Engineering		Paper No. 4566			3(1)ウ	3(1)ア	
Takai, T., M. Shigefuji, S. Bijukchhen, M. Ichiyonagi and T. Sasatani	2017	Characteristics of strong ground motion in the Kathmandu valley during the 2015 Gorkha, Nepal earthquake	Proceedings of the 16th World Conference of Earthquake Engineering		Paper No. 4590			3(1)ウ	3(1)ア	
三宅弘恵・額綱一・古村孝志・宮川幸治・田中伸一	2018	東京大学地震研究所の強震観測網と強震観測データベース	第15回日本地震工学シンポジウム論文集		3306-3311			3(1)ウ	5(3)エ	
Noguchi, T., T. Kagawa, S. Yoshida and H. Ueno	2017	Estimation of Subsurface Structure based on Microtremor and Gravity Survey in the Shikano Area, Tottori Prefecture, Japan	16th World Conference on Earthquake Engineering		#2745			3(1)ウ		
<b>エ. 地震動や火山活動による斜面崩壊の事前評価手法</b>										
Chigira, M. and K. Suzuki	2016	Prediction of earthquake-induced landslides of pyroclastic fall deposits	In: Aversa et al. (eds.) Landslides and Engineered Slopes. Experience, Theory and Practice		93-100			3(1)エ		
釜井俊孝	2016	2016年熊本地震による斜面災害	日本地震工学会誌	29	27-32			3(1)エ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Liu, X., J. Yang, G. Wang and L.Z. Chen	2016	Small-strain shear modulus of volcanic granular soil: An experimental investigation	Soil Dyn. Earthq. Eng.	86	15-24	○	10.1016/j.soildyn.2016.04.005	3(1)エ		
千木良雅弘・笠間友博・鈴木毅彦・古木宏和	2017	1923年関東地震による震生湖地すべりの地質構造とその意義	京都大学防災研究所年報	60B	417-430			3(1)エ		
Gui, S.H., G. Wang, X.J. Pei, R.Q. Huang and T. Kamai	2017	On the initiation and movement mechanisms of a catastrophic landslide triggered by the 2008 Wenchuan (Ms 8.0) earthquake in the epicenter area	Landslides	14	805-819	○	10.1007/s10346-016-0754-y	3(1)エ		
土井一生・釜井俊孝・佐藤明・王功輝・千木良雅弘・小川内良人・川島正照	2017	重力変形斜面の地震時挙動の観測 ―新しい加速度センサー・傾斜センサー体型プローブを用いて―	応用地質	58	94-101	○		3(1)エ		
Pei, X.J., X.C. Zhang, B. Guo, G. Wang and F.Y. Zhang	2017	Experimental case study of seismically induced loess liquefaction and landslide	Eng. Geol.	223	23-30	○	10.1016/j.enggeo.2017.03.016	3(1)エ		
Hu, W., P.-Y. Hicher, G. Scaringi, Q. Xu, T.W.J. van Asch and G. Wang	2018	Seismic precursor to instability induced by internal erosion in loose granular slopes	Géotechnique	68	989-1001	○	10.1680/jgeot.17.P.079	3(1)エ		
千木良雅弘・田近淳・石丸聡	2019	2018年胆振東部地震による降下火砕物の崩壊:特に火砕物の風化状況について	京都大学防災研究所年報	62B	348-356			3(1)エ		2018年北海道胆振東部地震において発生した崩壊地において地質調査をおこない、すべり面の層準を明らかにしたところ、9000年前の樽前山の噴出物から構成されるテフラ層Ta-dの最下部層、Ta-d直下の軽石混じり火山灰土、Ta-d本体直下のTa-d再堆積土、Ta-d直下の20000年前の恵庭山の噴出物から構成されるテフラ層En-aの再堆積土、En-a直下の火山灰土に分かれることがわかった。
Doi, I., T. Kamai, R. Azuma and G. Wang	2019	A landslide induced by the 2016 Kumamoto Earthquake adjacent to tectonic displacement - Generation mechanism and long-term monitoring	Eng. Geol.	248	80-88	○	10.1016/j.enggeo.2018.11.012	3(1)エ		
釜井俊孝	2019	宅地崩壊-なぜ都市で土砂災害が起こるのか	NHK出版新書			○		3(1)エ		
Ma N., G. Wang, T. Kamai, I. Doi and M. Chigira	2019	Amplification of seismic response of a large deep-seated landslide in Tokushima, Japan	Eng. Geol.	249	218-234	○	10.1016/j.enggeo.2019.01.002	3(1)エ		
Riaz, S., G. Wang, M. Basharat and K. Takara	2019	Experimental investigation of a catastrophic landslide in Northern Pakistan	Landslides	16	2017-2032	○	10.1007/s10346-019-01216-5	3(1)エ		
王功輝・古谷元・渡部直喜・土井一生・馬章	2019	平成30年北海道胆振東部地震による土砂災害の特徴	京都大学防災研究所年報	62A	48-56			3(1)エ		
Doi, I., S. Matsuura, H. Osawa, T. Shibasaki and S. Tosa	2020	Effects of Coastal Erosion on Landslide Activity Revealed by Multi-sensor Observations	Earth Surf. Process. Landf.	45	2291-2299	○	10.1002/esp.4880	3(1)エ		
Doi, I. and T. Kamai	2020	Relationship between earthquake-induced excess pore water pressure and strong ground motion observed in a monitored fill slope	Eng. Geol.	266		○	10.1016/j.enggeo.2019.105391	3(1)エ		PGAが120 gal までのイベントに対し、谷埋め盛土斜面における地震動に対する間隙水圧応答について調べた。間隙水圧の上昇量はPGAやPGV と強い相関があり、また、間隙水圧上昇のタイミングにおける瞬間的な揺れの強さが間隙水圧の上昇の有無を決めていることがわかった。さらに、間隙水圧の上昇時間は比較的強い揺れが続く継続時間に由来することが示された。
釜井俊孝	2020	宅地の防災学：都市と斜面の近現代	京都大学学術出版					3(1)エ		
Wang, G., F.Y. Zhang, G. Furuya, K. Hayashi, W. Hu, M.J. McSaveney and R.Q. Huang	2021	The debris avalanche in Donghekou area triggered by the 2008 Wenchuan (M8.0) earthquake: features and possible transportation mechanisms	Eng. Geol.	280		○	10.1016/j.enggeo.2020.105922	3(1)エ		
秋山祐也・佐藤源之	2019	MIMOレーダのアジマス分解能評価. 信学技報	電子情報通信学会技術研究報告	119(121)	79-84			3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	
秋山祐也・佐藤源之	2019	MIMOレーダを用いた干渉SARによる表面変位測定	電子情報通信学会技術研究報告	119(55)	23-28			3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
佐藤源之・郷立龍・ジョバンニ ニコ・菊田和孝	2019	GB-SAR(地表設置型合成開口レーダ)による変位・振動計測	電子情報通信学会B論文誌	J-102B(11)	844-852	○		3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	本論文では地表設置型合成開口レーダ(GB-SAR)の開発経緯と技術的な特徴を説明した上で、高精度な計測に必要な大気補正手法について述べ、高度な地表面情報を得るための偏波利用、多周波計測などを提案している。また現状のGB-SAR装置は送受信機をレール上で移動してデータを取得するのに対し、固定した複数のアンテナを利用するMIMOレーダ技術で耐環境性に優れた次世代型GB-SARが実現できることを示した。なお本論文は2020年度電子情報通信学会論文賞を受賞した。
Valentine, D. C. and M. Sato	2019	Integration of GB-SAR and Spatial Data Processing for Real-Time Landslide Monitoring	IEICE Technical Report	119(121)	73-78			3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	
Izumi, Y., L. Zou, K. Kikuta and M. Sato	2020	Iterative Atmospheric Phase Screen Compensation for Near-Real-Time Ground-Based InSAR Measurements Over a Mountainous Slope	IEEE Trans. Geosci. Remote Sens.	58(8)	5955-5968	○	10.1109/7GRS.2020.2973533	3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	
Izumi, Y., G. Nico and M. Sato	2021	Time-Series Clustering Methodology for Estimating Atmospheric Phase Screen in Ground-Based InSAR Data	IEEE Trans. Geosci. Remote Sens.	(Early Access)		○	10.1109/7GRS.2021.3072037	3(1)エ	5(2)オ, 5(3)イ, 5(5)	
Chigira, M., T. Sato, Y. Matsushi and T. Suzuki	2018	Landslides induced by the 2016 Kumamoto earthquake and its application to future earthquake-induced landslides	Proceedings for The 5th International symposium on Mega earthquake induced geo-disasters and long term effects		7-8			3(1)エ		
Wang, G., G. Furuya, F.Y. Zhang, I. Doi, N. Watanabe, A. Wakai and H. Marui	2016	Layered internal structure and breaching risk assessment of Higashi-Takezawa landslide dam in Niigata, Japan	Geomorphology	267	48-58	○	10.1016/j.geomorph.2016.05.021	3(1)エ		

### オ. 火山噴出物による災害誘因の事前評価手法

平川泰之・岡野和行・植野利康・堤大三・宮田秀介・里深好文	2018	雲仙岳の噴火後20年を経過した火砕流堆積斜面における土石流発生場の地形・地質特性	砂防学会誌	71(3)	12-20	○	10.11475/sabo.71.3.12	3(1)オ		
平川泰之・岡野和行・植野利康・里深好文・堤大三・宮田秀介	2019	噴火後20年を経過した雲仙普賢岳の火砕流堆積斜面における土石流発生を助長する地形・地質的条件	砂防学会誌	72(1)	21-31	○	10.11475/sabo.72.1.21	3(1)オ		
Hürlimann, M., V. Coviello, C. Bel, X. Guo, M. Berti, C. Graf, J. Hübl, S. Miyata, J.B. Smith and H.-Y. Yin	2019	Debris-flow monitoring and warning: review and examples	Earth-Sci. Rev.	199	Article 102981	○	10.1016/j.earscirev.2019.10.2981	3(1)オ		
Iguchi, M.	2019	Proposal of Estimation Method for Debris Flow Potential Considering Eruptive Activity	J. Disaster Res.	14	126-134	○	10.20965/jdr.2019.p0126	3(1)オ		
厚井高志・権田豊	2021	溶岩流による火山災害とその対策の方向性：キラウエア2018年噴火時の溶岩流出実態とその対応を踏まえて	砂防学会誌	73(6)	27-38	○		3(1)オ		
権田豊・野瀬田和明・宮田秀介・藤田正治・堤大三・Akhyar Mushthofa・Santosa Sandy	2018	1984年インドネシア・メラビ火山噴火後の出水発生基準雨量の検討	平成30年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		755-756			3(1)オ		
権田豊・厚井高志・丹羽俊一・櫻野誠・山本望・吉本充宏・藤田英輔・藤平大・新堀賢志・金野誠	2020	アメリカ・ハワイ州における溶岩流対策に係る土砂管理手法の運用実態等に関する調査	令和2年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		621-622			3(1)オ		
小林正直・藤田正治・竹林洋史・宮田秀介・山野井一輝・坂井紀之	2020	昭和37年焼岳噴火後の足洗谷における土石流の発生	令和2年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		167-168			3(1)オ		
小林正直・藤田正治・竹林洋史・宮田秀介・山野井一輝・坂井紀之	2021	焼岳噴火後の足洗谷における土石流発生時の長期的変化	令和3年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		637-638			3(1)オ		

### (2) 地震・火山噴火の災害誘因の即時予測手法の高度化

#### ア. 地震動の即時予測手法

Ogiso, M., S. Aoki and M. Hoshiba	2016	Real-time seismic intensity prediction using frequency-dependent site amplification factors	Earth Planet. Space	68:83		○	10.1186/s40623-016-0467-4	3(2)ア		
Kodera, Y., Y. Yamada, K. Hirano, K. Tamaribuchi, S. Adachi, N. Hayashimoto, M. Morimoto, M. Nakamura and M. Hoshiba	2018	The Propagation of Local Undamped Motion (PLUM) method: a simple and robust seismic wavefield estimation approach for earthquake early warning	Bull. Seismol. Soc. Am.	108(2)		○	10.1785/0120170085	3(2)ア		
Kodera, Y.	2018	Real-time Detection of Rupture Development: Earthquake Early Warning Using P Waves from Growing Ruptures	Geophys. Res. Lett.	45	156-165	○	10.1002/2017GL076118	3(2)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Cochran, E., J. Bunn, S. Minson, A. Baltay, D. Kilb, Y. Kodera and M. Hoshiba	2019	Event Detection Performance of the PLUM Earthquake Early Warning Algorithm in Southern California	Bull. Seismol. Soc. Am.	109(4)	1524-1541	○	10.1785/0120180326	3(2)ア		
香川敬生	2019	自治体震度計ネットワークを用いたリアルタイム震度評価の試み-鳥取県の事例-	土木学会論文集A1	75(4)	1_674-1_677	○	10.2208/jseejsee.75_1_674	3(2)ア		鳥取県管理の計測震度計から1秒バケットで発信されるリアルタイム震度を用いて、PLUM法を改良したデータ同化手法により県内1kmメッシュの震度分布をリアルタイムに把握するシステムを構築した。
Kame, N. and M. Kimura	2019	The fundamental nature of a transient elastic response to prompt gravity perturbations	Geophys. J. Int.	218	1136-1142	○	10.1093/gji/ggz196	3(2)ア		
木村将也・亀伸樹	2019	表現定理とグリーン関数(3)——全無限グリーン関数の2階微分を用いた点震源が引き起こす歪み・応力・密度擾動場の表現	地震2	71	153-160	○	10.4294/zisin.2017-20	3(2)ア		
Kodera, Y.	2019	An Earthquake Early Warning Method Based on Huygens Principle: Robust Ground Motion Prediction Using Various Localized Distance - Attenuation Models	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	12981-12996	○	10.1029/2019JB017862	3(2)ア		
Ogiso, M.	2019	A method for mapping intrinsic attenuation factors and scattering coefficients of S waves in 3-D space and its application in southwestern Japan	Geophys. J. Int.	216(2)	948-957	○	10.1093/gji/ggy468	3(2)ア		
Hoshiba, M.	2020	Too-late warnings by estimating Mw: Earthquake early warning in the near-fault region	Bull. Seismol. Soc. Am.	110(3)	1276-1288	○	10.1785/0120190306	3(2)ア		
亀伸樹	2020	地震発生を重力でとらえる—P波到着前の地震シグナル検知—	地震ジャーナル	69	55-58			3(2)ア		
Kodera, Y., N. Hayashimoto, K. Moriwaki, K. Noguchi, J. Saito, J. Akutagawa, S. Adachi, M. Morimoto, K. Okamoto, S. Honda and M. Hoshiba	2020	First-Year Performance of a Nationwide Earthquake Early Warning System Using a Wavefield-Based Ground-Motion Prediction Algorithm in Japan	Seismol. Res. Lett.	91(2A)	826-834	○	10.1785/0220190263	3(2)ア		
Weier, M.-A., Y. Kodera, M. Bose, A. Chung, M. Hoshiba, E. Cochran, S. Minson, E. Hauksson and T. Heaton	2020	How often can Earthquake Early Warning systems alert sites with high-intensity ground motion?	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125(2)	e2019JB017718	○	10.1029/2019JB017718	3(2)ア		
Minson, S., J. Saunders, J. Bunn, E. Cochran, A. Baltay, D. Kilb, M. Hoshiba and Y. Kodera	2020	Real-Time Performance of the PLUM Earthquake Early Warning Method during the 2019 M6.4 and 7.1 Ridgecrest, California, Earthquakes	Bull. Seismol. Soc. Am.	110(4)	1887-1903	○	10.1785/0120200021	3(2)ア		
Kame, N.	2021	Pre-p gravity signals from dynamic earthquake rupture: modelling and observations	Phil. Trans. A	379	1-13	○	10.1098/rsta.20200136	3(2)ア		
Kilb, D., J. Bunn, J. Saunders, E. Cochran, S. Minson, A. Baltay, C. O'Rourke, M. Hoshiba and Y. Kodera	2021	The PLUM earthquake early warning algorithm: A case study of west coast, USA, data	J. Geophys. Res.: Solid Earth	(in press)		○	10.1029/2020JB021053	3(2)ア		
Kodera, Y., N. Hayashimoto, K. Tamaribuchi, K. Noguchi, K. Moriwaki, R. Takahashi, M. Morimoto, K. Okamoto and M. Hoshiba	submitted	Developments of the nationwide earthquake early warning system in Japan after the 2011 Mw9.0 Tohoku-Oki earthquake	Front. Earth Sci.			○		3(2)ア		
Dhakal, Y.P., T. Kunugi, W. Suzuki, T. Kimura, N. Morikawa and S. Aoi	2021	Strong motions on land and ocean bottom: Comparison of horizontal PGA, PGV, and 5% damped acceleration response spectra in Northeast Japan and the Japan Trench area	Bull. Seismol. Soc. Am.			○	10.1785/0120200368	3(2)ア	1(3)ア	S-netの観測記録に基づき、十勝沖・三陸沖の日本海溝近傍で発生する低周波微動を捉えた。低周波微動は、当該地域で発生した巨大地震の震源域浅部側に隣接して分布すること、プレートの走向に沿う帯状の領域内で2つのクラスタを形成すること、このクラスタ間は巨大地震の破壊開始域や余震活動が分布することを明らかにした。
Kimura, M., N. Kame, S. Watada, M. Ohtani, A. Araya, Y. Imanishi, M. Ando and T. Kunugi	2019	Earthquake-induced prompt gravity signals identified in dense array data in Japan	Earth Planet. Space	71	27	○	10.1186/s40623-019-1006-x	3(2)ア	1(4)ア, 5(3)イ	
Ogiso, M., M. Hoshiba, A. Shito and S. Matsumoto	2018	Numerical Shake Prediction for Earthquake Early Warning Incorporating Heterogeneous Attenuation Structure: The Case of the 2016 Kumamoto Earthquake	Bull. Seismol. Soc. Am.	108(6)	3457-3468	○	10.1785/0120180063	3(2)ア	1(5)イ	
Oba, A., T. Furumura and T. Maeda	2020	Data-assimilation-based early forecasting of long-period ground motions for large earthquakes along the Nankai Trough	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2019JB019047	3(2)ア	3(1)ウ	
Furumura, T. and T. Maeda	2021	High-resolution source imaging based on time-reversal wave propagation simulations using assimilated dense seismic records	Geophys. J. Int.	225		○	10.1093/gji/ggaa586	3(2)ア	3(2)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kagawa, T. and Y. Ohta	2020	Prior and Real-Time Estimations of Ground Motions, Tsunamis, and Other Geodynamic Hazards	J. Disaster Res.	15(2)	144-151	○	10.20965/jdr.2020.p0144	3(2)ア	3(2)イ、3(1)ウ	前建議による事前予測・即時予測部会の清家について網羅的に取りまとめた。
Kimura, H., T. Kimura, Y. Asano, T. Kurugi and S. Aoi	2020	An improved rapid-source parameter determination system (AQUA) for giant earthquakes	IEEE Syst. J.	14	3451-3462	○	10.1109/JST.2020.2983430	3(2)ア	5(2)ア、5(3)ア	3次元構造を用いて、南海トラフ海域における浅部超低周波地震のCMT解を求めた結果、その多くは低角逆断層型であること、フィリピン海プレート上面のすべり欠損速度が大きい領域の周囲、かつ地震波速度が遅い領域で活発に発生していることが明らかとなった。
Kodera, Y., J. Saitou, N. Hayashimoto, S. Adachi, M. Morimoto, Y. Nishimae and M. Hoshiba	2016	Earthquake Early Warning for the 2016 Kumamoto Earthquake: Performance Evaluation of the Current System and the Next-Generation Methods of the Japan Meteorological Agency	Earth Planet. Space	68:202		○	10.1186/s40623-016-0567-1	3(2)ア	5(3)イ	
干場充之	2017	海底地震計を用いたモデル計算：地震動即時予測 - "揺れの数値予報"の適用例-	地震予知連絡会会報	98	516-518			3(2)ア	5(3)イ	
<b>イ. 津波の即時予測手法</b>										
Minami, T., H. Toh, H. Ichihara and I. Kawashima	2017	Three-dimensional time domain simulation of tsunami-generated electromagnetic fields: Application to the 2011 Tohoku earthquake tsunami.	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	9559-9579	○	10.1002/2017JB014839	3(2)イ		
Heidarzadeh, M., Y. Wang, K. Satake & I. E. Mulia	2019	Potential deployment of offshore bottom pressure gauges and adoption of data assimilation for tsunami warning system in the western Mediterranean Sea	Geosci. Lett.	6	19	○	10.1186/s40562-019-0149-8	3(2)イ		
Nakata, K., Y. Hayashi, H. Tsushima, K. Fujita, Y. Yoshida and A. Katsumata	2019	Performance of uniform and heterogeneous slip distributions for the modeling of the November 2016 off Fukushima earthquake and tsunami, Japan	Earth Planet. Space	71:30		○	10.1186/s40623-019-1010-1	3(2)イ		
Wang, Y., K. Satake, O. Sandanbata, T. Maeda and H.-Y. Su	2019	tsunami data assimilation of cabled ocean bottom pressure records for the 2015 Torishima volcanic tsunami earthquake	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	10413-10422	○	10.1029/2019JB018056	3(2)イ		
Nakata, K., A. Katsumata and A. Muhari	2020	Submarine landslide source models consistent with multiple tsunami records of the 2018 Palu tsunami, Sulawesi, Indonesia	Earth Planet. Space	72	44	○	10.1186/s40623-020-01169-3	3(2)イ		
Wang, Y., M. Heidarzadeh, K. Satake, I. E. Mulia and M. Yamada	2020	A Tsunami Warning System Based on Offshore Bottom Pressure Gauges and Data Assimilation for Crete Island in the Eastern Mediterranean Basin	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	e2020JB020293	○	10.1029/2020JB020293	3(2)イ		
Wang, Y., K. Satake, T. Maeda, M. Shinohara and S. Sakai	2020	A Method of Real-Time Tsunami Detection Using Ensemble Empirical Mode Decomposition	Seismol. Res. Lett.	91	2851-2861	○	10.1785/0220200115	3(2)イ		
Katsumata, A., M. Tanaka and T. Nishimiya	2021	Rapid estimation of tsunami earthquake magnitudes at local distance	Earth Planet. Space	73	72	○	10.1186/s40623-021-01391-7	3(2)イ		
Wang, Y. and K. Satake	2021	Real-Time Tsunami Data Assimilation of S-Net Pressure Gauge Records during the 2016 Fukushima Earthquake	Seismol. Res. Lett.	92	2145-2155	○	10.1785/0220200447	3(2)イ		
Gusman, A.R., A.F. Sheehan, K. Satake, M. Heidarzadeh, I.E. Mulia, and T. Maeda	2016	Tsunami data assimilation of Cascadia seafloor pressure gauge records from the 2012 Haida Gwaii earthquake	Geophys. Res. Lett.	43		○	10.1002/2016GL068368	3(2)イ	1(3)ア	
Tanioka, Y., G.J.A. Miranda, A.R. Gusman and Y. Fujii	2017	Method to Determine Appropriate Source Models of Large Earthquakes Including Tsunami Earthquakes for Tsunami Early Warning in Central America	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-017-1630-y	3(2)イ	1(3)ア	1992年ニカラガ津波地震のような津波地震の発生が知られる中米アメリカの沈み込み帯沿いでは津波即時予測の高度化が急がれている。本研究では、日本のS-netのような高密度観測網がない地域でも、津波地震（地震動に比べて異常に大きな津波を発生させる地震）の津波を即時予測する手法を開発した。剛性率の深さ依存性を考慮しすべり量を調整することで津波の予測を可能とした。
Ohno, K., Y. Ohta, S. Kawamoto, S. Abe, R. Hino, S. Koshimura, A. Musa and H. Kobayashi	2021	Real-time automatic uncertainty estimation of coseismic single rectangular fault model using GNSS data	Earth Planet. Space	73	127	○	10.1186/s40623-021-01425-0	3(2)イ	1(5)ア	MCMC法を用いて断層モデルの推定不確実性をリアルタイムで推定する手法を提示した。同手法を用いることにより、一枚矩形断層の未知パラメータや地震規模の誤差を定量的に推定することが可能となった。同手法は国土地理院のリアルタイムGNSS解析システムREGARDへの技術移転が完了しており、2021年6月現在、同システムにおいて試験運用が実施されている。将来的に実際の地殻変動監視に活用することが期待され、その重要性はきわめて高い。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Furumura, T., T. Maeda and A. Oba	2019	Early Forecast of Long-Period Ground Motions via Data Assimilation of Observed Ground Motions and Wave Propagation Simulations	Geophys. Res. Lett.	46	138-147	○	10.1029/2018GL081163	3(2)イ	3(1)ウ	
Makinoshima, F., Y. Oishi, T. Yamazaki, T. Furumura and F. Imamura	2021	Early forecasting of tsunami inundation from tsunami and geodetic observation data with convolutional neural networks	Nat. Commun.	12		○	10.1038/s41467-021-22348	3(2)イ	3(1)ウ	
Heidarzadeh, M., O. Necmioglu, T. Ishibe and A.C. Yalciner	2017	Bodrum-Kos (Turkey-Greece) Mw 6.6 earthquake and tsunami of 20 July 2017: a test for the Mediterranean tsunami warning system	Geosci. Lett.	4	31	○	10.1186/s40562-017-0097-0	3(2)イ	3(3)	
Katsumata, A., Y. Hayashi, K. Miyaoka, H. Tsushima, T. Baba, P. A. Catalan, C. Zelaya, F. R. Vasquez, R. Sanchez-Olavarría and S. Barrientos	2017	Stand-alone tsunami alarm equipment	Nat. Hazards Earth Syst. Sci.	17	685-692	○	10.5194/nhess-17-685-2017	3(2)イ	3(3)	
Kubota, T., T. Saito, Y. Ito, Y. Kaneko, L. M. Wallace, S. Suzuki, R. Hino and S. Henrys	2018	Using Tsunami Waves Reflected at the Coast to Improve Offshore Earthquake Source Parameters: Application to the 2016 Mw 7.1 Te Araroa Earthquake, New Zealand	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	8767-8779	○	10.1029/2018JB015832	3(2)イ	5(5)	
ウ. 火山噴出物による災害誘因の即時予測手法										
Tanaka, H. and M. Iguchi	2016	Numerical Simulation of Volcanic Ash Plume Dispersal from Kuchinoerabujima on 29 May 2015	J. Nat. Disaster Sci.	37	79-90	○		3(2)ウ		
Poulidis, P.A., T. Takemi, M. Iguchi and A.I. Renfrew	2017	Orographic effects on the transport and deposition of volcanic ash: A case study of Mt. Sakurajima, Japan	J. Geophys. Res.: Atmospheres	122	9332-9350	○	10.1002/2017JD026595	3(2)ウ		
Syarifuddin, M., S. Oishi, D. Legono, R. I. Hapsari and M. Iguchi	2017	Integrating X-MP radar data to estimate rainfall induced debris flow in the Merapi volcanic area	Adv. Water Resour.	110	249-262	○	10.1016/j.adwatres.2017.10.017	3(2)ウ		
中道治久・井口正人・下村誠・竹中悠亮	2018	南九州の火山における小型Xバンド偏波レーダーの展開と噴火観測事例	京都大学防災研究所年報	61B	337-343			3(2)ウ		
Poulidis, P.A., T. Takemi, A. Shimizu, M. Iguchi and F.S. Jenkins	2018	Statistical analysis of dispersal and deposition patterns of volcanic emissions from Mt. Sakurajima, Japan	Atmospheric Environment	179	305-320	○	10.1016/j.atmosenv.2018.02.021	3(2)ウ		
Shimura, T., M. Inoue, H. Tsujimoto, K. Sasaki and M. Iguchi	2018	Estimation of wind vector profile using a hexa-rotor unmanned aerial vehicle and its application to meteorological observation up to 1000 m above surface	J. Atmos. Ocean. Technol.	35	1621-1631	○	0.1175/JTECH-D-17-0186.1	3(2)ウ		
Syarifuddin, M., S. Oishi, H. Nakamichi and M. Iguchi	2018	Spatiotemporal distribution of rainfall in mount Sakurajima based on weather radar	Annual journal of Hydraulic Engineering, JSCE	74	187-192	○	10.2208/jscjhe.74.5.187	3(2)ウ		
Hapsari, R.I., M. Iida, M. Muranishi, M. Ogawa, M. Syarifuddin, M. Iguchi and S. Oishi	2019	Ground Observation of Tephra Particles: On the Use of Weather Radar for Estimating Volcanic Ash Distribution	J. Disaster Res.	14	151-159	○	10.20965/jdr.2019.p0151	3(2)ウ		
真木雅之・鈴木郁子・井口正人・Shakti P.C.	2019	気象レーダーによる降灰量推定-2013年8月18日桜島噴火のZ-RA関係式-	火山	64	219-241	○	10.18940/kazan.64.4.219	3(2)ウ		
Poulidis, A., T. Takemi and M. Iguchi	2019	Experimental High-Resolution Forecasting of Volcanic Ash Hazard at Sakurajima, Japan	J. Disaster Res.	14	786-797	○	10.20965/jdr.2019.p0786	3(2)ウ		
Poulidis, A.P., T. Takemi and M. Iguchi	2019	The effect of wind and atmospheric stability on the morphology of volcanic plumes from Vulcanian eruptions	J. Geophys. Res.: Solid Earth	124	8013-8029	○	10.1029/2018JB016958	3(2)ウ		
園田忠臣・井口正人・竹中悠亮・瀧下恒星	2019	ディストロメータを用いた降下火山灰連続観測点の整備	京都大学防災研究所技術室報告		20			3(2)ウ		
Suh, S., M. Maki, M. Iguchi, D. Lee, A. Yamaji and T. Mototani	2019	Free-fall experiments of volcanic ash particles using a 2-D video disdrometer	Atmos. Meas. Tech.	12	5363-5379	○	10.5194/amt-12-5363-2019	3(2)ウ		
Syarifuddin, M., S. Oishi, R.I. Hapsari, J. Shiokawa, H.G. Mawandha and M. Iguchi	2019	Estimating the Volcanic Ash Fall Rate from the Mount Sinabung Eruption on February 19, 2018 Using Weather Radar	J. Disaster Res.	14	135-150	○	10.20965/jdr.2019.p0135	3(2)ウ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Tanaka, H.L. and M. Iguchi	2019	Numerical Simulations of Volcanic Ash Plume Dispersal for Sakurajima Using Real-Time Emission Rate Estimation	J. Disaster Res.	14	160-172	○	10.20965/jdr.2019.p0160	3(2)ウ		
真木雅之・小堀壮彦・西隆昭・藤吉康志・徳島秀彦・佐藤英一・井口正人・為栗健	2020	船舶レーダによる桜島火山の噴煙柱モニタリング-2018年の観測結果-	京都大学防災研究所年報	63B	136-148			3(2)ウ		
丸山敬・劉美智・佐々木寛介・井上実・井口正人・藤田英輔・西村宏昭	2020	噴石模型を用いた噴石の落下性状の観測	京都大学防災研究所年報	63B	182-189			3(2)ウ		
Poulidis, A.P. and M. Iguchi	2020	Model sensitivities in the case of high-resolution Eulerian simulations of local tephra transport and deposition	Atmospheric Research	247	105136	○	10.1016/j.atmosres.2020.105136	3(2)ウ		
佐々木寛介・志村智也・井口正人・井上実	2020	ドローンによる上空の風観測手法の検討	京都大学防災研究所年報	63B	282-290			3(2)ウ		
Syarifuddin, M., R.I. Hapsari, D. Legono, S. Oishi, H.G. Mawanda, N. Aisyah, M. Shimomura, H. Nakamichi and M. Iguchi	2020	Monitoring the rainfall intensity at two active volcanoes in Indonesia and Japan by small-compact X-band radars	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	437	012040	○	10.1088/1755-1315/437/1/012040	3(2)ウ		
Syarifuddin, M., S. Oishi, H. Nakamichi, M. Maki, R.I. Hapsari, H.G. Mawanda, N. Aisyah, A. Basuki, A. Loeqman, M. Shimomura and M. Iguchi	2020	A real-time tephra fallout rate model by a small-compact X-band Multi-Parameter radar	J. Volcanol. Geotherm. Res.	405	107040	○	10.1016/j.jvolgeores.2020.107040	3(2)ウ		
Tanaka, H., H. Nakamichi and M. Iguchi	2020	PUFF model prediction of volcanic ash plume dispersal for Sakurajima using MP radar observation	J. Volcanol. Geotherm. Res.	11	1240	○	10.3390/atmos11111240	3(2)ウ		
Liu, M., T. Maruyama, K. Sasaki, M. Inoue, M. Iguchi and E. Fujita	2021	Measurement of Aerodynamic Characteristics Using Cinder Models through Free Fall Experiment	Atmosphere	12	608	○	10.3390/atmos12050608	3(2)ウ		
Maki, M., R. Takaoka and M. Iguchi	2021	Characteristics of particle size distributions of falling volcanic ash measured with optical disdrometers at Sakurajima volcano, Japan	Atmosphere	12	601	○	10.3390/atmos12050601	3(2)ウ		
Maki, M., Y. Kim, T. Kobori, K. Hirano, D. Lee and M. Iguchi	2021	Analyses of three-dimensional weather radar data from volcanic eruption clouds	J. Volcanol. Geotherm. Res.	412	107178	○	10.1016/j.jvolgeores.2021.107178	3(2)ウ		
Poulidis, A.P., A. Shimizu, H. Nakamichi and M. Iguchi	2021	A computational methodology for the calibration of tephra transport nowcasting at Sakurajima volcano, Japan	Atmosphere	12	104	○	10.3390/atmos12010104	3(2)ウ		
Poulidis, A.P., S. Biass, G. Bagheri, T. Takemi and M. Iguchi	2021	Atmospheric vertical velocity - a crucial component in understanding proximal deposition of volcanic ash	Earth Planet. Sci. Lett.	566	116980	○	10.1016/j.epsl.2021.116980	3(2)ウ		
Sasaki, K., M. Inoue, T. Shimura and M. Iguchi	2021	In situ, rotor-based drone measurement of wind vector and aerosol concentration in volcanic areas	Atmosphere	12	376	○	10.3390/atmos12030376	3(2)ウ		
Shimizu, A., M. Iguchi and H. Nakamichi	2021	Seasonal variations of volcanic ash and aerosol emissions around Sakurajima detected by two lidars	Atmosphere	12	326	○	10.3390/atmos12030326	3(2)ウ		
Takemi, T., A.P. Poulidis and M. Iguchi	2021	High-resolution modeling of airflows and particle deposition over complex terrain at Sakurajima volcano	Atmosphere	12	325	○	10.3390/atmos12030325	3(2)ウ		
Takishita, K., A.P. Poulidis and M. Iguchi	2021	Tephra4D: A Python-based model for high-resolution tephra transport and deposition simulations - Applications at Sakurajima volcano, Japan	Atmosphere	12	331	○	10.3390/atmos12030331	3(2)ウ		
Miwa, T., N. Geshi, J. Itoh, T. Tanada and M. Iguchi	2021	Automatic onsite imaging of volcanic ash particles with VOLCAT: Towards quasi-real-time eruption style monitoring	J. Volcanol. Geotherm. Res.	416	107267	○	10.1016/j.jvolgeores.2021.107267	3(2)ウ	1(4)ア	
Suzuki, Y. and M. Iguchi	2019	Determination of the mass eruption rate for the 2014 Mount Kelud eruption using three-dimensional numerical simulations of volcanic plumes	J. Volcanol. Geotherm. Res.	382	42-49	○	10.1016/j.jvolgeores.2017.06.011	3(2)ウ	1(4)ア, 1(4)イ	
田島靖久・中田節也・長井雅史・前野深・渡邊篤志	2019	霧島火山群。えびの高原硫黄山の2018年4月の小噴火	火山	64	147-151	○		3(2)ウ	1(4)ア, 1(4)イ, 2(5)	
Iguchi, M., H. Nakamichi, H. Tanaka, Y. Ohta, A. Shimizu and D. Miki	2019	Integrated Monitoring of Volcanic Ash and Forecasting at Sakurajima Volcano	J. Disaster Res.	14	798-809	○	10.20965/jdr.2019.p0798	3(2)ウ	2(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Iguchi, M., S. Nakada and K. Miyamoto	2019	Special Issue on Integrated Study on Mitigation of Multimodal Disasters Caused by Ejection of Volcanic Products: Part 2	J. Disaster Res.	14	5	○	10.20965/jdr.2019.p0005	3(2)ウ	2(5)	
井口正入・中道治久	2019	桜島の大規模噴火を考える	自然災害科学	131	279	○		3(2)ウ	2(5)	
Iguchi, M., H. Nakamichi and T. Tameguri	2020	Integrated study on forecasting volcanic hazards of Sakurajima volcano, Japan	J. Disaster Res.	15	174-186	○	10.20965/jdr.2020.p0174	3(2)ウ	2(5)	
Tajima, Y., S. Nakada, F. Maeno, T. Huruzono, M. Takahashi, A. Inamura, T. Matsushima, M. Nagai and J. Funasaki	2020	Shallow magmatic hydrothermal eruption in April 2018 on Ebinokogen Ioyama Volcano in Kirishima Volcano Group, Kyushu, Japan	Geosciences	10	183	○	10.3390/geosciences10050183	3(2)ウ	2(5)	
石川新・竹林洋史・藤田正治	2018	2016年4月熊本地震時に発生した山王谷川の土石流の流動特性	土木学会論文集B1(水工学)	74(5)	I_1093-I_1098	○	10.2208/jscejhe.74.5_I_1093	3(2)ウ	3(1)オ	
Fujita, M. K. Yamanoi, S. Miyata, A. Hairani and D. Legono	2019	Temporal Changes in Runoff Characteristics of Lahars after the 1984 Eruption of Mt. Merapi, Indonesia	J. Disaster Res.	14(1)	61-68	○	10.20965/jdr.2019.p0061	3(2)ウ	3(1)オ	
石川新・竹林洋史・藤田正治	2019	北海道胆振東部地震によって発生した泥流の流動特性	土木学会論文集B1(水工学)	75(5)	I_865-I_870	○	10.2208/jscejhe.75.2_I_865	3(2)ウ	3(1)オ	
山口翔大・宮田秀介・堤大三・村重慧輝・藤田正治	2019	数値解析による積雪条件の異なる融雪型火山泥流予測	砂防学会誌	71(6)	3-13	○	10.11475/sabo.71.6_3	3(2)ウ	3(1)オ	
福井敬一	2016	西之島の噴煙活動(2013年12月~2015年2月)	火山噴火予知連絡会会報	120	127-129			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・新堀敏基・福井敬一・石井憲介・高木朗充	2016	気象レーダーで観測された2014年9月27日御嶽山噴火に伴う噴煙エコー	火山噴火予知連絡会会報	119	76-81			3(2)ウ	3(3)	
新堀敏基	2017	風の影響を受ける火山灰・火山礫	日本風工学会誌	42	261-272		10.5359/jawe.42.261	3(2)ウ	3(3)	
高木朗充・長岡優・福井敬一・安藤忍・木村一洋・土山博昭	2017	2013-2015年西之島噴火のモニタリングに関する研究	気象研究所技術報告	78	72 pp		10.11483/mriTechrepo.78	3(2)ウ	3(3)	
Ishii, K., Y. Hayashi and T. Shimbori	2018	Using Himawari-8, estimation of SO2 cloud altitude at Aso volcano eruption, on October 8, 2016	Earth Planet. Space	70	19	○	10.1186/s40623-018-0793-9	3(2)ウ	3(3)	
石井憲介・新堀敏基・佐藤英一・徳本哲男・林勇太	2018	2016年10月8日阿蘇山噴火で放出された二酸化硫黄の静止気象衛星ひまわり8号による観測結果	火山噴火予知連絡会会報	126	181-182			3(2)ウ	3(3)	
石井憲介・新堀敏基・佐藤英一・徳本哲男	2018	2017年10月10日から17日にかけての新燃岳の気象衛星ひまわり8号による観測結果	火山噴火予知連絡会会報	128	324-326			3(2)ウ	3(3)	
Sato, E., K. Fukui and T. Shimbori	2018	Aso volcano eruption on October 8, 2016, observed by weather radars	Earth Planet. Space	70	105	○	10.1186/s40623-018-0879-4	3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・新堀敏基・福井敬一・石井憲介・徳本哲男	2018	気象レーダーで観測された2016年10月8日阿蘇山噴火に伴う噴煙エコー	火山噴火予知連絡会会報	126	175-180			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・福井敬一・新堀敏基・石井憲介・徳本哲男	2018	気象レーダーで観測された2017年10月霧島山(新燃岳)噴火に伴う噴煙エコー	火山噴火予知連絡会会報	128	316-319			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・新堀敏基・福井敬一・石井憲介・徳本哲男	2018	気象レーダーで観測された2018年1月23日草津白根山噴火に伴う噴煙エコー	火山噴火予知連絡会会報	129	78-82			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・福井敬一・新堀敏基・石井憲介・徳本哲男	2018	気象レーダーで観測した2018年3月から5月にかけての霧島山(新燃岳)噴火に伴う噴煙エコー	火山噴火予知連絡会会報	130	292-298			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一	2018	Kuバンド高速スキャンレーダーによる降水コアの観測と気象レーダーを用いた火山噴煙の観測計画について	気象研究ノート	237	246-251			3(2)ウ	3(3)	
新堀敏基・石井憲介・佐藤英一・徳本哲男・森健彦・林洋介・吉田知央・松田康平	2018	2017年10月霧島山(新燃岳)噴火に伴う降灰予測	火山噴火予知連絡会会報	128	320-323			3(2)ウ	3(3)	
佐藤英一・福井敬一・新堀敏基・石井憲介・徳本哲男	2019	気象レーダーで観測した2019年1月17日口永良部島噴火に伴う噴煙・火山灰雲エコーについて	火山噴火予知連絡会会報	132	420-426			3(2)ウ	3(3)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Sato, E.	2021	Kusatsu-Shirane volcano eruption on January 23, 2018, observed using JMA operational weather radars	Earth Planet. Space	73	117	○	10.1186/s40623-021-01445-w	3(2)ウ	3(3)	
新堀敏基・石井憲介	2021	気象庁移流拡散モデル設計書	気象研究所技術報告	84	146 pp		10.11483/mritechre.p0.84	3(2)ウ	3(3)	
権田豊・五十嵐花奈恵・宮田秀介・沼本晋也・山田孝・堀田紀文	2016	インドネシア・メラピ火山噴火後のPutih川における流出特性の経年変化	平成28年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		390-391			3(2)ウ	3(1)オ	
水本智博・権田豊	2016	火山噴火後に降雨を起因として発生するラハールの被害予測手法に関する研究	平成28年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		424-425			3(2)ウ	3(1)オ	
権田豊・宮田秀介・藤田正治・堤大三	2017	2010メラピ火山噴火後の堆積の変化とラハール発生頻度の関係	平成29年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		576-577			3(2)ウ	3(1)オ	
宮田秀介・Heba Ahmed Mohamed Ahmed・寺谷拓治・内田良始・藤田正治	2017	桜島における火山灰の堆積と浸透特性の経時変化による流出への影響	平成29年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		634-635			3(2)ウ	3(1)オ	
竹林洋史・藤田正治	2017	2016年熊本地震による山王谷川の土石流災害	平成29年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		320-321			3(2)ウ	3(1)オ	
山口翔太・宮田秀介・堤大三・藤田正治	2017	鉛直一次元実験に基づいた融雪型火山泥流の予測	平成29年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		574-575			3(2)ウ	3(1)オ	
Fujita, M., K. Yamanoi, S. Miyata, Hairani and A.D. Legono	2018	A method for predicting debris flow occurrence in volcanic ash deposition areas	Proceedings of the 21st APD-IAHR Congress	2	1303-1309	○		3(2)ウ	3(1)オ	
Legono, D., R. Jayadi, A.P. Rahardjo, R. Hambali, A. Hairani, Y. Gonda, R. Triatmadja and A. Musthofa	2018	The necessity of integrated monitoring and simulation in the water and sediment related disaster risk mitigation	Proceedings of the 21st APD-IAHR Congress	1	35-41	○		3(2)ウ	3(1)オ	
Nakatani, K., Y. Satofuka, Y. Gonda and K. Miyamoto	2018	Debris flow simulations occurring from landslide dam outburst at Mt. Sinabung	Proceedings of the 21st APD-IAHR Congress	2	1325-1331	○		3(2)ウ	3(1)オ	
山口翔太・宮田秀介・堤大三・藤田正治	2018	融雪型火山泥流発生過程に関する融雪実験と数値解析シミュレーション	平成30年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		783-784			3(2)ウ	3(1)オ	
権田豊・木村桃子・宮田秀介・藤田正治・堤大三	2019	インドネシア・シナブン火山におけるラハール発生時の降雨	令和元年度砂防学会研究発表会概要集		65-66			3(2)ウ	3(1)オ	
石川新・竹林洋史・藤田正治	2019	地震動が泥流の流動特性に与える影響	令和元年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		501-502			3(2)ウ	3(1)オ	
松島望・今野光康・権田豊	2020	インドネシア・シナブン火山におけるレーダー雨量計を用いたラハール発生前の降雨の時空間分布解析	令和2年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		581-582			3(2)ウ	3(1)オ	
堤大三・本居絵子・山野井一輝	2020	融雪型火山泥流の発生機構に関する研究 - 雪と火山噴出物の混合を考慮した予測手法の高度化 -	令和2年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		591-592			3(2)ウ	3(1)オ	
今野光康・権田豊	2021	桜島・有村川流域におけるKinematic wave法を用いた土石流流出解析モデルのパラメータの経年変化の研究	令和3年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		303-304			3(2)ウ	3(1)オ	
中里友輔・市田児太郎・堤大三・宮田秀介	2021	融雪型火山泥流の発生に及ぼす火山噴出物と雪の混合及び火砕流サージの影響	令和3年度(公社)砂防学会研究発表会概要集		121-122			3(2)ウ	3(1)オ	
本居絵子・堤大三	2019	雪と火砕物の混合を考慮した融雪型火山泥流の発生機構に関する融雪実験	2019年度日本自然災害学会研究発表会					3(2)ウ	3(1)オ	
Ishikawa, A., H. Takebayashi and M. Fujita	2020	Numerical simulation of mud flow generated in Atsuma, Hokkaido, Japan	22nd IAHR-APD Congress 2020, Sapporo, Japan			○		3(2)ウ	3(1)オ	
新堀敏基	2016	火山灰輸送：モデルと予測	火山	61	399-427	○	10.18940/kazan.61.2.399	3(2)ウ	3(3)	
<b>(3) 地震・火山噴火の災害誘因予測を災害情報につなげる研究</b>										
Heidarzadeh, M., T. Harada, K. Satake, T. Ishibe and A.R. Gusman	2016	Comparative study of two tsunamigenic earthquakes in the Solomon Islands: 2015 Mw 7.0 normal-fault and 2013 Santa Cruz Mw 8.0 megathrust earthquakes	Geophys. Res. Lett.	43	4340-4349	○	10.1002/2016GL068601	3(3)	1(3)イ	
Heidarzadeh, M., T. Ishibe and T. Harada	2018	Constraining the source of the Mw 8.1 Chiapas, Mexico earthquake of 8 September 2017 using teleseismic and tsunami observations	Pure Appl. Geophys.	175	1925-1938	○	10.1007/s00024-018-1837-6	3(3)	1(3)イ	
Heidarzadeh, M., S. Murotani, K. Satake, T. Ishibe and A.R. Gusman	2106	Source model of the 16 September 2015 Illapel, Chile Mw 8.4 earthquake based on teleseismic and tsunami data	Geophys. Res. Lett.	43	643-650	○	10.1002/2015GL067297	3(3)	1(3)イ	
Omi, T., Y. Ogata, K. Shiomi, B. Enescu, K. Sawazaki and K. Aihara	2018	Implementation of a real-time system for automatic aftershock forecasting in Japan	Seismol. Res. Lett.	90	242-250	○	10.1785/0220180213	3(3)	2(2)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Goda, K., T. Yasuda, N. Mori, A. Muhammad, R. De Risi and F. De Luca	2020	Uncertainty quantification of tsunami inundation in Kuroshio, Kochi Prefecture, Japan, using the Nankai-Tonankai megathrust rupture scenarios	Natural Hazards Earth Syst. Sci.	20	3039-3056	○	10.5194/nhess-20-3039-2020	3(3)	4(1)	
Miyashita, T., N. Mori and K. Goda	2020	Uncertainty of probabilistic tsunami hazard assessment of Zihuatanejo (Mexico) due to the representation of tsunami variability	Coast. Eng. J.	62	413-428	○	10.1080/1664250.2020.1780676	3(3)	4(1)	
Mulia, I.E., T. Ishibe, K. Satake, A.R. Gusman and S. Murotani	2020	Regional probabilistic tsunami hazard assessment associated with active faults along the eastern margin of the Sea of Japan	Earth Planet. Space	72	123	○	10.1186/s40623-020-01256-5	3(3)	4(1)	日本海東縁部の60の活断層について、断層面上の不均質性を考慮して津波を計算し、それぞれの断層が地震を起こす確率を考慮して、日本海沿岸における確率的な津波高を計算した。西南日本では遠方の活断層による寄与が大きく、北海道～北陸地方では近傍の活断層による寄与が大きいことがわかった。
橋本雄一(編)	2016	四訂版 GISと地理空間情報—ArcGIS10.3.1とダウンロードデータの活用—	古今書院		1-180			3(3)	5(6)	
橋本雄一	2016	学界展望—数理・計量・地理情報	人文地理	68	317-320	○		3(3)	5(6)	
橋本雄一	2016	オープンデータとGISを活用し地域防災力を強化する	測量	33	4-5			3(3)	5(6)	
橋本雄一	2016	地域の防災計画にGISを活かす	地理	61	18-25			3(3)	5(6)	
橋本雄一	2016	災害とGIS	関孝敏・松田光一(編)「北海道南西沖地震・津波と災害復興—激甚被災地奥尻町の20年—」		237-257			3(3)	5(6)	
橋本雄一	2016	空間と情報の地理学	田山忠行(編)「空間に遊ぶ—人文科学の空間論—」		173-193			3(3)	5(6)	
関谷直也	2016	火山災害にどう備えるか 警報伝達と避難対策——特集「防災学術連携体の設立と取組」	学術の動向 2016年11月号		52		10.5363/tits.21.11_52	3(3)	5(6)	
関谷直也・田中淳	2016	日本海沿岸自治体の津波防災と日本海津波想定	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編	32	83-132	○	10.15083/00031975	3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2016	地方自治体におけるIoTを用いた除排雪車位置情報システムの課題	情報処理学会研究報告「情報システムと社会環境」	12	1-6	○		3(3)	5(6)	
田中淳	2016	防災・減災へ向けた情報発信の未来像	消防研究		32-40			3(3)	5(6)	
橋本雄一(編)	2017	二訂版 QGISの基本と防災活用	古今書院					3(3)	5(6)	
橋本雄一	2017	国土数値情報を利用したハザードマップの作成	地理情報システム学会教育委員会編「地理空間情報を活かす授業のためのGIS教材」古今書院		86-91			3(3)	5(6)	
齋藤さやか・関谷直也	2017	地震発生確率とリスク認知—地震動予測地図の確率表現に関する調査研究	地域安全学会論文集	31	49-57	○	10.11314/jiiss.31.49	3(3)	5(6)	地震動予測地図に用いられている確率表現(30年に3%等)を5年確率、1年確率、平均発生間隔(〇年に1回)などに言い換えて表示した場合、受け手の意識(不安感や対策の必要性)がどう変わるか検証した。この中で30年確率が最も効果的であった。また、地図を「有効」と捉えるか、「どうしたらいいかわからない」と捉えるかは、起こる被害イメージとこわさが認識できているかによると捉えられた。
塩崎大輔・橋本雄一	2017	オープンソースライブラリによる津波浸水に関する時間発展の可視化と利活用	情報処理学会研究報告情報システムと社会環境(1S)	141	1-6	○		3(3)	5(6)	
橋本雄一	2018	津波防災と自治体・住民の対応	地理	63	60-68			3(3)	5(6)	
内藤健裕・橋本雄一	2018	積雪寒冷都市における津波避難困難地域に関する空間分析—北海道釧路市を事例に—	GIS—理論と応用	27	123	○		3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2018	WebVRを用いた疑似津波避難訓練システムの開発	情報処理学会研究報告情報システムと社会環境(1S)	2018-1S-146	1-6	○		3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2018	津波の時間発展を考慮した疑似避難訓練システムの利活用	情報処理学会研究報告情報システムと社会環境(1S)	2018-1S-145	1-6	○		3(3)	5(6)	
関谷直也	2019	災害情報のほころび—2019年6月山形県沖地震と「津波警報」、2019年7月九州南部豪雨と「警戒レベル」にみる課題—	第81回全国都市問題会議『文献集』		152-159			3(3)	5(6)	
関谷直也	2019	帰宅困難者問題の提起する真の課題(特集 首都直下地震(3)被害にどう対応できるのか)	日本地震工学会誌	37	8-11			3(3)	5(6)	
安本真也・田中淳・関谷直也	2019	漁港における津波対策の現状と課題—沿岸部自治体の悉皆調査結果より—	自然災害科学	38	109-122	○	10.24762/jnds.j.38.S06_109	3(3)	5(6)	
関谷直也	2020	「停電」と危機管理	電気学会誌	140, 12	778-781		10.1541/ieejjournal.140.778	3(3)	5(6)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也	2020	「南海トラフ地震に関する情報」に対する住民の反応	災害情報	18	95-105	○		3(3)	5(6)	「南海トラフ地震に関する情報」に対して、静岡県・高知県の住民が発出時どう反応するのか、調査を実施した。結果、この情報については約半数の人が知っていたものの、それをもとにどう判断すればよいのか難しいと考えていること、南海トラフ地震に関する情報（臨時）が出された際、その情報だけでなく気象庁がどう呼びかけるか、地方自治体がどのような情報を出すかで避難の意思が大きく変わることなどがわかった。
安本真也・田中淳・関谷直也	2020	自治体による漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編	36	67-105		10.15083/00079071	3(3)	5(6)	
安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也	2020	南海トラフ地震および「南海トラフ地震に関する情報」への対応：静岡市と高知市の住民アンケート調査より	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編	36	107-153		10.15083/00079072	3(3)	5(6)	
関谷直也	2021	日本海の地震・津波にかんする予知・想定に対する認識に関する調査研究	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編	37	189-234		10.15083/0002000154	3(3)	5(6)	日本海側住民の全体的な特性を明らかにするため、特に「想定」について調査を実施し、①日本海側の地震・津波の発生の可能性や過去の履歴、②特性について認知度が低く、想定もあまり周知されていないということ、③地震の予知や予測についての理解や認識として、様々なことを周知する以前に地震に関連する用語についての認知率が低く、震度、マグニチュードの違いが判らないという人が約半数いることなどが明らかになった。
奥野祐介・塩崎大輔・橋本雄一	2016	GNSS を用いた津波集団避難行動に関する移動軌跡データ分析	地理情報システム学会講演論文集	25				3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2016	ニセコ町におけるIGT を用いた除排雪車位置情報システムの運用と課題	地理情報システム学会講演論文集	25				3(3)	5(6)	
深田秀実・橋本雄一・沖観行	2017	津波避難ビルの階段上昇を含む避難行動シミュレーション—釧路市橋北地区を対象とした基礎的検討—	地理情報システム学会講演論文集	26				3(3)	5(6)	
川村社・橋本雄一	2017	津波浸水の時間経過を考慮した建物ごとの避難可能性の時空間分析—北海道苫小牧市を事例として—	地理情報システム学会講演論文集	26				3(3)	5(6)	
奥野祐介・塩崎大輔・橋本雄一	2017	観光都市における疑似的津波集団避難に関する移動軌跡データ分析	地理情報システム学会講演論文集	26				3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2017	オープンソースライブラリを用いた津波浸水に関する時間発展の可視化	地理情報システム学会講演論文集	26				3(3)	5(6)	
内藤健裕・橋本雄一	2018	積雪寒冷都市における津波避難困難地域に関する空間分析—北海道釧路市を事例として—	地理情報システム学会講演論文集	27				3(3)	5(6)	本研究は、国勢調査など利用可能な最新のデータを用いて、北海道釧路市における津波発生時の避難困難人口の推定を行った。その結果、昼間よりも夜間に、夏季よりも冬季に避難困難人口が増加し、リスクが残されていることが明らかになった。当市の避難場所は大幅に増加したものの、避難困難人口が算出されたことは、東日本大震災以降の津波浸水想定に基づく避難場所整備に関して、現時点における行政の限界を示したと言える。
奥野祐介・塩崎大輔・橋本雄一	2018	GNSS を用いた疑似的津波集団避難行動分析—北海道釧路市・厚岸町を事例として—	地理情報システム学会講演論文集	27				3(3)	5(6)	
塩崎大輔・橋本雄一	2018	ICT 及びWebVR 技術を援用した疑似津波避難訓練システムの利活用	地理情報システム学会講演論文集	27				3(3)	5(6)	

#### 4. 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

##### (1) 地震・火山噴火の災害事例による災害発生機構の解明

田中重好	2016	コミュニティと復興：スマトラ地震と東日本大震災の比較から考える	現代の社会病理	No.31	23-38			4(1)		
田中重好	2017	災害対策と公共性（「講座 社会変動 第10巻 計画化と公共性」収録）	ミネルヴァ書房		129-162			4(1)		
室井研二	2018	巨大地震被災想定下の地域社会	社会分析	43	45-62			4(1)		
田中重好・黒田由彦・高橋誠・室井研二	2018	災害・防災	東海社会学会年報	10	71-78			4(1)		
室井研二	2019	災害社会学の理論的系譜と課題（上）	名古屋大学社会学論集	39	1-24			4(1)		
室井研二	2020	方法としての災害社会学	西日本社会学会年報	18	7-19			4(1)		
室井研二	2020	臨海工業都市の災害—伊勢湾台風後のコミュニティと災害脆弱性—	東海社会学会年報	12	15-31			4(1)		
室井研二	2020	災害社会学の理論的系譜と課題（下）	名古屋大学社会学論集	40	31-76			4(1)		
高橋誠	2020	海から遠いまち—伊勢湾台風被災地における土地利用変化と災害暴露性—	東海社会学会年報	12	32-45			4(1)		
田中重好・黒田由彦・横田尚俊・大矢根淳編著	2020	防災と支援：成熟した市民社会へ向けて	有斐閣		359p.			4(1)		
田中重好	2020	災害社会学の体系化に向けてのデザイン	西日本社会学会年報	18	21-37			4(1)		
室井研二編	2021	災害と開発 研究報告書（1）	名古屋大学大学院環境学研究科		80p.			4(1)		
室井研二	2021	震災復興過程における防災—東日本大震災三陸津波被災地を中心に—	地域創生学研究	24	1-27			4(1)		
高橋誠	in press	東海地方の都市と農村をめぐる地域的人口分布とその変動（試論）	砺波散村地域研究書研究紀要	37	1-10			4(1)		
杉森玲子	2020	「江戸大地震之図」を読む	角川選書		272pp.			4(1)	1(1)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Abe, T. and K. Hori	2016	Coastal geomorphology and tsunami disaster by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake	In S. Haruyama, T. Sugai, eds., Natural Disaster and Coastal Geomorphology, Springer		37-64		10.1007/978-3-319-33814-9_3	4(1)	1(1)ウ	
Ho, T.-C., K. Satake, S. Watada, M.-C. Hsieh, R. Y. Chuang, Y. Aoki, I. E. Mulia, A. R. Gusman and C.-H. Lu	2021	Tsunami induced by the strike-slip Fault of the 2018 Palu earthquake (Mw=7.5), Sulawesi Island, Indonesia	Earth Space Sci.	8(6)	e2020EA991499	○	10.1029/2020EA001400	4(1)	1(2)ア	東大地震研と京大防災研との拠点間共同研究として、2018年インドネシア(スラウェシ)地震について、断層面上のすべりの不均質性や、そのモデルに基づくバル湾における津波の浸水について、現地調査、測地データ解析、津波シミュレーションから明らかにした。
Wakai, A., S. Senna, K. Jin, A. Yatagai, H. Suzuki, Y. Inagaki, H. Matsuyama and H. Fujiwara	2019	Modeling of Subsurface Velocity Structures from Seismic Bedrock to Ground Surface in the Tokai Region, Japan, for Broadband Strong Ground Motion Prediction	J. Disaster Res.	14	1140-1153	○	10.20965/jdr.2019.p1140	4(1)	3(1)ア, 4(2)	
千田優・福井信気・森信人・安田誠宏・山本剛士	2020	漂流物と流れ場の時空間計測データを用いた複雑流れ場における津波漂流物挙動の解析	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	I_313-I_318	○	10.2208/kaigan.76.2.I_313	4(1)	3(2)	
福井信気・森信人・Che-Wei Chang・千田優・安田誠宏・山本剛士	2020	沿岸市街地モデルを用いた津波・高潮浸水実験と解析, 土木学会論文集B2(海岸工学)	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	I_373-I_378	○	10.2208/kaigan.76.2.I_373	4(1)	3(2)	
宮下卓也・GOMEZ-RAMOS Octavio・森信人	2020	適合格子細分化法を用いた南海トラフ沿いの巨大地震津波の数値計算	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	I_289-I_294	○	10.2208/kaigan.76.2.I_289	4(1)	3(2)	計算ステップごとに空間解像度や時間刻み幅が動的に変化する適合格子細分化法(AMR法)の数値モデルを用いて、南海トラフ沿いで発生する巨大地震を対象に津波計算を行い、その精度検証を進めた。
室井研二	2016	南海トラフ巨大地震被災想定地域の社会構造と防災対策に関する社会学的研究	科研報告書		103p.			4(1)	4(1)	
室井研二	2018	発展途上国における開発と災害—スマトラ地震とアチエの事例	地域社会学会年報	30	97-110	○		4(1)	4(1)	
Iwaki, A., T. Maeda, N. Morikawa, H. Miyake and H. Fujiwara	2016	Validation of the Recipe for Broadband Ground-Motion Simulations of Japanese Crustal Earthquakes	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	2214-2232	○	10.1785/0120150304	4(1)	4(2)	
Iwaki, A., H. Fujiwara and S. Aoi	2016	Broadband Ground-Motion Simulation Based on the Relationship between High- and Low-Frequency Acceleration Envelopes: Application to the 2003 M-w 8.3 Tokachi-Oki Earthquake	Bull. Seismol. Soc. Am.	106	632-652	○	10.1785/0120150273	4(1)	4(2)	
Iwaki, A., T. Maeda, N. Morikawa, S. Aoi and H. Fujiwara	2016	Kinematic source models for long-period ground motion simulations of megathrust earthquakes: validation against ground motion data for the 2003 Tokachi-oki earthquake	Earth Planet. Space	68	1-19	○	10.1186/s40623-016-0473-6	4(1)	4(2)	
Maeda, T., A. Iwaki, N. Morikawa, S. Aoi and H. Fujiwara	2016	Seismic-Hazard Analysis of Long-Period Ground Motion of Megathrust Earthquakes in the Nankai Trough Based on 3D Finite-Difference Simulation.	Seismol. Res. Lett.	87	1265-1273	○	10.1785/0120160093	4(1)	4(2)	
Ohsumi, T., Y. Mukai and H. Fujitani	2016	Investigation of Damage in and Around Kathmandu Valley Related to the 2015 Gorkha, Nepal Earthquake and Beyond.	Geotech. Geol. Eng.	34	1223-1245	○	10.1007/s10706-016-0023-9	4(1)	4(2)	
Iwaki, A., N. Morikawa, T. Maeda and H. Fujiwara	2017	Spatial Distribution of Ground-Motion Variability in Broadband Ground-Motion Simulations	Bull. Seismol. Soc. Am.	107	2963-2979	○	10.1785/0120170150	4(1)	4(2)	
Ohsumi, T. and H. Fujiwara	2017	Investigation of offshore fault modeling for a source region related to the Shakotan-Oki earthquake.	J. Disaster Res.	12	891-898	○	10.20965/jdr.2017.p0891	4(1)	4(2)	
Iwaki, A., T. Maeda, N. Morikawa, S. Takemura and H. Fujiwara	2018	Effects of random 3D upper crustal heterogeneity on long-period ( $\geq 1$ s) ground-motion simulations	Earth Planet. Space	70	1-15	○	10.1186/s40623-018-0930-5	4(1)	4(2)	
Ohsumi, T., Y. Dohi and H. Hazarika	2018	Investigation of Evaluation of the Strong Motion and Tsunami Related to the AD365 Crete Earthquake	J. Disaster Res.	13	943-956	○		4(1)	4(2)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Sato, M. and T. Hattanji	2018	A laboratory experiment on salt weathering by humidity change: salt damage induced by deliquescence and hydration	Prog. Earth Planet. Sci.			○	10.1186/s40645-018-0241-2	4(1)	4(2)	
石水英梨香・阪本真由美	2019	火山地域における住民主体の防災計画策定に関する考察-口永良部島の事例より-	地区防災計画学会誌	14	47-48			4(1)	4(2)	
澤田雅浩	2019	割地制度の実態把握と被災地への応用可能性に関する一考察 新潟県長岡市信濃川沿岸での実態調査を通じて	地域安全学会論文集	35	59-66	○		4(1)	4(2)	信濃川流域における堤外地の土地利用の特徴を明らかにしている。河川の増水などによって農地が被害を受けた場合のリスクの共有や、土地買収や農地の賃借によって生じた金銭的やりとりが土地の維持管理に有用であることを指摘している。
Kubo T., W. Suzuki, N. Takahashi, K. Asao and K. Yoshida	2020	2020. Study on Conducting Tabletop Exercise to Respond a Major Tsunami Disaster for Local Governments	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering	20	158-176	○	10.5610/jae.20.7_158	4(1)	4(2)	
Naito S., H. Tomozawa, Y. Mori, T. Nagata, N. Morita, H. Nakamura, H. Fujiwara and G. Shoji	2020	Building-damage detection method based on machine learning utilizing aerial photographs of the Kumamoto earthquake	Earthquake Spectra	36	1166-1187	○	10.1177/8755293019901309	4(1)	4(2)	
Naito, S., M. Tomozawa, Y. Mori, N. Morita, H. Nakamura and H. Fujiwara	2020	Development of the Deep Learning Based Damage Detection Model for Buildings Utilizing Aerial Photographs of Plural Earthquakes	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering	20	177-216	○	10.5610/jae.20.7_177	4(1)	4(2)	
Okumura Y., H. Kamiasako, Y. Dohi and J. Kiyono	2020	MACROSCOPIC PROPERTY OF GROUP BEHAVIOR DURING TSUNAMI EVACUATION DRILL	Journal of Japan Society of Civil Engineers	76	1267-1272	○	10.2208/kaigan.76.2_i_1267	4(1)	4(2)	
Cho I., S. Senna, A. Wakai, K. Jin and H. Fujiwara	2021	Basic performance of a spatial autocorrelation method for determining phase velocities of Rayleigh waves from microtremors, with special reference to the zero-crossing method for quick surveys with mobile seismic arrays	Geophys. J. Int.			○	10.1093/gji/ggab149	4(1)	4(2)	
Ito E., K. Nakano, S. Senna and H. Kawase	2021	S-Wave Site Amplification Factors from Observed Ground Motions in Japan: Validation of Delineated Velocity Structures and Proposal for Empirical Correction	IntechOpen	1	22	○		4(1)	4(2)	
Suzuki, H.	2021	A Review of Disaster Archives of Past Natural Disaster Records Focusing on Tsunami Events in the Sanriku Coastal Area and Discussion	J. Geography	130	177-196	○		4(1)	4(2)	
Yasuda, S., N. Ohbo, M. Shimada, T. Chiba, H. Nagase, S. Murakami, S. Shigeki, N. Kitada and K. Ishikawa	2021	Mechanism of the Grabens that formed in the Aso Caldera during the 2016 Kumamoto Earthquake	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering	21	135-158	○	10.5610/jae.21.1_135	4(1)	4(2)	
Kubo, H., A. Iwaki, W. Suzuki, S. Aoi and H. Sekiguchi	2020	Estimation of the source process and forward simulation of long-period ground motion of the 2018 Hokkaido Eastern Iwuri, Japan, earthquake	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-1146-z	4(1)	4(2), 5(3)ア	
Takahashi, M., K. Muroi and S. Tanaka (eds.)	2016	International Comparative Study on Mega-earthquake Disasters: Collection of Papers Vol.1	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		120p.			4(1)	5(5)	
Takahashi, M. and K. Muroi (eds.)	2017	International Comparative Study on Mega-earthquake Disasters: Collection of Papers Vol.2	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		153p.			4(1)	5(5)	
Takahashi, M. (ed.)	2019	International Comparative Study on Mega-earthquake Disasters: Collection of Papers Vol.3	Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		151p.			4(1)	5(5)	
Xu, J. and M. Takahashi	2020	Progressing vulnerability of the immigrants in an urbanizing village in coastal China	Environment, Development and Sustainability	23	8012-8026	○	10.1007/s10668-020-00914-8	4(1)	5(5)	
Nugroho, A., M. Takahashi and M. Iga	2021	Village fund asymmetric information in disaster management: evidence from village level in Banda Aceh City	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	630	1-6	○	10.1088/1755-1315/630/1/012011	4(1)	5(5)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
田中重好・高橋誠・黒田達朗編	2017	連続研究会・新しい防災の考え方を求めて(シリーズ3): コミュニティ防災を考える	名古屋大学大学院環境学研究科		198p.			4(1)	5(6)	
Akiyama S., M. Korenaga and K. Kawaji	2017	Tsunami Simulation Using Computed Ground Motion of the 2011 Tohoku Earthquake	Proceedings of the 16th World Conference on Earthquake Engineering			○		4(1)	4(2)	
阪本真由美・松井敬代	2019	突発的噴火に対する登山者・住民の防災対策について-2014年御嶽山噴火に関する意識調査より	2019年地域安全学会概要集		79-80			4(1)	4(2)	観光地となっている火山において突発的噴火に備えるにはどのような対策が求められるのか、2014年御嶽山噴火に関する住民・登山者の意識調査結果を踏まえ検討した。調査の結果、地域住民と登山者とは、防災情報の伝達方法や防災対策に関する意識に相違がみられた。
石水英梨花・阪本真由美	2019	火山災害軽減に効果的な地域関係性に関する考察-口永良部島におけるヒアリング調査から	日本火山学会2019年度秋季大会		111			4(1)	4(2)	
Naito, S., H. Nakamura, H. Fujiwara, H. Tomozawa, Y. Mori and N. Morita	2020	CNN-BASED BUILDING DAMAGE DETECTION MODEL FOR THE PROMPT DISASTER RESPONSE UTILIZING REMOTE SENSING IMAGES	17th World Conference on Earthquake Engineering		6a-0001	○		4(1)	4(2)	
(2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究										
石井旭・鈴木大陸・瀬戸口剛	2018	住宅復興シナリオ構築に向けた津波被災地の宅地供給手法 岩手県陸前高田市における東日本大震災後の建築 GIS データベースに基づく宅地供給の時系列分析	日本建築学会計画系論文集	83	1273-1283	○	10.3130/aija.83.1273	4(2)		
安江健一・倉橋有希・落合鋭充・宮本文・本間育子	2018	活断層がわかる煎餅の検討	愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書	14	97-98			4(2)		一般の方が、地震を引き起こす活断層について深く理解することができる煎餅の表面のイラストを検討した。
安江健一・倉橋奨	2018	地域住民による活断層説明看板の製作・設置	愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書	14	60-62			4(2)		小学6年生が地域の活断層を見学し、学んだ内容を絵や文章にして看板を製作した。その看板を地域の活断層がわかる地点に設置した。
Hara, T., A. Yashima, K. Sawada, K. Kariya, H. Tsuji and N. Soga	2019	Small-diameter vertical shafts constructed in the shallow space of steep mountainous area	Underground Space	4(3)	235-250	○	10.1016/j.undsp.2018.10.005	4(2)		日本では、山岳地帯の課題から従来の手作業による小径垂直軸を用いた送電線塔の建設が困難になっている。そこで、機械を使用するため、建設中に作業者が垂直シャフトに入る必要がない、新しい小径の垂直シャフト建設システムを開発した。
Ito, N., M. S. Aktar and Y. Horita	2019	Construction of Subjective Vehicle Detection Evaluation Model Considering Shift from Ground Truth Position	IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences	E102. A, No. 9	1246-1249	○	10.1587/transfun.E102.A.1246	4(2)		地震・火山噴火災害による被害を軽減する対策を考えるために、幹線道路や中山間地域の林道など、避難に重要となる道路網の走行車両数や道路の倒壊具合を遠隔で情報収集する技術開発を行った。
澤田雅浩	2019	人口減少社会における地域の創造的復興とは	ガバナンス	215	14-16			4(2)		
澤田雅浩	2019	神戸市港島地区における地区防災計画策定に向けた取り組み	地区防災計画学会誌	17	58-59			4(2)		
安江健一・倉橋奨	2019	小学生による活断層を紹介するパンフレットの製作	愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書	15	59-62			4(2)		小学6年生が地域の活断層を見学し、学んだ内容を絵や文章にしてパンフレットを製作した。そのパンフレットを地域の主要な施設に配布した。
Aktar, M. S. and Y. Horita	2020	Performance Analysis of Vehicle Detection Based on Spatial Saliency and Local Image Features in H.265 (HEVC) 4K Video for Developing a Relationship between IoU and Subjective Evaluation Value	IEEE Trans. Geosci. Remote Sens.	15(4)	563-569	○	10.1002/tgee.23089	4(2)		地震・火山噴火災害による被害を軽減する対策を考えるために、幹線道路や中山間地域の林道など、避難に重要となる道路網の走行車両数や道路の倒壊具合を遠隔で情報収集する技術開発を行った。
小椋山雅之・赤堀竜海・吉本充宏・久保智弘	2020	拡張現実を用いた富士山火山ハザードマップ	地域安全学会論文集	37	147-155	○		4(2)		
高島帆風・小椋山雅之・吉本充宏・久保智弘	2020	次世代火山防災リーダーの育成を目的とした住民主体の災害机上訓練のフレームワーク	地質調査総合センター研究資料集	37	175-185	○		4(2)		
後呂美里・東野哲也・堀田裕弘	2020	深層学習を用いた画質の異なる林道画像からの走行領域の検出	電子情報通信学会技術研究報告 (IEICE Technical Report (Institute of Electronics, Information and Communication Engineers))	119, 454 (IMQ2019-13-68)	231-234			4(2)		地震・火山噴火災害による被害を軽減する対策を考えるために、幹線道路や中山間地域の林道など、避難に重要となる道路網の走行車両数や道路の倒壊具合を遠隔で情報収集する技術開発を行った。
為栗健	2021	桜島の火山災害と噴火予測のための観測研究	懇林	12	47-64			4(2)		
蝦名裕一・今井健太郎・大林涼子・柄本邦明・都司嘉宣	2020	古絵図に基づく安政東海地震の浜名湖周辺における津波浸水域の分析	歴史地震	35	187-206	○		4(2)	1(1)ア 5(2)ウ	
井口正人	2016	大規模火山噴火の近畿地方への影響	けいさつ友	508	14-19			4(2)	2(5)	
井口正人	2016	桜島火山活動から考える火山災害の軽減	セイフティダイジェスト	62	2-8			4(2)	2(5)	
井口正人・石川芳治	2016	火山災害にどう備えるか	学術の動向	21	41-45			4(2)	2(5)	
井口正人	2016	災害の軽減に貢献するための火山観測研究	学術の動向	21	48			4(2)	2(5)	
阿部光樹・井ノ口宗成・加藤尚之・森田裕一・田村圭子・木村玲欧・中野敬介	2016	形態素解析を用いた地震学研究の動向把握に資する研究～地震学会10年間の研究題目を事例として～	信学技報	116	145-150			4(2)	4(1)	
Sakamoto, M., M. Kuri, M. Iguchi, N. Maki, T. Ichiko, N. Sekiya and H. Kobayashi	2016	Disaster Governance in Disaster Management Planning-Analysis of the Evacuation Planning Process for Kuchinoerabujima Volcano Eruption	J. Nat. Disaster Sci.	Volume 37, No. 2	105-117	○		4(2)	4(1)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Inoguchi, M., K. Tamura, H. Hayashi and K. Shimizu	2017	Time-Series Analysis of Workload for Support in Rebuilding Disaster Victims' Lives? Comparison of the 2016 Kumamoto Earthquake with the 2007 Niigataken Chuetsu-oki	J. Disaster Res.	12	1161-1173	○	10.20965/jdr.2017.p1161	4(2)	4(1)	
Kimura, R., S. Ohtomo and N. Hirata	2017	A Study on the 2016 Kumamoto Earthquake: Citizen's Evaluation of Earthquake Information and Their Evacuation and Sheltering Behaviors	J. Disaster Res.	12	1117-1138	○	10.20965/jdr.2017.p1117	4(2)	4(1)	
Kuri, M., M. Sakamoto and N. Maki	2017	Background to the Rapid Evacuation from the 2015 Eruption and Education for Disaster Prevention by Residents on Kuchinoerabujima Volcano	J. Nat. Disaster Sci.	Volume 38, No. 1	49-64	○		4(2)	4(1)	
Ohtomo, S., R. KIMURA and N. Hirata	2017	The Influences of Residents' Evacuation Patterns in the 2016 Kumamoto Earthquake on Public Risk Perceptions and Trust Toward Authorities	J. Disaster Res.	12	1139-1150	○	10.20965/jdr.2017.p1139	4(2)	4(1)	
室崎益輝・富永良喜・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科(編著)	2018	災害に立ち向かう人づくり 被災社会の構築と被災地復興の礎	ミネルヴァ書房					4(2)	4(1)	
阪本真由美・松井敬代	2020	1925年北但大震災と日本の防災教育	歴史地震研究	4	608-617			4(2)	4(1)	
Sakamoto, M.	2021	Transferring Historical Disaster Memories: The 1925 North Tajima Earthquake	J. Disaster Res.	16-No. 1	163-169	○		4(2)	4(1)	歴史災害の記憶継承の特性を、1925年に発生した北但馬地震の事例分析から検討した。分析においては、災害の記憶を留める記憶の場の特性を「物理的」「象徴的」「機能的」側面から検討し、地震が起こった日(5月23日)、街の景観が集合的記憶の形成に結びついていることを示した。
秋本弘章・橋本雄一・河合豊明	2019	「地理総合」とGIS —その意義と汎用・基礎データの存続・課題と支援・実践	学術の動向	24	18-22			4(2)	5(2)ウ	
橋本雄一(編著)	2019	五訂版GISと地理空間情報—ArcGIS 10.7とArcGIS Pro 2.3の活用—	古今書院		1-175			4(2)	5(2)ウ	
塩崎大輔・橋本雄一	2021	ニセコひらふ地区におけるリゾート開発と土砂災害リスク	地理学論集	96(1)	1-6	○	10.7886/hgs.96.1	4(2)	5(2)ウ	
Jang, H., I. Kitahara, Y. Kawamura, Y. Endo, E. Topal, R. Degawa and S. Mazara	2019	Development of 3D Rock Fragmentation Measurement System Using Photogrammetry	Taylor Francis, International Journal of Mining, Reclamation and Environment (NSME)	Vol. 34, No. 4	294-305	○	10.1080/17480930.2019.1585597	4(2)	5(4)	本研究では、従来の2D写真ベースの岩石破砕測定法の限界を克服できる3D岩石破砕測定(3DFM)システムを提案した。提案手法では、従来の方法に比べて高山の生産性最適化に寄与することが確認され、新しい粒度分布測定方法として位置づけることができた。
澤田雅浩	2019	新潟県中越地震の復旧・復興プロセスと「検証」	災害情報	17-2	87-88			4(2)	5(6)	
湯井恵美子・澤田雅浩	2019	地区防災計画策定プロセスにおける多様な主体の創出—芳野町地区と大阪府吹田支援学校の作成事例より	地区防災計画学会誌	15	61-69			4(2)	5(6)	
澤田雅浩	2020	2014年豪雨災害からの丹波市の復興	都市問題	111(1)	23-28			4(2)	5(6)	
Sugiura, M., S. Sato, R. Nouchi, A. Honda, R. Ishibashi, T. Abe, T. Muramoto and F. Imamura	2019	Psychological processes and personality factors for an appropriate tsunami evacuation	Geosciences	9(8)	326	○	10.3390/geosciences9080326	4(2)	5(6) 5(7)	
Sugiura, M., R. Nouchi, A. Honda, S. Sato, T. Abe and F. Imamura	2020	Survival-oriented personality factors are associated with various types of social support in an emergency disaster situation	PLoS One	15(2)	e0228875	○	10.1371/journal.pone.0228875	4(2)	5(6) 5(7)	2011年東日本大震災の津波被災者を対象とした調査データを用い、津波避難の最中の共助行動と災害を生きる力8因子との関係を調べた。避難中の声がけにリーダーシップと能動的健康が、実際の援助行動に問題解決、愛他性、エチケット、自己超越が関与していた。8つの「生きる力」のうち6つの因子が、他者を助けることに関係していたことは、我々の心が他者を助けることが自分が生きることに繋がる環境の中で進化してきたことを物語るかもしれない。
Ishibashi, R., R. Nouchi, A. Honda, T. Abe and M. Sugiura	2019	A Concise Psychometric Tool to Measure Personal Characteristics for Surviving Natural Disasters: Development of a 16-Item Power to Live Questionnaire	Geosciences	9(9)	366	○	10.3390/geosciences9090366	4(2)	5(6) 5(7)	
田村圭子・井ノ口宗成・堀江啓	2019	地震災害における生活再建支援業務マネジメントツールを活用した被災証明書発行業務解析	電子情報通信学会 安全・安心な生活とICT研究会 (ICTSSL)	119	11			4(2)	4(1) 5(3)イ	災害時における生活再建支援業務において、被災証明書の発行は支援のバーストとしてその発行の実態が重要である。4災害における発行パターンの解明を実施、被災実態も自治体の規模も違い、実数の変化については差がみられたが、発行件数の推移には一定のパターンが見られた。被災者生活再建にかかる多くの支援に対して、申請要件に被災証明書における家屋の被災程度が含まれている。災害対策基本法にも明記されているが、自治体は迅速に被災証明書を発行することが求められている。しかし、その業務実態や特徴は災害によって異なる。そこで、本研究では、被災証明書発行業務を対象として、過去の地震災害の事例を収集し、その関係性や特徴について時系列分析を行い、発災後からの経過日数と業務発生量の関係を整理し、災害間での比較を実施した。結果として、建物被害量の大きさによって特徴に差が生じることが明らかとなった。また、簡易的な近似式を導出し、今後の業務量シミュレーションを可能とする基礎モデルの構築を実施した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建物の項目	次に関連の深い建物の項目	概要説明
橋本雄一・塩崎大輔	2019	津波浸水想定データを援用した避難訓練可視化システムの開発と利活用	地理情報システム学会講演論文集	28				4(2)	5(2)ウ	
川村社・橋本雄一・戸松誠・竹内慎一	2019	積雪寒冷地の港湾都市における建物立地状況と津波からの避難可能性に関する空間分析	地理情報システム学会講演論文集	28				4(2)	5(2)ウ	
三好達也・橋本雄一	2019	北海道におけるGISコミュニティの発展	地理情報システム学会講演論文集	28				4(2)	5(2)ウ	
奥野祐介・塩崎大輔・橋本雄一	2019	津波と土砂崩れによる複合災害を想定した集団避難行動分析-北海道稚内市を事例として-	地理情報システム学会講演論文集	28				4(2)	5(2)ウ	
小野塚仁海・橋本雄一	2019	生鮮食料品店への近接性からみた日本における買物困難圏の推定	地理情報システム学会講演論文集	28				4(2)	5(2)ウ	
工藤由佳・橋本雄一	2020	積雪寒冷都市における複合災害時の避難困難地域に関する空間分析-北海道留萌市の津波浸水想定域の事例-	地理情報システム学会講演論文集	29				4(2)	5(2)ウ	
三好達也・橋本雄一	2020	新型コロナウイルス禍における北海道のGISコミュニティ活動	地理情報システム学会講演論文集	29				4(2)	5(2)ウ	
奥野祐介・塩崎大輔・橋本雄一	2020	疑似的津波集団避難に関する移動軌跡データ分析	地理情報システム学会講演論文集	29				4(2)	5(2)ウ	本研究は、津波災害と土砂災害の複合災害を想定した移動軌跡データの収集を行い、複合災害が発生した場合における集団避難行動時の課題を、北海道稚内市で行った避難実験から明らかにした。複合災害を想定した徒歩避難実験では、歩行速度の低下に伴う集団の分断によって避難時間が大幅に増大し、後続集団が津波襲来に巻き込まれるリスクが高まるなど、複合災害での避難対策検討の必要性が示唆された。
小野塚仁海・橋本雄一	2020	携帯電話の統計を援用した大規模停電を伴う地震災害の避難行動推定	地理情報システム学会講演論文集	29				4(2)	5(2)ウ	
塩崎大輔・橋本雄一	2020	登記情報を用いたスキーリゾート地区における不動産の空間分析	地理情報システム学会講演論文集	29				4(2)	5(2)ウ	
井ノ口宗成・今井淳	2018	twitter投稿画像を用いた屋内外被害の機械分類にかかる基礎研究 ~2016年熊本地震を事例として~	電子情報通信学会 安全・安心な生活とICT研究会	No. 26	(1-4)			4(2)	5(3)	本研究では、熊本地震を事例として、災害発生前後のSNS (twitter) の投稿画像データ5,684件から「屋内被害」「屋外被害」を、機械学習・機械分類によって抽出できるかについて検討した。目視判読による教師データ作成と、事前学習を通して画像分類モデルを構築し、ランダムに抽出した224件の写真データで検証した。屋内被害については83.7%、屋外被害については93.1%の精度で写真を抽出した。
井ノ口宗成・田村圭子・濱本両太・堀江啓	2019	ドローンによる空撮画像を活用した屋根被害把握と被災者支援への利用-2019年山形沖地震における村上市の対応を事例として-	第60回 土木計画学研究発表会、土木計画学研究・講演集	60	6			4(2)	5(3)	2019年山形沖地震において、著者らは村上市と協働し、被害発生集中地域を対象に、ドローンによる空撮とオルソ化により、家屋の被災程度を判定する住家被害認定調査を推進した。これは、地上から確認が難しい屋根被害の判定において、その確実性・正確性を向上させた。また、フロントヤードとバックヤードを連携させた体制とワークフローを確立した。あわせて、被災者の生活再建の一步となる屋根の補修において、具体的な対応に結びついた。
井ノ口宗成	2019	時空間マッシュアップによる2018年大阪北部地震の実態再現と分析	電子情報通信学会 安全・安心な生活とICT研究会	Vol. 119, No. 118	(7-10)			4(2)	5(3)	効果的な災害対応の実現には「状況認識の統一」が必要不可欠といわれているものの、十分に実現できていないとは限らない。本研究では、時空間マッシュアップによる実態再現と分析を通して、その有用性を検証しながら、新しい知見の導出が可能かを検討する。とくに、2018年6月に発生した大阪北部地震の被災地である茨木市を事例として、その可能性を追求した。具体的には、クラウド型GIS基盤上に情報を展開し、時系列的・空間的に可視化するとともに、データ項目別に分析を進め、消防機関への緊急通報の傾向について新しい知見を導出した。
Inoguchi, M., K. Tamura, K. Uo and M. Kobayashi	2020	Validation of CyborgCrowd Implementation Possibility for Situation Awareness in Urgent Disaster Response -Case study of International Disaster Response in 2019-	Proceedings of IEEE BigData 2020		10			4(2)	5(5)	災害対応では、災害対応を効果的かつ効率的にするために、災害発生後の被害状況の全体像を迅速かつ早期に把握することが不可欠であるが、情報不足により多くの時間を要する。そこで本研究では、災害対応における状況認識のためのCyborgCrowdの実装を提案した。2019年10月に国際災害訓練を実施し、CyborgCrowdを利用した場合の結果と国土地理院が発表した実測調査とを比較し、精度を検証した。この中で、人間とAIによる検出結果の特徴を解明し、人間とAIの協働によるお互いのずれを極小化する方法を提案した。
Inoguchi, M., S. Hara, K. Shirai and A. Imai	2020	Challenge of Roof Damage Housings Detection from Satellite Images by Applying Deep Learning Methodology -A Case Study of Ibaraki City at 2018 Osaka Earthquake-	Proceedings of the 35th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications		5			4(2)	5(5)	本研究では、災害発生後の迅速な被害把握を目的として、衛星画像に対して深層学習を適用することで屋根被害の特定を検討した。深層学習では、画像分類の学習済みモデルであるVGG-16を用いた。当モデルに対して、分類結果をフルシート、青い屋根、その他の3クラスに変更し、再学習を実施することで、その適用可能性を検証した。本研究は2018年大阪北部地震の茨木市を事例として、93.8%の精度と94.7%の再現率を得た。
田村圭子・井ノ口宗成	2019	応援・支援の枠組みに基づいた効果的な住家被害認定調査の調査計画策定-2018年北海道胆振東部地震における安平町を事例として-	第60回 土木計画学研究発表会、土木計画学研究・講演集	60	4			4(2)	5(7)	2016年の熊本地震では、避難所運営の職員派遣は4,075人、次いで罹災証明業務の派遣は1,400人であった。翌年に内閣府より自治体職員への応援支援の枠組みが示されたが具体的な方法論はない。2018年北海道胆振東部地震において、生活再建支援法に基づく「住家被害認定調査」の方針検討、調査計画検討、応援支援計画の策定、実査マネジメントの一連に対し、応援・支援の枠組みに基づいた方法論の実証結果を報告した。
後呂美里・東野哲也・長田潤・堀田裕弘	2019	深層学習を用いた車載カメラ画像からの林道領域検出	ITSシンポジウム2019	4-B-03	1-6			4(2)		地震・火山噴火災害による被害を軽減する対策を考えるために、幹線道路や中山間地域の林道など、避難に重要となる道路網の走行車両数や道路の倒壊具合を遠隔で情報収集する技術開発を行った。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
阪本真由美	2017	2015年口永良部島噴火に伴う住民の避難・帰還プロセスに関する研究	日本災害復興学会2017年神戸大会		91-94			4(2)	4(1)	
Ishimizu, E. and M. Sakamoto	2019	Issues of Japan's volcanic disaster prevention system as viewed from overseas alert systems	Japan Geoscience Union Meeting 2019		MZZ50-P03			4(2)	4(1)	
Honda R., S. Katsuyama, M. Yoshioka, H. Ohtani, M. Sakamoto and Y. Nagano	2020	Prediction of building damage at the district level due to the Nankai earthquake - Taking Minamiawaji City and Kakogawa City as examples -	17th World Conference on Earthquake Engineering			○		4(2)	4(1)	
Sakamoto, M.	2020	Disaster Memories in Museums and Disaster Recovery-Disaster Reduction Institute and 1995 Hanshin-Awaji Earthquake Recovery	17th World Conference on Earthquake Engineering	10a-009		○		4(2)	4(1)	過去の災害の記憶の継承に着目し、阪神・淡路大震災後に設置された人と防災未来センターの展示を中心に、災害の記憶継承における展示の特徴と課題を検討した。
Tamura, K., M. Inoguchi, K. Horie, R. Hamamoto and H. Hayashi	2018	Realization of Effective Team Management Collaborating between Cloud-based System and On-site Human Activities -A Case Study of Building Damage Inspection at 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake-	IEEE International Conference on Big Data2018		3554-3558	○		4(2)	4(1), 5(5)	安平町役場は145名の職員数(当時)であったが、北海道胆振東部地震時には、7,213棟の住家被害認定調査を、応援職員を含む合計1,128人の自治体職員により、概ね1週間で調査を終えた。安平町の5名の職員による事務局への技術的支援を通して、1)クラウドベースGISによる調査マネジメントツールの活用、2)システム活用の運用手順の確立、を実施し、成果を挙げた。検査結果に異議を唱えた住民はわずかであり、調査の質の確保にも一定の成果を得た。 本研究では、災害発生後の住家被害認定調査における大量人員の効果的な運用方策について、人間とICTの役割分担を明確化し、多数を迅速かつ正確に処理するという2つの相反する要求を満たすこととした。2018年北海道胆振東部地震の安平町において、標準的な運用手順を確立し、人間とICTのバランスのとれたチーム管理の方法論を言及し、計1,128人の応援職員を統括し、7,213棟の建物に対して22日間で調査完了を実現した。
Inoguchi, M., A. Imai and K. Tamura	2018	Possibility of Machine Learning and Classification for Tweeted Image Data to Understand Disaster Damage Situation - A Case Study of 2016 Kumamoto Earthquake -	International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC) 2018		4			4(2)	5(3)	近年、発災直後から災害に係る様々な画像がSNSに投稿される。本研究では、Twitterに投稿された画像から、被災状況の把握可能性について検証した。2016年熊本地震を事例として、投稿された5,684枚の画像から被害に関する写真を事前分類し、672枚の画像から「道路被害」「建物被害(屋外)」「室内被害」に分類する学習データを作成した。225枚の画像で検証した結果、80%以上の精度で被害が特定された。
Inoguchi, M., K. Tamura, K. Horie, R. Hamamoto and H. Hayashi	2018	Development of Effective Integrated System for Building Damage Inspection under Harmonious Collaboration between Human and ICT - A Case Study of 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake -	IEEE Big Data 2018		3503-3508	○		4(2)	5(4)	災害発生後、各自治体では住家の被害認定調査が実施されるが、品質管理や業務マネジメントに関する課題がある。本研究では、モバイル端末によるアプリの開発と実装により、現場の調査員の調査効率を向上させるとともに、事務局とリアルタイムに情報共有することで、効果的な業務マネジメントの実現を目指した。2018年北海道胆振東部地震の安平町において実装し、7200の被災家屋に対して1ヶ月で調査が完了し、その有用性が検証された。
Shishido, H., H. Kim and I. Kitahara	2019	Super Long Interval Time-Lapse Image Generation for Proactive Preservation of Cultural Heritage Using Crowdsourcing	The 3rd IEEE Workshop on Human-in-the-loop Methods and Human Machine Collaboration in BigData (IEEE HMDData 2019)		4632-4637	○		4(2)	5(4)	文化遺産を保存するための高度な分析手法を確立するために、本研究では、超長時間間隔でタイムラプス画像を生成する手法を提案します。クラウドソーシングを利用した画像収集手法と、50~100年前に撮影された文化遺産の画像と現在の画像とのマッチング精度を向上させる手法を実現した。観測時間が大きく異なる場合に、2つの画像間の対応点を取得できないことが難しいが、オートエンコーダとガイド付きマッチング法を適用することで解決した。
Toriya, H., A. Dewan and I. Kitahara	2020	Adaptive Image Scaling for Corresponding Points Matching between Images with Differing Spatial Resolutions	IEEE Workshop on Human-in-the-Loop Methods and Future of Work in BigData (IEEE HMDData)		8 pages	○		4(2)	5(4)	本研究では、異なるイメージングデバイスを使用して、画像間の画像レジストレーションの精度を向上させるための画像スケールリング法を提案した。具体的には、高解像度画像にダウンスケーリングすることにより、画像レジストレーションの幾何学的精度を向上させる方法を提案し、その精度を検証した。
Fulco, F., M. Inoguchi and T. Mikami	2018	Cyber-physical disaster drill: preliminary results and social challenges of the first attempts to unify Human, ICT and AI in disaster response	IEEE Big Data 2018		3494-3496	○		4(2)	5(5)	本研究では、CyborgCrowdをインストールすることを目的として、サイバーフィジカル災害時避難訓練を新潟県燕市で実証検証を行った。本検証では、人間による現場からの報告と、その結果の統合化、さらには、ドローンによる空撮と自動的な三次元モデルへの復元を機械処理によって実施するという人間と情報通信技術、人工知能を効果的に連携させた訓練を設計した。本訓練において、自治体および住民から一定の高い評価を得た。
Inoguchi, M., K. Tamura and R. Hamamoto	2019	Establishment of Work-Flow for Roof Damage Detection Utilizing Drones, Human and AI based on Human-in-the-Loop Framework	IEEE Big Data 2019		4618-4623	○		4(2)	5(5)	2019年山形沖地震では、村上市において多くの家が被災したが、その被害は屋根に集中していた。そこで本研究では、ドローンによる空撮と、その画像からオルソ画像を生成し、Webアプリケーションにて共有した。また、オルソ画像から屋根被害をAIで学習させ、AIによる判定制度を検証した。この中で、Human-in-the-Loopの枠組みに基づき人とAIの協働による業務実施手順を確立した。
Inoguchi, M., K. Tamura and T. Kadono	2019	Implementation of Integrated System with WBS Manager and Action Card Editor for Designing Disaster Response Plan	21st International Conference on Disaster and Emergency Management		1			4(2)	5(6)	災害対応業務は主体と対象、行動内容を具体化し、構造的に管理することが必要である。また、計画を実行に移すためには指示書として文書化する必要がある。本研究では、業務を具体的に構造的に管理するためのWBSマネージャと、計画を指示書に変換するアクションカードエディタを共通のデータベースを管理することで統合し、シームレスなシステム活用の流れを設計し、開発・実装した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
<b>5. 研究を推進するための体制の整備</b>										
<b>(1) 推進体制の整備</b>										
Ohkura, T. and K. Nogami	2020	Five-Year Achievements of Volcano Program Promotion Panel.	J. Disaster Res.	15	106-111	○	10.20965/jdr.2020.p0106	5(1)	2(4)イ, 2(5)	
<b>(2) 分野横断で取り組む総合的研究を推進する体制</b>										
<b>ア. 南海トラフ沿いの巨大地震</b>										
Fujiwara, O., K. Goto, R. Ando and E. Garrett	2020	Paleotsunami research along the Nankai Trough and Ryukyu Trench subduction zones ? Current achievements and future challenges.	Earth-Sci. Rev.	210		○	10.1016/j.earscirev.2020.103333	5(2)ア	1(3)	
Shibutani, T.	2020	General Research Group for the Nankai Trough Great Earthquake	J. Disaster Res.	15	165-173	○	10.20965/jdr.2020.p0165	5(2)ア		
<b>イ. 首都直下地震</b>										
<b>ウ. 千島海溝沿いの巨大地震</b>										
Inoue, M., Y. Tanioka and Y. Yamanaka	2019	Method for Near-Real Time Estimation of Tsunami Sources Using Ocean Bottom Pressure Sensor Network (S-Net)	Geosciences			○	10.3390/geosciences9070310	5(2)ウ	1(2)	
Takai, N., M. Shigefuji, J. Horita, S. Nomoto, T. Maeda, M. Ichiyonagi, H. Takahashi, H. Yamanaka, K. Chimoto, S. Tsuno, M. Korenaga and N. Yamada	2019	Cause of destructive strong ground motion within 122 s in Mukawa town during the 2018 Mw 6.6 Hokkaido eastern Iburu earthquake.	Earth Planet. Space	71	67	○	10.1186/s40623-019-1044-4	5(2)ウ	1(2)	
高井伸雄・重藤迪子	2019	2018年北海道胆振東部地震における強震動と被害の概要	地震ジャーナル	67	10-17			5(2)ウ	1(2)	
Ichiyonagi, M., V. Mikhaylov, D. Kostylev, Y. Levin and H. Takahashi	2020	Evaluation for hypocenter estimation error in the southwestern Kuril trench using Japan and Russia joint seismic data	Earth Planet. Space	72	86	○	10.1186/s40623-020-01215-0	5(2)ウ	1(2)	
Tanioka, Y.	2020	Improvement of near-field tsunami forecasting method using ocean-bottom pressure sensor network (S-net)	Earth Planet. Space	72	132	○	10.1186/s40623-020-01268-1	5(2)ウ	1(2)	Tanioka and Gusman (2018) で開発された震源域近傍の海底圧力観測データを同化する事で津波予測を実現する手法を高度化し、実際のS-net観測点配置で津波即時予測可能とした。また、北海道太平洋沖17世紀型巨大地震モデルや根室半島沖巨大地震モデルに適用し有効性を確かめた。
Susukida, Y., K. Katsumata, M. Ichiyonagi, M. Ohzono, H. Aoyama, R. Tanaka, M. Takada, T. Yamaguchi, K. Okada, H. Takahashi, S. Sakai, S. Matsumoto, T. Okada, T. Matsuzawa, H. Miyamachi, S. Hirano, Y. Yamanaka, S. Horikawa, M. Kosuga, H. Katao, Y. Iio, A. Nagaoka, N. Tsumura, T. Ueno and The Group for the Aftershock Observations of the 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake	2020	Focal mechanisms and the stress field in the aftershock area of the 2018 Hokkaido Eastern Iburu earthquake (MJMA=6.7)	Earth Planet. Space	73	1	○	10.1186/s40623-020-01323-x	5(2)ウ	1(2), 1(5)イ, 2(3)	
Katsumata, K. and Zhuang, J.	2020	A New Method for Imaging Seismic Quiescence and Its Application to the Mw=8.3 Kurile Islands Earthquake on 15 November 2006.	Pure Appl. Geophys.	177	3619-3630	○	10.1007/s00024-020-02498-w	5(2)ウ	1(2), 2(2)イ, 2(3)	
重藤迪子・高井伸雄・堀田淳・野本真吾・前田直浩・山中浩明・地元孝輔・津野靖士・是永将宏・山田伸之	2019	北海道むかわ町における単点微動観測	物理探査学会学術講演会講演論文集	140	89-91			5(2)ウ	1(2)	
<b>エ. 桜島大規模火山噴火</b>										
<b>オ. 高リスク小規模火山噴火</b>										
<b>(3) 研究基盤の開発・整備</b>										
<b>ア. 観測基盤の整備</b>										
阿部聡・菅原安宏・上村和彦・宮原伐折羅	2016	磁気圏2015.0年値の作成へ向けて	2016年CA研究会論文集	-	63-70			5(3)ア		
安藤久・千早昭二・菅原準・針間栄一朗・瀧修一・池田祐希・瀬川秀樹	2016	GNSS連続観測による口永良部島の地殻変動の監視	国土地理院時報	128	13-17			5(3)ア		
Fujiwara, S., H. Yari, T. Kobayashi, Y. Morishita, T. Nakano, B. Miyahara, H. Nakai, Y. Miura, H. Ueshiba, Y. Kakiage and H. Une	2016	Small-displacement linear surface ruptures of the 2016 Kumamoto earthquake sequence detected by ALOS-2 SAR interferometry	Earth Planet. Space	68		○	10.1186/s40623-016-0534-x	5(3)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
藤原智・矢来博司・小林知勝・森下遊・中埜貴元・宇根寛・宮原伐折羅・仲井博之・三浦優司・上芝晴香・攪上泰亮	2016	だいち2号干渉SARによる熊本地震で生じた小変位の地表断層群の抽出	国土地理院時報	128	147-162			5(3)ア		
小林知勝	2016	数値気象モデルを用いた干渉SARの大気遅延誤差の低減効果について～2015年桜島マグマ貫入イベントの解析を例に～	測地学会誌	62	79-88	○		5(3)ア		
三浦優司	2016	「だいち2号」を利用した宇宙からの地震・火山での地殻変動の把握	つくばサイエンス・アカデミー会報	30	16-17			5(3)ア		
三浦優司・宮原伐折羅・藤原智・矢来博司・小林知勝・森下遊・仲井博之・本田昌樹・上芝晴香・攪上泰亮	2016	だいち2号を活用した地震に伴う地殻変動の把握—地震予知連絡会SAR解析ワーキンググループの取組—	写真測量とリモートセンシング	55	178-182	○		5(3)ア		
Miyahara, B., Y. Miura, Y. Kakiage, H. Ueshiba, M. Honda, H. Nakai, T. I. Yamashita, Y. Morishita, T. Kobayashi and H. Yarai	2016	Detection of Ground Surface Deformation Caused by the 2016 Kumamoto Earthquake by InSAR using ALOS-2 Data	Bull. GSI	64	21-26			5(3)ア		
宮原伐折羅・松尾功二・黒石裕樹・宗包浩志	2016	光格子時計の測地学への活用における展望	光学	45	264-267			5(3)ア		
Morishita, Y., T. Kobayashi and H. Yarai	2016	Three-dimensional deformation mapping of a dike intrusion event in Sakurajima in 2015 by exploiting the right- and left-looking ALOS-2 InSAR	Geophys. Res. Lett.	43	4197-4204	○	10.1002/2016GL068293	5(3)ア		
佐々木利行・平岡喜文・重松宏実・矢萩智裕	2016	ジオイド・モデルの維持管理に関する研究開発（第2年次）	平成28年度調査研究年報	-	40-43			5(3)ア		
水藤尚	2016	GEONET 日々の座標値F3 解に基づく日本列島周辺のプレート境界面上の断層すべりの検知能力	測地学会誌	62	109-120	○	10.11366/sokuchi.62.109	5(3)ア		
高橋伸也・矢萩智裕	2016	地磁気時空間モデルを用いた磁気図作成とその公開についての検討	平成28年度調査研究年報	-	30-34			5(3)ア		
Takano, T., M. Takamoto, I. Ushijima, N. Ohmae, T. Akatsuka, A. Yamaguchi, Y. Kuroishi, H. Mune Kane, B. Miyahara and H. Katori	2016	Geopotential measurements with synchronously linked optical lattice clocks	Nat. Photonics	-	-	○		5(3)ア		
Tobita, M.	2016	Combined logarithmic and exponential function model for fitting postseismic GNSS time series after 2011 Tohoku-Oki earthquake	Earth Planet. Space	68	1-12	○	10.1186/s40623-016-0422-4	5(3)ア		
矢来博司・小林知勝・森下遊・山田晋也・三浦優司・和田弘人・仲井博之・山中雅之・攪上泰亮・上芝晴香	2016	だいち2号の干渉SARによる火山活動モニタリング	写真測量とリモートセンシング	55	6-11	○		5(3)ア		
吉田賢司・加藤知瑛・平岡喜文・矢萩智裕	2016	重力基準網の更なる高度化と基盤データの有効活用に関する調査	平成28年度調査研究年報	-	36-39			5(3)ア		
Fujiwara, S., Y. Morishita, T. Nakano, T. Kobayashi and H. Yarai	2017	Non-tectonic liquefaction-induced large surface displacements in the Aso Valley, Japan, caused by the 2016 Kumamoto earthquake, revealed by ALOS-2 SAR	Earth Planet. Sci. Lett.	474	457-465	○	10.1016/j.epsl.2017.07.001	5(3)ア		
Fujiwara, S., M. Murakami, T. Nishimura, M. Tobita, H. Yarai and T. Kobayashi	2017	Volcanic deformation of Atosanupuri volcanic complex in the Kussharo caldera, Japan, from 1993 to 2016 revealed by JERS-1, ALOS, and ALOS-2 radar interferometry	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-017-0662-y	5(3)ア		
平岡喜文・佐々木利行・小坂橋勝・矢萩智裕	2017	ジオイド・モデルの維持管理に関する研究開発（第3年次）	平成29年度調査研究年報	-	24-25			5(3)ア		
檜山洋平・川元智司・甲斐玲子・山口和典・高松直史・佐藤明日花・宮原伐折羅・三浦優司・山下達也・矢来博司・森下遊	2017	GEONET及びSAR干渉解析による鳥取県中部の地震に伴う地殻変動	国土地理院時報	129	33-41			5(3)ア		
仲井博之・三浦優司・山下達也・攪上泰亮・宮原伐折羅・島崎久美・菅富美男・小林知勝・中埜貴元・宇根寛・吉田一希・飯村元紀	2017	GEONET及びSAR干渉解析による茨城県北部の地震に伴う地殻変動と地表変形	国土地理院時報	129	159-167			5(3)ア		
大森秀一・加藤知瑛・平岡喜文・矢萩智裕	2017	重力基準網の更なる高度化と基盤データの有効活用に関する調査（第2年次）	平成29年度調査研究年報	-	26-27			5(3)ア		
佐藤明日花・三浦優司・中久喜智一・鈴木啓・三木原香乃・福岡順洋・畑中雄樹・辻宏道	2017	LTE信号の電波干渉によるGNSS観測への影響と対策	国土地理院時報	129	237-243			5(3)ア		
高橋伸也・菅原安宏・矢萩智裕・阿部聡	2017	磁気図2015.0年値の公表	2017年CA研究会論文集	-	49-56			5(3)ア		
高橋伸也・菅原安宏・芝公成・矢萩智裕	2017	地磁気時空間モデルの有効な利用方法の検討	平成29年度調査研究年報	-	28-31			5(3)ア		
本田昌樹・山下達也・上芝晴香・攪上泰亮・林京之介・桑原將旗・松本紗歩・仲井博之・酒井和紀・宮原伐折羅・宗包浩志・飛田幹男・矢来博司・小林知勝・森下遊・藤原智	2018	だいち2号SARデータの解析による霧島山噴火に伴う地表変動の検出	国土地理院時報	130	93-100			5(3)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kobayashi, T., Y. Morishita and H. Mune Kane	2018	First detection of precursory ground inflation of a small phreatic eruption by InSAR	Earth Planet. Sci. Lett.	491	244-254	○	10.1016/j.epsl.2018.03.041	5(3)ア		
Kobayashi, T.	2018	Locally distributed ground deformation in an area of potential phreatic eruption, Midagahara volcano, Jpana, detected by single-look-based InSAR time series analysis	J. Volcanol. Geotherm. Res.	357	213-223	○	10.1016/j.jvolgeores.2018.04.023	5(3)ア		
兒玉篤郎・富山頭・平岡喜文・矢萩智裕	2018	重力基準網の更なる高度化と基盤データの有効活用に関する調査(第3年次)	平成30年度調査研究年報	-	32-34			5(3)ア		
小坂橋勝・小島秀基・根本悟・宮原伐折羅・平岡喜文・矢萩智裕	2018	ジオイド・モデル「日本のジオイド2011」(Ver.2)の構築	国土地理院時報	130	1-7			5(3)ア		
宮原伐折羅・吉田賢司・山本宏章・松尾功二・宮崎隆幸・宗包浩志	2018	国土地理院の重力測定の展望-測定技術と重力基準の将来像-	国土地理院時報	131	95-108			5(3)ア		
森下遊・小林知勝	2018	ALOS-2干渉SAR時系列解析で検出された霧島山の地表変位と大気遅延誤差低減処理の効果	測地学会誌	64	28-38	○		5(3)ア		
大森秀一・吉樂絵里香・兒玉篤郎・富山頭・河和宏・平岡喜文・矢萩智裕	2018	精密重力ジオイド・モデル整備手法の調査・検討	平成30年度調査研究年報	-	28-31			5(3)ア		
菅原安宏・宮原伐折羅・吉田賢司・山本宏章・稲田洋一	2018	南極地域における国土地理院の重力測量-地球規模の重力場測定への貢献-	国土地理院時報	131	109-121			5(3)ア		
高橋伸也・菅原安宏・矢萩智裕	2018	偏角(予測値)計算手法の構築	2018年CA研究会論文集	-	24-31			5(3)ア		
高橋伸也・菅原安宏・松尾健一・矢萩智裕・阿都聡	2018	磁気図2015.0年値の作成	国土地理院時報	130	13-36			5(3)ア		
高橋伸也・吉藤浩之・高畑嘉之・矢萩智裕	2018	地磁気時空間モデルの効率的な更新手法の検討	平成30年度調査研究年報	-	36-39			5(3)ア		
Tamaribuchi, K.	2018	Evaluation of automatic hypocenter determination in the JMA unified catalog	Earth Planet. Space	70:141		○	10.1186/s40623-018-0915-4	5(3)ア		
富山頭・兒玉篤郎・大森秀一・平岡喜文・矢萩智裕	2018	石岡測地観測局における重力値の季節変動	平成30年度調査研究年報	-	40-41			5(3)ア		
矢萩智裕・吉田賢司・宮崎隆幸・平岡喜文・宮原伐折羅	2018	Construction of the Japan Gravity Standardization Net 2016 (日本重力基準網2016の構築)	Bull. GSI	66	49-58			5(3)ア		
矢萩智裕・吉田賢司・宮崎隆幸・平岡喜文・宮原伐折羅	2018	日本重力基準網2016の構築	測地学会誌	64	14-25	○	10.1038/nphoton.2016.159	5(3)ア		
矢萩智裕	2018	明治以来の標高の仕組みを大転換-いつでも・どこでも・誰でも信頼できる標高が使える社会へ-	第47回国土地理院報告会	-	講演6			5(3)ア		
山本宏章・宮原伐折羅・吉田賢司・菅原安宏・宮崎隆幸	2018	国土地理院の重力測量	国土地理院時報	131	21-52			5(3)ア		
山本宏章・宮原伐折羅・吉田賢司・菅原安宏・松尾功二・宮崎隆幸	2018	国土地理院の重力測定の歴史-観測技術と重力基準の変遷-	国土地理院時報	131	1-19			5(3)ア		
吉田賢司・矢萩智裕・平岡喜文・宮原伐折羅・山本宏章・宮崎隆幸	2018	日本重力基準網2016 (JGSN2016) の構築	国土地理院時報	131	53-93			5(3)ア		
浅野陽一	2019	日本周辺における浅部超低周波地震活動(2019年5月~10月)	地震予知連絡会会報	103	4-7			5(3)ア		
飯尾研人・大森秀一・吉樂絵里香・兒玉篤郎・富山頭・半田優実・栗原忍・越智久巳一・河和宏	2019	航空重力測定のデータ解析と精度評価	令和元年度調査研究年報	-	30-33			5(3)ア		
小林知勝・矢来博司・山田晋也	2019	平成30年北海道胆振東部地震の震源断層モデル	国土地理院時報	132	69-73			5(3)ア		
久保久彦・鈴木直・青井真・関口春子	2019	近地強震記録によって推定された2019年6月18日に山形県沖で発生した地震の震源過程	地震予知連絡会会報	103	73-77			5(3)ア		
大森秀一・吉樂絵里香・兒玉篤郎・富山頭・河和宏・矢萩智裕・小門研亮	2019	東京スカイツリーを利用した相対論的測地効果検証のための比高観測	令和元年度調査研究年報	-	36-38			5(3)ア		
澤崎郁	2019	2019年6月18日山形県沖の地震による高周波エネルギー輻射量	地震予知連絡会会報	103	70-72			5(3)ア		
澤崎郁	2019	連続地震計記録を用いた余震による最大振幅の予測について	地震予知連絡会会報	103	369-373			5(3)ア		
ヤノ エリザベス トモコ・松原誠	2019	Double-Difference法による2019年6月18日山形県沖の地震の震源分布	地震予知連絡会会報	103	78-80			5(3)ア		
Aoi, S., Y. Asano, T. Kunugi, T. Kimura, K. Uehira, N. Takahashi, H. Ueda, K. Shiomi, T. Matsumoto and H. Fujiwara	2020	MOWLAS: NIED observation network for earthquake, tsunami and volcano	Earth Planet. Space	72		○	10.1186/s40623-020-01250-x	5(3)ア		防災科研の陸海統合地震津波火山観測網(MOWLAS)は、平成7年(1995年)兵庫県南部地震及び平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の発生を契機に構築され、2017年11月より運用されている。MOWLASで取得されるリアルタイムデータは、地震学的研究のみならず、緊急地震速報、津波警報、地震工学、鉄道制御などにも活用され、社会実装が確実に進捗している。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
浅野陽一	2020	日本周辺における浅部超低周波地震活動 (2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	4-6			5(3)ア		
Kubo H., T. Kunugi, W. Suzuki, S. Suzuki and S. Aoi	2020	Hybrid predictor for ground-motion intensity with machine learning and conventional ground motion prediction equation	Sci. Rep.	10	11871	○	10.1038/s41598-020-68630-x	5(3)ア		
長町信吾・仰木淳平・島村哲也・藤井郁子	2020	2013年の女満別観測施設の庁舎一部解体撤去工事に伴う恒久的影響量の評価	地磁気観測所テクニカルレポート	16	9-29			5(3)ア		
西澤あずさ・田中佐千子・ヤノ エリザベストモコ・武田哲也・澤崎郁・木村武志・浅野陽一・鈴木亘・功刀卓・青井真	2020	2018年6月18日大阪府北部の地震	防災科学技術研究所 主要災害調査	54				5(3)ア		
青井真	2021	MOWLASをはじめとする地震観測の現状と展望		105	466-468			5(3)ア		
浅野陽一	2021	日本周辺における浅部超低周波地震活動 (2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	4-9			5(3)ア		
浅野陽一	in press	2021年2月13日福島県沖の地震 観測点補正值による震源再決定	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
浅野陽一	in press	2021年3月20日、5月1日宮城県沖の地震 観測点補正值による震源再決定	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
浅野陽一	in press	日本周辺における浅部超低周波地震活動 (2020年11月~2021年4月)	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
松原誠	in press	海域観測網を含めた三次元地震波速度構造により再決定した2021年2月13日福島県沖の地震の震源分布	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
松原誠	in press	海域観測網を含めた三次元地震波速度構造により再決定した2021年3月20日および5月1日の宮城県沖の地震の震源分布	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
澤崎郁	in press	2021年2月13日福島県沖の地震による高周波エネルギー輻射量	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
汐見勝彦	in press	東北地方太平洋沖における最近の地震活動	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
植平賢司・西澤あずさ・浅野陽一	in press	S-netデータにより求めた青森県東方沖の震源分布	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア		
Takagi, R., N. Uchida, T. Nakayama, R. Azuma, A. Ishigami, T. Okada, T. Nakamura and K. Shiomi	2019	Estimation of the orientations of the S-net cabled ocean bottom sensors	Seismol. Res. Lett.	90	2175-2187	○	10.1785/0220190093	5(3)ア	1(5)ア	S-netの地震計センサーは三成分の方向が未知であるため、そのままでは観測データを十分に活用できない。本論文では、観測データを利用してS-net全150観測点のセンサー設置姿勢・方位を推定し、三成分記録を活用できることを示した。本研究の結果は、最先端観測網のデータに対して多種の地震学的解析を可能にするものであり、今後の重要な研究資源となると考えられる。
Kobayashi, T.	2017	Earthquake rupture properties of the 2016 Kumamoto earthquake foreshocks (Mj 6.5 and Mj 6.4) revealed by conventional and multiple-aperture InSAR	Earth Planet. Space	69		○	10.1186/s40623-016-0594-y	5(3)ア	1(5)イ	
Kobayashi, T., H. Yarai, S. Kawamoto, Y. Morishita, S. Fujiwara and Y. Hiyama	2018	Crustal Deformation and Fault Models of the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence: Foreshocks and Main Shock	Internasional Association of Geodesy Symposia	149	193-200		10.1007/1345_2018_37	5(3)ア	1(5)イ	
Kobayashi, T., Y. Morishita and H. Yarai	2018	SAR-revealed slip partitioning on a bending fault plane for the 2014 Northern Nagano earthquake at the northern Itoigawa-Shizuoka tectonic line	Tectonophysics	733	85-99	○	10.1016/j.tecto.2017.12.001	5(3)ア	1(5)イ	
榎山洋平・川元智司・古屋智秋・甲斐玲子・山口和典・鈴木啓・菅富美男・嵯峨諭	2016	GEONETによる熊本地震に伴う地殻変動	国土地理院時報	128	163-168			5(3)ア	1(5)イ、5(3)イ	
木村武志	2019	西南日本における短期的スロースリップイベント (2019年5月~2019年10月)	地震予知連絡会会報	103	281-288			5(3)ア	5(2)ア	
松澤孝紀・田中佐千子・小原一成	2019	西南日本における深部低周波微動活動 (2019年5月~2019年10月)	地震予知連絡会会報	103	272-277			5(3)ア	5(2)ア	
上野友岳	2019	南海トラフ周辺における最近の傾斜変動 (2019年5月~2019年10月)	地震予知連絡会会報	103	237-247			5(3)ア	5(2)ア	
木村武志	2020	西南日本における短期的スロースリップイベント (2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	415-420			5(3)ア	5(2)ア	
松澤孝紀・田中佐千子・小原一成	2020	西南日本における深部低周波微動活動 (2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	388-392			5(3)ア	5(2)ア	
関口渉次・上野友岳	2020	南海トラフ周辺における最近の傾斜変動 (2019年11月~2020年4月)	地震予知連絡会会報	104	351-360			5(3)ア	5(2)ア	
木村武志	2021	西南日本における短期的スロースリップイベント (2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	414-419			5(3)ア	5(2)ア	
松澤孝紀・田中佐千子・小原一成	2021	西南日本における深部低周波微動活動 (2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	397-401			5(3)ア	5(2)ア	
関口渉次	2021	南海トラフ周辺における最近の傾斜変動 (2020年5月~2020年10月)	地震予知連絡会会報	105	351-367			5(3)ア	5(2)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
木村武志	in press	西南日本における短期的スロースリップイベント(2020年11月~2021年4月)	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア	5(2)ア	
松澤孝紀・田中佐千子・小原一成	in press	西南日本における深部低周波微動活動(2020年11月~2021年4月)	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア	5(2)ア	
太田和晃・松澤孝紀・汐見勝彦	in press	紀伊半島南東沖の微動活動(2020年12月~2021年1月)	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア	5(2)ア	
関口渉次	in press	南海トラフ周辺における最近の傾斜変動(2020年11月~2021年4月)	地震予知連絡会会報	106				5(3)ア	5(2)ア	
Kawamoto S., Y. Hiyama, R. Kai, F. Suga, K. Yamaguchi, T. Furuya, S. Abe and N. Takamatsu	2016	Crustal Deformation Caused by the 2016 Kumamoto Earthquake Revealed by GEONET	Bull. GSI	64	27-33			5(3)ア	5(3)イ	
有田真・大和田毅・室松富二男・徳本哲男・森永健司・大川隆志	2017	「女満別観測施設の付属施設及び宿舎の一部解体撤去工事」に伴う絶対観測点への恒久的な影響量について	地磁気観測所テクニカルレポート	14	1-18			5(3)ア	5(3)イ	
Tsuji, H., Y. Hatanaka, Y. Hiyama, K. Yamaguchi, T. Furuya, S. Kawamoto and Y. Fukuzaki	2017	Twenty-Year Successful Operation of GEONET	Bull. GSI	65	19-44			5(3)ア	5(3)イ	
辻宏道・畑中雄樹・檜山洋平・山口和典・古屋智秋・川元智司	2017	GEONET運用20年：課題と展望	国土地理院時報	129	85-111			5(3)ア	5(3)イ	
Tsuji H. and H. Hatanaka	2018	GEONET as Infrastructure for Disaster Mitigation	J. Disaster Res.	13	424-432	○	10.20965/jdr.2018.p0424	5(3)ア	5(3)イ	
田村孝・川元智司・三浦優司・阿部聡・真野宏邦・横川薫・塩谷俊治・浅谷将士・黒石裕樹	2019	GEONETによる平成30年北海道胆振東部地震に伴う地殻変動	国土地理院時報	132	63-68			5(3)ア	5(3)イ	
溜淵功史	2017	波形相関による自動震源分類の効率化	験震時報	81(6)	1-8	○		5(3)ア	5(3)エ	
海上保安庁	2017	下里水路観測所におけるSLR観測	地震予知連絡会会報	98	453			5(3)ア	5(5)	
海上保安庁	2018	下里水路観測所におけるSLR観測	地震予知連絡会会報	100	284			5(3)ア	5(5)	
海上保安庁	2019	下里水路観測所におけるSLR観測	地震予知連絡会会報	102	389			5(3)ア	5(5)	
海上保安庁	2020	下里水路観測所におけるSLR観測	地震予知連絡会会報	104	457			5(3)ア	5(5)	
国土地理院	2016	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	9-19			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	43-45			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	68-93			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	140-143			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	154-160			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	187-235			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	285-287			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	366-367			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	95	なし			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	8-23			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	56-59			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	75-93			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	128-131			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	144-163			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	191-233			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	北陸・中部地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	278-279			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	319-324			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	371-378			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	96	415-416			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2016	平成28年(2016年)熊本地震	地震予知連絡会会報	96	557-589			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	13-23			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	61-63			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	81-92			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	130-131			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	142-149			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	177-221			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	北陸・中部地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	261-262			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	279-282			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	375-396			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	97	454-477			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	8-18			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	35-37			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	62-85			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	133-142			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	159-167			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	197-241			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	北陸・中部地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	282-283			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	310-312			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	349-353			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2017	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	98	392-395			5(3)ア	5(3)イ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
国土地理院	2018	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	8-23			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	43-45			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	80-98			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	132-133			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	145-153			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	184-225			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	279-292			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	338-339			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	99	383-388			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	8-18			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	34-36			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	56-68			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	94-98			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	103-115			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	116-148			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	208-218			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	292-300			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2018	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	100	327-330			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	8-22			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	65-72			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	100-111			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	179-187			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	192-200			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	201-222			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	317-333			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	418-424			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	101	445-447			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	7-16			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	52-59			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	80-91			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	110-112			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	130-139			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	140-167			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	219-229			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	306-311			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2019	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	102	359-370			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	8-21			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	29-31			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	84-98			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	120-128			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	129-149			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	192-203			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	278-280			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	九州・沖縄地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	310-318			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	103	なし			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	7-21			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	37-41			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	63-81			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	145-147			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	149-165			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	166-196			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	277-309			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2020	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	104	393-414			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	日本全国の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	7-36			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	北海道地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	45-51			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	東北地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	68-89			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	関東甲信地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	150-152			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	伊豆地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	153-167			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	東海地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	168-198			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	近畿地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	272-311			5(3)ア	5(3)イ	
国土地理院	2021	中国・四国地方の地殻変動	地震予知連絡会会報	105	402-413			5(3)ア	5(3)イ	
Fujiwara, S., H. Yurai, T. Kobayashi, Y. Morishita, T. Nakano, B. Miyahara, H. Nakai, Y. Miura, H. Ueshiba, Y. Kakiage and H. Une	2017	Small displacement surface linear ruptures of the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence detected by ALOS-2 SAR interferometry	Proc. 11th UJNR 2016		33-34		10.3133/ofr201711133	5(3)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
Kobayashi, T., H. Yarai, Y. Morishita, S. Kawamoto, S. Fujiwara and T. Nakano	2017	Detailed ground surface displacement and fault ruptures of the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence revealed by SAR and GNSS data	Proc. 11th UJNR 2016		31-32		10.3133/oft20171133	5(3)ア		
Kobayashi, T.	2017	Earthquake Rupture Properties of the 2016 Kumamoto Earthquake Foreshocks (Mj 6.5 and Mj 6.4) Revealed by Conventional and Multiple-aperture InSAR	Proc. 11th UJNR 2016		131-132		10.3133/oft20171133	5(3)ア		
高橋伸也・吉藤浩之・山口智也・越智久巳	2020	予測値計算手法の構築と精度評価	2020年CA研究会論文集	-	83			5(3)ア		
覆上泰亮・吉藤浩之・山口智也・越智久巳	2021	国土地理院による地磁気観測の現状	2021年CA研究会論文集	-	59-63			5(3)ア		
Kobayashi, T.	2018	InSAR-detected local ground deformation in potential areas of phreatic eruption: Way forward to proactive monitoring for disaster risk mitigation	proceeding of 13th SEGJ Information Symposium		186-189		10.1190/SEGJ2018-050.1	5(3)ア	5(5)	
松尾功二・宮崎隆幸・黒石裕樹	2016	Development of a new gravitational geoid model for Japan (日本の新たな重力ジオイド・モデルの開発)	FIG Working Week 2016(2016年国際測量者連盟ワーキングウィーク)	-	-			5(3)ア		
松尾功二・宮崎隆幸・宮原伐折羅・黒石裕樹	2016	日本の精密重力ジオイド・モデルの開発(その2)	日本測地学会第126回講演会予稿集	126	27-28			5(3)ア		
宮原伐折羅・松尾功二・黒石裕樹・宗包浩志	2016	Perspective on utilization of optical lattice clock for geodesy (光格子時計の測地学への活用の展望)	ERATO International Workshop	-	-			5(3)ア		
宮崎隆幸	2016	How to make old and dense gravity data consistent with the latest gravity data? --Example in Japan--	AGU Fall Meeting 2016 (アメリカ地球物理学連合大会)	-	-			5(3)ア		
高橋伸也・菅原安宏・矢萩智裕・阿部聡	2016	「磁気図2015.0年値」の公表について	第140回地球電磁気・地球惑星圏学会	-	-			5(3)ア		
加藤知瑛・吉田賢司・平岡喜文・矢萩智裕	2017	石岡測地観測局における絶対重力計の国内比較観測の実施及び日本重力基準網2016(JGSN2016)の構築	日本地球惑星科学連合2017年大会予稿集	-	SGD02-05			5(3)ア		
小林知勝	2017	だいち2号が捉えた熊本地震の地殻変動	土木学会地震工学委員会2016年熊本地震被害調査報告書	-	-			5(3)ア		
宗包浩志	2017	光格子時計の測地学における活用の展望	SATテクノロジー・ショーケース2017	-	-			5(3)ア		
矢萩智裕・吉田賢司・平岡喜文・加藤知瑛	2017	石岡測地観測局における絶対重力計の国内比較観測の実施及び日本重力基準網2016(JGSN2016)の構築	日本地球惑星科学連合2017年大会予稿集	-	SGD01-P09			5(3)ア		
吉田賢司・矢萩智裕・平岡喜文・加藤知瑛	2017	Establishment of the new Japan Gravity Standardization Network (JGSN) 2016 (日本重力基準網の構築)	IAG-IASPEI 2017年大会: Scientific Assembly of the International Association of Geodesy and the International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior	-	-			5(3)ア		
平岡喜文・矢萩智裕・松尾功二・大森秀一	2018	日本での航空重力測量実現に向けた国土地理院の取組み	日本地球惑星科学連合2018年大会予稿集	-	SGD01-12			5(3)ア		
兒玉篤郎・富山頭・吉樂絵里香・矢萩智裕・平岡喜文・河和宏・大森秀一	2018	航空重力測量実施に向けた地上重力検定線の設置	日本測地学会第130回講演会要旨集	-	-			5(3)ア		
宮崎隆幸	2018	過去の稠密重力データの日本重力基準網2016への整合手法の高度化	日本地球惑星科学連合2018年大会予稿集	-	SGD01-05			5(3)ア		
大森秀一・矢萩智裕・平岡喜文・吉樂絵里香	2018	航空重力測量実施に向けた飛行計画の設計	日本測地学会第130回講演会要旨集	-	-			5(3)ア		
大森秀一・平岡喜文・矢萩智裕・加藤知瑛・吉田賢司	2018	石岡測地観測局における重力値の水平勾配の評価	日本地球惑星科学連合2018年大会予稿集	-	SGD01-10			5(3)ア		
矢萩智裕・平岡喜文・大森秀一・兒玉篤郎・富山頭・吉樂絵里香・河和宏・松尾功二	2018	Launch of an airborne survey project towards the new geoid-based vertical datum in Japan (ジオイド基準の新たな日本の標高体系構築に向けた航空重力測量プロジェクトの始動)	the AGU 2018 Fall Meeting (アメリカ地球物理学連合2018秋季会合)	-	-			5(3)ア		
矢萩智裕・平岡喜文・大森秀一・宮原伐折羅・黒石裕樹	2018	国土地理院のジオイド・モデルの変遷	日本地球惑星科学連合2018年大会予稿集	-	SGD01-P07			5(3)ア		
兒玉篤郎・富山頭・大森秀一・吉樂絵里香・矢萩智裕・平岡喜文・河和宏	2019	精密重力ジオイド構築に向けた航空重力測量の取組み	日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集	-	SGD01-10			5(3)ア		
富山頭・兒玉篤郎・大森秀一・平岡喜文・矢萩智裕	2019	石岡測地観測局における重力値の季節変動	日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集	-	SGD01-01			5(3)ア		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明
矢萩智裕・小門研亮・大森秀一・吉樂絵里香・兒玉篤郎・河和宏・高本将男・牛島一郎・大前直昭・香取秀俊	2019	東京スカイツリーを利用した相対論的測地効果の検証	日本測地学会第132回講演会要旨集	-	-			5(3)ア		
矢萩智裕・小門研亮・吉田賢司・豊福隆史・岩田昭雄・宮原伐折羅	2019	地殻変動補正と精密重力ジオイドが導く高精度3次元測位社会の未来	日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集	-	SGD02-01			5(3)ア		
半田優実・富山頭・兒玉篤郎・栗原忍・越智久巳一・大森秀一	2020	相対重力計CG-5を用いた重力鉛直勾配測定	日本地球惑星科学連合2020年大会予稿集	-	SGD02-P04			5(3)ア		
飯尾研人・吉樂絵里香・大森秀一・栗原忍・越智久巳一・矢萩智裕・河和宏・松尾功二・兒玉篤郎・富山頭・半田優実	2020	航空重力測量における解析手法の検討	日本地球惑星科学連合2020年大会予稿集	-	SGD02-05			5(3)ア		
Kurihara, S., M. Nakashima, T. Kodama, K. Iio, S. Ohmori, M. Handa, E. Kichiraku, K. Matsuo, H. Kawawa and K. Ochi	2020	The Airborne Gravity Survey for Development of a New Precise Gravimetric Geoid Model in Japan	AGU Fall Meeting 2020	-	-			5(3)ア		
<b>イ. 観測・解析技術の開発</b>										
青山裕・吉本充宏	2016	広域地震観測網を用いた泥流検知手法の試験及び評価	研究紀要 (XXVII)	27	3-14	○		5(3)イ		
Munekane, H., J. Oikawa and T. Kobayashi	2016	Mechanisms of step-like tilt changes and very long period seismic signals during the 2000 Miyakejima eruption: Insights from Kinematic GPS	J. Geophys. Res.: Solid Earth	121	2932-2946	○	10.1002/2016JB012795	5(3)イ		
早川智也・石田時代・橋本武志・吉本充宏	2017	有珠山における小型無人ヘリを利用した火山調査技術-産官学連携による建設ロボットを活用した調査技術の開発-	建設機械	53	1-8			5(3)イ		
宗包浩志	2017	電子基準点精密単独測位キネマティック解析プロトタイプシステムの構築	国土地理院時報	129	1-9			5(3)イ		
Munekane, H.	2018	A GNSS Kinematic Analysis System for Japanese GEONET Stations	J. Disaster Res.	13	433-439	○		5(3)イ		
宗包浩志	2018	キネマティックGNSS時系列に含まれる微小信号の抽出	測地学会誌	64	1-11	○		5(3)イ		
Oláh, L., H.K.M. Tanaka, T. Ohminato and D. Varga	2018	High-definition and low-noise muography of the Sakurajima volcano with gaseous tracking detectors	Sci. Rep.	8	3207	○	10.1038/s41598-018-21423-9	5(3)イ		
本多亮・柳澤孝一・田中俊行・浅井康広	2019	重力変化で捉える既知の水理地質構造中の地下水流動-岐阜県東濃地域における長期水圧低下を例として-	物理探査	72	34-48	○	10.3124/s.egj.72.34	5(3)イ		
Oláh, L., H.K.M. Tanaka, T. Ohminato, G. Hamar and D. Varga	2019	Plug Formation Imaged Beneath the Active Craters of Sakurajima Volcano With Muography	Geophys. Res. Lett.	46	10417-10424	○	10.1029/2019GL084784	5(3)イ		
Tsutsui, T., Y. Hirayama, T. Ikeda, K. Takeuchi and H. Ando	2019	Feasibility Study on a Multi-Channelled Seismometer System with Phase-Shifted Optical Interferometry for Volcanological Observations	J. Disaster Res.	14	592-603	○	10.20965/jdr.2019.p0592	5(3)イ		光ファイバによって伝達されたレーザー光によって振り子の変位を検出する地震計のフェージビリティスタディを行い、この地震計システムが火山観測に使用できる可能性があることを確認した。
Gocho, M., S. Kojima, and H. Yamada	2020	Limitation of parallel assumption in repeat-pass InSAR using nonparallel orbits	IEICE Communications Express (ComEX)	Vol. X9-B, No. 12	586-592	○		5(3)イ		
牛脇正則・児島正一郎・山田寛喜	2020	ESPRIT-TomoSAR を用いたマルチベースライン航空機SAR データの三次元イメージング	電子情報通信学会和文論文誌	Vol. J103-B, No. 8	321-331	○		5(3)イ		本研究では、マルチベースラインによる地表面の高精度な高度計測法を提案し、その精度評価を実施して、実用レベルで地表面の構造物の3次元計測ができることを明らかにした。
Nomura, Y., M. Nemoto, N. Hayashi, S. Hanaoka, M. Murata, T. Yoshikawa, Y. Masutani, E. Maeda, O. Abe and H.K.M. Tanaka	2020	Pilot study of eruption forecasting with muography using convolutional neural network	Sci. Rep.	10	5272	○	10.1038/s41598-020-62342-y	5(3)イ		
棚田嘉博・井口正人・筒井智樹	2020	地中多重符号化ソナーのための有限長系列の構成(回路とシステム)	電子情報通信学会技術研究報告	119	125-130			5(3)イ		
Tanaka, H.K.M.	2020	Development of the muographic tephra deposit monitoring system	Sci. Rep.	10	14820	○	10.1038/s41598-020-71902-1	5(3)イ		
内山高	2020	富士火山北麓および富士五湖の水文地質構造と水文学的特徴	地質学雑誌	129	697-725	○	10.5026/jgeography.129.697	5(3)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Uemoto, J.	2020	Refinement of interferometric SAR parameters using digital terrain model as an external reference	ISPRS J. Photogramm. Remote Sens.	Vol. 175	34-43	○	10.1016/j.isprsjprs.2021.02.017	5(3)イ		
篠原雅尚	2019	海底における地震・津波・地殻変動のモニタリングー海底ケーブルネットワークー	海洋調査技術	31	11-16	○		5(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(3)イ, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア	
篠原雅尚	2020	海域地震・地殻変動観測の将来像	第228回地震予知連絡会会報					5(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(3)イ, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア	
Fukao, Y., H. Sugioka, A. Ito, H. Shiobara, J.M. Paros and R. Furue	2016	Sensing of upslope passages of frontal bores across the trench slope break of the Japan Trench	J. Geophys. Res.: Oceans	121		○	10.1002/2015JC011432	5(3)イ	1(3)ア	
Sandanbata, O., S. Watada, K. Satake, Y. Fukao, H. Sugioka, A. Ito and H. Shiobara	2017	Ray tracing for dispersive tsunamis and source amplitude estimation based on Green's law: Application to the 2015 volcanic tsunami earthquake near Torishima, South of Japan	Pure Appl. Geophys.			○	10.1007/s00024-017-1746-0	5(3)イ	1(3)ア	
Tonegawa, T., Y. Fukao, H. Shiobara, H. Sugioka, A. Ito and M. Yamashita	2017	Excitation Location and Seasonal Variation of Transoceanic Infragravity Waves Observed at an Absolute Pressure Gauge Array	J. Geophys. Res.: Oceans	122		○	10.1002/2017JC013488	5(3)イ	1(3)ア	
Fukao, Y., O. Sandanbata, H. Sugioka, A. Ito, H. Shiobara, S. Watada and K. Satake	2018	Mechanism of the 2015 volcanic tsunami earthquake near Torishima, Japan	Sci. Adv.			○	10.1126/sciadv.aao0219	5(3)イ	1(3)ア	
Suetsugu, D., H. Shiobara, H. Sugioka, N. Tada, A. Ito, T. Isse, K. Baba, H. Ichihara, T. Ota, Y. Ishihara, S. Tanaka, M. Obayashi, T. Tonegawa, J. Yoshimitsu, T. Kobayashi and H. Utada	2018	The OJP array: seismological and electromagnetic observation on seafloor and islands in the Ontong Java Plateau	JAMSTEC Rep. Res. Dev.	26	54-64	○	10.5918/jamstecr.26.54	5(3)イ	1(3)ア	
Fukao, Y., T. Miyama, Y. Tono, H. Sugioka, A. Ito, H. Shiobara, M. Yamashita, S. Varlamov, R. Furue and Y. Miyazawa	2019	Detection of Ocean Internal Tide Source Oscillations on the Slope of Aogashima Island, Japan	J. Geophys. Res.: Oceans	124	4918-4933	○	10.1029/2019JC014997	5(3)イ	1(3)ア	
Shiobara, H., A. Ito, H. Sugioka, M. Shinohara and T. Sato	2020	Tilt observations at the seafloor by mobile ocean bottom seismometers	Front. Earth Sci.	8	1-13	○	10.3389/feart.2020.5998102021	5(3)イ	1(3)ア	
塩原肇・杉岡裕子・太田豊宣・大西信人	2020	自律型新方式海底地震計の開発試験に向けたー深海用小型ビデオカメラの開発	東京大学地震研究所技術研究報告	26	1-9	○		5(3)イ	1(3)ア	
末次大輔・塩原肇	2020	日本の広帯域海底地震学	地震2	73	37-63	○	10.4294/zisin.2019-6	5(3)イ	1(3)ア	
新谷昌人・篠原雅尚・山田知朗・石原文実・金沢敏彦・藤本博己・月岡哲・大美英忍・飯笹幸吉	2016	海底鉱床探査のための移動体搭載型重力偏差計の開発	海洋調査技術	28	29-32			5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2016	光ファイバーネットワークを用いた地震・津波・地殻変動の計測技術に関する研究	東北大学電気通信研究所研究活動報告	22	241-243			5(3)イ	1(4)ア	
Nagornyi, V.D., S. Svitlov and A. Araya	2016	Improving absolute gravity estimates by the Lp-norm approximation of the ballistic trajectory	Metrologia	53	754-761	○		5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2017	光ファイバーネットワークを用いた地震・津波・地殻変動の計測技術に関する研究	東北大学電気通信研究所研究活動報告	23	202-204			5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2018	ファイバーネットワークを用いた地震・津波・地殻変動の計測技術に関する研究	東北大学電気通信研究所研究活動報告	24	129-131			5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2019	光ファイバーネットワークを用いた火山活動監視のための重力計測技術に関する研究	東北大学電気通信研究所研究活動報告	25	285-287			5(3)イ	1(4)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kimura, M., N. Kame, S. Watada, M. Ohtani, A. Araya, Y. Imanishi, M. Ando and T. Kunugi	2019	Reply to comment by Vallee et al. on "Earthquake-induced prompt gravity signals identified in dense array data in Japan"	Earth Planet. Space	71	120	○	10.1186/s40623-019-1099-2	5(3)イ	1(4)ア	
Araya, A., K. Kasai, M. Yoshida, M. Nakazawa and T. Tsubokawa	2020	Evaluation of systematic errors in the compact absolute gravimeter TAG-1 for network monitoring of volcanic activities	Internasional Association of Geodesy Symposia		1-7	○	10.1007/1345_2020_107	5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2020	重力加速度計測による地殻変動・火山活動観測技術	電子情報通信学会誌	103	938-944			5(3)イ	1(4)ア	
新谷昌人	2020	光ファイバーネットワークを用いた火山活動監視のための重力計測技術に関する研究	東北大学電気通信研究所研究活動報告	26	205-207			5(3)イ	1(4)ア	
Maeda, Y., Y. Yamanaka, T. Ito and S. Horikawa	2021	Machine-learning-based detection of volcano seismicity using the spatial pattern of amplitudes	Geophys. J. Int.	225	416-444	○	10.1093/gji/ggaa593	5(3)イ	1(4)ア	
川畑亮二・宗包浩志	2020	MCMC法を用いた震源断層及びすべり分布モデル推定のためのプロトタイププログラムの開発	国土地理院時報	134				5(3)イ	1(5)イ, 3(2)ア	
Ishikawa, T. and Y. Yokota	2018	Detection of Seafloor Movement in Subduction Zones Around Japan Using a GNSS-A Seafloor Geodetic Observation System from 2013 to 2016	J. Disaster Res.	13	511	○	10.20965/jdr.2018.p0511	5(3)イ	2(1)ア	
Yokota, Y., T. Ishikawa and S. Watanabe	2018	Seafloor crustal deformation data along the subduction zones around Japan obtained by GNSS-A observations	Scientific Data	5	180182	○	10.1038/sdata.2018.182	5(3)イ	2(1)ア	
Yokota, Y., T. Ishikawa and S. Watanabe	2019	Gradient field of undersea sound speed structure extracted from the GNSS-A oceanography	Mar. Geophys. Res.	40	493	○	10.1007/s11001-018-9362-7	5(3)イ	2(1)ア	
Yokota, Y. and T. Ishikawa	2019	Gradient field of undersea sound speed structure extracted from the GNSS-A oceanography: GNSS-A as a sensor for detecting sound speed gradient	SN Appl. Sci.	1	693	○	10.1007/s42452-019-0699-6	5(3)イ	2(1)ア	
藤田雅之・松本良浩・佐藤まりこ・石川直史・渡邊俊一・横田裕輔	2020	定常的なGNSS-A海底地殻変動観測の確立と地震学への貢献	地震2	74	56	○		5(3)イ	2(1)ア	
Ishikawa, T., Y. Yokota, S. Watanabe and Y. Nakamura	2020	History of On-Board Equipment Improvement for GNSS-A Observation With Focus on Observation Frequency	Front. Earth Sci.	8	150	○	10.3389/feart.2020.00150	5(3)イ	2(1)ア	
Kasahara, J., K. Tsuruga, Y. Hasada, T. Kunitomo, R. Ikuta, T. Watanabe, K. Yamaoka and N. Fujii	2020	Chapter 5.6 - Time-lapse approach to detect possible preslip associated with the Nankai Trough mega-earthquake by monitoring the temporal change of the strong seismic reflector at the subducting Philippine Sea Plate	Active Geophysical Monitoring (Second Edition)		425-439	○	10.1016/B978-0-08-102684-7.00020-0	5(3)イ	2(1)ア	
Kasahara, J., S. Ito, Y. Hasada, K. Tsuruga, R. Ikuta, N. Fujii, K. Yamaoka and K. Ito	2020	Chapter 5.9 - Time-lapse imaging of air injection using the ultrastable ACROSS seismic source and reverse-time imaging method	Active Geophysical Monitoring (Second Edition)		477-493	○	10.1016/B978-0-08-102684-7.00023-6	5(3)イ	2(1)ア	
Machida, Y., S. Nishida, T. Kimura and E. Araki	2020	Mobile pressure calibrator for the development of submarine geodetic monitoring systems	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125		○	10.1029/2020JB020284	5(3)イ	2(1)ア	
Matsumoto, H. and E. Araki	2020	Drift Characteristics of DONET Pressure Sensors Determined From In-Situ and Experimental Measurements	Front. Earth Sci.			○	10.3389/feart.2020.000966	5(3)イ	2(1)ア	
Matsumoto, H., E. Araki, T. Kimura, G. Fujie, K. Shiraishi, T. Tonegawa, K. Obana, R. Arai, Y. Kaiho, Y. Nakamura, T. Yokobiki, S. Kodaira, N. Takahashi, R. Ellwood, V. Yartsev and M. Karrenbach	2020	Detection of hydroacoustic signals on a fiber-optic submarine cable	Sci. Rep.	11		○	10.1038/s41598-021-82093-8	5(3)イ	2(1)ア	分散型音響センシング (DAS: Distributed Acoustic Sensing) 技術により、光ファイバ海底ケーブルを利用して、エアガンによる人工震源からの水中音波の観測と解析を行った。DASにより、ハイドロフォンと等価な波形が観測されること、また10kmにわたりコヒーレントな水中音波を明瞭に観測できることが明らかとなった。さらに陸上から50kmまで脈動が連続的に観測されることから、DASは微小の水中音波を検知できることが期待できる。
Nagao, H., T. Nakajima and T. Kunitomo	2020	Chapter 5.3 - Stacking strategy for acquisition of an Accurately Controlled Routinely Operated Signal System transfer function	Active Geophysical Monitoring (Second Edition)		373-388	○	10.1016/B978-0-08-102684-7.00017-0	5(3)イ	2(1)ア	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Nakajima, T., T. Kunitomo, H. Nagao and N. Shigeta	2020	Chapter 3.1 - Electromagnetic-accurately controlled routinely operated signal system and corresponding tensor transfer functions in diffusion field region	Active Geophysical Monitoring (Second Edition)		167-181	○	10.1016/B978-0-08-102684-7.00008-X	5(3)イ	2(1)ア	
Nakamura, Y., Y. Yokota, T. Ishikawa and S. Watanabe	2020	Optimal Transponder Array and Survey Line Configurations for GNSS-A Observation Evaluated by Numerical Simulation	Front. Earth Sci.	9	600993	○	10.3389/feart.2021.600993	5(3)イ	2(1)ア	
Watanabe, S., T. Ishikawa, Y. Yokota and Y. Nakamura	2020	GARPOS: Analysis Software for the GNSS-A Seafloor Positioning With Simultaneous Estimation of Sound Speed Structure	Front. Earth Sci.	8	597532	○	10.3389/feart.2020.597532	5(3)イ	2(1)ア	
渡邊俊一・横田裕輔・石川直史	2020	キネマティック精密単独測位を用いたGNSS-A海底測位の精度検証	測地学会誌	66	1	○	10.11366/sokuchi.66.1	5(3)イ	2(1)ア	
Yokota, Y., T. Ishikawa, S. Watanabe and Y. Nakamura	2020	Kilometer-Scale Sound Speed Structure That Affects GNSS-A Observation: Case Study off the Kii Channel	Front. Earth Sci.	8	331	○	10.3389/feart.2020.00331	5(3)イ	2(1)ア	
Yoshida, Y., A. Katsumata and T. Kunitomo	2020	Chapter 5.2 - Characteristics of ACROSS signals from transmitting stations in the Tokai area and observed by Hi-net	Active Geophysical Monitoring (Second Edition)		353-371	○	10.1016/B978-0-08-102684-7.00016-9	5(3)イ	2(1)ア	
Yokota, Y. and T. Ishikawa	2020	Shallow slow slip events along the Nankai Trough detected by GNSS-A	Sci. Adv.	6	eaay2786	○	10.1126/sciadv.aay5786	5(3)イ	2(2)ア	GNSS-A海底地殻変動観測のデータを統計的に検定した結果、南海トラフプレート境界浅部におけるスロースリップ発生の可能性を示唆する非定常変動の検出に成功した。
川元智司・榎山洋平・古屋智秋・佐藤雄大・太田雄策・西村卓也・等々力賢	2016	電子基準点リアルタイム解析システム (REGARD) プロトタイプの開発	国土地理院時報	128	55-66			5(3)イ	3(2)ア	
Kawamoto, S., Y. Ohta, Y. Hiyama, M. Todoriki, T. Nishimura, T. Furuya, Y. Sato, T. Yahagi and K. Miyagawa	2017	REGARD: A new GNSS-based real-time finite fault modeling system for GEONET	J. Geophys. Res.: Solid Earth	122	1324-1349	○	10.1002/2016JB013485	5(3)イ	3(2)ア	
Kawamoto, S., N. Takamatsu, S. Abe, K. Miyagawa, Y. Ohta, M. Todoriki and T. Nishimura	2018	Real-time GNSS analysis system REGARD: an overview and recent results	J. Disaster Res.	13	440-452	○	10.20965/jdr.2018	5(3)イ	3(2)ア	
中川弘之・宮原伐折羅・宗浩浩志	2020	精密単独測位 (PPP-AR) を用いた GNSS 定常解析システムの開発	国土地理院時報	133	77-86			5(3)イ	3(2)ア	
Furuya, M., K. Fukui, H. Iida, S. Kojima and T. Matsuoka	2017	Experimental Observations of Two Mountain Glaciers on the Eastern Slope of Mt. Tsurugi by Pi-SAR2 Airborne SAR	Bull. Glaciol. Res.	35	7-17	○	10.5331/bgr.16R04	5(3)イ	3(2)ウ	
Narita, S. and M. Murakami	2018	Shallow hydrothermal reservoir inferred from post-eruptive deflation at Ontake Volcano as revealed by PALSAR-2 InSAR	Earth Planet. Space	70	191	○		5(3)イ	3(2)ウ	
川元智司	2017	GNSSのGGOSへの貢献と今後の展望	測地学会誌	63	81-94	○		5(3)イ	5(3)ア	
上本純平・梅原広明	2020	MRFモデルを用いたSARインターフェログラム上のフットプリント同定に関する検討	日本リモートセンシング学会第69回学術講演会論文集		61-62	○		5(3)イ		
Shinohara, M., T. Yamada, T. Akuhara, K. Mochizuki, S. Sakai, T. Kasajima, T. Arioka, M. Hamakawa and S. Kubota	2019	Distributed Acoustic Sensing measurement by using seafloor optical fiber cable system off Sanriku for seismic observation	OCEANS 2019 Seattle			○	10.23919/OCEANS40490.2019.8962757	5(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(3)イ, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア	
Shinohara, M., T. Yamada, S. Sakai, H. Shiobara and T. Kanazawa	2016	Development and installation of new seafloor cabled seismic and tsunami observation system using ICT	OCEANS 2016 MTS/IEEE Monterey		1-4	○	10.1109/OCEANS.2016.7761350	5(3)イ	1(3)ア	
Shinohara, M., T. Yamada, H. Shiobara and Y. Yamashita	2018	Development and Evaluation of Compact Long-term Broadband Ocean Bottom Seismometer	2018 OCEANS-MTS/IEEE Kobe Techno-Oceans (OTO)		1-4	○	10.1109/OCEANSKOB.2018.8559338	5(3)イ	1(3)ア	
Kawamoto, S., B. Miyahara, Y. Hiyama, Y. Sato, T. Furuya, Y. Ohta, T. Noshimura and M. Todoriki	2016	Real-time GNSS positioning system REGARD for rapid earthquake moment estimates	Proceedings of FIG 2016					5(3)イ	3(2)ア	
Arima, Y., S. Kojima, J. Uemoto, and T. Konno	2020	Semi-supervised Land Cover Classification Using Pi-SAR2 Observation Data	IEEE Geoscience and Remote Sensing Symposium		2755-2758	○		5(3)イ		本研究では、Pi-SAR2の画像データから土地被覆分類を推定するための深層学習をベースにした解析法を提案し、その精度評価を行い、実用レベルで土地被覆分類ができることを明らかにした。
牛腸正則・山田寛喜・児島正一郎	2020	航空機SARを用いた地表三次元イメージング-地表構造物の分離抽出に関する基礎検討-	電子情報通信学会信越支部大会	3E-2	82	○		5(3)イ		
Gocho, M., H. Yamada	2020	A Proposal for Sparse Deconvolution using ISTA with Low Computational Complexity	International Conference on Emerging Technologies for Communications		61-3	○		5(3)イ		
牛腸正則・山田寛喜	2020	AWGN下におけるISTA再構成の正則化パラメータ最適値に関する一考察	電子情報通信学会ソサイエティ大会	B-1-127	127	○		5(3)イ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Kojima, S., J. Uemoto, Y. Arima, M. Gocho, H. Igawa, and H. Murayama	2020	Next generation polarimetric and interferometric airborne X-band SAR (Pi-SAR X3)	日本地球惑星科学連合 (JpGU)			○		5(3)イ		本研究では、土地利用、森林破壊、海洋油汚染、海洋波浪等、地球環境に関するメカニズムを解明するための研究や地震、津波、火山噴火、洪水等の自然災害における被災状況把握のための研究を実施するために必要となる次世代航空機搭載合成開口レーダーの機能・性能について検討した結果を報告する。
篠原雅尚・山田知朗・悪原岳・望月公廣・酒井慎一	2020	DAS計測技術による三陸沖光ケーブル観測システムを用いた海底地震観測	ワークショップ：海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望-第3回-					5(3)イ	1(2), 1(3)ア, 1(3)イ, 1(5)ア, 2(1)ア, 2(2)ア	
<b>ウ. 地震・火山現象のデータ流通</b>										
中川茂樹・加藤愛太郎	2020	WINフォーマットデータをObsPyで読み込む新しいモジュール	東京大学地震研究所技術研究報告	26	31-36	○		5(3)ウ	5(3)ア	
<b>エ. 地震・火山現象のデータベースの構築と利活用・公開</b>										
榑原京子・堤浩之	2016	1:25,000 都市圏活断層図 菊川断層帯とその周辺「下関北部」「宇部」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 755		1-16			5(3)エ		
熊原康博	2016	1:25,000 都市圏活断層図 綾瀬川断層帯とその周辺「鴻巣」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 753		1-9			5(3)エ		
岡田篤正	2016	1:25,000 都市圏活断層図 那岐山断層帯(山崎断層帯)とその周辺「津山東部」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 754		1-21			5(3)エ		
Yamamoto, K., M. Nosé, N. Mashiko, K. Morinaga and S. Nagamachi	2016	Estimation of mag-netospheric plasma ion composition for 1956-1975 by using high time resolution geomagnetic field data created from analog magnetograms	J. Geophys. Res.: Space Phys.	121	5203-5212	○	10.1002/2016JA022510	5(3)エ		
千田昇	2017	1:25,000 都市圏活断層図 別府-万年山断層帯とその周辺「豊岡」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 871		1-9			5(3)エ		
熊原康博	2017	布田川・日奈久断層帯 1:25,000 活断層図「熊本 改訂版」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
宮内崇裕	2017	屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯 1:25,000 都市圏活断層図「恵那」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
森脇健	2017	MatchedFilter法を用いた西南日本の深部低周波地震の自動検出	験震時報	81	3	○		5(3)エ		
岡田篤正	2017	屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯 1:25,000 都市圏活断層図「中津川」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
坂井尚登	2017	火山土地条件図解説書 「秋田駒ヶ岳」	国土地理院技術資料D2-No. 69		1-19			5(3)エ		
坂井尚登	2017	火山土地条件図解説書 「秋田焼山」	国土地理院技術資料D2-No. 71		1-20			5(3)エ		
鈴木康弘	2017	布田川・日奈久断層帯 1:25,000 活断層図「阿蘇」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
後藤秀昭・石村大輔・堤浩之	2018	1:25,000 都市圏活断層図 鈴鹿西縁断層帯とその周辺「彦根東部」「御在所山」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 870		1-13			5(3)エ		
後藤秀昭・千田昇	2018	1:25,000活断層図 布田川・日奈久断層帯とその周辺「八代 改訂版」「日奈久」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 914		1-12			5(3)エ		
廣内大助	2018	1:25,000 活断層図 糸魚川-静岡構造線断層帯とその周辺「大町 改訂版」解説	国土地理院ホームページから公開		1-3			5(3)エ		
金田平太郎	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「大野」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
金田平太郎	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「冠山」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		
金田平太郎	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「能郷白山」解説	国土地理院ホームページから公開		1-3			5(3)エ		
松多信尚・後藤秀昭	2018	1:25,000 活断層図 糸魚川-静岡構造線断層帯とその周辺「白鳥岳 改訂版」解説	国土地理院ホームページから公開		1-4			5(3)エ		
宮内崇裕	2018	1:25,000 活断層図 山田断層帯とその周辺「宮津」解説	国土地理院ホームページから公開		1-3			5(3)エ		
中田高	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「谷汲」解説	国土地理院ホームページから公開		1-4			5(3)エ		
岡田真介	2018	1:25,000 活断層図 山田断層帯とその周辺「大江山」解説	国土地理院ホームページから公開		1-3			5(3)エ		
岡田篤正	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「岐阜」解説	国土地理院ホームページから公開		1			5(3)エ		
岡田篤正・金田平太郎・杉戸信彦・中田高	2018	1:25,000活断層図 濃尾断層帯とその周辺「大野」「冠山」「能郷白山」「谷汲」「美濃」「岐阜」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 912		1-29			5(3)エ		
杉戸信彦	2018	1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺「美濃」解説	国土地理院ホームページから公開		1-2			5(3)エ		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
後藤秀昭	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯、跡津川断層帯及び庄川断層帯とその周辺「白川村」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 932		1-11			5(3)エ		
石村大輔	2019	1:25,000活断層図 養老-桑名-四日市断層帯とその周辺「津島 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 933		1-7			5(3)エ		
石山達也	2019	1:25,000活断層図 養老-桑名-四日市断層帯とその周辺「桑名 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 934		1-10			5(3)エ		
金田平太郎	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯及び跡津川断層帯とその周辺「立山」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 927		1-9			5(3)エ		
気象庁	2019	過去震源の改訂(1919~1921年)						5(3)エ		
熊原康博	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯及び跡津川断層帯とその周辺「飛騨古川」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 931		1-13			5(3)エ		
宮内崇裕	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯及び跡津川断層帯とその周辺「有峰湖」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 928		1-7			5(3)エ		
杉戸信彦	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯及び跡津川断層帯とその周辺「船津」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 929		1-9			5(3)エ		
田力正好	2019	1:25,000活断層図 牛首断層帯及び跡津川断層帯とその周辺「白木峰」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 930		1-7			5(3)エ		
後藤秀昭	2020	1:25,000活断層図 庄川断層帯とその周辺「下梨」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1022		1-6			5(3)エ		
廣内大助	2020	1:25,000活断層図 糸魚川-静岡構造線断層帯とその周辺「信濃池田 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1020		1-11			5(3)エ		
石山達也	2020	1:25,000活断層図 長岡平野西縁断層帯とその周辺「弥彦」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1018		1-6			5(3)エ		
金田平太郎	2020	1:25,000活断層図 長良川上流断層帯とその周辺「八幡」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1025		1-9			5(3)エ		
熊原康博	2020	1:25,000活断層図 長良川上流断層帯とその周辺「白鳥」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1024		1-13			5(3)エ		
Matsu' ura, S.R., N. Umino, Y. Tamura, Y. Iio, M. Kasahara and T. Ohkura	2020	The Achievement of Archiving Analog Seismograms in Japanese Institutes for 15 Yr	Seismol. Res. Lett.	91	1452-1458	○	10.1785/0220190301	5(3)エ		
中埜貴元・後藤秀昭	2020	1:25,000活断層図 庄川断層帯とその周辺「白山」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1023		1-12			5(3)エ		
岡田真介	2020	1:25,000活断層図 石持低地東縁断層帯とその周辺「鶴川」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1017		1-6			5(3)エ		
坂井尚登・吉田 一希	2020	火山土地条件図解説書「箱根山」	国土地理院技術資料D2-No. 75		1-60			5(3)エ		
澤祥	2020	1:25,000活断層図 長岡平野西縁断層帯とその周辺「三条」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1019		1-9			5(3)エ		
杉戸信彦	2020	1:25,000活断層図 上町断層帯とその周辺「岸和田 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1027		1-8			5(3)エ		
鈴木康弘	2020	1:25,000活断層図 糸魚川-静岡構造線断層帯とその周辺「松本 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1021		1-10			5(3)エ		
田力正好	2020	1:25,000活断層図 上町断層帯とその周辺「大阪西南部 改訂版」解説書	国土地理院技術資料D1-No. 1026		1-10			5(3)エ		
田中信・土橋広宣・長野玄・吉田 一希	2020	火山土地条件図解説書「鳥海山」	国土地理院技術資料D2-No. 73		1-64			5(3)エ		
気象庁		海外で発生した顕著な地震の解析結果、< <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/world/index.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/world/index.html</a> >						5(3)エ		
気象庁		国内で発生した顕著な地震の震源過程解析結果、< <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/sourceprocess/index.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/sourceprocess/index.html</a> >						5(3)エ		
気象庁		地震月報(カタログ編)、< <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/index.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/index.html</a> >						5(3)エ		
Kano, M., N. Aso, T. Matsuzawa, S. Ide, S. Annoura, R. Arai, S. Baba, M. Bostock, K. Chao, K. Heki, S. Itaba, Y. Ito, N. Kamaya, T. Maeda, J. Maury, M. Nakamura, T. Nishimura, K. Obana, K. Ohta, N. Poiata, B. Rousset, H. Sugioka, R. Takagi, T. Takahashi, A. Takeo, Y. Tu, N. Uchida, Y. Yamashita and K. Obara	2018	Development of a Slow Earthquake Database	Seismol. Res. Lett.	89	1566-1575	○	10.1785/0220180021	5(3)エ	1(1)ア、1(3)ア、4(2)イ、2(2)ア	2000年前後から世界中で発見されてきた各種スロー地震について、それらのカタログを収集し、フォーマットを整え、データベースを構築して公開を行なっている。公開WEBではカタログをダウンロードできるとともに、グーグルマップ上で複数カタログをオーバーレイ可能であり、様々な研究に活用されることが期待される。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
Takarada, S.	2017	The Volcanic Hazards Assessment Support System for the Online Hazard Assessment and Risk Mitigation of Quaternary Volcanoes in the World	Front. Earth Sci.	5:102		○	10.3389/feart.2017.00102	5(3)エ	1(1)ウ	G-EVER火山災害予測支援システムは、火山噴火史、火山データベース、数値シミュレーションの統合化を図り、火山ハザード評価の支援ツールとしての活用を目指し、WebGISにより、ユーザーが利用しやすいインターフェイスを提供している。火山重力流（エナジーコーンとTitan2D）、降下テフラ（Tephra2）のシミュレーションが実行でき、世界中のほぼ全ての第四紀火山で、ハザード評価を行うことができる。
Bandibas, J.C. and S. Takarada	2019	Geoinformation Sharing System for East and Southeast Asia using SDI, OGC Web Services and FOSS	Int. J. Geosci.	10	209-224	○	10.4236/ijg.2019.102013	5(3)エ	1(1)ウ	
Bandibas, J.C. and S. Takarada	2019	Mobile Application and a Web-Based Geographic Information System for Sharing Geological Hazards Information in East and Southeast Asia	J. Geogr. Info. Syst.	11	309-320	○	10.4236/jgis.2019.113018	5(3)エ	1(1)ウ	
西野佑紀・宝田晋治・下司信夫	2019	始良・鬼界・阿多・屈斜路・十和田・摩周・池田火山の大規模噴火の前駆活動と噴火推移	産総研地質調査総合センター研究資料集	680	1-126			5(3)エ	1(1)ウ	
金田泰明・後藤義瑛・西野佑紀・宝田晋治・下司信夫	2020	支笏・洞爺・濁川・大火山の大規模噴火の前駆活動と噴火推移	産総研地質調査総合センター研究資料集	699	1-75			5(3)エ	1(1)ウ	
Takarada, S. and J. Bandibas	2020	Volcanic hazards information and assessment systems	Forecasting and Planning for Volcanic Hazards, Risks, and Disasters, in ed. P. Papale, (Elsevier)	2019-2	565-584			5(3)エ	1(1)ウ	
Takarada, S. and H. Hoshizumi	2020	Distribution and eruptive volume of Aso-4 pyroclastic density current and tephra fall deposits, Japan: a M8 super-eruption	Front. Earth Sci.	8:170		○	10.3389/feart.2020.00170	5(3)エ	1(1)ウ	カルデラ形成を伴う大規模噴火の噴出量は、長期的噴火予測、噴火の活動度評価等を行うための重要な基本パラメータの1つであり、マグマ噴出量-時間階段図の高精度化のためにも重要である。89ka阿蘇4噴火による降下テフラの体積 590~920 km <sup>3</sup> を推定することにより、火砕流堆積物と合わせた総噴出量は、840~1,640 km <sup>3</sup> となった。これは、過去10万年間では世界で2番目に大きいM8クラスの噴火に相当する。
海上保安庁	2018	海域火山の最近の活動	火山噴火予知連絡会会報	124	426			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海底火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	125	406			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海底火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	126	353			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海底火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	127	421			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海底火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	128	449			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海域火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	129	406			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	海域火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	130	399			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2019	海域火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	131	473			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2019	海域火山の最近の活動について	火山噴火予知連絡会会報	132	455			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	西之島周辺海域における海洋調査結果	火山噴火予知連絡会会報	124	216			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	西之島における噴火の概況	火山噴火予知連絡会会報	124	220			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	西之島周辺海域における火山活動の概況（続報）	火山噴火予知連絡会会報	125	218			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	西之島における噴火の概況	火山噴火予知連絡会会報	127	189			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	明神礁における火山活動概況	火山噴火予知連絡会会報	127	212			5(3)エ	1(4)ア	
海上保安庁	2018	西之島周辺海域における火山活動の概況	火山噴火予知連絡会会報	128	196			5(3)エ	1(4)ア	
宝田晋治・J.C. Bandibas	2018	GSJ 国際研修 2018：地理情報システム（GIS）に関する講義と実習	GSJ地質ニュース	7	266-268			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治	2018	G-EVER火山災害予測支援システムによる世界の第四紀火山のハザード予測とリスク軽減	月刊地球	40	185-195			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治	2019	東・東南アジア地域の大規模火砕流堆積物の分布：G-EVER アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムデータ 3/7	産総研地質調査総合センター研究資料集	683	1-30			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治	2019	東・東南アジア地域の大規模降下テフラの分布：G-EVER アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムデータ 4/7	産総研地質調査総合センター研究資料集	684	1-15			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治	2019	東・東南アジア地域のカルデラの形状：G-EVER アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムデータ 5/7	産総研地質調査総合センター研究資料集	685	1-33			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治・J. Bandibas	2020	東・東南アジアの地質情報総合データベースの構築 -CCOP地質情報総合共有プロジェクト-	号外地球	70	108-113			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治・星住英夫	2016	阿蘇4大規模火砕流の分布・体積と火砕流の流動堆積機構	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2016-1	21-25			5(3)エ	1(1)ウ	
宝田晋治	2017	G-EVER火山災害予測支援システムによる火山重力流と降下テフラのハザード評価	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2017-1	44-54			5(3)エ	1(1)ウ	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
宝田晋治	2019	阿蘇4・始良・洞爺噴火の火砕流・降下テフラの分布と噴出量推定	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2019-1	37-43			5(3)エ	1(1)ウ	
宝田晋治・金田泰明・池上郁彦・松本恵子・西野佑紀・下司信夫	2021	大規模噴火・火山灰データベースの構築	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2020-2	66-70			5(3)エ	1(1)ウ	
宝田晋治・J.C. Bandibas	2018	東・東南アジアの地質情報総合データベースの構築: CCOP地質情報総合共有プロジェクト	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2018-2	48-57			5(3)エ	5(5)	
宝田晋治・J. Bandibas	2020	東・東南アジア地域の大规模火砕流、降下テフラ及びカルデラ	Proceedings of the International Meeting on Eruption History and Informatics	2019-2	115-118			5(3)エ	5(5)	
鎌谷紀子・山田尚幸・石垣祐三・武田清史・黒木英州・高濱聡・森脇健・山本麦・上田満治・山内崇彦・田中美穂・小松陽子・迫田浩司・廣田伸之・菅ノ又淳一・川合亜紀夫・森田裕貴・案浦理・西前裕司・青木重樹・古謝植之・中村浩二・青木元・橋本徹夫	2016	平成28年(2016年)熊本地震について	日本地球惑星科学連合大会予稿集		MIS34-P01			5(3)エ		
鎌谷紀子・山田尚幸・石垣祐三・武田清史・黒木英州・高濱聡・森脇健・山本麦・上田満治・山内崇彦・田中美穂・小松陽子・迫田浩司・廣田伸之・菅ノ又淳一・川合亜紀夫・森田裕貴・案浦理・西前裕司・青木重樹・古謝植之・中村浩二・青木元・橋本徹夫	2016	平成28年(2016年)熊本地震-詳細-	日本地球惑星科学連合大会予稿集		MIS34-P02			5(3)エ		
高濱聡・溜瀧功史・森脇健・秋山加奈・廣田伸之・山田尚幸・中村雅基・橋本徹夫	2016	気象庁地震カタログの改善	日本地球惑星科学連合大会予稿集		SSS30-03			5(3)エ		
高濱聡・廣田伸之・山田尚幸・鎌谷紀子・橋本徹夫	2016	気象庁地震カタログの改善-改善後の処理状況など-	日本地震学会講演予稿集		S09-P18			5(3)エ		
田中美穂・迫田浩司	2016	強震波形を用いた2016年熊本県熊本地方の地震の震源過程-複雑な位置関係にある震源断層モデル間の関係	日本地震学会講演予稿集		S21-36			5(3)エ		
田中美穂・迫田浩司・岩切和宏・山内崇彦	2017	気象庁における震源過程解析結果の数値データ公表	日本地震学会講演予稿集		S15-P2			5(3)エ		
宮岡一樹・武田清史・尾崎友亮・青木元	2018	大阪府北部の地震活動の概要	日本地震学会講演予稿集		S24-P01			5(3)エ		
上野寛・上田満治・森脇健・溜瀧功史	2018	最近の気象庁一元化震源の動向	日本地震学会講演予稿集		S23-P05			5(3)エ		
岩切一宏・横山博文・上田満治・岩崎友理子・長谷部大輔・上野寛	2019	気象庁一元化震源の品質向上への最近の取り組み	日本地震学会予稿集		S23P-02			5(3)エ		
溜瀧功史・岩崎友理子・岩切一宏・上野寛	2019	海底地震観測網を活用した自動震源決定(PF法)の評価	日本地震学会講演予稿集		S09P-19			5(3)エ		
上野寛・上田満治・見須裕美・横山博文・岩崎友理子・岩切一宏	2019	海域観測点の気象庁一元化処理への活用について	日本地球惑星科学連合大会予稿集		S-SS10-08			5(3)エ		
山本麦・森脇健	2020	Source-Scanning-Algorithm法による地震波放出源の推定	日本地球惑星科学連合大会予稿集		SCG70-P01			5(3)エ		
Takarada, S., Y. Ishikawa, T. Maruyama, M. Yoshimi, D. Matsumoto, R. Furukawa, Y. Teraoka, J.C. Bandibas, Y. Kuwahara, T. Azuma, A. Takada, K. Okumura, N. Koizumi, E. Tsukuda, R.U. Solidum, A.S. Daag, M. Cahulogan, S. Hidayati, S. Andreastuti, X. Li, H.P. Nguyen and C-H. Lin	2016	Eastern Asia Earthquake and Volcanic Hazards Information Map	Geological Survey of Japan, AIST			○		5(3)エ	5(5)	東アジア地域地震火山災害情報図は、産総研のG-EVER推進チームが中核となり、アジア各国の地質調査機関のメンバーと共に作成した災害情報図である。M6以上の地震の震源分布、大規模地震の震源域、主要活断層の分布、大規模津波の分布、津波の最大到達高度、地震の犠牲者数、完新世火山の分布、大規模火山噴火の噴火による降下テフラ分布域・犠牲者数、主要カルデラの位置、大規模火砕流の分布等を取りまとめている。
溜瀧功史・森脇健・上野寛・東田進也	2016	ベイズ推定を用いた一元化震源のための自動震源推定手法	験震時報	79	1-14	○		5(3)エ		
<b>(4) 関連研究分野との連携強化</b>										
Yamada, H., K. Tateyama, H. Sasaki, S. Naruke, H. Kishimoto and M. Yoshimoto	2018	Impact resistance to ballistic ejecta of wooden buildings and a simple reinforcement method using aramid fabric	J. Volcanol. Geotherm. Res.	359	37-46	○	10.1016/j.jvolgeores.2018.06.014	5(4)		
須藤巧哉・山崎文雄・松岡昌志・井ノ口宗成・堀江啓・劉ウエン	2019	益城町の罹災証明データに基づく2016年熊本地震に対する建物被害関数の構築	日本地震工学会論文集	2019年19巻4号	4_13-4_31	○		5(4)		本研究では、2016年熊本地震における熊本県益城町の家屋被害認定調査結果に基づき建物被害関数を構築した。その結果、木造建物の全壊率は、RC造、S造、LS造と比較して全体的に大きく、建築年代が古くなるほど大きくなる傾向が顕著にみられた。建物被害関数は最大地表速度および計測震度に対する、構造別、木造の建築年代別とし、1995年兵庫県南部地震より同一の最大地表速度における全壊率が低くなる傾向であった。
山田浩之・立山耕平・本多亮・吉本充宏・藤井敏嗣	2019	噴石衝突に対する木造建築物屋根の簡易構造補強	火山	64	243-251	○		5(4)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
久保智弘・吉本充宏	2020	火山岩塊による火口近傍建物被害と即時被害調査用シートの開発	日本建築学会技術報告集	26	1282-1287	○		5(4)		
Matsubara, M., Y. Nakamura, N. Suzuki, M. Inoguchi and A. Morishima	2019	A Route Search System Considering Urgency and Efficient Coverage without Complete Information	the First International Workshop on Practical Issues, Systems & Applications for Disaster Risk Reduction in Smart Computing (DRRSC 2019)		479-483	○		5(4)	5(5)	時間条件のあるグラフ内のすべてのノードを移動する経路計画を必要とする事例に、自然災害で航空写真を撮影するためのルート検索アプリがあげられる。このようなアプリでは、緊急性に関する時間的要件を満たしながら、すべてのグラフノードをできる限り効率的に通過するルートを計算しなければならない。本研究では、各ノードへの時間条件をすべて把握できるわけではない状況下で、あるノードを選択した場合、残りのすべてのノードを直接接続したまま、時間内に多くのノードへ移動する手法を考案した。因子を考慮しない単純な方法に比べて、期限を逃したという点で29.42%優れており、総移動時間に関しては36.52%優れていることが明らかとなった
<b>(5) 国際共同研究・国際協力</b>										
石本正芳・梅井迪子・若杉貴浩・川畑亮二・豊田友夫・宮原伐折羅・福崎 順洋	2016	Status on the Ishioka Geodetic Observing Station	Technology Development Center News	36	9-12			5(5)		
橋本武志・長谷川健・小園誠史・萬年一剛・中道治久・隅田まり・鈴木由希・田島靖久・高木朗充・田中良・上澤 真平・山田大志	2017	IAVCEI (国際火山学地球内部化学協会) 2017 年大会参加報告	火山	62	189-196	○		5(5)		
本田昌樹・岩田昭雄・山下達也・林京之介・桑原将旗・酒井和紀・宗包浩志・住谷勝樹・堤隆司・加古孝範・齋田宏明・矢来博司・小林知勝・森下遊	2019	平成30年北海道胆振東部地震におけるSAR干渉解析及び基準点復旧測量	国土地理院時報	132	41-49			5(5)		
Kobayashi, T., K. Hayashi and H. Yagai	2019	Geodetically estimated location and geometry of the fault plane involved in the 2018 Hokkaido Eastern Iwate earthquake	Earth Planet. Space	71		○	10.1186/s40623-019-1042-6	5(5)		
Nakamichi, H., M. Iguchi, H. Triastuty, H. Kuswandarto, I. Mulyana, U. Rosadi, H. Gunawan, G. Suantika, N. Aisyah, A. Budi-Santoso and I.G.M. A. Nandaka	2019	A Newly Installed Seismic and Geodetic Observational System at Five Indonesian Volcanoes as Part of the SATREPS Project	J. Disaster Res.	14	6-17	○	10.20965/jdr.2019.p0006	5(5)		
Goltz, J., G. Nakano, H. Park and K. Yamori	2020	Earthquake ground motion and human behavior: Using DYFI data to assess behavioral response to earthquakes	Earthquake Spectra			○	10.1177/8755293019899958	5(5)		
熊谷博之・濱本未希・市原寛	2020	タール火山(フィリピン)で2020年1月に起こった噴火の概要と防災対応	火山	66	45-53	○	10.18940/kazan.66.1.45	5(5)		
Hardebeck, J.L. and T. Okada	2018	Temporal stress changes caused by earthquakes: A review	J. Geophys. Res.: Solid Earth	123	1350-1365	○	10.1002/2017JB014617	5(5)	1(3)ア	東北地方太平洋沖地震を始めとする世界中の地震時の応力変化についてレビューを行った。地震時の応力変化から背景の差応力を推定する手法について既報論文を確認し、提案した。今後の課題として、地震後の回復過程の検討や、応力の不均質性を考慮する可能性などを示した。
Graham, K.M., M.K. Savage, R. Arnold, H. J. Zal, T. Okada, Y. Iio and S. Matsumoto	2020	Spatio-temporal analysis of seismic anisotropy associated with the Cook Strait and Kaikoura earthquake sequences in New Zealand	Geophys. J. Int.	223	1987-2008	○	10.1093/gji/ggaa433	5(5)	1(3)ア	カウコウラ地震に関係した応力再配分を確認することを目的に、カウコウラ地震震源域のS波スプリットング解析を行った。得られた速いS波の振動方向には空間変化が見られた。原因としては断層等の構造的な異方性や応力による異方性などが考えられる。S波スプリットングとVp/Vs比の時間変化も見られたが、震源分布の違いに応じて異なる異方性領域を通過したことが原因の可能性はある。
李勇昕・矢守克也	2020	津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の活用方法	災害情報	18	187-197	○		5(5)	5(7)	
Yamori, K. and T. Sugiyama	2021	Development and social implementation of smartphone app Nige-Tore for improving tsunami evacuation drills: Synergistic effects between commitment and contingency	Int. J. Disaster Risk Sci.	11		○	10.1007/s13753-020-00319-1	5(5)	5(7)	
矢守克也・飯尾能久・城下英行	2021	地震学のオープンサイエンスー地震観測所のサイエンスミュージアム・プロジェクトをめぐってー	実験社会心理学研究	69	82-99	○		5(5)	5(7)	
Wakasugi, T., M. Umei, T. Toyoda, M. Ishimoto, R. Kawabata and B. Miyahara	2017	VGOS Development for Ishioka 13-m Antenna	Proceedings of the 23rd European VLBI Group for Geodesy and Astrometry Working Meeting		84-87			5(5)		
Wakasugi T., S. Kurihara, H. Ueshiba, M. Umei, M. Ishigaki and H. Mune Kane	2018	Current Status of VGOS Observation with Ishioka VLBI Station	proceeding of 10th General Meeting of the International VLBI Service for Geodesy and Astrometry					5(5)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	DOI	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明
<b>(6) 社会との共通理解の醸成と災害教育</b>										
関谷直也・田中淳	2016	避難の意思決定構造—日本海沿岸住民に対する津波意識調査より—	自然災害科学	35	91-103	○		5(6)	3(3)	避難の意思決定過程について、日本海の津波想定区域においてアンケート調査を行った結果、避難意図に強く影響を与えていたのは、リスク認知、避難行動の規範、心理的コストであることがわかった。一方で、災害の知識や避難行動の有効性、経済的コストは影響を与えてはいないという結果であった。
安本真也・河井大介・齋藤さやか・関谷直也	2021	パネル調査に基づくドラマ「パラレル東京」の効果—首都直下地震への対策—	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編	37	73-150		10.15083/0002000152	5(6)	3(3)	災害を「自分ごと」と捉えるべく、首都直下地震を題材としたキャンペーン放送がNHKで放送された。その中のドラマ『パラレル東京』に焦点をあて、東京在住者を対象に、パネル調査（放送前、放送直後、3か月後の3回に分けて調査）を実施し、うち第1波・第2波の結果をまとめている。見る前と見た後の意識について、意見や知識、行動などの変化についてまとめている。
Kimura, R., H. Miyake, K. Tamura, N. Kato, Y. Morita, M. Iguchi, Y. Tanioka, K. Koketsu, Y. Kuroda, H. Oshima, and K. Satake	2020	Research for contributing to the field of disaster science: A review	J. Disaster Res.	15	152-164	○	10.20965/jdr.2020.p0152	5(6)	4(1), 4(2)	
阪本真由美・田所敬一・高木朗充・臼田裕一郎・宇井忠英	2016	御嶽山に関する住民意識調査から考察する災害情報の伝達	地域安全学会論文集			○		5(6)	5(7)	
<b>(7) 次世代を担う研究者、技術者、防災業務・防災対応に携わる人材の育成</b>										
吉本充宏	2016	日本火山学会における火山防災への取り組み	地質と調査		44-48	○		5(7)		
吉本充宏・千葉達朗	2016	火山における直接・間接的災害の形態とその特性	地盤工学会誌 講座「火山による災害特性と防災技術」	64	49-56	○		5(7)		